

同 和（部 落）問 題 等
人権問題に関する意識調査
報 告 書
(平成28年2月調査)

平成28年3月

鳥 取 市

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査方法	1
3	回収状況と信頼区間	3
4	標本構成	4

II 調査結果

1	結果の概要	7
2	人権全般について	12
3	同和（部落）問題について	52
4	男女共同参画に関する人権問題について	88
5	障がいのある人の人権問題について	90
6	子どもの人権問題について	92
7	高齢者の人権問題について	94
8	外国人の人権問題について	96
9	個人のプライバシーの保護について	98
10	病気にかかわる人の人権問題について	100
11	刑を終えて出所した人の人権問題について	102
12	アイヌの人々の人権問題について	104
13	犯罪被害者やその家族の人権問題について	106
14	性的マイノリティの人権問題について	108
15	パワー・ハラスメントに関する人権問題について	110
16	非正規雇用等による生活困難者の人権問題について	112
17	インターネットにおける人権問題について	114
18	災害時における人権問題について	116
19	啓発活動について	118
20	人権問題に対する気もちや考え	132

III 資料

・	同和（部落）問題等人権問題に関する意識調査票	137
・	集計結果	153

I 調査の概要

1 調査の目的

今回の調査は、鳥取市において、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題について、市民の意識の現状とその傾向を把握することにより、今後の人権行政を推進するうえでの検討資料とするものである。

なお、前回は平成 17 年に意識調査を実施した。

2 調査方法

- (1) 調査対象 市内全域の 15 歳以上 (166,030 人) の 3%にあたる 5,000 名
別添の標本割当計画表(地域別)を参照
- (2) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (3) 調査客対数 (2)により抽出した者に送付した調査票に関し、宛先又は転居先不明等により返送された調査票を除いた 4,976 名
- (4) 調査時期 平成 28 年 2 月
- (5) 調査方法 (2)により抽出した者に対し、郵送により調査票を送付して実施した。なお、調査票の提出は無記名とした。
- (6) 有効回答数 2,138 名
- (7) 回収率 43.0% (2,138/4,976)

標本割当計画表(地域別)

地域	年代区分	人口数	標本割当数	地域	年代区分	人口数	標本割当数
鳥取地域	15～19	7,518	227	気高町	15～19	392	12
	20～24	7,322	221		20～24	403	12
	25～29	7,387	223		25～29	452	14
	30～34	8,905	268		30～34	489	15
	35～39	10,161	306		35～39	533	16
	40～44	10,947	329		40～44	493	15
	45～49	9,192	277		45～49	441	13
	50～54	9,114	274		50～54	581	17
	55～59	9,472	285		55～59	665	20
	60～64	10,544	317		60～64	758	24
	65～69	10,684	322		65～69	745	23
	70～75	7,577	228		70～75	512	15
	75～	18,065	543		75～	1,520	47
	計	126,888	3820		計	7,984	243
国府町	15～19	323	10	鹿野町	15～19	159	5
	20～24	357	11		20～24	199	6
	25～29	569	17		25～29	169	5
	30～34	571	17		30～34	168	5
	35～39	639	19		35～39	193	6
	40～44	540	16		40～44	197	6
	45～49	438	13		45～49	200	6
	50～54	454	14		50～54	241	7
	55～59	560	17		55～59	316	9
	60～64	649	19		60～64	345	10
	65～69	571	17		65～69	344	10
	70～75	387	12		70～75	259	8
	75～	1,254	39		75～	718	23
	計	7,312	221		計	3,508	106
福部町	15～19	134	4	青谷町	15～19	266	8
	20～24	155	5		20～24	284	9
	25～29	150	5		25～29	270	8
	30～34	160	5		30～34	234	7
	35～39	167	5		35～39	273	8
	40～44	170	5		40～44	308	9
	45～49	180	5		45～49	334	10
	50～54	211	6		50～54	445	13
	55～59	223	7		55～59	512	15
	60～64	273	8		60～64	571	17
	65～69	259	8		65～69	568	17
	70～75	154	5		70～75	441	13
	75～	461	14		75～	1,436	44
	計	2,697	82		計	5,942	178
河原町	15～19	295	9	合計	15～19	9,296	281
	20～24	317	10		20～24	9,265	281
	25～29	330	10		25～29	9,552	288
	30～34	343	10		30～34	11,140	335
	35～39	392	12		35～39	12,615	379
	40～44	375	11		40～44	13,295	399
	45～49	363	11		45～49	11,392	342
	50～54	416	12		50～54	11,821	354
	55～59	541	16		55～59	12,729	382
	60～64	613	18		60～64	14,326	430
	65～69	637	19		65～69	14,323	431
	70～75	398	12		70～75	10,096	304
	75～	1,425	44		75～	26,180	794
	計	6,445	194		計	166,030	5,000
用瀬町・佐治町	15～19	209	6	合計	15～19	9,296	281
	20～24	228	7		20～24	9,265	281
	25～29	225	6		25～29	9,552	288
	30～34	270	8		30～34	11,140	335
	35～39	257	7		35～39	12,615	379
	40～44	265	8		40～44	13,295	399
	45～49	244	7		45～49	11,392	342
	50～54	359	11		50～54	11,821	354
	55～59	440	13		55～59	12,729	382
	60～64	573	17		60～64	14,326	430
	65～69	515	15		65～69	14,323	431
	70～75	368	11		70～75	10,096	304
	75～	1,301	40		75～	26,180	794
	計	5,254	156		計	166,030	5,000

3 回収状況と信頼区間

(1) 必要標本数

今回の調査においては、15 歳以上の市人口 166,030 人のうち無作為抽出にて、市人口の 3% にあたる 5,000 人を抽出し、移転先不明等により返送された調査票を除いた 4,976 人に調査の依頼を行った。そのうち有効調査票は 2,138 票であり回収率は 43.0%であった。

今回の調査における標本数の設定については、次の「必要標本数の計算式」によってみる。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)} \right)^2 \times \frac{N-1}{\delta^2} + 1}$$

α : 推定を誤る確率(%)

$K(\alpha)$: 正規分布の性質から与えられる値 (1.96)

N : 母集団の大きさ (満 15 歳以上の市民 166,030 人)

δ : 母分散 (50%)

ε : 精度 (3%)

n : 必要標本数

$$n = \frac{166,030}{\left(\frac{3}{1.96} \right)^2 \times \frac{166,029}{50 \times 50} + 1}$$
$$= 1,060.3$$

この場合、信頼度は 95%とし、したがって $K(\alpha)$ は 1.96、母集団の大きさ(N)は 166,030 である。精度(ε)は仮に 3%とし、母比率 (δ) は 50%としたものである。それゆえに今回の調査において最小必要標本数は 1,060 人であり、有効回答票 2,138 人はこの条件を十分に満たしている。

(2) 標本誤差

有効回答票の標本誤差(危険率 5%)を母集団の平均値を推定する公式によって計算してみると

$$(\pm 1.96) \times \sqrt{\left(1 - \frac{n}{N} \right) \cdot \frac{P(1-P)}{n}}$$
$$= (\pm 1.96) \times \sqrt{\left(1 - \frac{2,138}{166,030} \right) \cdot \frac{0.430(1-0.430)}{2,138}}$$
$$= \pm 0.022$$

すなわち $\pm 2.2\%$ の標本誤差しかないといえる。

4 標本構成

本調査の回答者の属性などを簡単にみておく。

(1) 回答者の性別

回答者の性別について回答者の性別表をみると男性 39.9%、女性 53.7%で 13.8 ポイント女性が多くなっている。性別不明を除いてみると男性 42.6%、女性 57.4%で、14.8 ポイント女性が多くなっている。

回答者の性別表

性 別	構成比	回答者数
男	39.9%	852
女	53.7%	1,148
無回答	6.5%	138
計	100.0%	2,138

(2) 回答者の年齢

回答者の年齢構成について回答者の年齢別表をみると回答者の年齢構成としては、高齢者層(60 歳以上)が、50%近くなっており、若年層に比べて、多くなっている。

回答者の年齢別表

年 齢	構成比	回答者数
15-19 歳	4.0%	85
20-24 歳	3.0%	64
25-29 歳	3.4%	73
30-34 歳	4.8%	102
35-39 歳	5.6%	119
40-44 歳	6.1%	131
45-49 歳	4.9%	105
50-54 歳	6.3%	134
55-59 歳	8.1%	173
60-64 歳	10.3%	220
65-69 歳	13.2%	282
70 歳以上	25.9%	553
無回答	4.5%	97
計	100.0%	2,138

(3) 居住地域

回答者の居住地域の回収率、構成比は以下のとおりである。

回答者の居住地域別表

地 域	割当標本数 (A)	有効標本数 (B)	回収率 (B/A)	構成比 (B/C)
鳥取地域	3,801	1,494	39.3%	69.9%
国府地域	221	87	39.4%	4.1%
福部地域	81	39	48.1%	1.8%
河原地域	191	75	39.3%	3.5%
用瀬・佐治地域	156	73	46.8%	3.4%
気高地域	243	94	38.7%	4.4%
鹿野地域	105	56	53.3%	2.6%
青谷地域	178	74	41.6%	3.5%
無回答	—	146	—	6.8%
計	4,976	(C) 2,138	43.0%	100.0%

(4) 回答者の中学校区別

回答者の居住地域の中学校区別の構成比をみたものである。

回答者の中学校区別表

中学校区	構成比	回答者数
東	7.7%	165
西	6.1%	131
南	12.2%	261
北	7.3%	157
江山	2.1%	44
高草	6.9%	147
湖東	10.6%	226
湖南	1.6%	35
桜ヶ丘	9.6%	205
中ノ郷	5.8%	123
国府	4.1%	87
福部	1.8%	39
河原	3.5%	75
千代南(用瀬、佐治)	3.4%	73
気高	4.4%	94
鹿野	2.6%	56
青谷	3.5%	74
無回答	6.8%	146
計	100.0%	2,138

(5) 職業等

回答者の職業について回答者の職業別表でみると、「無職」(27.1%)がもっとも多く、次いで「民間企業・団体(従業員30名以上)」(13.5%)、「派遣社員、契約社員、非常勤職員、臨時雇い、パート勤め」及び「家事専業」(12.3%)が同数で続いている。

回答者の職業別表

職 業	構成比	回答者数
自営業主(農林漁業、商工サービス業等の事業主)	5.9%	126
自営業従事者(農林漁業、商工サービス業等)	2.9%	61
民間企業・団体(従業員30名未満)に勤めておられる方	6.4%	137
民間企業・団体(従業員30名以上)に勤めておられる方	13.5%	288
公務員・教員	6.1%	130
専門職・自由業(医師、弁護士、公認会計士、大学教官、政治家、僧侶、住職など)	2.1%	44
派遣社員、契約社員、非常勤職員、臨時雇い、パート勤め	12.3%	262
家事専業	12.3%	262
学生	5.0%	107
無職	27.1%	579
その他	1.8%	38
無回答	4.9%	104
計	100.0%	2,138

Ⅱ 調 査 結 果

1 結果の概要

1. 回答者の属性

- (1) 性 別 男性 39.9%、女性 53.7%
- (2) 年 齢 15～19 歳 4.0%、20～24 歳 3.0%、25～29 歳 3.4%、30～34 歳 4.8%、
35～40 歳 5.6%、40～44 歳 6.1%、45～49 歳 4.9%、50～54 歳 6.3%、
55～59 歳 8.1%、60～64 歳 10.3%、65～69 歳 13.2%、70 歳以上 25.9%

2. 人権全般について

- (1) 自分の人権についての保障意識では、「十分に保障されている」と回答した人は 38.0% となっている。また、「十分には保障されていない」(28.7%)と「保障されていない」(3.9%)をあわせると、32.6%が自分の人権は保障されていないと回答している。
- (2) 他人の人権の侵害意識の有無については、8.9%が他の人の人権を侵害したり、差別していると思うと回答している。
- (3) 差別のもつ犯罪性への認識では、28.1%が「犯罪であると思う」と回答している。

3. 身近な人権問題について

身近な人権問題について、「あると思う」と回答した割合は、16項目中「パワー・ハラスメントに関する人権問題」(45.9%)が最も高く、「アイヌの人々の人権問題」(15.5%)が最も低くなっている。

上位		下位	
「パワー・ハラスメントに関する人権問題」	45.9%	「アイヌの人々の人権問題」	15.5%
「障がいのある人の人権問題」	45.1%	「災害時における人権問題」	21.6%
「インターネットにおける人権問題」	43.5%	「子どもの人権問題」	28.5%

また、ほとんどの設問で、「あると思う」と回答した割合が低い年齢層は、「15～19 歳」及び「65～69 歳」、「70 歳以上」となっている。

その他の人権問題があると回答した人は、1.9%となっており、内容の記述は主に、「マタニティ・ハラスメント」、「モラル・ハラスメント」、「職業による問題」、「宗教」、「学歴差別」、「職務による差別」などがあつた。

4. 同和（部落）問題について

- (1) 部落差別についてはじめて知ったのは、「学校の授業で教わった」(37.1%)が最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」(20.9%)となっている。
- (2) 「現在でも部落差別は存在していると思うか」の問いでは、「思う」(46.6%)が最も高く、次いで「わからない」(29.2%)、「思わない」(21.8%)となっている。
- 「思う」と答えた人に「それは、どのような意識（考え）があるからだと思いますか」と聞いたところ、「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」(27.9%)、「部落」、「差別問題」を否定的なイメージでとらえているので、何となく避けたい」(15.5%)と

回答した人がそれぞれ2番目、3番目に多かった。なお、最も多かった回答は「わたしは、差別意識をもっていない」(30.2%)となっている。

(3)「今、部落差別にはどのような実態があると思うか」の問いでは、「昔はあったが今はない」(21.8%)が最も高く、次いで「残されているのは結婚差別」(18.5%)となっている。

(4)「同和(部落)問題解決のためには、どうしたらよいか」の問いでは、「一人一人が自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」(40.0%)が最も高く、次いで「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」(33.6%)となっている。

(5)同和(部落)問題と自分自身とのかかわりについての問いでは、「わたしは、差別意識をもっていない」(49.1%)が最も高く、次いで「同和(部落)問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」(30.8%)となっている。

(6)結婚に関する問題についての問いでは、自身の結婚では、「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」(35.7%)が最も高く、子どもの結婚については、「子どもの意思を尊重し、結婚を祝福する」(52.3%)が最も高くなっている。

(7)「子どもが結婚するときに、家柄、親の職業や社会的地位などについて、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思うか」の問いでは、「そう思わない」(36.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(20.5%)となっている。

身元調査を肯定する意見(「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」)は27.4%で、否定する意見(「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」)は49.2%で、「どちらともいえない」は17.4%であった。

身元調査を肯定する理由としては、「子どもの将来に重要な関連があるから」(46.2%)が最も高く、次いで「相手を信用する根拠となるから」(31.6%)となっている。

(8)最近、部落差別を見聞きしたかどうかについての問いでは、「見聞きしたことがある」(13.8%)、「見聞きしたことがない」(80.3%)となっている。

差別的な言動をしたのは誰かについては、「知人・友人」(29.5%)が最も高く、次いで「父母や家族」(22.7%)、「近所のひと」(19.0%)となっている。

見聞きした差別的言動は、「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」(49.2%)が最も高く、次いで「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」(20.0%)、「インターネット上での差別的な表現等」(12.9%)となっている。

見聞きしたことがある人のその時の対応については、「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」(43.7%)が最も高く、次いで「誤りを指摘した」(16.6%)、「その時は差別と気づかずに、見過ごした」(14.9%)となっている。

(9)学校での同和教育・人権教育についての問いでは、「学習した」(55.8%)、「学習していない」(25.7%)となっている。

同和教育・人権教育の印象については、「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」(31.8%)が最も高く、次いで「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」(25.8%)、「自分の人権意識を形成する上で役にたった」(23.8%)となっている。

5. 男女共同参画に関する人権問題について

特に問題となっていることは、「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みの未整備」(43.1%)が最も高く、次いで「男女の性別による固定的な役割分担」(34.9%)、「採用や就職、昇給や昇進などでの女性と男性の性別による格差」(34.4%)となっている。

6. 障がいのある人の人権問題について

特に問題となっていることは、「経済的な自立が困難である」(53.1%)が最も高く、次いで「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」(41.2%)、「就職・職場で不利な扱い(賃金や施設環境等)を受ける」(39.7%)となっている。

7. 子どもの人権問題について

特に問題となっていることは、「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」(65.6%)が最も高く、次いで「子ども同士の暴力や仲間はずれ、無視などいじめ」(53.8%)となっている。

8. 高齢者の人権問題について

特に問題となっていることは、「高齢者を狙った詐欺などの犯罪が多い」(59.3%)が最も高く、次いで「経済的な自立が困難である」(40.7%)となっている。

9. 外国人の人権問題について

特に問題となっていることは、「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会への受入が十分でない」(41.3%)がもっとも高く、次いで「わからない」(30.3%)となっている。

10. 個人のプライバシーの保護について

特に問題となっていることは、「知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受ける」(63.4%)が最も高く、次いで「企業や名簿業者などにより自分に関する情報が知らないうちに不正に取得され管理される」(33.1%)となっている。

11. 病気にかかわる人の人権問題について

特に問題となっていることは、「病気や疾病に対して、世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」(27.7%)が最も高く、次いで「難病の人の存在があまり知られていない」(27.3%)、「病気にかかわる人の為の支援制度や相談窓口が分からない」(22.2%)となっている。

12. 刑を終えて出所した人の人権問題について

特に問題となっていることは、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」(39.4%)が最も高く、次いで「就労の機会が少ない」(35.0%)、「社会復帰を支援する機関が少ない」(30.5%)となっている。

13. アイヌの人々の人権問題について

特に問題となっていることは、「先住民としてのアイヌの人々に対する理解や認識が十分でない」(25.3%) が最も高かったが、「わからない」と答えた人が 58.3%となっている。

14. 犯罪被害者やその家族の人権問題について

特に問題となっていることは、「犯罪行為によって精神的負担を受ける」(52.6%) が最も高く、次いで「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」(46.6%) となっている。

15. 性的マイノリティの人権問題について

LGBTなどの性的マイノリティに関する人権上の問題について、特に問題となっていることは、「性的マイノリティに対する社会的理解が足りない」(36.7%) が最も高く、次いで「わからない」(35.5%)、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」(35.3%) となっている。

16. パワー・ハラスメントに関する人権問題について

「どのような行為や言動がパワー・ハラスメントだと思うか」の問いでは、「上司から暴力を振るわれた」(49.8%) が最も高く、次いで「お前はノロマ」だと他人の前でののしられた」(49.3%)、「仕事を与えられず、継続的に無視された」(48.9%) となっている。

17. 非正規雇用等による生活困窮者の人権問題について

非正規雇用等による生活困窮者（生活困難者）に関する人権上の問題について、特に問題となっていることは、「同じ仕事をしていても「正規雇用」と「非正規雇用」の間に賃金や処遇などの面で格差がある」(56.6%) が最も高く、次いで「働いても困窮状態から抜け出せない「ワーキングプア」の問題がある」(41.2%)、「社会保障や福利厚生などで差別的な待遇がある」(35.5%) となっている。

18. インターネットにおける人権問題について

特に問題となっていることは、「他人への誹謗中傷や差別的な表現などの掲載」(55.1%) が最も高く、次いで「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトやネットポルノなどの違法・有害なホームページの存在」(42.5%) となっている。

19. 災害時における人権問題について

特に問題となっていることは、「住居確保が難しい」(39.4%) が最も高く、次いで「災害弱者（災害時要援護者）に対する援助や配慮が十分でない」(38.8%)、「風評被害が起きる」(37.6%) となっている。

20. 啓発活動について

(1) 市報の「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるかについての問いでは、「読んだことはない」(40.5%)が最も高く、次いで「たまに読むことがある」(31.9%)となっている。

読んだ感想についての問いでは、「参考になった」(43.2%)が最も高く、次いで「大切なことなので今後も続けてほしい」(38.9%)となっている。

(2) 講演会・研修会の参加経験についての問いでは、「参加したことがある」(37.9%)となっており、「参加したことがない」(58.3%)となっている。

最近5年間の講演会・研修会の参加回数についての問いでは、「1～4回」(70.4%)が最も高く、次いで「5～9回」(18.6%)、「10回以上」(9.0%)となっている。

参加した講演会・研修会を主催した団体については、「町内会・自治会」(35.1%)が最も高く、次いで「県・市や教育委員会」(19.3%)、「学校・PTA(家庭教育学級含む)」(18.0%)となっている。

講演会・研修会に参加した感想についての問いでは、「人権の大切さが分かった」(43.0%)が最も高く、次いで「差別をしてはいけないと思った」(35.3%)となっている。

講演会・研修会に参加しなかった理由については、「全く知らなかった」(32.5%)が最も高く、次いで「知っていたが参加しなかった」(18.7%)、「呼びかけがなかった」(14.0%)となっている。

2 人権全般について

問1 まず、あなたは、人権や差別についてどう思いますか。

問1-1 あなたの人権は、保障されていると思いますか。(○は1つだけ)

図 1-1. 自分の人権についての保障意識—全体・性別

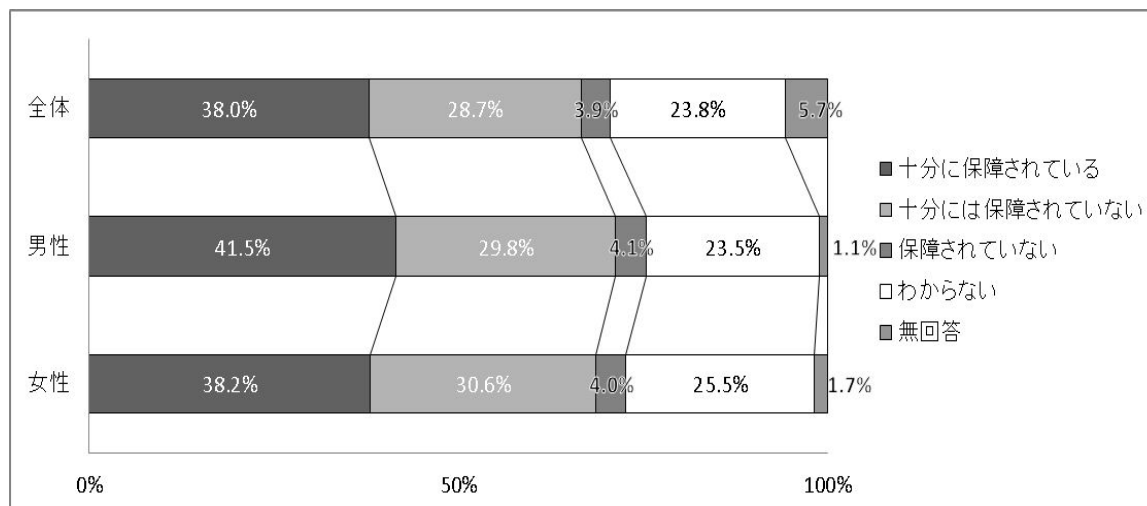


図 1-1 は、自分の人権についての保障意識をみたものである。

自分の人権は「十分に保障されている」と回答した人は、全体では 38.0%となっている。「十分には保障されていない」または「保障されていない」と回答した人はあわせて 32.6%となっている。

性別では、「十分に保障されている」と回答した人は男性 41.5%、女性 38.2%となっている。「十分には保障されていない」または「保障されていない」の割合は、男性 33.9%、女性 34.6%となっている。

表 1-1. 自分の人権についての保障意識—前回の調査との比較

調査年度	自分の人権についての保障意識	十分に保障されている	十分には保障されていない	保障されていない	わからない	無回答	計
平成17年		29.7%	35.6%	6.5%	26.3%	1.9%	100.0%(2402)
平成27年		38.0%	28.7%	3.9%	23.8%	5.7%	100.0%(2138)

表 1-1 は、自分の人権についての保障意識について前回調査との比較をみたものである。

自分の人権は「十分に保障されている」と回答した人は、今回 38.0%となっており、前回調査 29.7%より 8.3 ポイント多くなっている。

また、自分の人権は「十分には保障されていない」または「保障されていない」と回答した自分の人権は保障されていないと感じている人は、今回 32.6%であり、前回調査 42.1%より 9.5 ポイント少なくなっている。

図 1-2. 自己的人権についての保障意識—年齢別

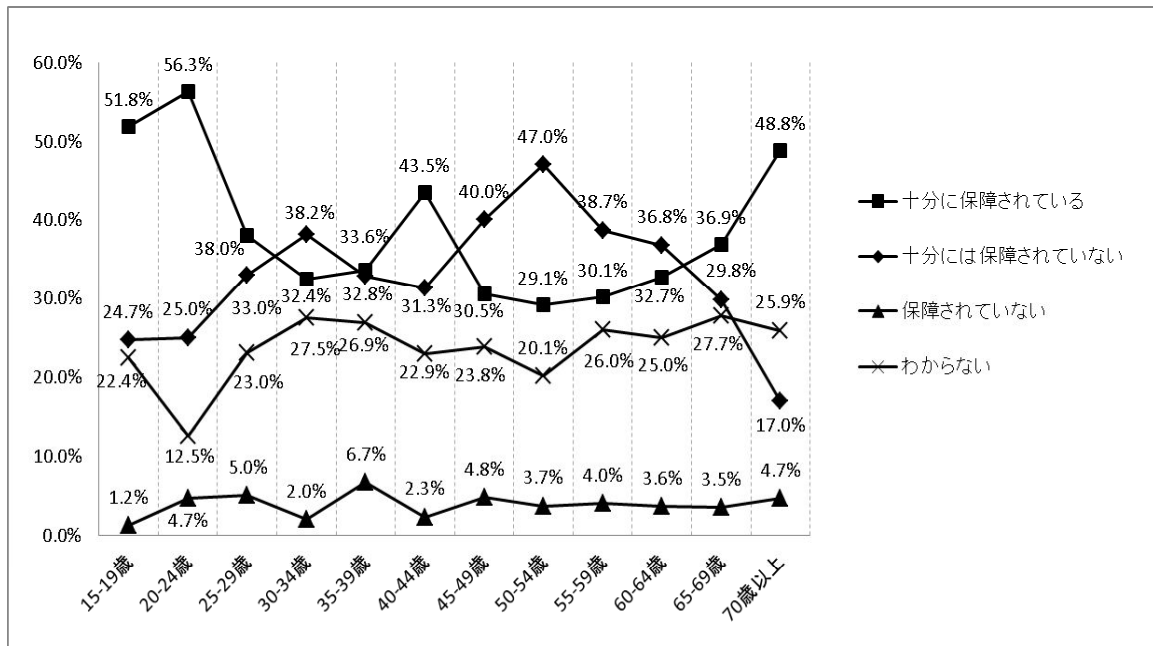


図 1-2 は、自己的人権についての保障意識を年齢別にみたものである。

自己的人権は「十分に保障されている」と回答した人は、「20 歳～24 歳」56.3%が最も高く、次いで「15～19 歳」51.8%、「70 歳以上」48.8%となっている。

「十分には保障されていない」と回答した人は、「50～54 歳」47.0%が最も高く、次いで「45～49 歳」40.0%となっている。

「保障されていない」と回答した人は、「35～39 歳」6.7%が最も高くなっている。

「わからない」と回答した人は、「65 歳～69 歳」27.7%が最も高く、次いで「30～34 歳」27.5%となっている。

問 1-2 あなたは、他の人の人権を侵害したり、人を差別していると思いますか。
(○は1つだけ)

図 1-3. 他人の人権の侵害意識について—全体・性別

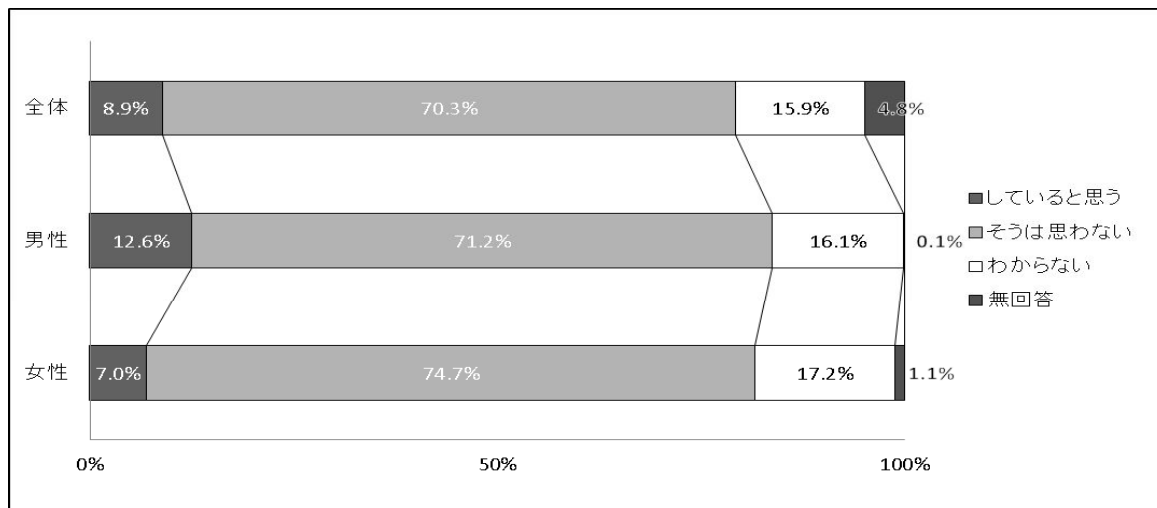


図 1-3 は、他人の人権の侵害意識についてみたものである。

他の人の人権を侵害したり、人を差別していると思うかの問いでは、「そうは思わない」と回答した人が全体では 70.3%となっている。また、「していると思う」と回答した人は 8.9%となっている。

性別では、「そうは思わない」と回答した人は、男性 71.2%、女性 74.7%となっている。また、「していると思う」と回答した人は、男性 12.6%、女性 7.0%となっている。

表 1-2. 他人の人権の侵害意識について—前回調査との比較

調査年度	他人の人権の侵害意識の有無	していると思う	そうは思わない	わからない	無回答	計
平成17年		12.3%	69.4%	17.5%	0.8%	100.0%(2402)
平成27年		8.9%	70.3%	15.9%	4.8%	100.0%(2138)

表 1-2 は、他人の人権の侵害意識について前回調査との比較をみたものである。

他人の人権の侵害意識について「そうは思わない」と回答した人は、今回は 70.3%であり、前回調査は 69.4%となっている。

また、「していると思う」と回答した人は、今回は 8.9%であり、前回調査は 12.3%となっている。

図 1-4. 他人の人権の侵害意識について一年齢別

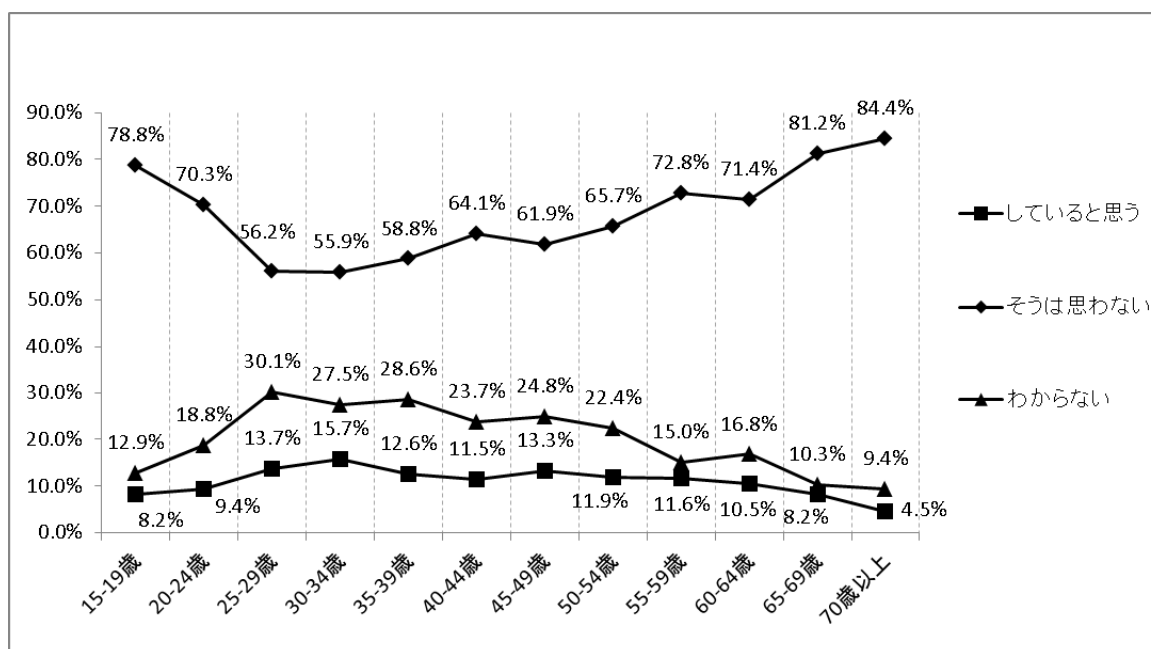


図 1-4 は、他人の人権の侵害意識について年齢別にみたものである。

「そうは思わない」と回答した人は、「70 歳以上」84.4%が最も高く、次いで「65～69 歳」81.2%、「15～19 歳」78.8%となっている。

「思っている」と回答した人は、「30～34 歳」15.7%が最も高く、次いで「25～29 歳」13.7%となっている。

「わからない」と回答した人は、「25 歳～29 歳」30.1%が最も高く、次いで「35～39 歳」28.6%となっている。

表 1-3. 「自分の人権についての保障意識」と「他人の人権の侵害意識の有無」との関連性

他人の人権の侵害意識の有無 自分の人権についての保障意識	思っている	そうは思わない	わからない	無回答	計
十分に保障されている	4.6%	86.9%	8.1%	0.4%	100.0%(812)
十分には保障されていない	17.1%	62.4%	20.2%	0.3%	100.0%(614)
保障されていない	26.5%	60.2%	12.0%	1.2%	100.0%(53)
わからない	5.1%	67.3%	27.2%	0.4%	100.0%(508)

表 1-3 は、問 1-1「自分の人権についての保障意識」と問 1-2「他人の人権の侵害意識の有無」との関連性をみたものである。

自分の人権が「十分に保障されている」と回答した人の「他人の人権の侵害意識の有無」に対する回答内訳は、「していると思う」4.6%、「そうは思わない」86.9%となっている。「十分には保障されていない」と回答した人については、「していると思う」17.1%、「そうは思わない」62.4%となっている。

「保障されていない」と回答した人については、「していると思う」26.5%、「そうは思わない」60.2%となっている。

問 1-3 あなたは、差別は犯罪であると思いますか。(〇は1つだけ)

図 1-5. 差別のもつ犯罪性への認識—全体・性別

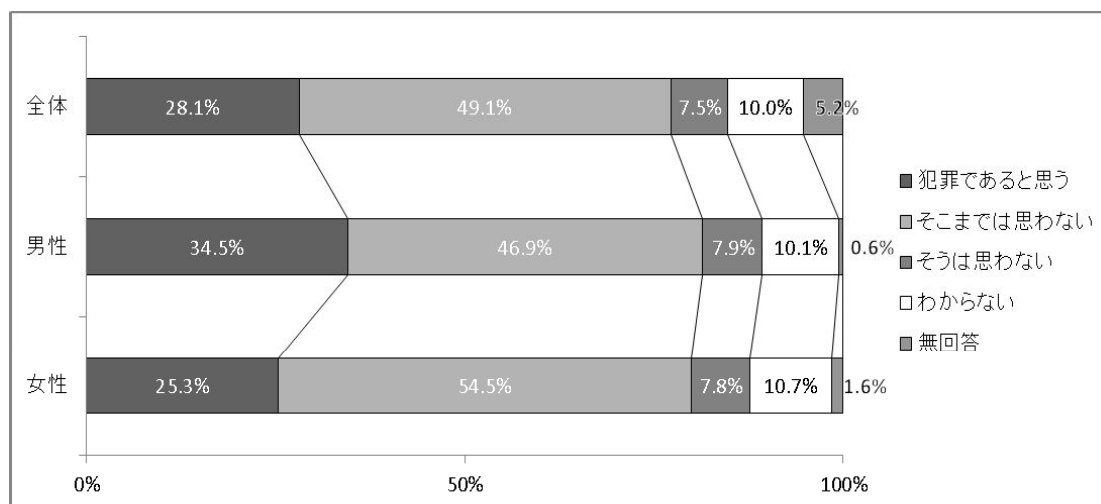


図 1-5 は、差別のもつ犯罪性への認識をみたものである。

差別は犯罪であると思うかの問いでは、「犯罪であると思う」と回答した人が全体では 28.1%となっている。また、「そこまでは思わない」と回答した人は 49.1%、「そうは思わない」7.5%となっている。

性別では、「犯罪であると思う」と回答した人は、男性 34.5%、女性 25.3%で男性が 9.2 ポイント高くなっている。

表 1-4. 差別のもつ犯罪性への認識—前回の調査との比較

差別のもつ犯罪性 への認識 調査年度	犯罪であると思う	そこまでは思わない	そうは思わない	わからない	無回答	計
平成17年	31.8%	50.7%	8.7%	8.0%	0.7%	100.0%(2402)
平成27年	28.1%	49.1%	7.5%	10.0%	5.2%	100.0%(2138)

表 1-4 は、差別のもつ犯罪性への認識について前回調査との比較をみたものである。

差別のもつ犯罪性への認識は、「そこまでは思わない」または「そうは思わない」と回答した人は、今回は 56.6%であり、前回調査は 59.4%となっている。

また、「犯罪であると思う」と回答した人は、今回は 28.1%であり、前回調査は 31.8%となっている。

図 1-6. 差別のもつ犯罪性への認識—年齢別

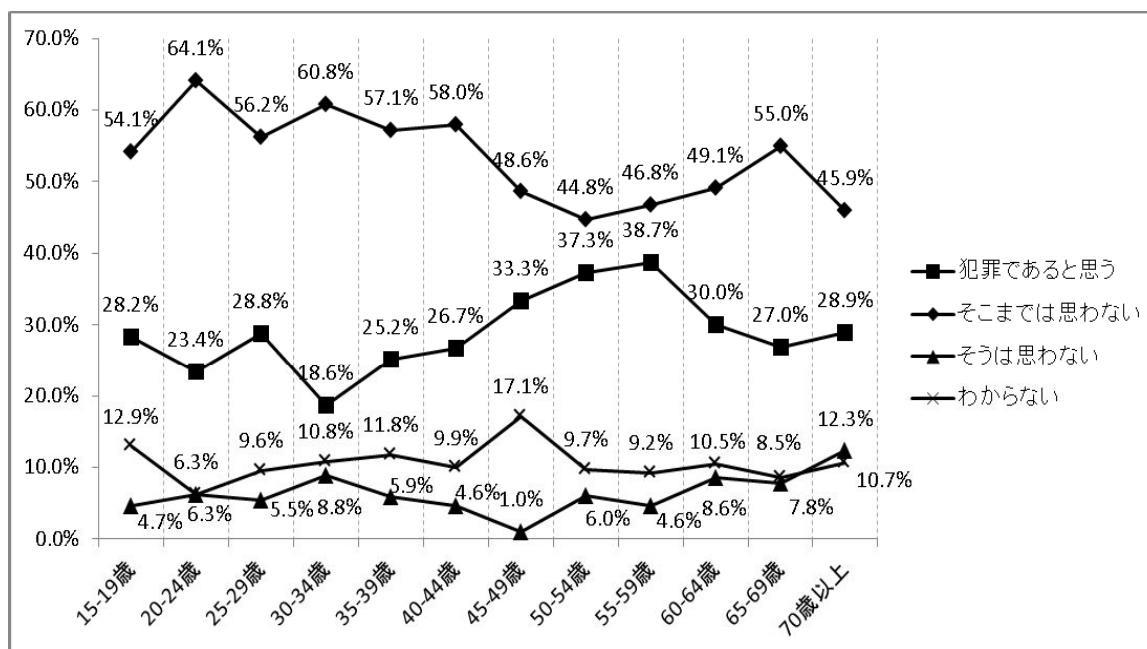


図 1-6 は、差別のもつ犯罪性への認識を年齢別にみたものである。

「犯罪であると思う」と回答した人は、「55～59 歳」38.7%が最も高く、次いで「50～54 歳」37.3%となっている。

「そこまでは思わない」と回答した人は、「20～24 歳」64.1%が最も高く、次いで「30～34 歳」60.8%となっている。

「そうは思わない」と回答した人は、「70 歳以上」12.3%が最も高くなっている。

問2 あなたの周りにおいて、次のような人権問題があると思いますか。

(各項目のおおのについて(1)から(4)までの番号のいずれか1つに○をしてください。

(1) あると思う (2) どちらともいえない (3) ないと思う (4) わからない

図2-1. 「あると思う」と回答した人の割合(項目別・割合順)

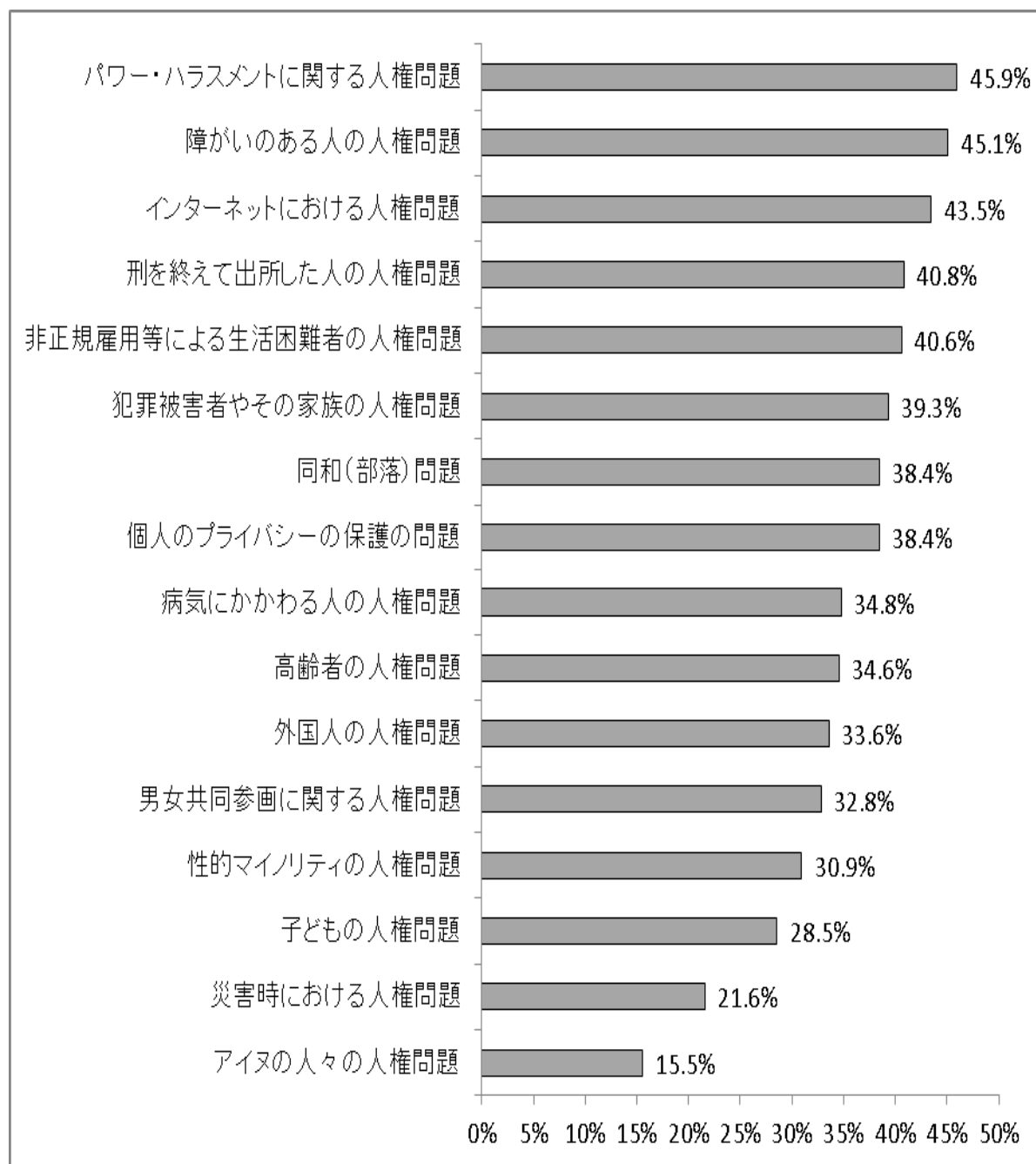


図2-1は、身近な人権問題が「あると思う」と回答した人の割合を項目別にみたものである。

身近な人権問題について、「あると思う」と回答した人の割合は、「パワー・ハラスメントに関する人権問題」45.9%が最も高く、次いで「障がいのある人の人権問題」45.1%、「インターネットにおける人権問題」43.5%となっている。

「アイヌの人々の人権問題」15.5%が最も低く、次いで「災害時における人権問題」21.6%、「子どもの人権問題」28.5%となっている。

1. 同和（部落）問題

図 2-2. 身近にある同和（部落）問題の存在認識—全体・性別

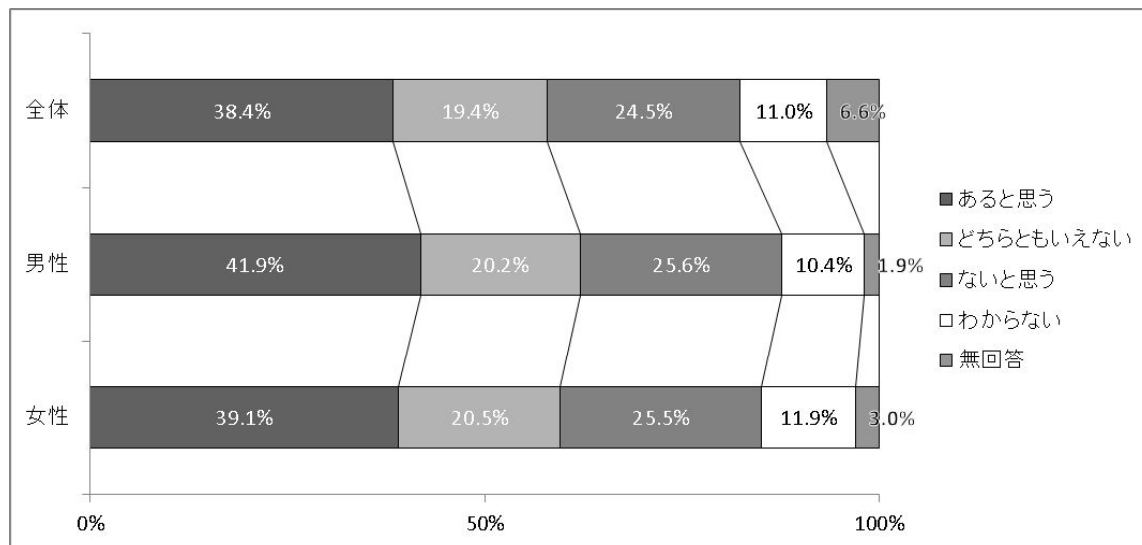


図 2-2 は、身近にある同和（部落）問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 38.4% となっており、性別では、男性 41.9%、女性 39.1% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 19.4% となっており、性別では、男性 20.2%、女性 20.5% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 24.5% となっており、性別では、男性 25.6%、女性 25.5% となっている。

図 2-3. 身近にある同和（部落）問題の存在認識—年齢別

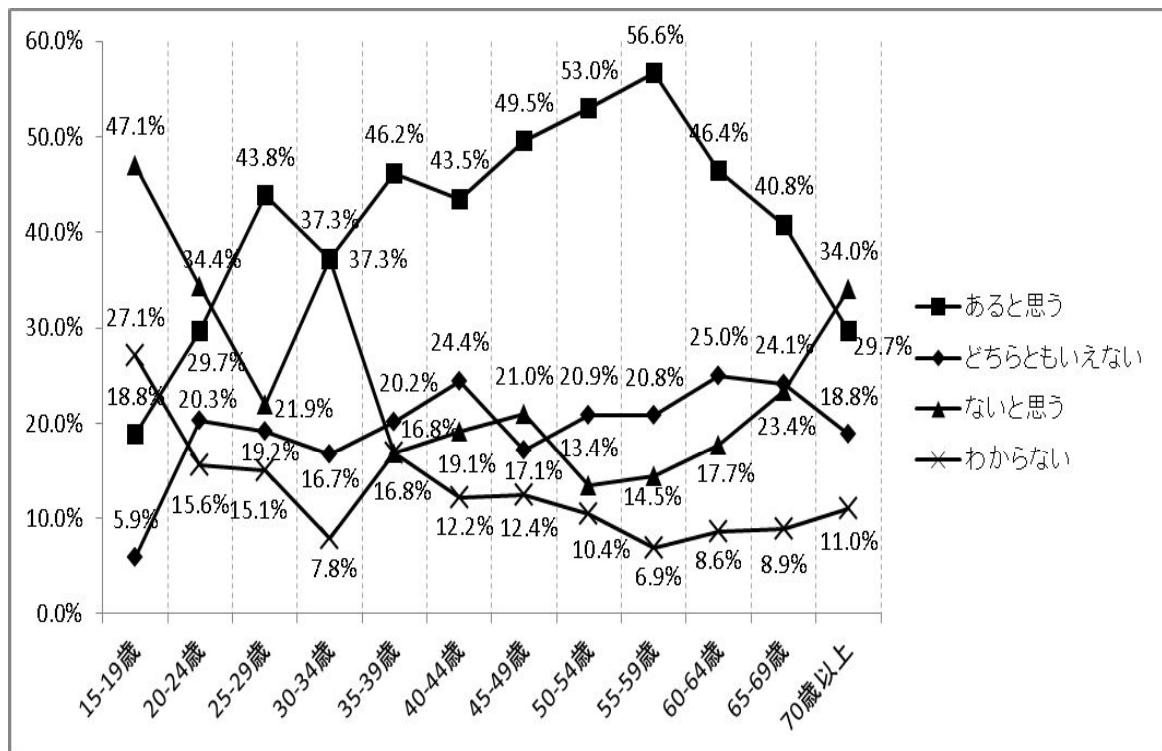


図 2-3 は、身近にある同和（部落）問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「55～59 歳」56.6%が最も高く、次いで「50～54 歳」53.0%、となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「60～64 歳」25.0%が最も高く、次いで「40～44 歳」24.4%、「65～69 歳」24.1%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」47.1%が最も高く、次いで「30～34 歳」37.3%、「20～24 歳」34.4%となっている。

2. 男女共同参画に関する人権問題

図 2-4. 男女共同参画に関する人権問題の存在認識—全体・性別

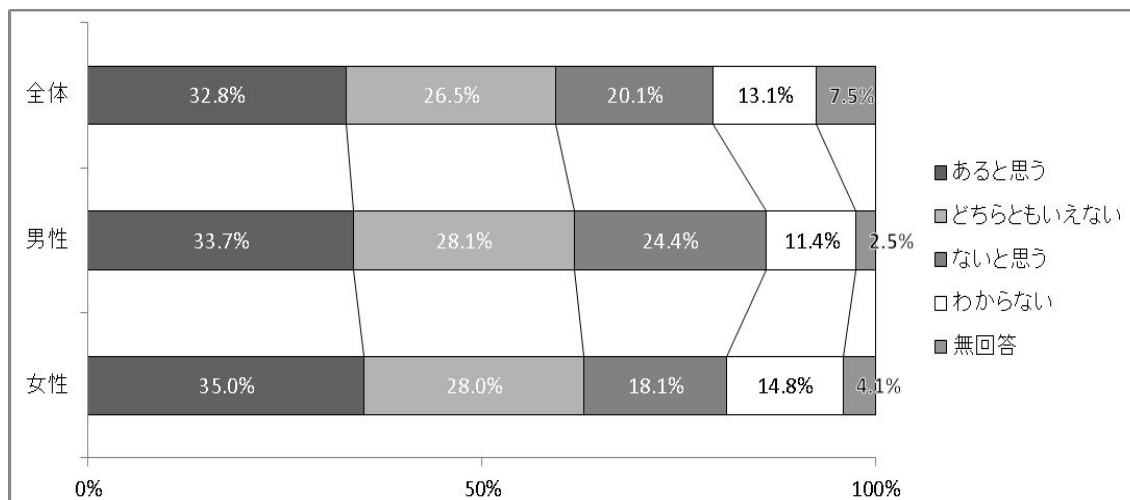


図 2-4 は、男女共同参画に関する人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 32.8% となっており、性別では、男性 33.7%、女性 35.0% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 26.5% となっており、性別では、男性 28.1%、女性 28.0% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 20.1% となっており、性別では、男性 24.4%、女性 18.1% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおのおのについて（1）から（4）までの番号のいずれか 1 つに○をして下さい。）

1. 女性に対する差別

図 2-5. 女性に対する差別の存在認識

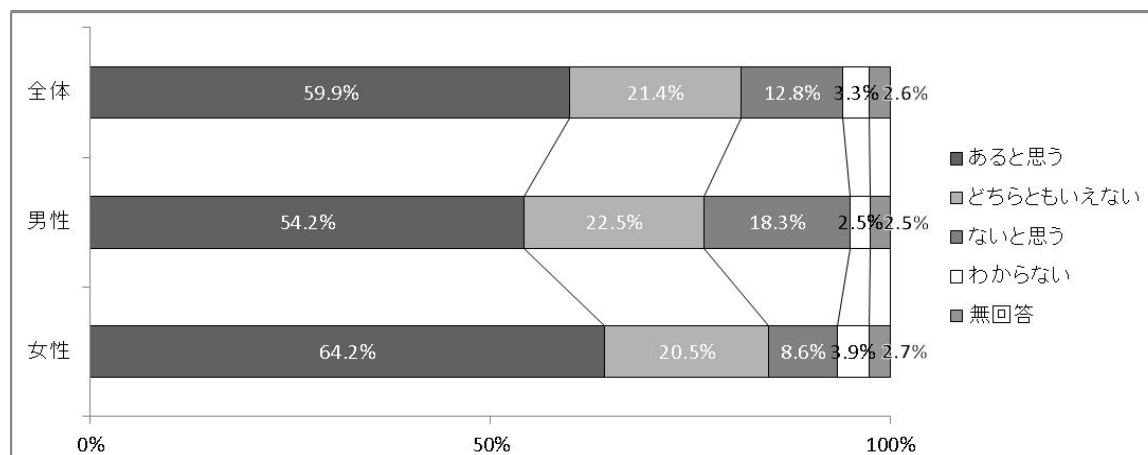


図 2-5 は、平成 17 年の前回調査で女性に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は、全体では 59.9%となっており、「どちらともいえない」は 21.4%、「ないと思う」は 12.8%、「わからない」は 3.3%となっている。

図 2-6. 男女共同参画に関する人権問題の存在認識—年齢別

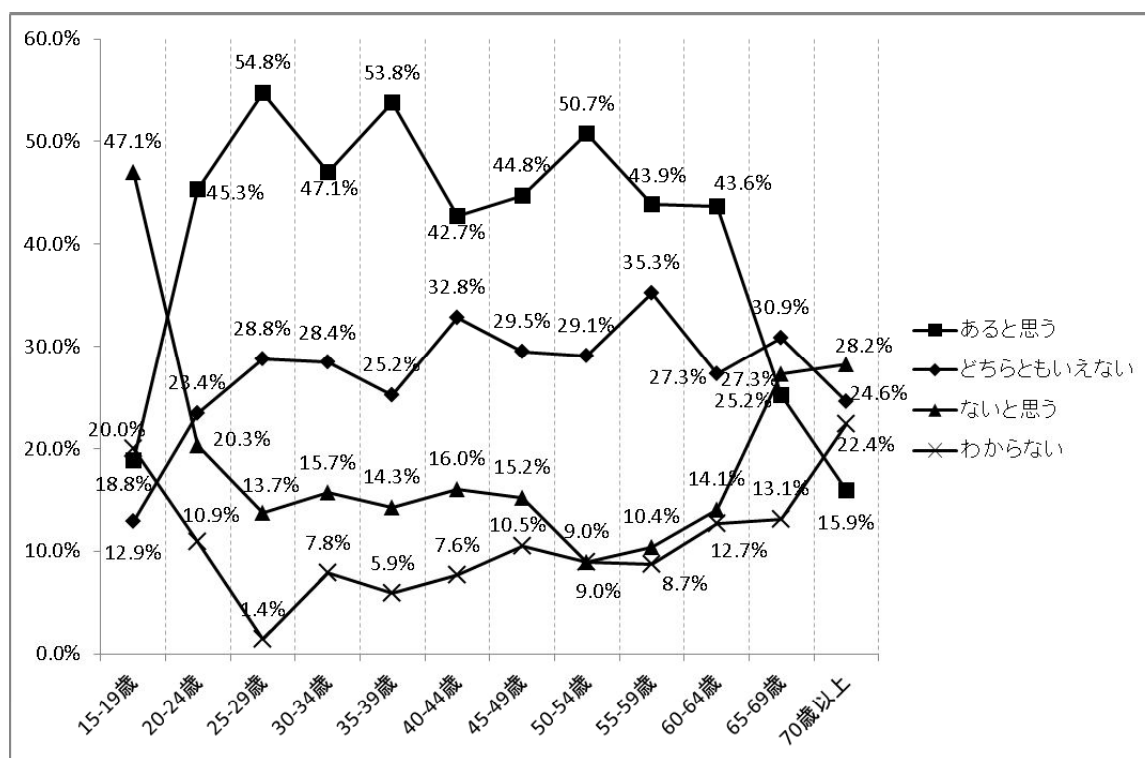


図 2-6 は、男女共同参画に関する人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「25～29 歳」54.8%が最も高く、次いで「35～39 歳」53.8%、「50～54 歳」50.7%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「55～59 歳」35.3%が最も高く、次いで「40～44 歳」32.8%、「65～69 歳」30.9%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」47.1%が最も高く、次いで「70 歳以上」28.2%、「65～69 歳」27.3%となっている。

3. 障がいのある人の人権問題

図 2-7. 障がいのある人の人権問題の存在認識—全体・性別

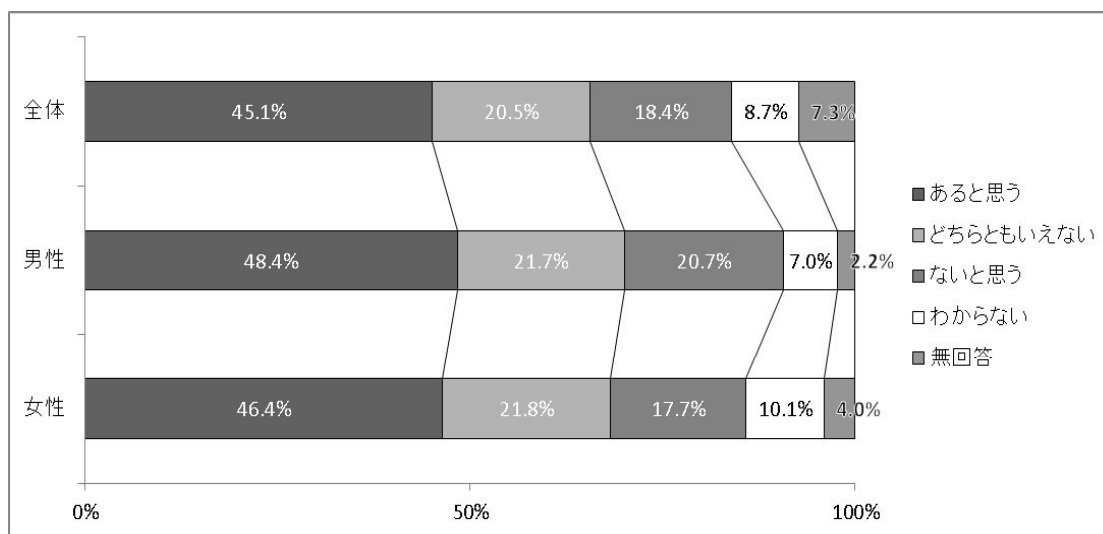


図 2-7 は、障がいのある人の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 45.1% となっており、性別では、男性 48.4%、女性 46.4% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 20.5% となっており、性別では、男性 21.7%、女性 21.8% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 18.4% となっており、性別では、男性 20.7%、女性 17.7% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおのこのについて（1）から（4）までの番号のいずれか 1 つに○をして下さい。）

2. 障がい者に対する差別

図 2-8. 障がい者に対する差別の存在認識

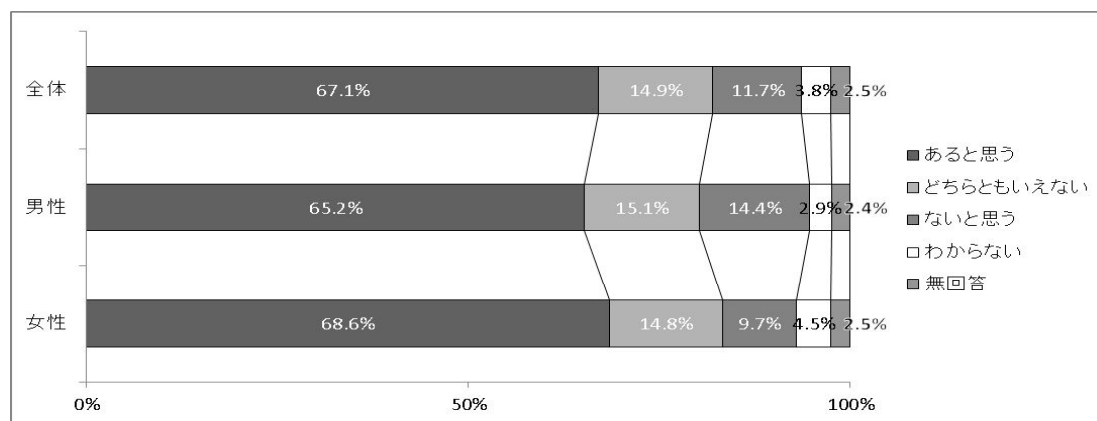


図 2-8 は、平成 17 年の前回調査で障がい者に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は、全体では 67.1% となっており、「どちらともいえない」は 14.9%、「ないと思う」は 11.7%、「わからない」は 3.8% となっている。

図 2-9. 障がいのある人の人権問題の存在認識—年齢別

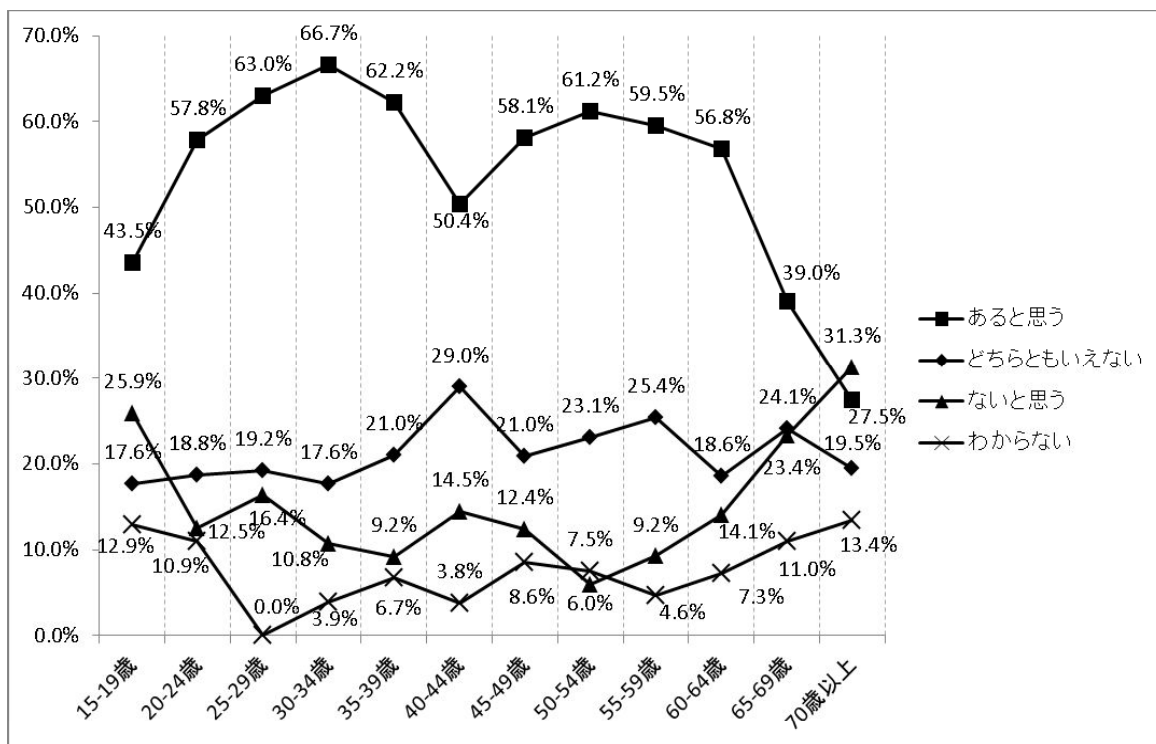


図 2-9 は、障がいのある人の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「30～34 歳」66.7% が最も高く、次いで「25～29 歳」63.0%、「35～39 歳」62.2% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」29.0% が最も高く、次いで「55～59 歳」25.4% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、70 歳以上 31.3% が最も高く、次いで「15～19 歳」25.9% となっている。

4. 子どもの人権問題

図 2-10. 子どもの人権問題の存在認識—全体・性別

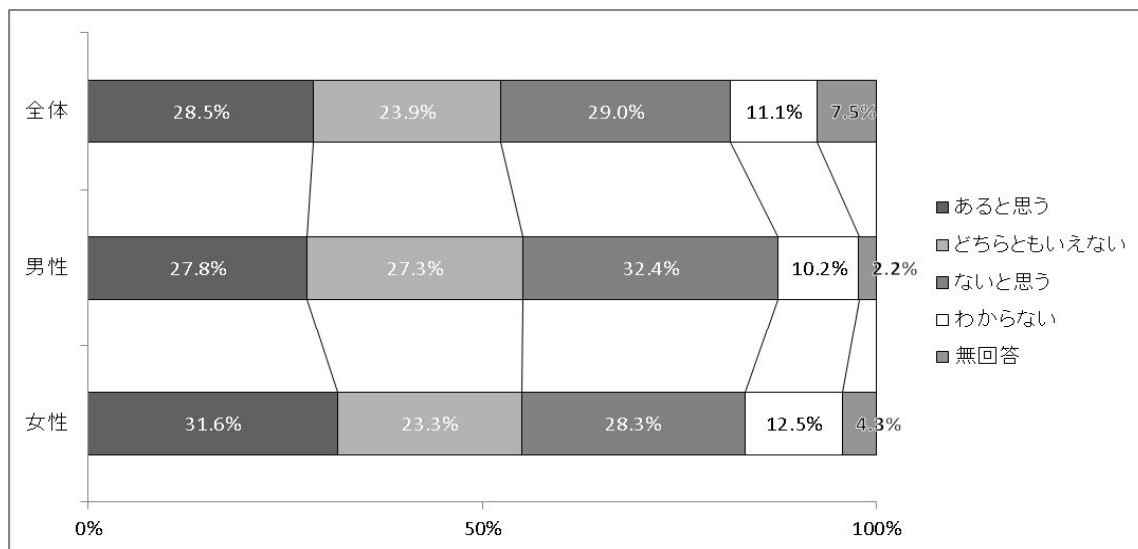


図 2-10 は、子どもの人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 28.5% となっており、性別では、男性 27.8%、女性 31.6% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 23.9% となっており、性別では、男性 27.3%、女性 23.3% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 29.0% となっており、性別では、男性 32.4%、女性 28.3% となっている。

図 2-11. 子どもの人権問題の存在認識—年齢別

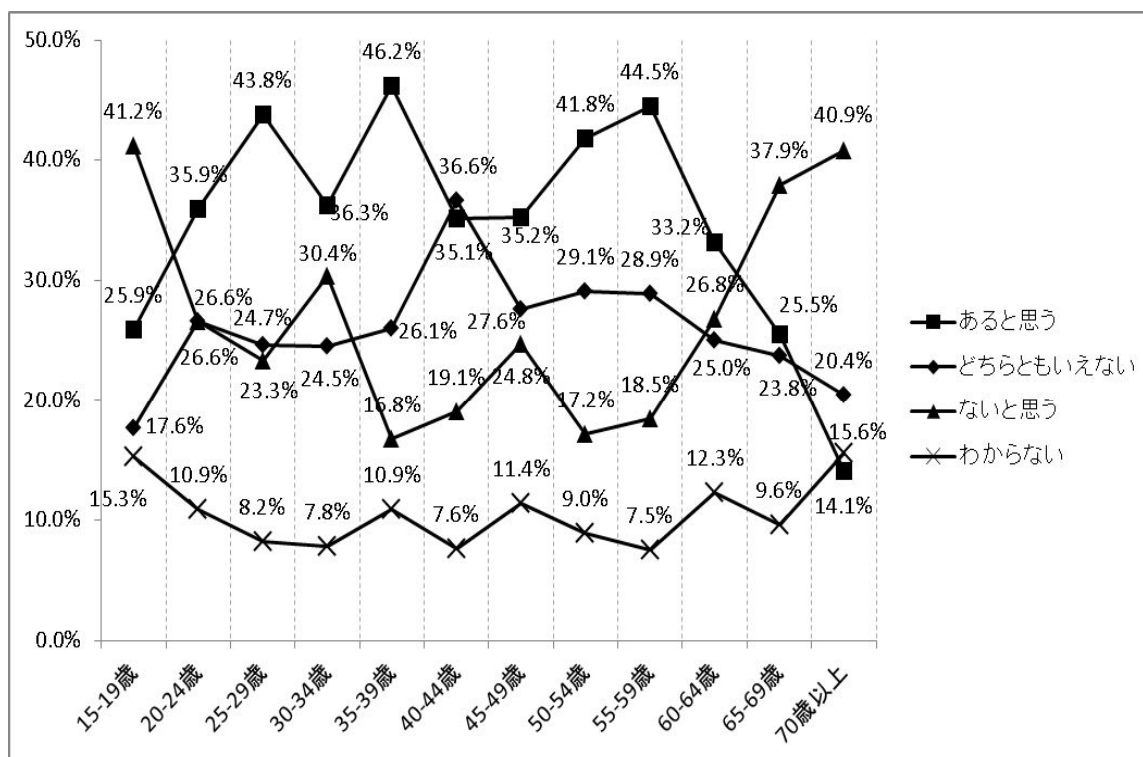


図 2-11 は、子どもの人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「35～39 歳」46.2%が最も高く、次いで「55～59 歳」44.5%、「25～29 歳」43.8%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」36.6%が最も高く、次いで「50～54 歳」29.1%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」41.2%が最も高く、次いで「70 歳以上」40.9%となっている。

5. 高齢者の人権問題

図 2-12. 高齢者の人権問題の存在認識—全体・性別

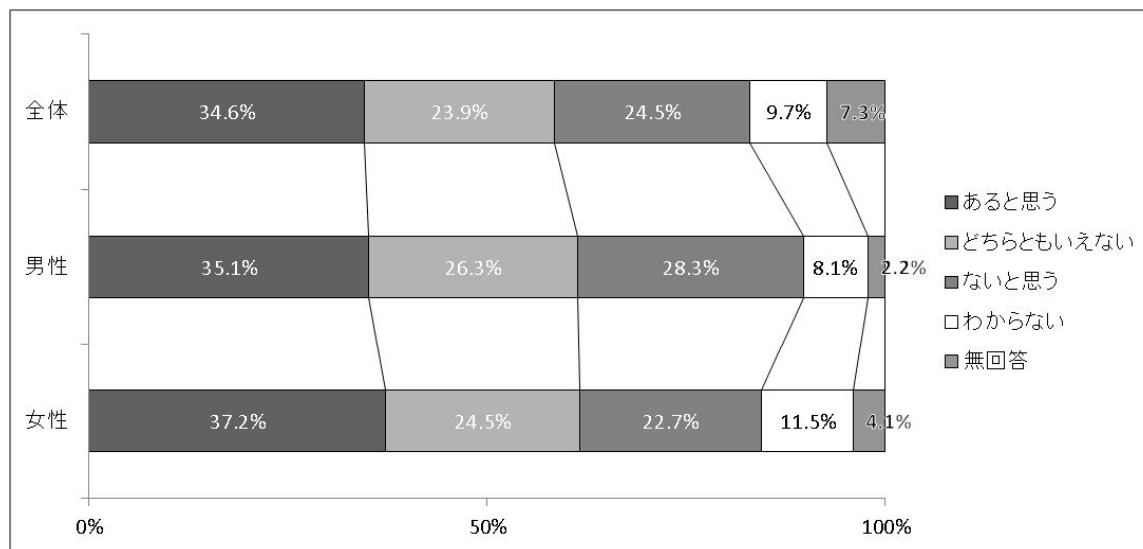


図 2-12 は、高齢者の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 34.6% となっており、性別では、男性 35.1%、女性 37.2% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 23.9% となっており、性別では、男性 26.3%、女性 24.5% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 24.5% となっており、性別では、男性 28.3%、女性 22.7% となっている。

図 2-13. 高齢者の人権問題の存在認識—年齢別

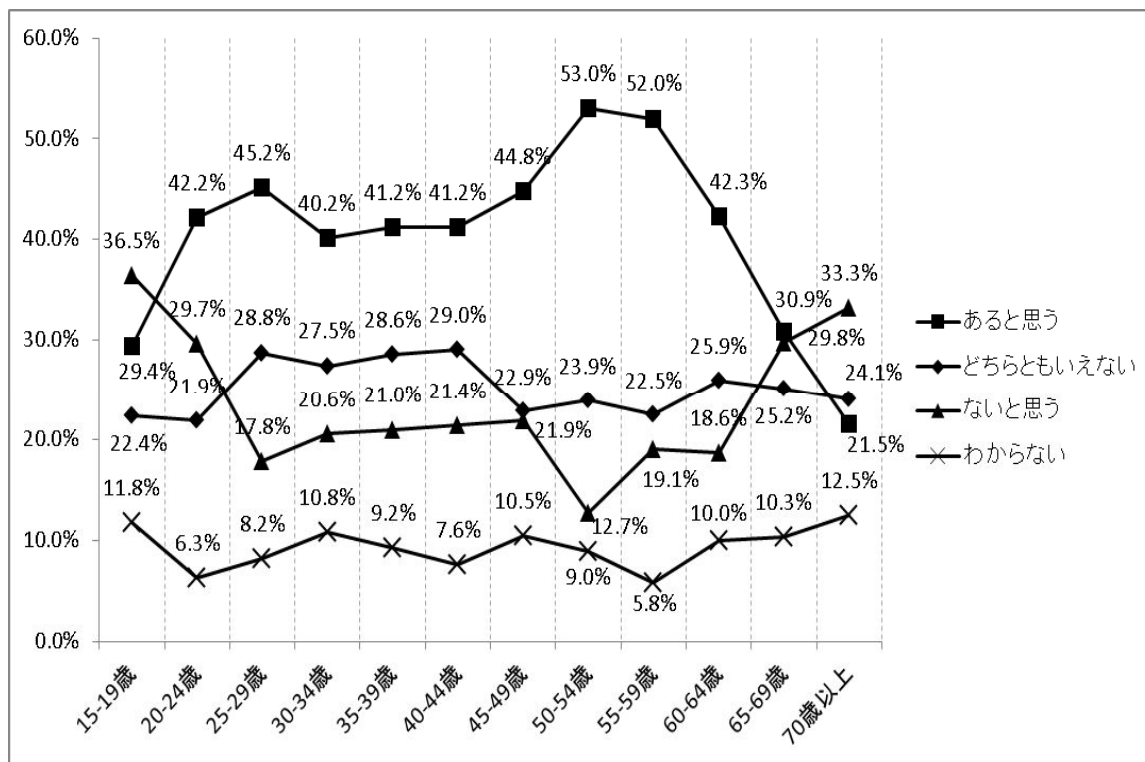


図 2-13 は、高齢者の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「50～54 歳」53.0%が最も高く、次いで「55～59 歳」52.0%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」29.0%が最も高く、次いで「25～29 歳」28.8%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」36.5%が最も高く、次いで「70 歳以上」33.3%となっている。

6. 外国人の人権問題

図 2-14. 外国人の人権問題の存在認識—全体・性別

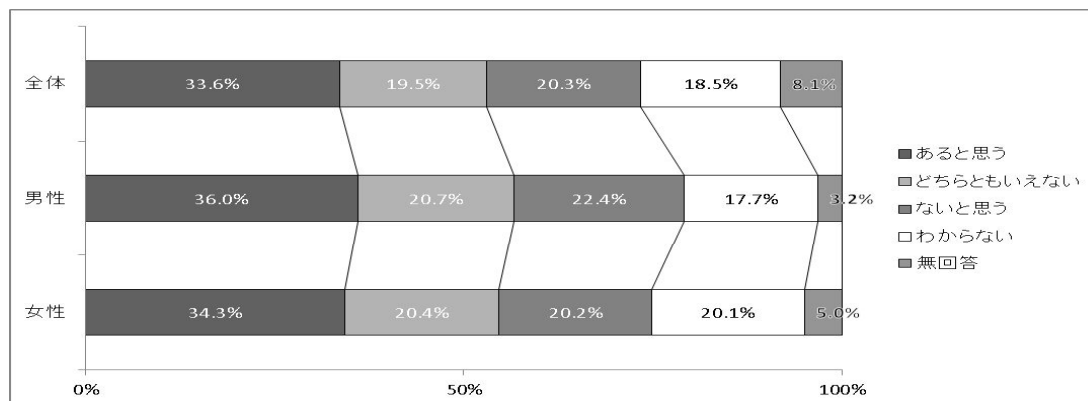


図 2-14 は、外国人の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 33.6% となっており、性別では、男性 36.0%、女性 34.3% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 19.5% となっており、性別では、男性 20.7%、女性 20.4% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 20.3% となっており、性別では、男性 22.4%、女性 20.2% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等的人権問題に関する市民意識調査）

問 2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおのおのについて（1）から（4）までの番号のいずれか 1 つに○をして下さい。）

3. 在日韓国・朝鮮人に対する差別

図 2-15. 在日韓国・朝鮮人に対する差別の存在認識

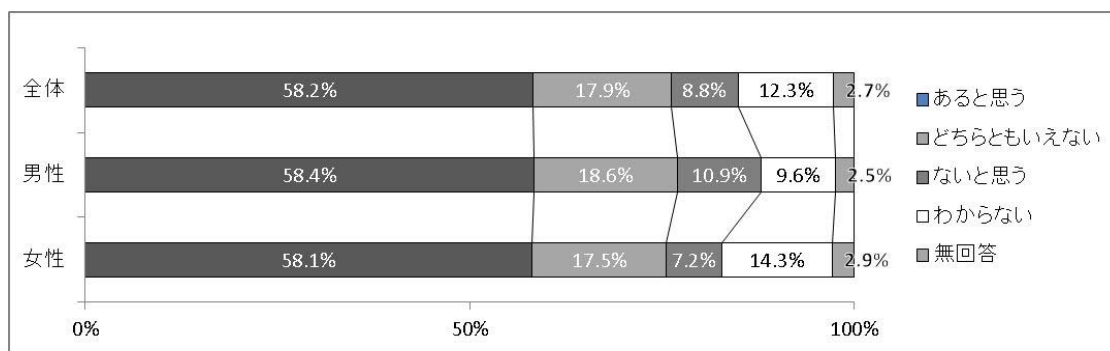


図 2-15 は、平成 17 年の前回調査で在日韓国・朝鮮人に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は、全体では 58.2% となっており、「どちらともいえない」は 17.9%、「ない

と思う」は8.8%、「わからない」は12.3%となっている。

4. その他の外国人に対する差別

図 2-16. その他の外国人に対する差別の存在認識

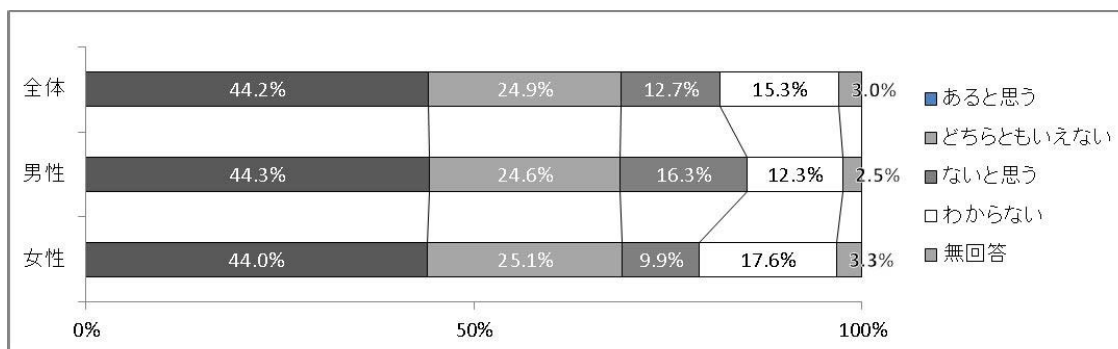


図 2-16 は、平成 17 年の前回調査でその他の外国人に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は、全体では 44.2%となっており、「どちらともいえない」は 24.9%、「ないと思う」は 12.7%、「わからない」は 15.3%となっている。

図 2-17. 外国人の人権問題の存在認識—年齢別

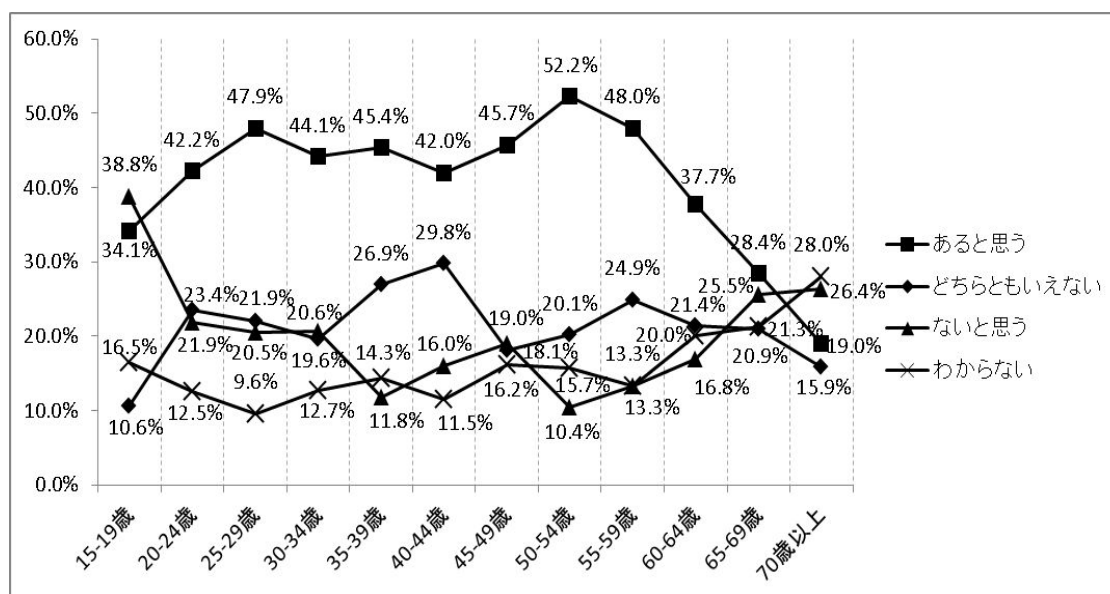


図 2-17 は、外国人の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「50～54 歳」52.2%が最も高く、次いで「55～59 歳」48.0%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」29.8%が最も高く、次いで「35～39 歳」26.9%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」38.8%が最も高く、次いで「70 歳以上」26.4%となっている。

7. 病気にかかわる人の人権問題

図 2-18. 病気にかかわる人の人権問題の存在認識—全体・性別

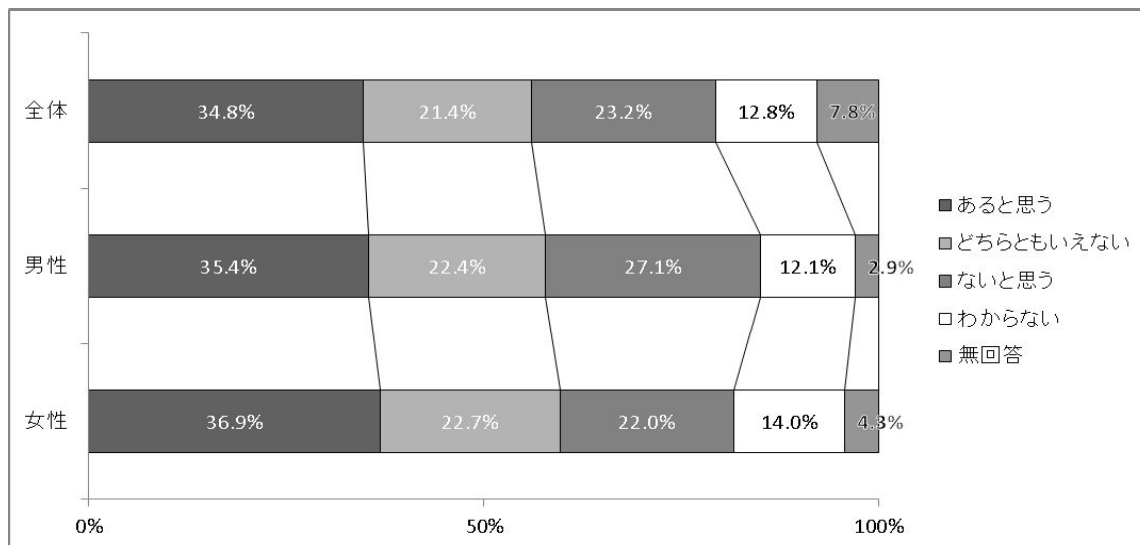


図 2-18 は、病気にかかわる人の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 34.8% となっており、性別では、男性 35.4%、女性 36.9% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 21.4% となっており、性別では、男性 22.4%、女性 22.7% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 23.2% となっており、性別では、男性 27.1%、女性 22.0% となっている。

図 2-19. 病気にかかわる人の人権問題の存在認識—年齢別

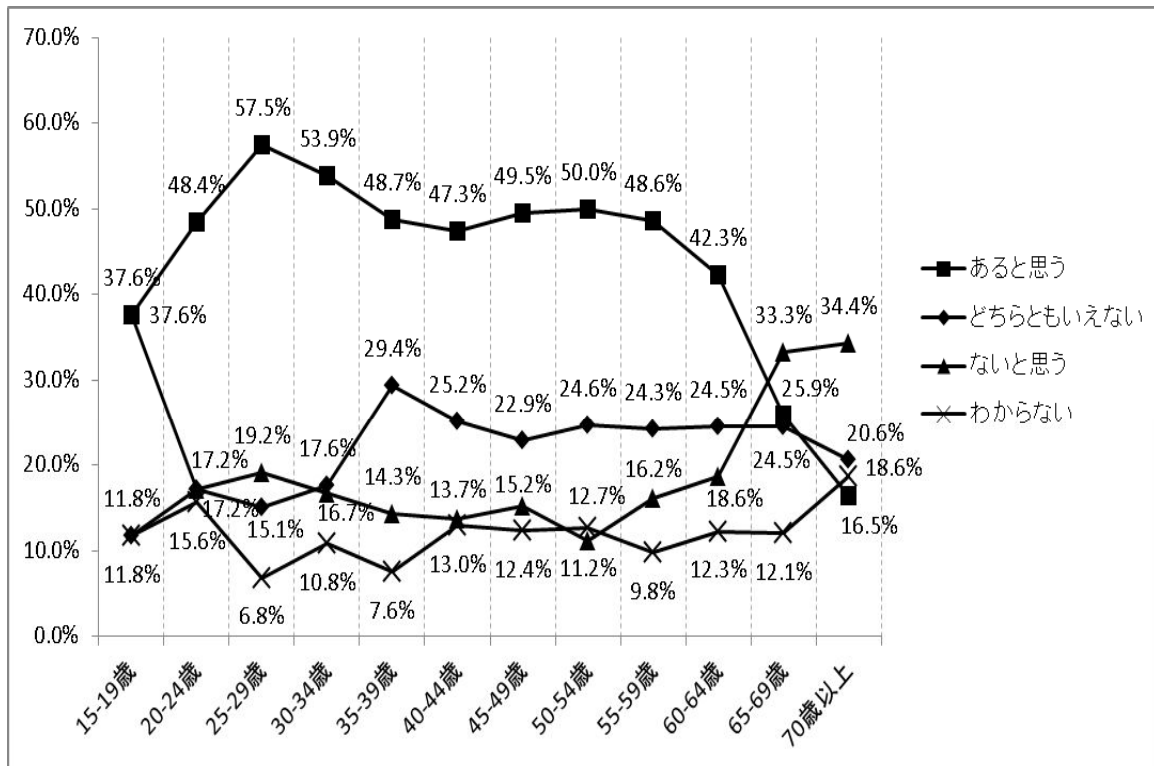


図 2-19 は、病気にかかわる人の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「25～29 歳」57.5%が最も高く、次いで「30～34 歳」53.9%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「35～39 歳」29.4%が最も高く、次いで「40～44 歳」25.2%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」37.6%が最も高く、次いで「70 歳以上」34.4%、「65～69 歳」33.3%となっている。

8. 個人のプライバシーの保護の問題

図 2-20. 個人のプライバシーの保護の問題の存在認識—全体・性別

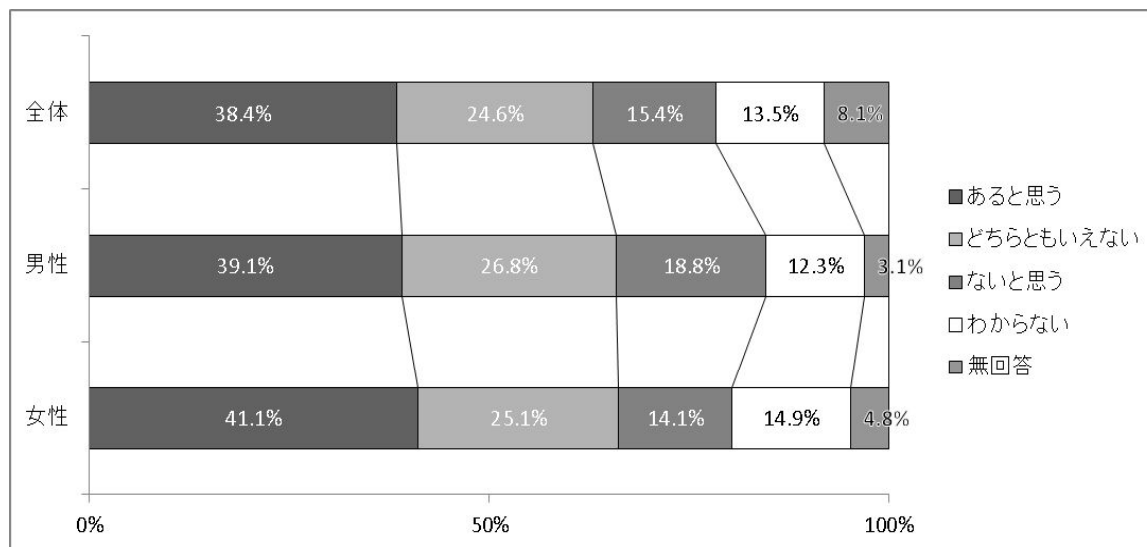


図 2-20 は、個人のプライバシーの保護の問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 38.4% となっており、性別では、男性 39.1%、女性 41.1% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 24.6% となっており、性別では、男性 26.8%、女性 25.1% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 15.4% となっており、性別では、男性 18.8%、女性 14.1% となっている。

図 2-21. 個人のプライバシーの保護の問題の存在認識—年齢別

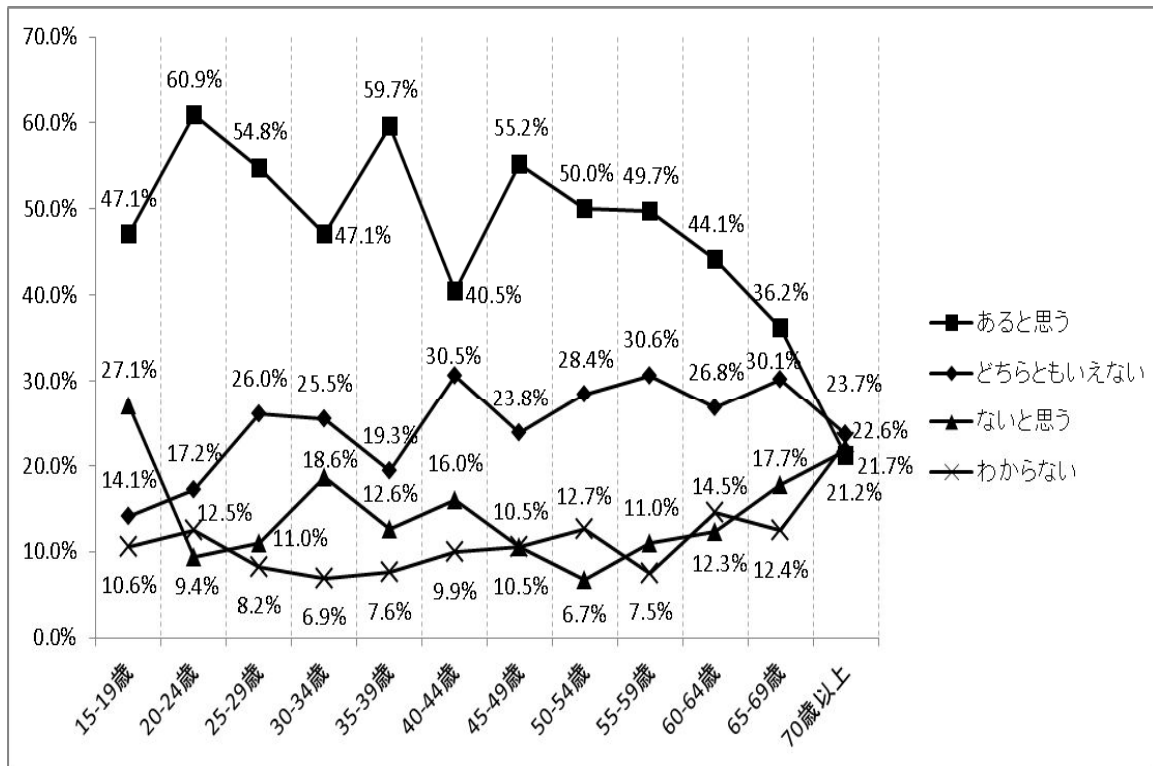


図 2-21 は、個人のプライバシーの保護の問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「20～24 歳」60.9%が最も高く、次いで「35～39 歳」59.7%、「45～49 歳」55.2%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「55～59 歳」30.6%が最も高く、次いで「40～44 歳」30.5%、「65～69 歳」30.1%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」27.1%が最も高く、次いで「70 歳以上」21.7%となっている。

9. アイヌの人々の人権問題

図 2-22. アイヌの人々の人権問題の存在認識—全体・性別

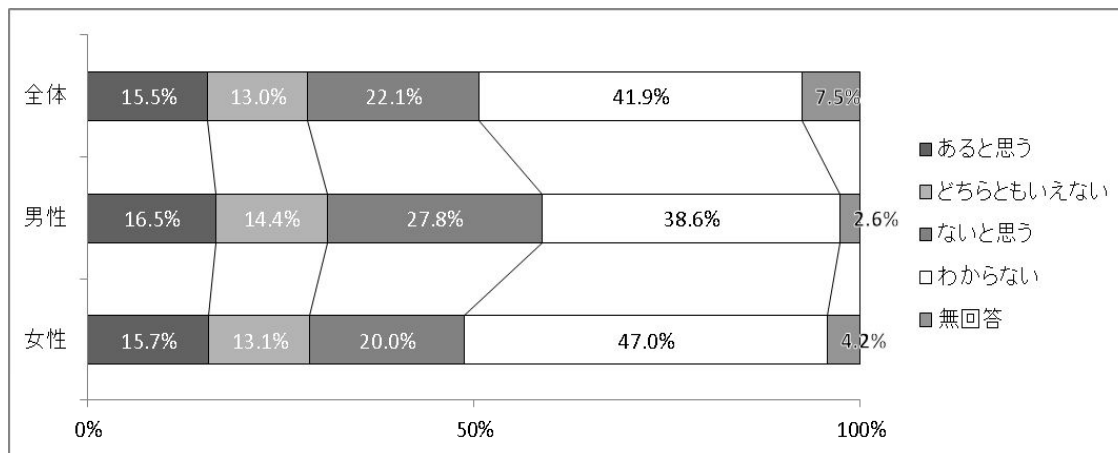


図 2-22 は、アイヌの人々の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 15.5% となっており、性別では、男性 16.5%、女性 15.7% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 13.0% となっており、性別では、男性 14.4%、女性 13.1% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 22.1% となっており、性別では、男性 27.8%、女性 20.0% となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では 41.9% となっており、性別では、男性 38.6%、女性 47.0% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおののおのについて（1）から（4）までの番号のいずれか 1 つに○をして下さい。）

5. アイヌ民族に対する差別

図 2-23. アイヌ民族に対する差別の存在認識

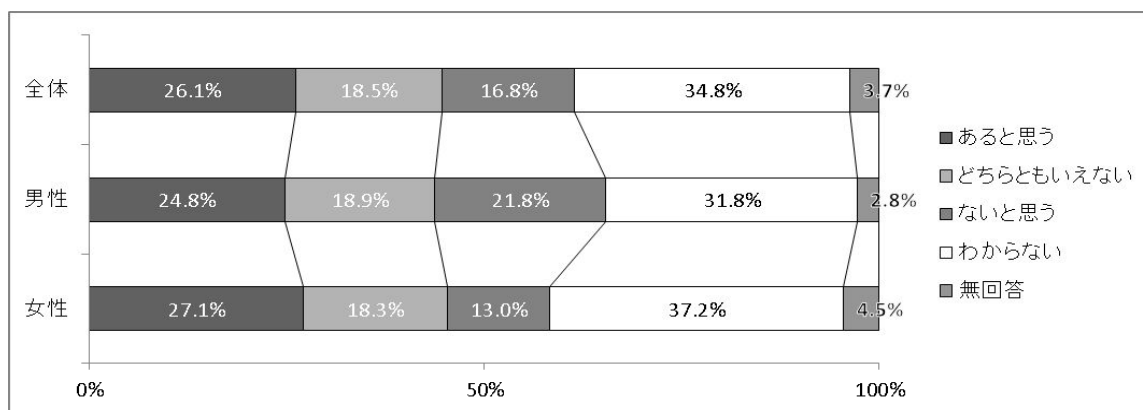


図 2-23 は、平成 17 年の前回調査でアイヌ民族に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は、全体で 26.1% となっており、「どちらともいえない」は 18.5%、「ないと思う」は 16.8%、「わからない」は 34.8% となっている。

図 2-24. アイヌの人々の人権問題の存在認識—年齢別

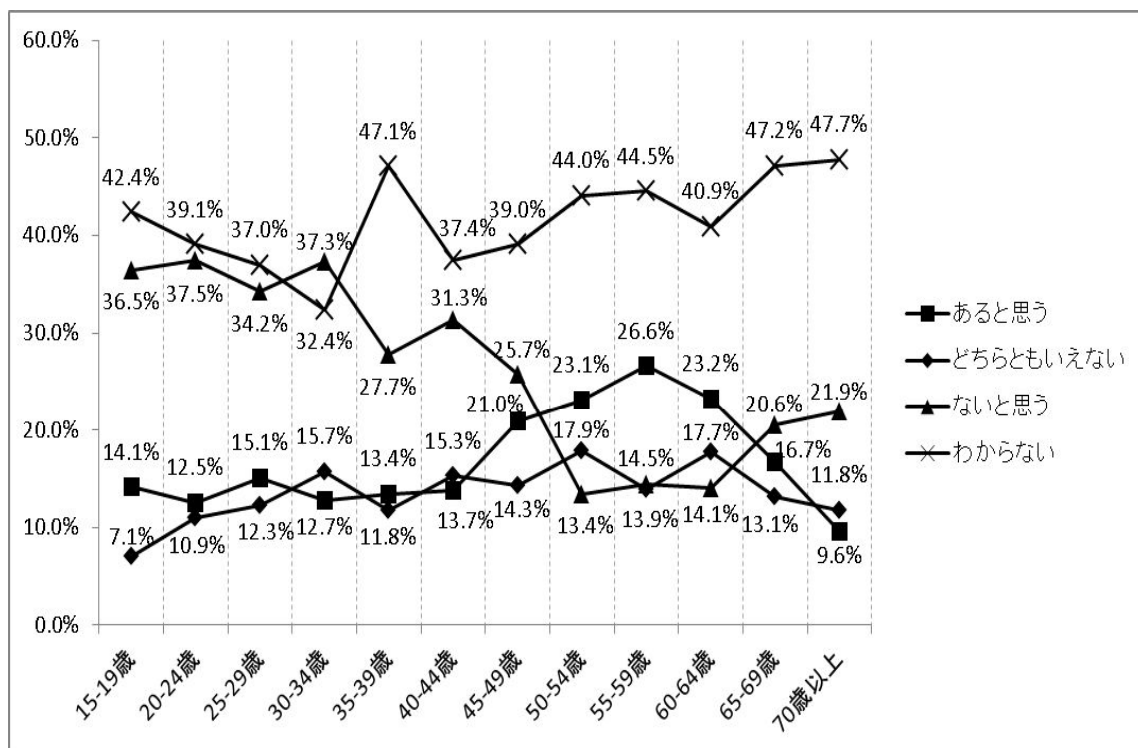


図 2-24 は、アイヌの人々の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「55～59 歳」26.6% が最も高く、次いで「60～64 歳」23.2%、「50～54 歳」23.1% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「50～54 歳」17.9% が最も高く、次いで「60～64 歳」17.7% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「20～24 歳」37.5% が最も高く、次いで「30～34 歳」37.3%、「15～19 歳」36.5% となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」47.7% が最も高く、次いで「65～69 歳」47.2%、「35～39 歳」47.1% となっている。

10. 刑を終えて出所した人の人権問題

図 2-25. 刑を終えて出所した人の人権問題の存在認識—全体・性別

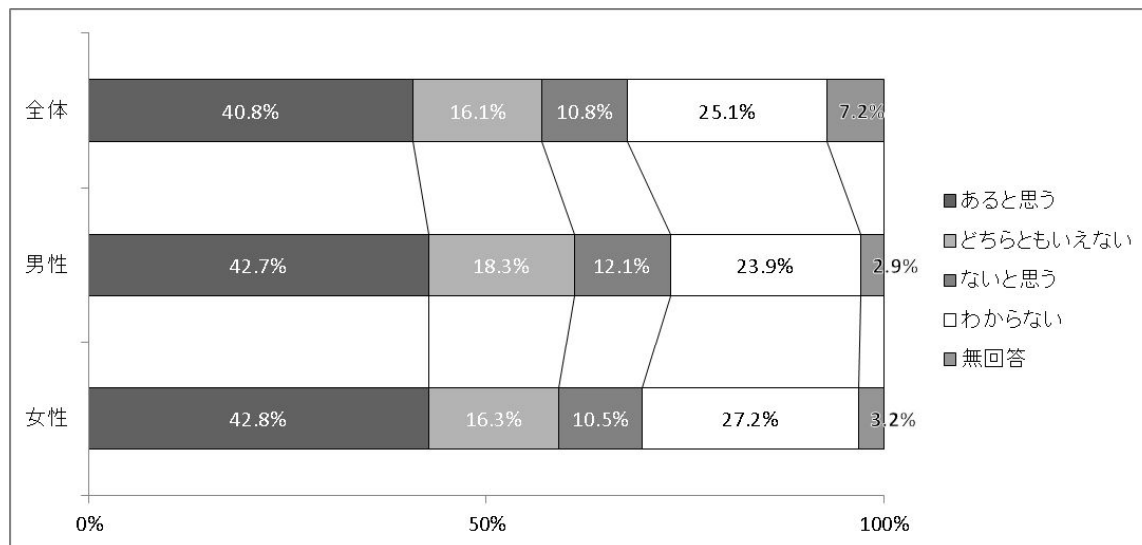


図 2-25 は、刑を終えて出所した人の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 40.8% となっており、性別では、男性 42.7%、女性 42.8% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 16.1% となっており、性別では、男性 18.3%、女性 16.3% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 10.8% となっており、性別では、男性 12.1%、女性 10.5% となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では 25.1% となっており、性別では、男性 23.9%、女性 27.2% となっている。

図 2-26. 刑を終えて出所した人の人権問題の存在認識—年齢別

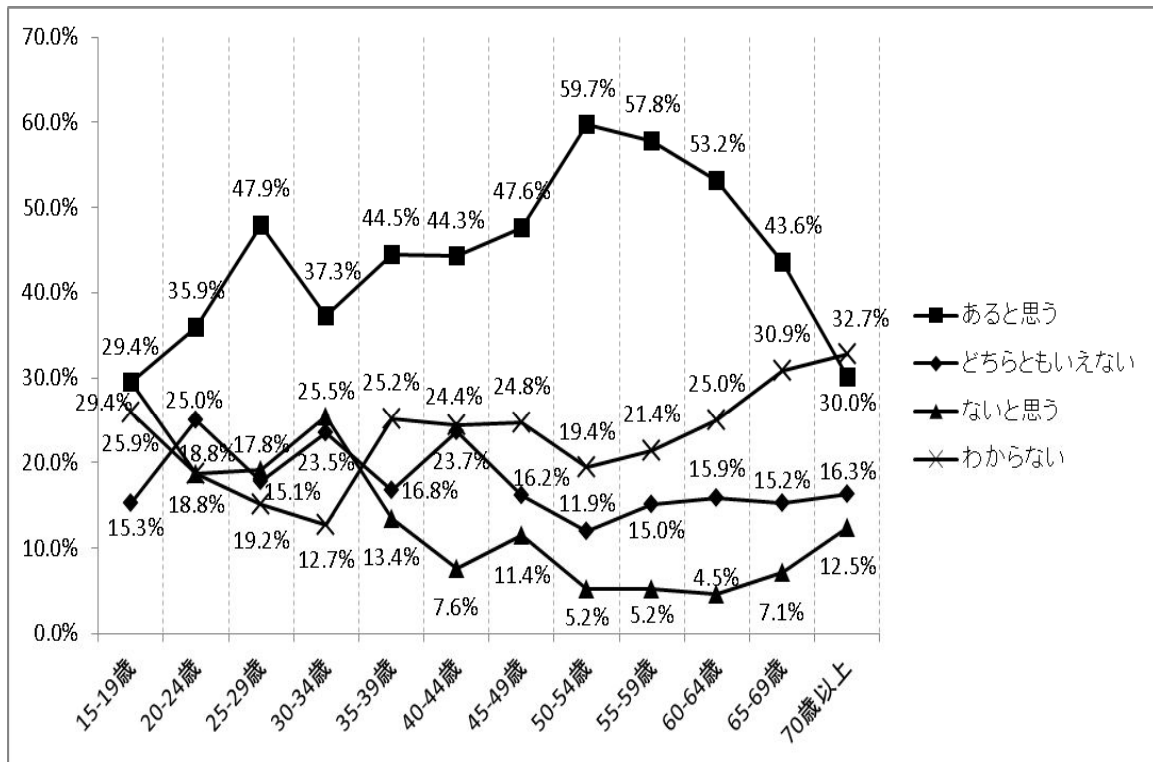


図 2-26 は、刑を終えて出所した人の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「50～54 歳」59.7%が最も高く、次いで「55～59 歳」57.8%、「60～64 歳」53.2%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「20～24 歳」25.0%が最も高く、次いで「40～44 歳」23.7%、「30～34 歳」23.5%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」29.4%が最も高く、次いで「30～34 歳」25.5%となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」32.7%が最も高く、次いで「65～69 歳」30.9%となっている。

11. 犯罪被害者やその家族の人権問題

図 2-27. 犯罪被害者やその家族の人権問題の存在認識—全体・性別

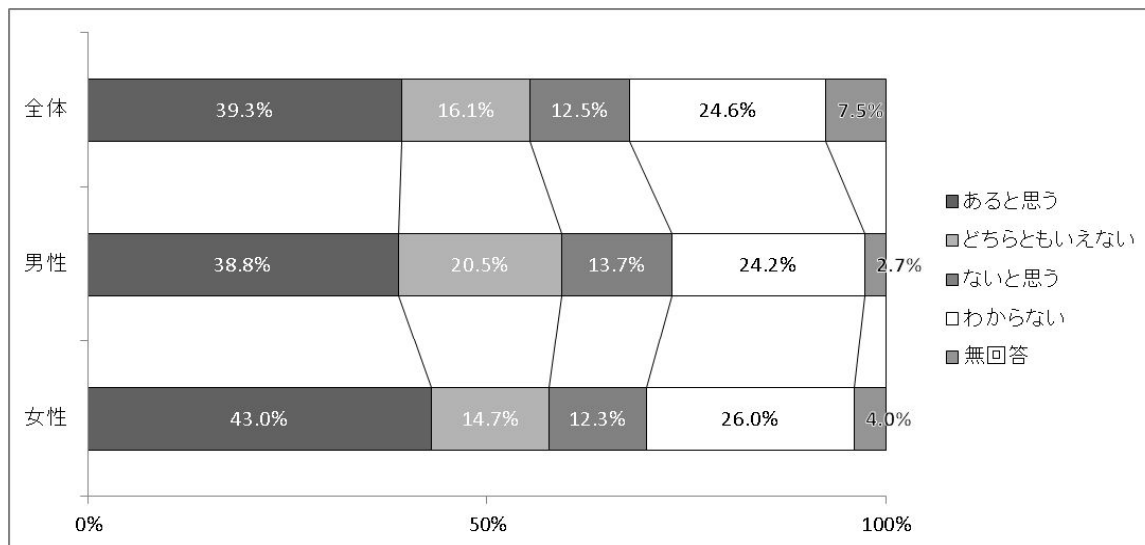


図 2-27 は、犯罪被害者やその家族の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 39.3% となっており、性別では、男性 38.8%、女性 43.0% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 16.1% となっており、性別では、男性 20.5%、女性 14.7% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 12.5% となっており、性別では、男性 13.7%、女性 12.3% となっている。

図 2-28. 犯罪被害者やその家族の人権問題の存在認識—年齢別

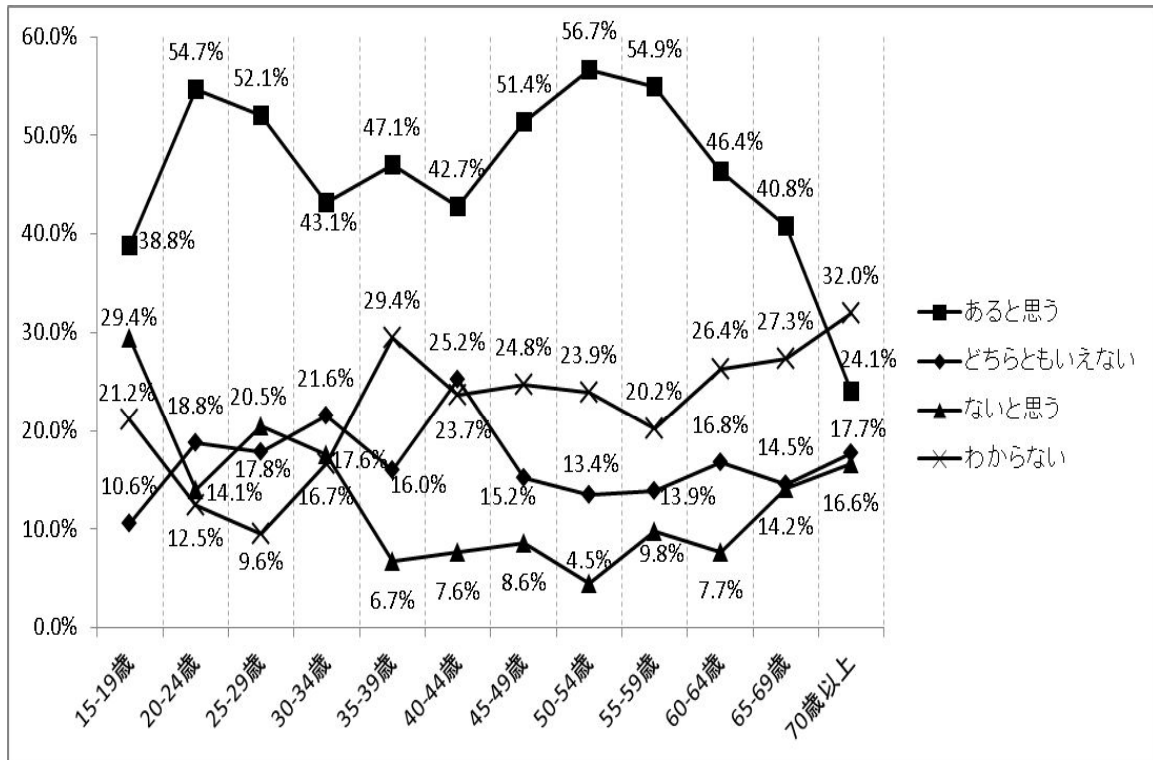


図 2-28 は、犯罪被害者やその家族の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「50～54 歳」56.7%が最も高く、次いで「55～59 歳」54.9%、「20～24 歳」54.7%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」25.2%が最も高く、次いで「30～34 歳」21.6%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」29.4%が最も高く、次いで「25～29 歳」20.5%となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」32.0%が最も高く、次いで「35～39 歳」29.4%となっている。

12. 性的マイノリティの人権問題

図 2-29. 性的マイノリティの人権問題の存在認識—全体・性別

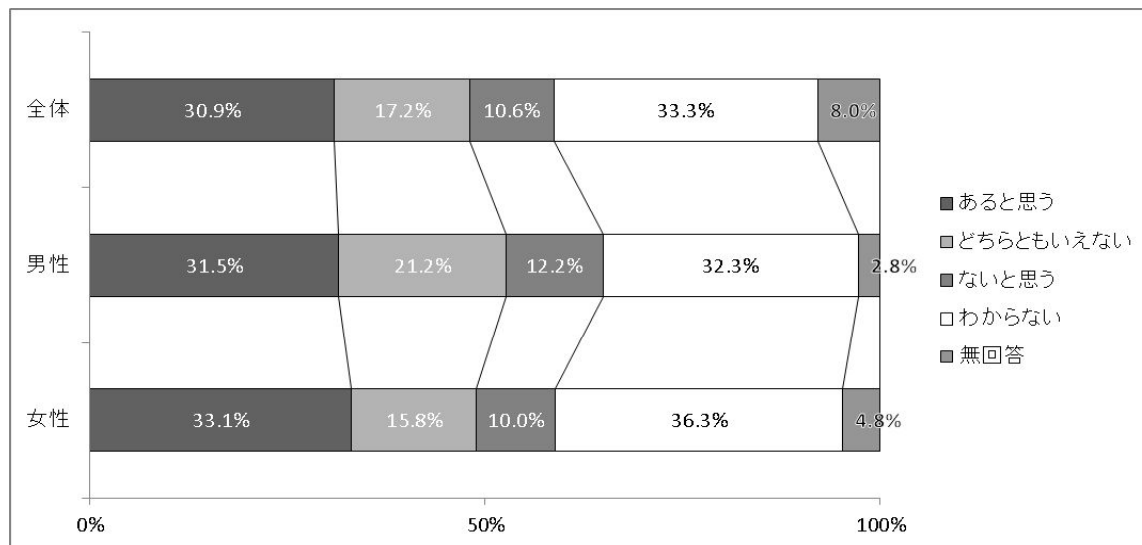


図 2-29 は、性的マイノリティの人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 30.9% となっており、性別では、男性 31.5%、女性 33.1% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 17.2% となっており、性別では、男性 21.2%、女性 15.8% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 10.6% となっており、性別では、男性 12.2%、女性 10.0% となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では 33.3% となっており、性別では、男性 32.3%、女性 36.3% となっている。

図 2-30. 性的マイノリティの人権問題の存在認識—年齢別

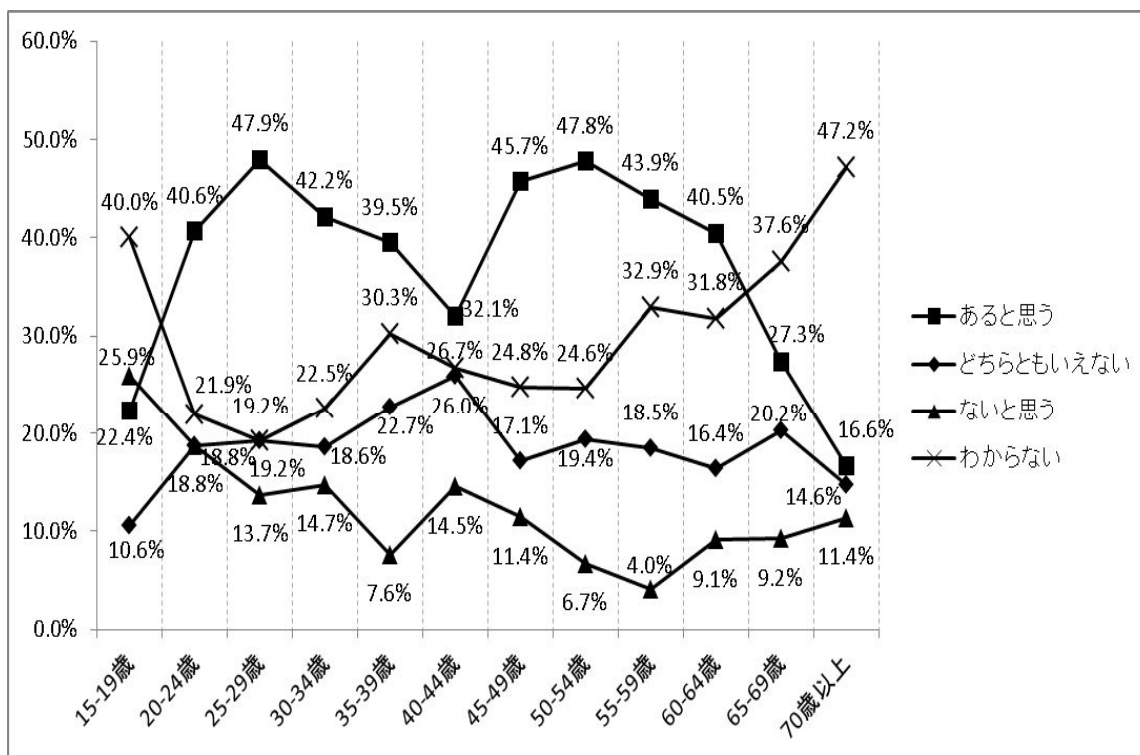


図 2-30 は、性的マイノリティの人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「25～29 歳」47.9%が最も高く、次いで「50～54 歳」47.8%、「45～49 歳」45.7%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」26.0%が最も高く、次いで「35～39 歳」22.7%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」25.9%が最も高く、次いで「20～24 歳」18.8%となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」47.2%が最も高く、次いで「15～19 歳」40.0%となっている。

13. パワー・ハラスメントに関する人権問題

図 2-31. パワー・ハラスメントに関する人権問題の存在認識—全体・性別

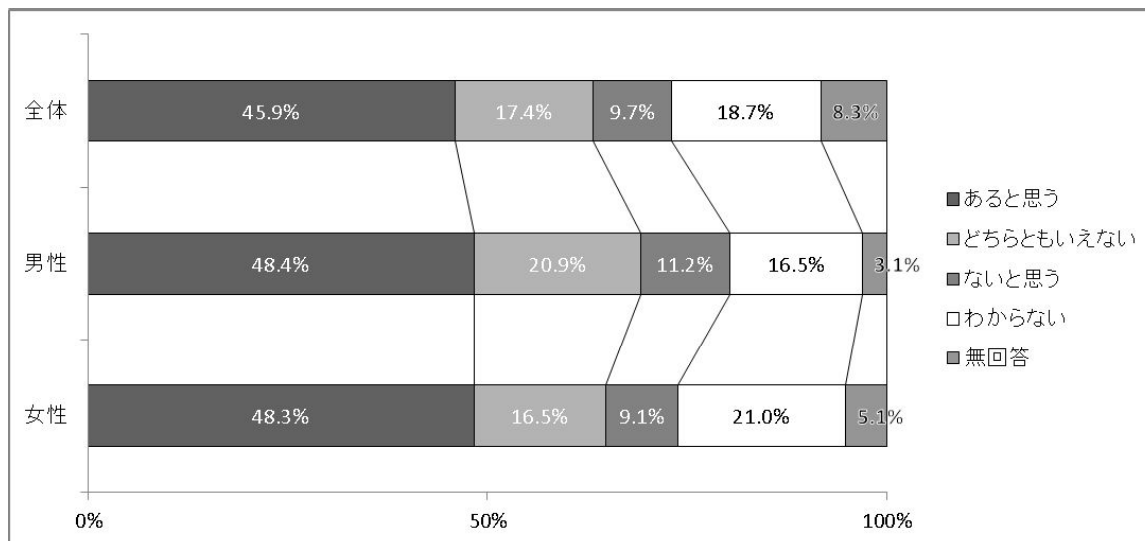


図 2-31 は、パワー・ハラスメントに関する人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 45.9% となっており、性別では、男性 48.4%、女性 48.3% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 17.4% となっており、性別では、男性 20.9%、女性 16.5% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 9.7% となっており、性別では、男性 11.2%、女性 9.1% となっている。

図 2-32. パワー・ハラスメントに関する人権問題の存在認識—年齢別

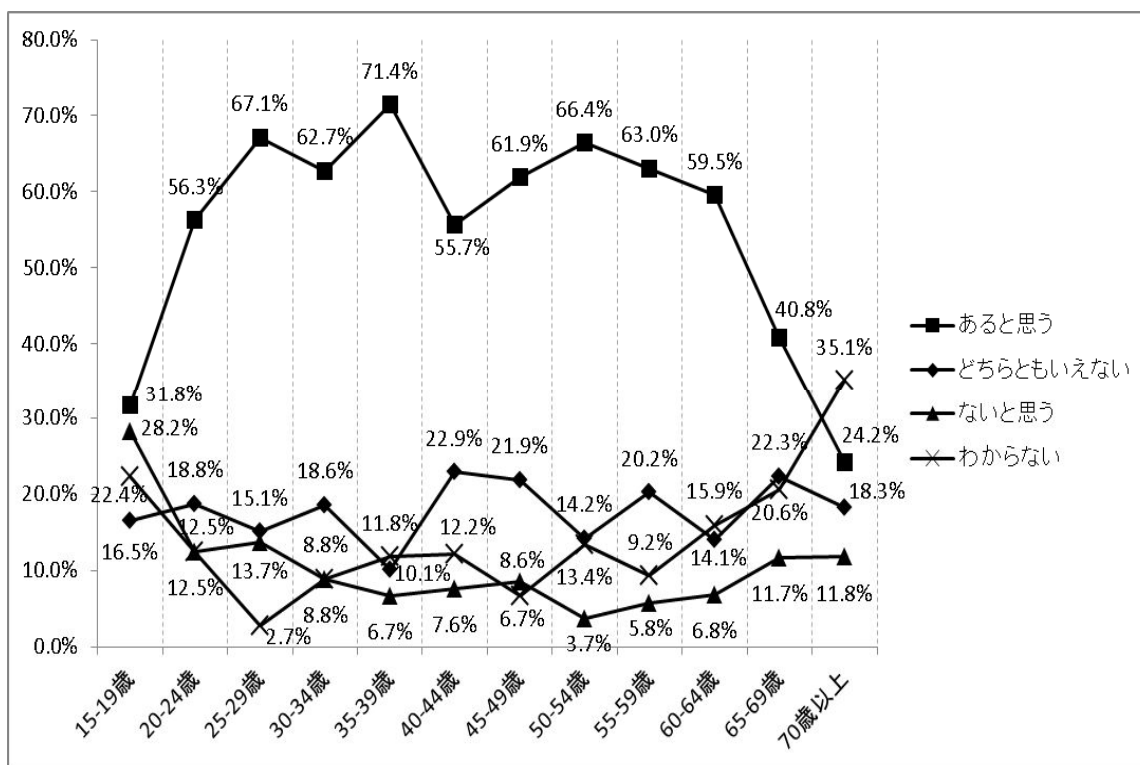


図 2-32 は、パワー・ハラスメントに関する人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「35～39 歳」71.4%が最も高く、次いで「25～29 歳」67.1%、「50～54 歳」66.4%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」22.9%が最も高く、次いで「65～69 歳」22.3%、「45～49 歳」21.9%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」28.2%が最も高く、次いで「25～29 歳」13.7%となっている。

14. 非正規雇用等による生活困難者の人権問題

図 2-33. 非正規雇用等による生活困難者の人権問題の存在認識—全体・性別

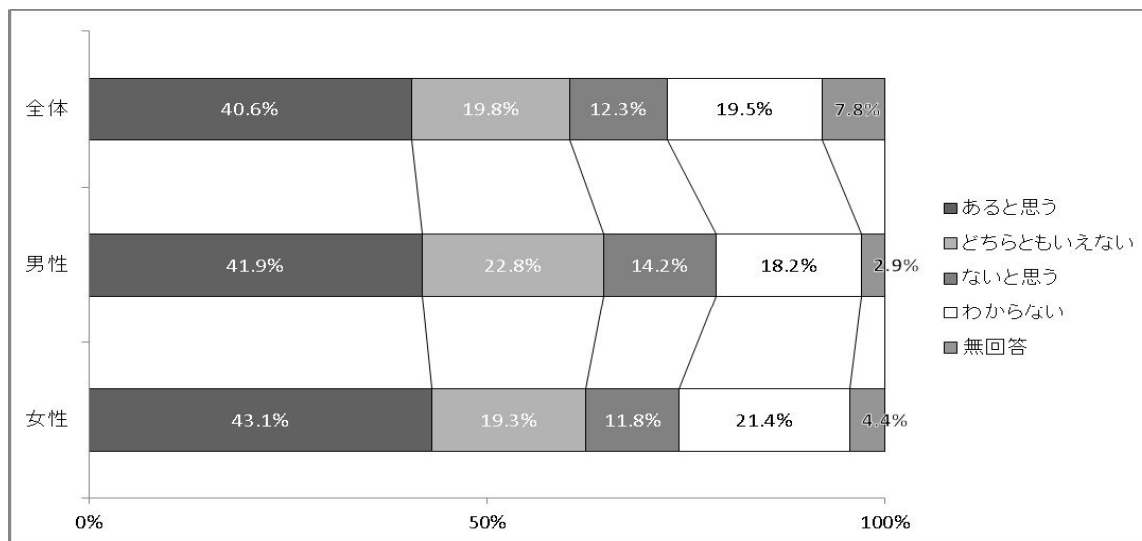


図 2-33 は、非正規雇用等による生活困難者の人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 40.6% となっており、性別では、男性 41.9%、女性 43.1% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 19.8% となっており、性別では、男性 22.8%、女性 19.3% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 12.3% となっており、性別では、男性 14.2%、女性 11.8% となっている。

図 2-34. 非正規雇用等による生活困難者の人権問題の存在認識—年齢別

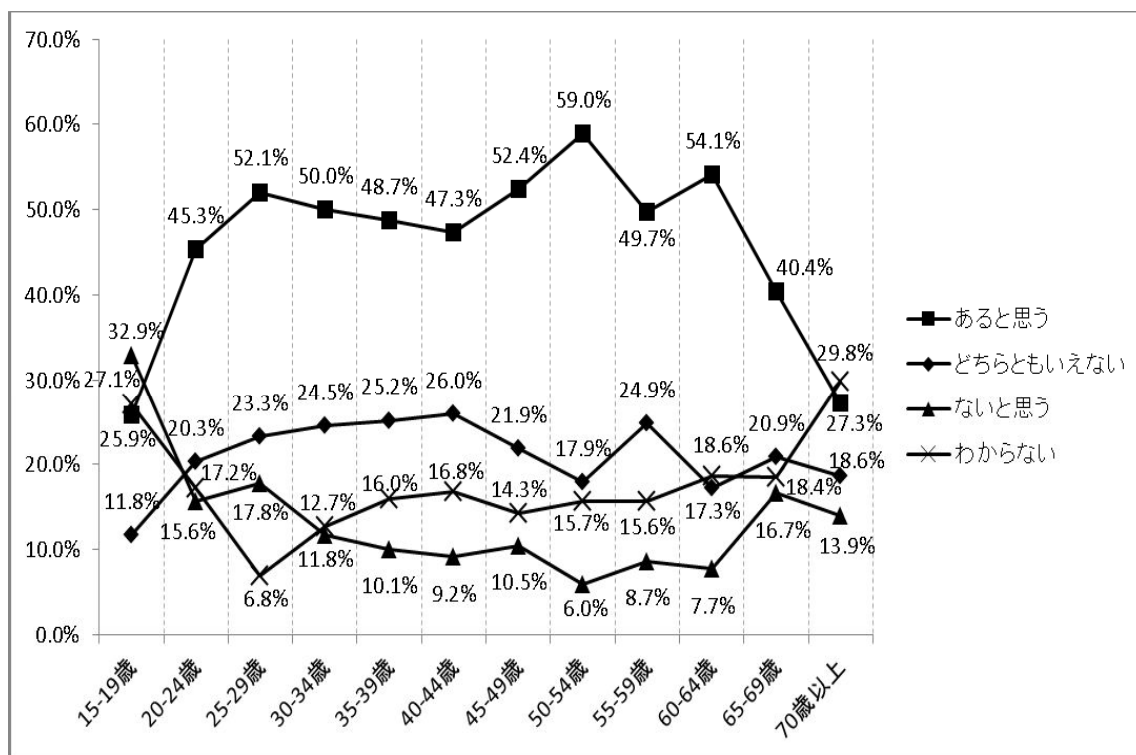


図 2-34 は、非正規雇用等による生活困難者の人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「50～54 歳」59.0%が最も高く、次いで「60～64 歳」54.1%、「45～49 歳」52.4%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「40～44 歳」26.0%が最も高く、次いで「35～39 歳」25.2%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」32.9%が最も高く、次いで「65～69 歳」16.7%となっている。

15. インターネットにおける人権問題

図 2-35. インターネットにおける人権問題の存在認識—全体・性別

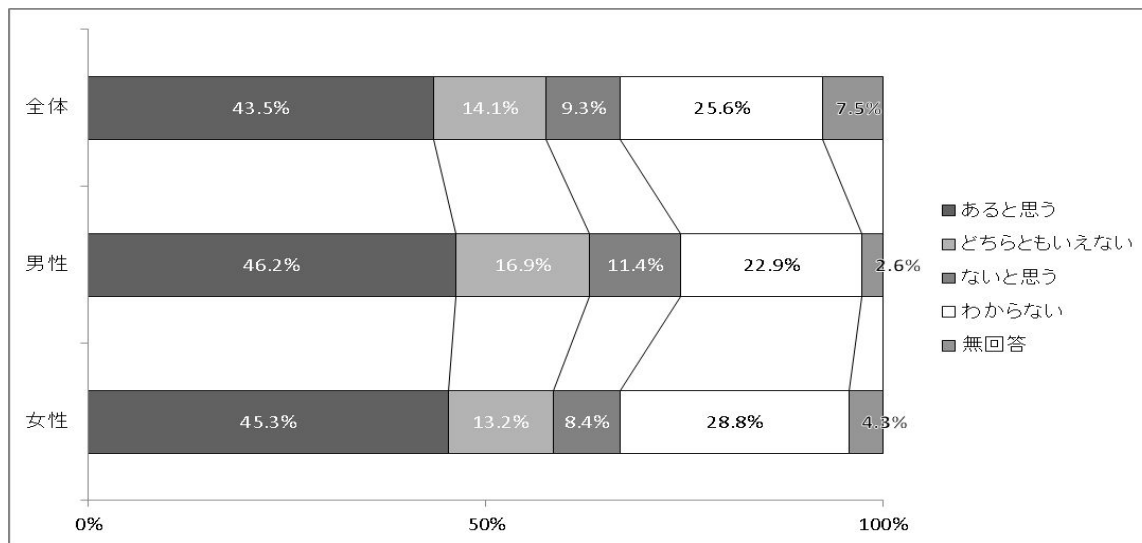


図 2-35 は、インターネットにおける人権問題の存在認識をみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 43.5% となっており、性別では、男性 46.2%、女性 45.3% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 14.1% となっており、性別では、男性 16.9%、女性 13.2% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 9.3% となっており、性別では、男性 11.4%、女性 8.4% となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では 25.6% となっており、性別では、男性 22.9%、女性 28.8% となっている。

図 2-36. インターネットにおける人権問題の存在認識—年齢別

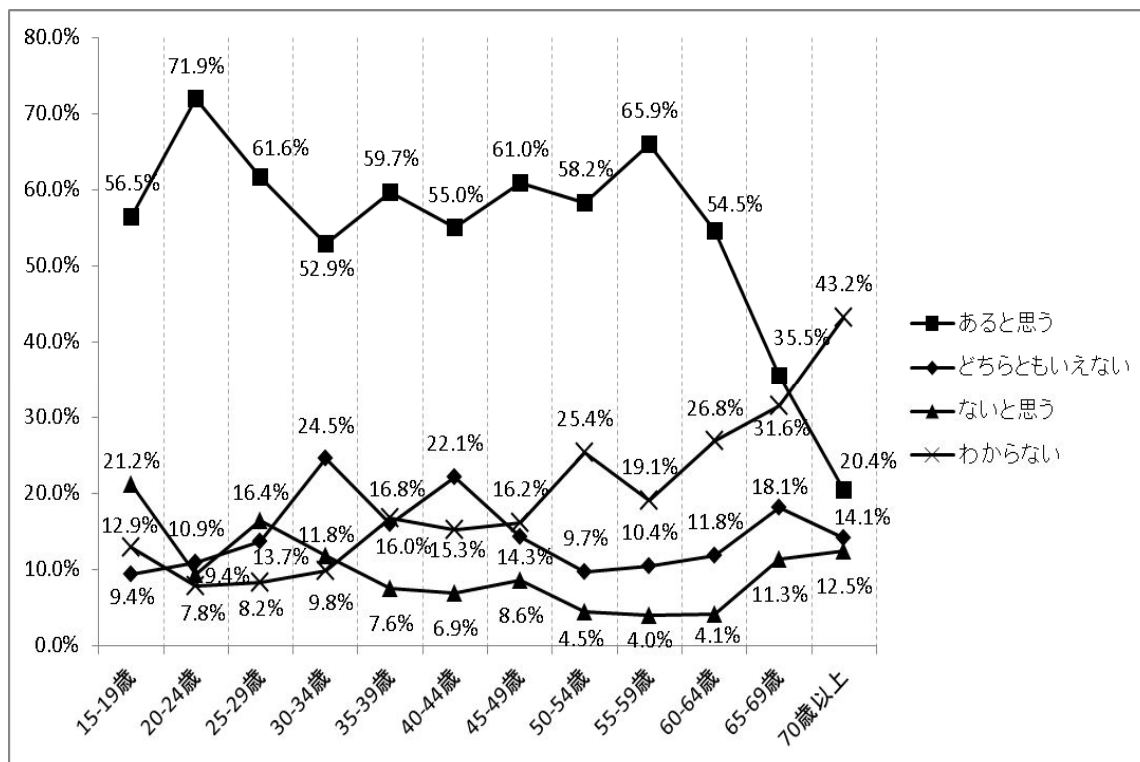


図 2-36 は、インターネットにおける人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「20～24 歳」71.9%が最も高く、次いで「55～59 歳」65.9%、「25～29 歳」61.6%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「30～34 歳」24.5%が最も高く、次いで「40～44 歳」22.1%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」21.2%が最も高く、次いで「25～29 歳」16.4%となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」43.2%が最も高く、次いで「65～69 歳」31.6%となっている。

16. 災害時における人権問題

図 2-37. 災害時における人権問題の存在認識—全体・性別

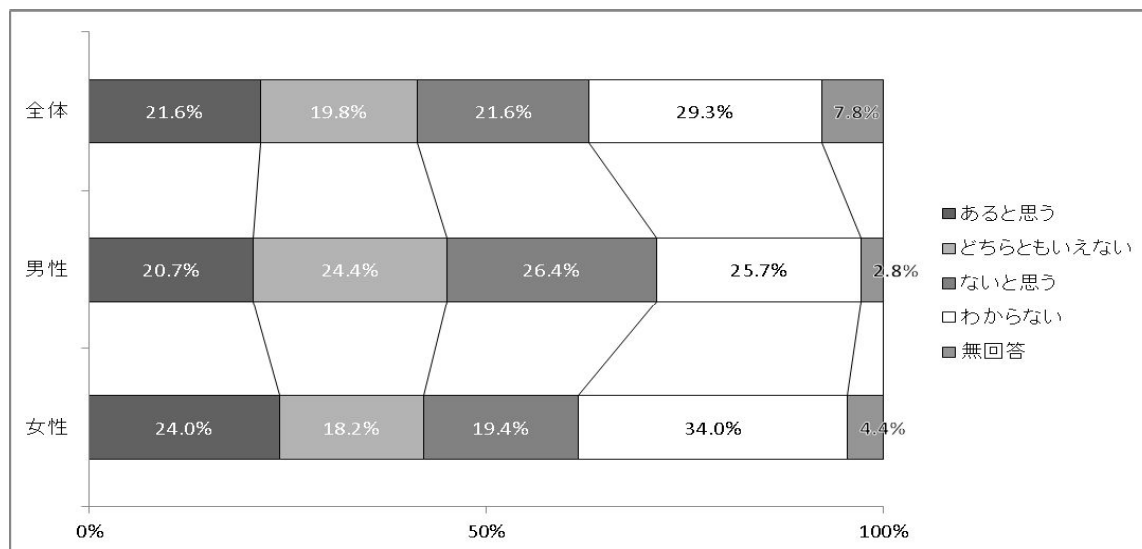


図 2-37 は、災害時における人権問題の存在認識を性別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、全体では 21.6% となっており、性別では、男性 20.7%、女性 24.0% となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、全体では 19.8% となっており、性別では、男性 24.4%、女性 18.2% となっている。

「ないと思う」と回答した人は、全体では 21.6% となっており、性別では、男性 26.4%、女性 19.4% となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では 29.3% となっており、性別では、男性 25.7%、女性 34.0% となっている。

図 2-38. 災害時における人権問題の存在認識—年齢別

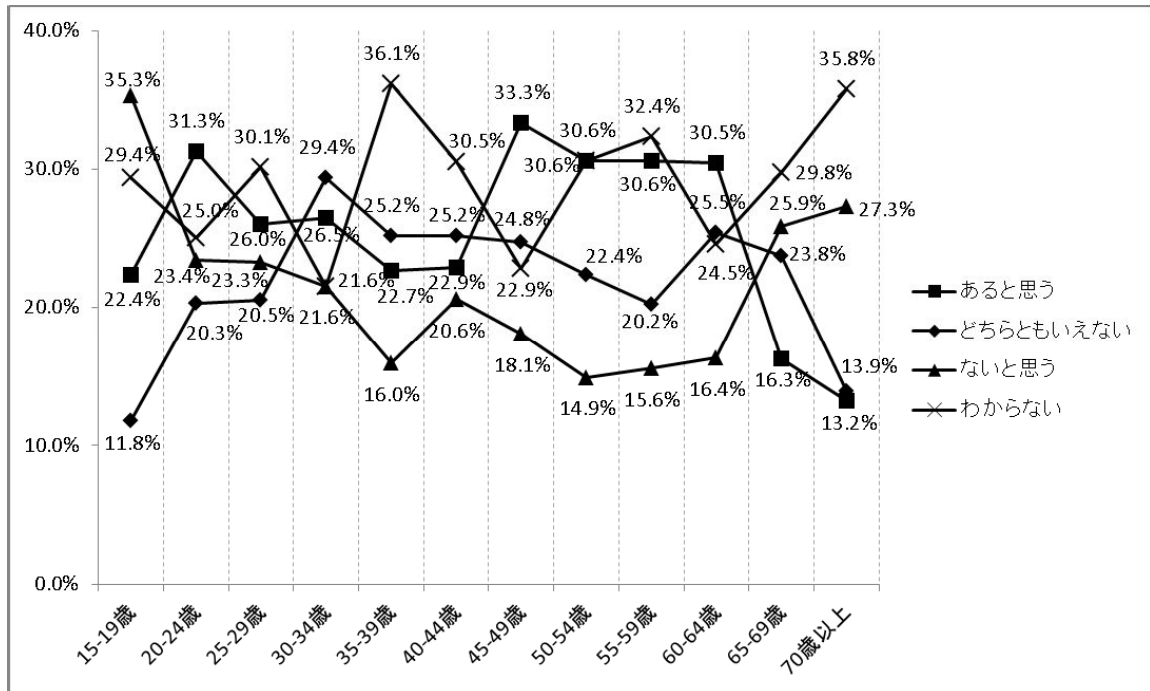


図 2-38 は、災害時における人権問題の存在認識を年齢別にみたものである。

「あると思う」と回答した人は、「45～49 歳」33.3%が最も高く、次いで「20～24 歳」31.3%、「50～54 歳」「55～59 歳」30.6%となっている。

「どちらともいえない」と回答した人は、「30～34 歳」29.4%が最も高く、次いで「60～64 歳」25.5%となっている。

「ないと思う」と回答した人は、「15～19 歳」35.3%が最も高く、次いで「70 歳以上」27.3%となっている。

「わからない」と回答した人は、「35～39 歳」36.1%が最も高く、次いで「70 歳以上」35.8%、「50～54 歳」30.6%となっている。

3 同和（部落）問題について

問3 あなたが、部落差別についてはじめて知ったのは、どのようにしてですか。

（○は1つだけ）

また、1から4と回答された方は、聞いたその内容を（ ）に書いてください。

図 3-1. 部落差別の認知経路—全体・性別

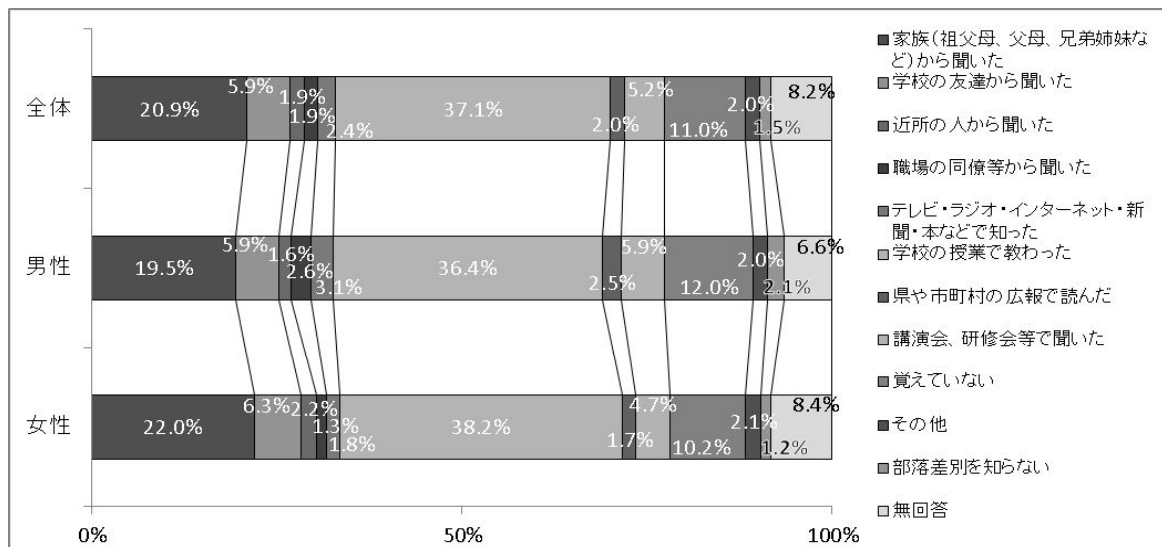


図 3-1 は、部落差別の認知経路をみたものである。

「学校の授業で教わった」と回答した人が全体で 37.1%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」20.9%、「覚えていない」11.0%となっている。

性別では、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」と回答した人は、男性 19.5%と女性 22.0%となっている。また、「学校の授業で教わった」では、男性 36.4%と女性 38.2%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和问题等人権問題に関する市民意識調査）

問4 あなたが、部落差別についてはじめて知ったのは、どのようにしてですか。（○は1つだけ）

- 1 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた
- 2 学校の友達から聞いた
- 3 近所の人から聞いた
- 4 職場の同僚等から聞いた
- 5 テレビ・ラジオ・インターネット・新聞・本などで知った
- 6 学校の授業で教わった
- 7 県や市町村の広報誌で読んだ
- 8 講演会、研修会等で聞いた
- 9 覚えていない
- 10 その他（具体的に： ）

表 3-1. 部落差別の認知経路—前回調査との比較結果—

部落差別の 認知経路 調査年度	家族から 聞いた	学校の 友達から 聞いた	近所の人 から聞いた	職場の 同僚から 聞いた	テレビ・ラ ジオ・イン ターネット・新聞・ 本などで 知った	学校の 授業で 教わった	県や市町 村の広報 誌で読ん だ	講演会、 研修会等 で聞いた	覚えて いない	その他	部落差別 を知らない	無回答	計
平成17年	24.2%	11.0%	2.9%	1.6%	2.8%	38.1%	1.3%	3.0%	11.4%	1.9%		1.8%	100.0% (2402)
平成27年	20.9%	5.9%	1.9%	1.9%	2.4%	37.1%	2.0%	5.2%	11.0%	2.0%	1.5%	8.2%	100.0% (2138)

表 3-1 は、部落差別の認知経路について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「学校の授業で教わった」と回答した人が、今回調査 37.1%で前回調査 38.1%となっている。

図 3-2. 部落差別の認知経路—年齢別

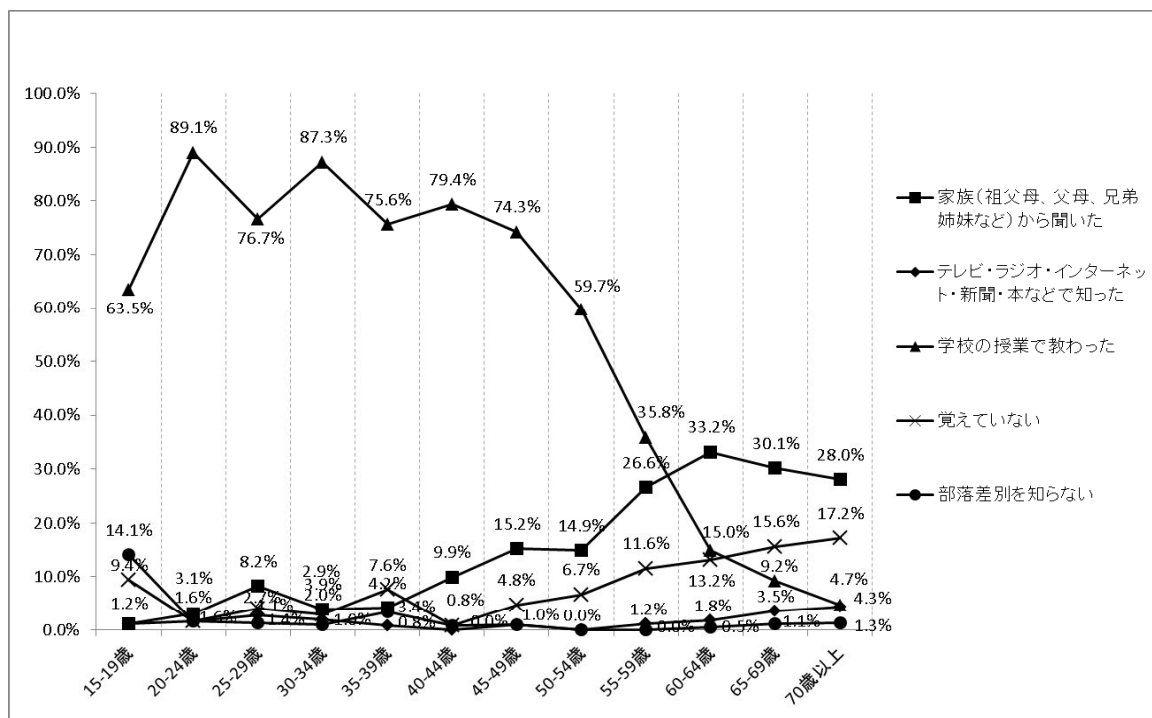


図 3-2 は、部落差別の認知経路の主な選択肢について年齢別にみたものである。

「学校の授業で教わった」と回答した人が、15～59 歳では、他の選択肢と比較して最も高くなっている。

60 歳以上では「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」と回答した人が、他の選択肢と比較して最も高くなっている。

問4 現在でも部落差別は存在していると思いますか。(〇は1つだけ)

図4-1. 部落差別の存在認知—全体・性別

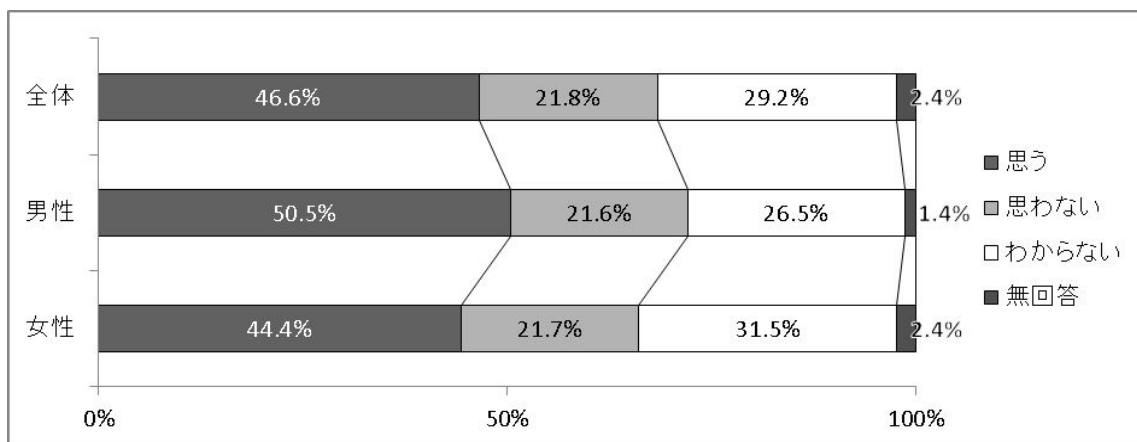


図4-1は、部落差別の存在認知をみたものである。

現在でも部落差別は存在していると「思う」と回答した人は、全体では46.6%となっており、性別では、男性50.5%、女性44.4%となっている。

「思わない」と回答した人は、全体では21.8%となっており、性別では、男性21.6%、女性21.7%となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では29.2%となっており、性別では、男性26.5%、女性31.5%となっている。

図4-2. 部落差別の存在認知—年齢別

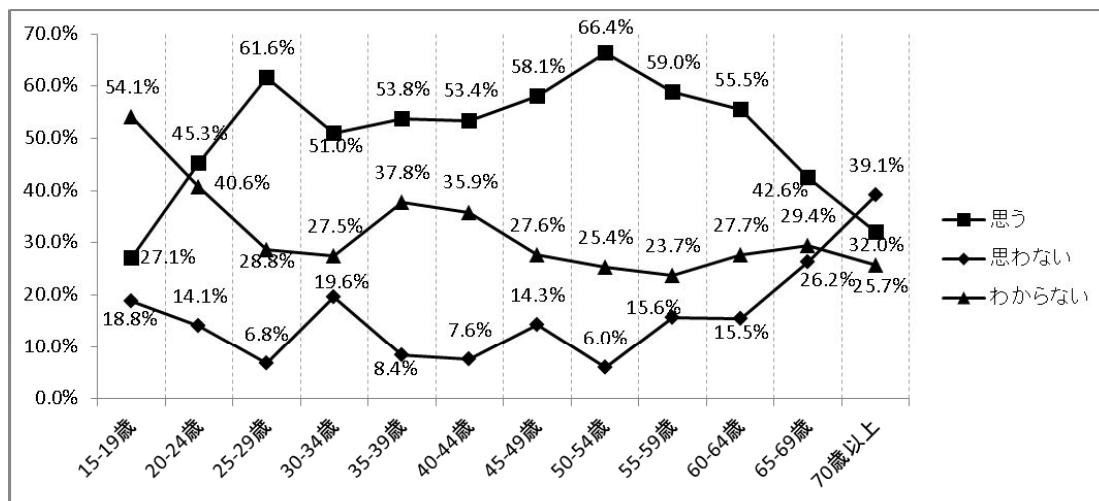


図4-2は、部落差別の存在認知を年齢別にみたものである。

「思う」と回答した人は、「50～54歳」66.4%が最も高く、次いで「25～29歳」61.6%、「55～59歳」59.0%となっている。

「思わない」と回答した人は、「70歳以上」39.1%が最も高く、次いで「65～69歳」26.2%、「30～34歳」19.6%となっている。

「わからない」と回答した人は、「15～19歳」54.1%が最も高く、次いで「20～24歳」40.6%、「35～39歳」37.8%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおのおのについて（1）から（4）までの番号のいずれか1つに○をして下さい。）

6. 同和地区住民に対する差別

図 4-3. 同和地区住民に対する差別の存在認識—全体・性別

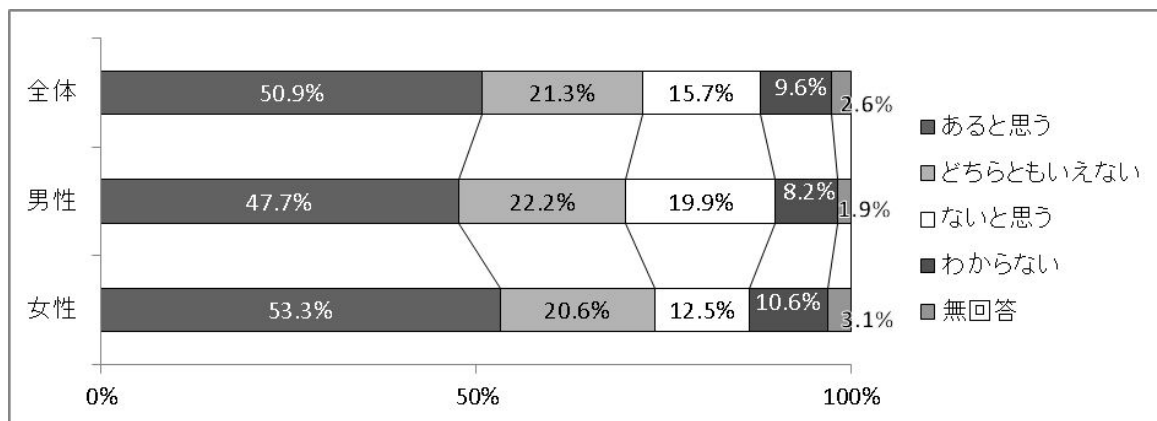


図 4-3 は、平成 17 年の前回調査で同和地区住民に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は 50.9%、「どちらともいえない」は 21.3%、「ないと思う」は 15.7%、「わからない」は 9.6%となっている。

図 4-4. 同和地区住民に対する差別の存在認識—年齢別

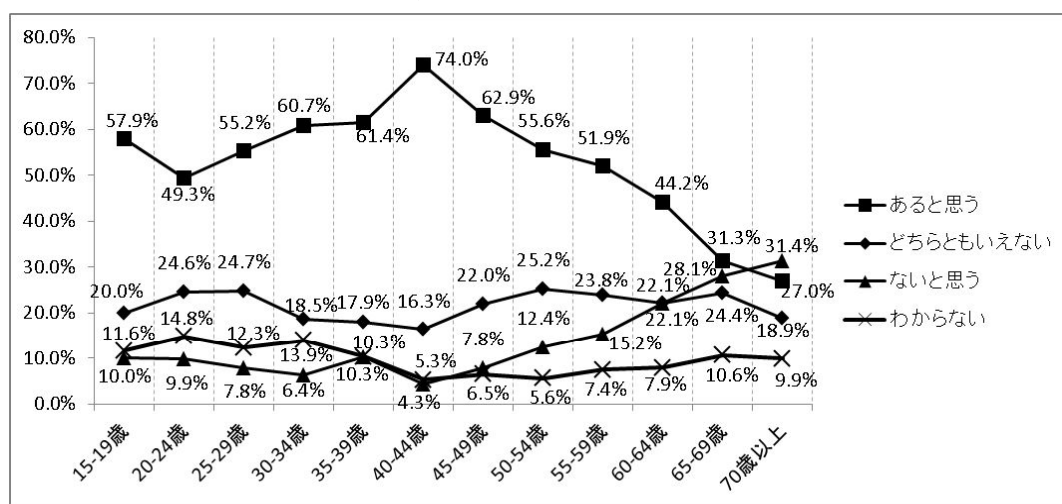


図 4-4 は、平成 17 年の前回調査で同和地区住民に対する差別の存在認識について年齢別にみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「あると思う」と回答した人が一番多い年代は、前回調査（平成 17 年度）では「40～44 歳」74.0%であったものが、今回調査（図 4-2）では「50～54 歳」66.4%となっている。

「15～19 歳」では、「あると思う」と回答した人が、前回調査では 57.9%で、今回調査（図 4-2）では、27.1%となっている。

問 4-1 問 4 で 1 と回答された方に、それは、どのような意識（考え）があるからだと思いますか。あなた自身の意識（考え）に 1 番近いものをお選びください。（○は 1 つだけ）

図 4-5. 部落差別が存在するのはどのような意識かー全体・性別

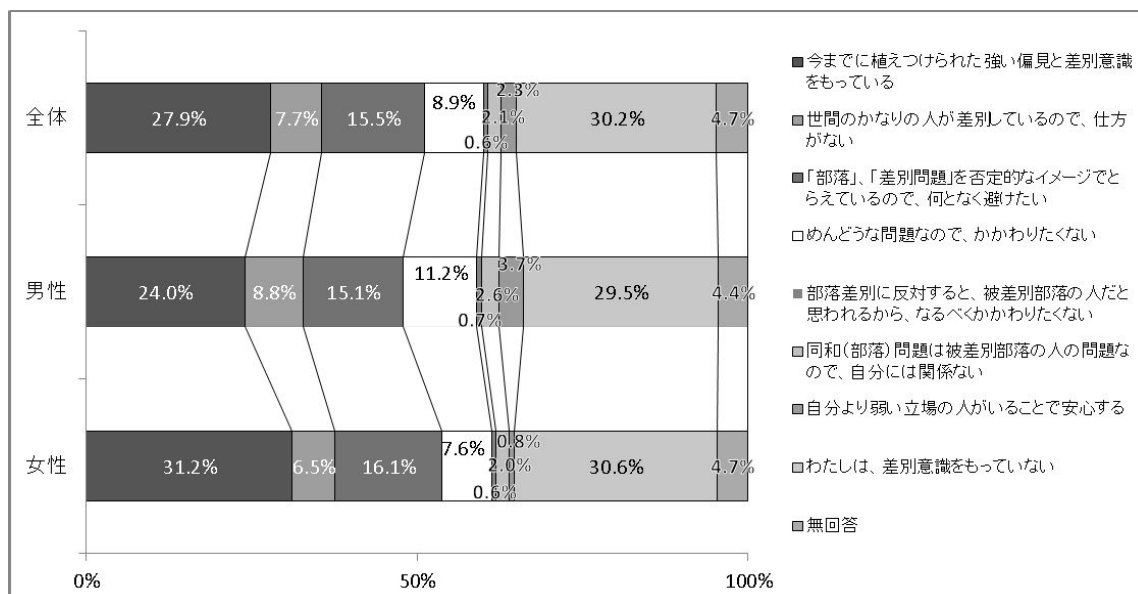


図 4-5 は、部落差別が存在するのはどのような意識があるからかをみたものである。

問 4 で部落差別が存在していると「思う」と回答した人に、どのような意識（考え）があるからだと思うかの問いでは、「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人が全体で 27.9%と高く、次いで「部落」、「差別問題」を否定的なイメージでとらえているので、何となく避けたい」15.5%となっている。

なお、回答の中で一番高かったのは「わたしは、差別意識をもっていない」で、30.2%となっている。

性別では、「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人は、男性 24.0%と女性 31.2%となっている。

「めんどろな問題なので、かかわりたくない」では、男性 11.2%と女性 7.6%で、「わたしは、差別意識をもっていない」では、男性 29.5%と女性 30.6%となっている。

図 4-6. 部落差別が存在するのはどのような意識か一年齢別

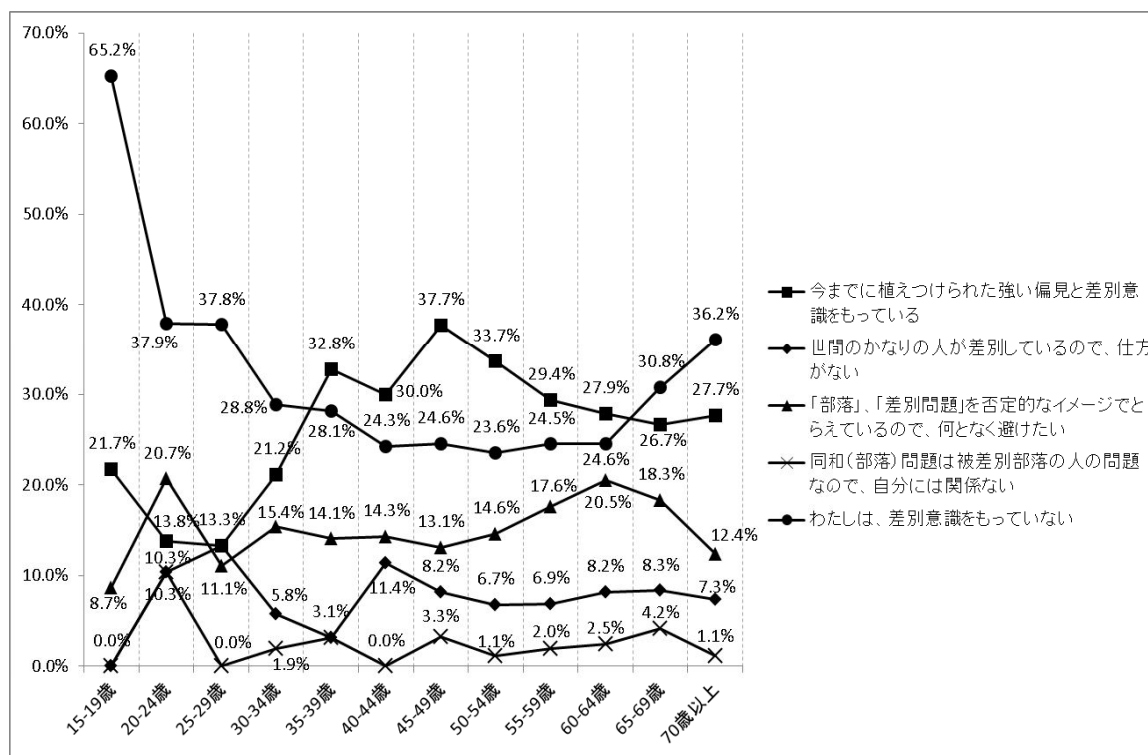


図 4-6 は、部落差別が存在するのはどのような意識があるからかを年齢別にみたものである。

「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人は、「45～49 歳」37.7%が最も高く、次いで「50～54 歳」33.7%、「35～39 歳」32.8%となっている。

「「部落」、「差別問題」を否定的なイメージでとらえているので、何となく避けたい」と回答した人は、「20～24 歳」20.7%が最も高く、次いで「60～64 歳」20.5%となっている。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は、「15～19 歳」65.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」37.9%、「25～29 歳」37.8%となっている。

問 4-2 今、部落差別にはどのような実態があると思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

図 4-7. 現在の部落差別の実態認識—全体・性別

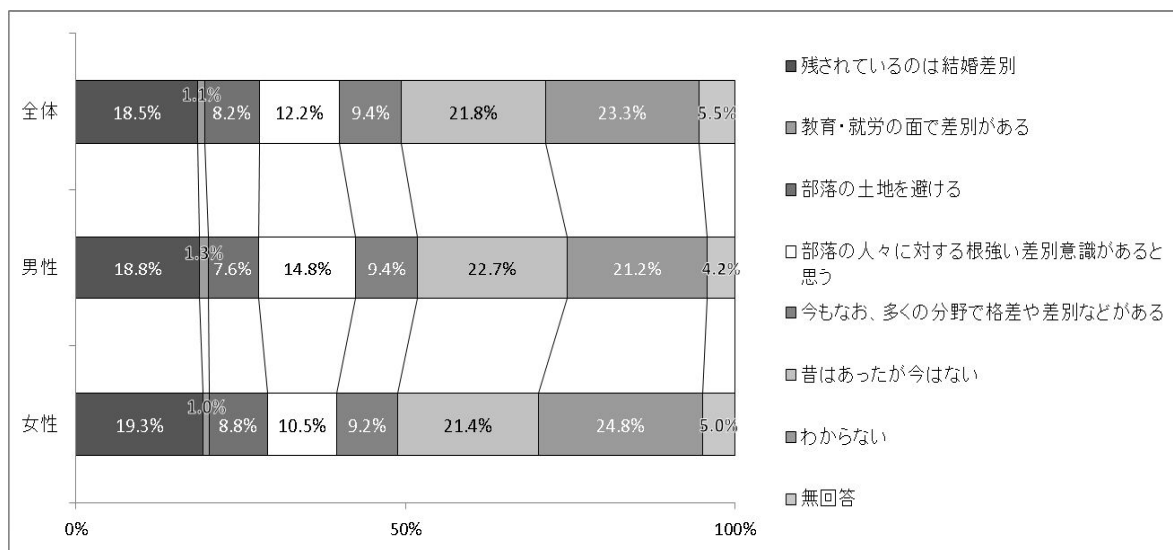


図 4-7 は、現在の部落差別の実態認識をみたものである。

今、部落差別にはどのような実態があると思うかの問いでは、「わからない」と回答した人が全体で 23.3%が最も高く、次いで「昔はあったが今はない」21.8%、「残されているのは結婚差別」18.5%となっている。

性別では、「昔はあったが今はない」と回答した人は、男性 22.7%と女性 21.4%となっている。

「残されているのは結婚差別」では、男性 18.8%と女性 19.3%で、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」では、男性 14.8%と女性 10.5%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査 (H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査)

問 7 今、部落差別にはどのような実態があると思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 1 昔はあったが今はない
- 2 残されているのは結婚問題だけ
- 3 教育・就労の面で差別あり
- 4 部落の人々に対する根強い差別意識があると思う
- 5 わからない

表 4-1. 現在の部落差別の実態認識—前回調査との比較

現在の部落差別の実態認識 調査年度	残されているのは結婚差別	教育・就労の面で差別がある	部落の土地を避ける	部落の人々に対する根強い差別意識があると思う	今もなお、多くの分野で格差や差別などがある	昔はあったが今はない	わからない	無回答	計
平成17年	21.1%	3.2%		32.1%		17.2%	23.5%	2.8%	100.0% (2402)
平成27年	18.5%	1.1%	8.2%	12.2%	9.4%	21.8%	23.3%	5.5%	100.0% (2138)

表 4-1 は、現在の部落差別の実態認識について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と回答した人が、今回調査 12.2%で前回調査 32.1%となっているが、前回調査の選択肢に無かった「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」は 9.4%、「部落の土地を避ける」は 8.2%であった。

図 4-8. 現在の部落差別の実態認識—年齢別

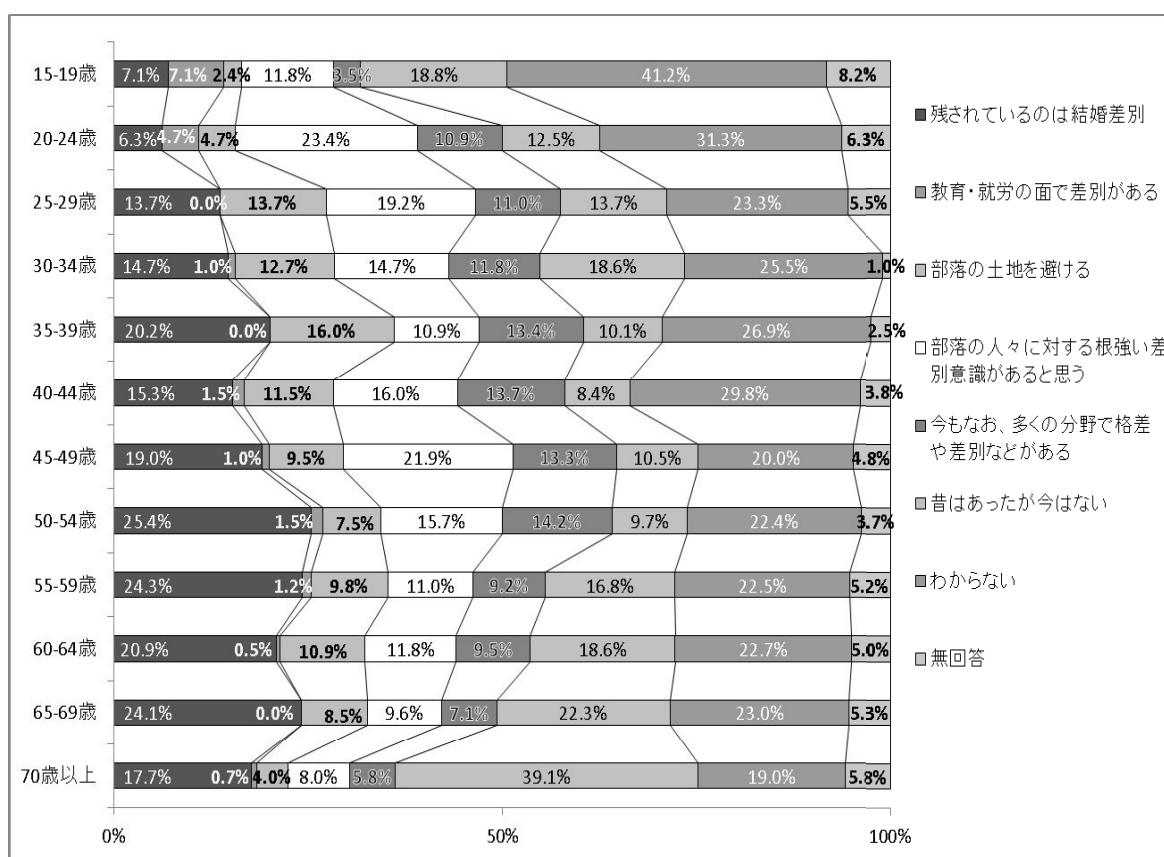


図 4-8 は、現在の部落差別の実態認識を年齢別にみたものである。

「昔はあったが今はない」と回答した人は、「70 歳以上」39.1%が最も高く、次いで「65～69 歳」22.3%となっている。

「残されているのは結婚差別」と回答した人は、「50～54 歳」25.4%が最も高く、次いで「55～59 歳」24.3%、「65～69 歳」24.1%となっている。

「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と回答した人は、「20～24 歳」23.4%が最も高く、次いで「45～49 歳」21.9%となっている。

「わからない」と回答した人は、「15～19 歳」41.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」31.3%、「40～44 歳」29.8%となっている。

表 4-2. 「他人の人権の侵害意識の有無」と「現在の部落差別の実態認識」との関連性

現在の部落差別の実態認識 他人の人権の侵害意識の有無	残されているのは結婚差別	教育・就労の面で差別がある	部落の土地を避ける	部落の人々に対する根強い差別意識があると思う	今もなお、多くの分野で格差や差別などがある	昔はあったが今はない	わからない	無回答	計
していると思う	18.8%	2.1%	9.4%	21.5%	21.5%	12.0%	12.0%	2.6%	100.0%(191)
そうは思わない	19.7%	0.9%	8.1%	10.3%	7.5%	25.7%	22.8%	5.0%	100.0%(1504)
わからない	16.2%	1.5%	8.2%	15.9%	10.3%	10.9%	32.4%	4.7%	100.0%(340)

表 4-2 は、問 1-2 「他人の人権の侵害意識の有無」と問 4-2 「現在の部落差別の実態認識」との関連性をみたものである。

「他人の人権の侵害意識の有無」について「していると思う」と回答した人の「現在の部落差別の実態認識」は、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」が共に 21.5%と最も高く、次いで「残されているのは結婚差別」18.8%となっている。

「そうは思わない」と回答した人については、「昔はあったが今はない」25.7%と最も高く、次いで「わからない」22.8%、「残されているのは結婚差別」19.7%となっている。

**問5 あなたは、同和（部落）問題解決のためには、どうしたらよいとお考えですか。
重要だと思うものをお選びください。（〇はいくつでも）**

図 5-1. 同和（部落）問題解決のためにー全体・性別

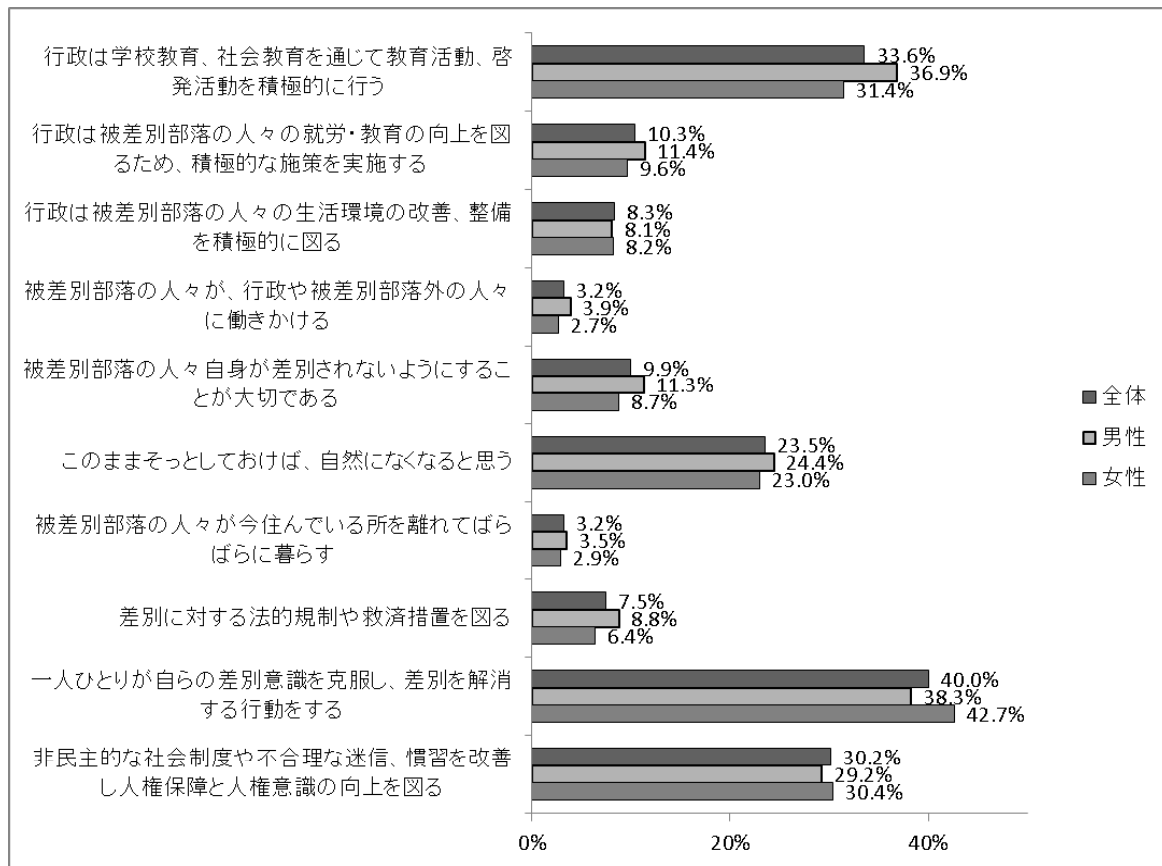


図 5-1 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策についてみたものである。

同和（部落）問題解決のためには、どうしたらよいと思うかの問いでは、「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人が全体で 40.0%と最も高く、次いで「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」33.6%、「非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る」30.2%、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」23.5%となっている。

性別では、「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人は、男性 36.9%と女性 31.4%となっている。

また、「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人では、男性 38.3%と女性 42.7%で、「非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る」では、男性 29.2%と女性 30.4%で、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」では、男性 24.4%と女性 23.0%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問6 あなたは、同和問題解決のためには、どうしたらよいとお考えですか。

重要だと思うものをお選びください。（〇はいくつでも）

- 1 このままそっとしておけば、自然になくなると思う
- 2 行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う
- 3 行政は同和地区の人々の就労・教育の向上を図るため、積極的な施策を実施する
- 4 同和地区の人々が、行政や被差別部落外の人々に働きかける
- 5 差別に対する法的規制や救済措置を図る被
- 6 行政は同和地区の生活環境の改善、整備を積極的に行う
- 7 一人一人が自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする
- 8 同和地区の人々が差別されないようにすることが大切である
- 9 同和地区の人々が今住んでいる所を離れてばらばらになれば差別はなくなる
- 10 非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る

表 5-1. 同和（部落）問題解決のために一前回調査との比較

調査年度	同和（部落）問題解決のために	行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う	行政は被差別部落の人々の就労・教育の向上を図るため、積極的な施策を実施する	行政は被差別部落の人々の生活環境の改善、整備を積極的に行う	被差別部落の人々が、行政や被差別部落外の人々に働きかける	被差別部落の人々自身が差別されないようにすることが大切である	このままそっとしておけば、自然になくなると思う	被差別部落の人々が今住んでいる所を離れてばらばらに暮らす	差別に対する法的規制や救済措置を図る	一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする	非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る	計
平成17年		29.1%	10.2%	6.3%	3.8%	12.9%	26.5%	4.9%	9.7%	45.0%	34.3%	182.6% (4387)
平成27年		33.6%	10.3%	8.3%	3.2%	9.9%	23.5%	3.2%	7.5%	40.0%	30.2%	169.7% (3629)

表 5-1 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」と回答した人が、今回調査 23.5%で前回調査 26.5%となっている。

また、「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人が、今回調査 33.6%で前回調査 29.1%となっている。

図 5-2. 同和（部落）問題解決のために一年齢別

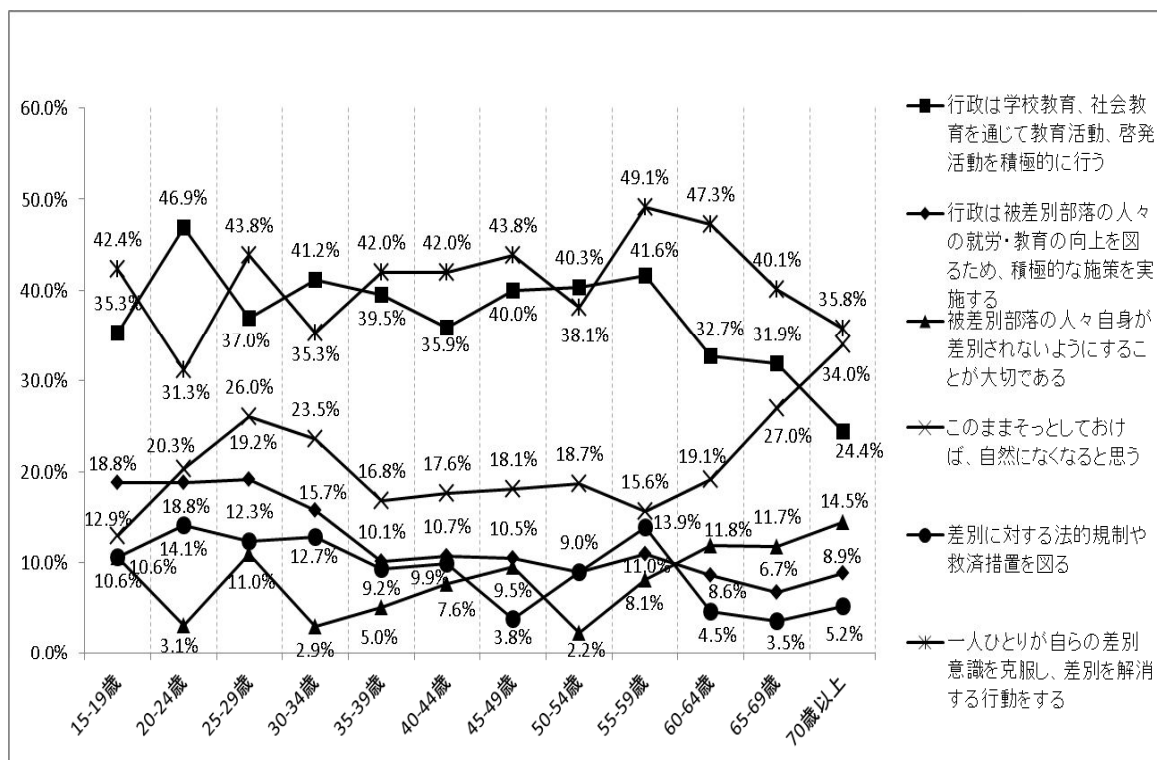


図 5-2 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策について年齢別にみたものである。

「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人は、「55～59 歳」49.1%が最も高く、次いで「60～64 歳」47.3%となっている。

「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人は、「20～24 歳」46.9%が最も高く、次いで「55～59 歳」41.6%、「30～34 歳」41.2%となっている。

「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」と回答した人は、「70 歳以上」34.0%が最も高く、次いで「65～69 歳」27.0%となっている。

問6 同和（部落）問題とあなたご自身とのかかわりについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

図 6-1. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり—全体・性別

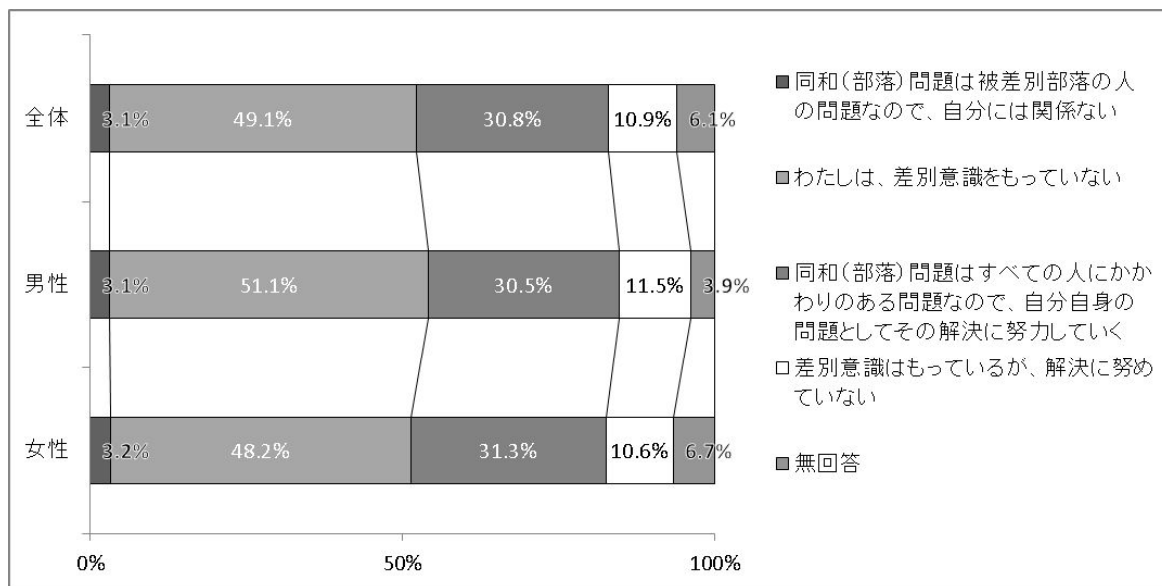


図 6-1 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりをみたものである。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は全体で **49.1%**と最も高く、次いで「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」**30.8%**、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」**10.9%**となっている。

性別では、「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は、男性 **51.1%**と女性 **48.2%**となっている。また、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」では、男性 **30.5%**と女性 **31.3%**となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 10 同和問題とあなたご自身とのかかわりについて、あなたはどのようにお考えでしょうか。（○は1つだけ）

- 1 同和地区の人たちの問題なので、自分には関係ない
- 2 差別意識をもっていないので、関係ない
- 3 同和問題はすべての人にかかわりのある人権問題であり、自分自身の問題としてその解決に努力していく
- 4 差別意識はもっているが、解決に努めていない

表 6-1. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり—前回調査との比較

同和（部落）問題と自分自身とのかかわり 調査年度	同和（部落）問題は被差別部落の人の問題なので、自分には関係ない	わたしは、差別意識をもっていない	同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく	差別意識はもっているが、解決に努めていない	無回答	計
平成17年	4.2%	36.1%	40.1%	13.2%	6.4%	100.0%(2402)
平成27年	3.1%	49.1%	30.8%	10.9%	6.1%	100.0%(2138)

表 6-1 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりについて前回調査との比較をみたものである。選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」が、今回調査 30.8%で前回調査 40.1%と比較して 9.3 ポイント低くなっている。

表 6-2. 「他人の人権の侵害意識の有無」と「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」との関連性

同和（部落）問題と自分自身とのかかわり 他人の人権の侵害意識の有無	同和（部落）問題は被差別部落の人の問題なので、自分には関係ない	わたしは、差別意識をもっていない	同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく	差別意識はもっているが、解決に努めていない	無回答	計
していると思う	5.2%	28.8%	38.2%	23.6%	4.2%	100.0%(191)
そうは思わない	2.5%	54.5%	29.1%	8.7%	5.2%	100.0%(1504)
わからない	5.6%	40.0%	33.5%	13.5%	7.4%	100.0%(340)

表 6-2 は、問 1-2「他人の人権の侵害意識の有無」と問 6「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」との関連性についてみたものである。

「他人の人権の侵害意識の有無」で「していると思う」と回答した人については、「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」は、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」38.2%が最も高く、次いで「わたしは、差別意識をもっていない」28.8%、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」23.6%となっている。

「そうは思わない」と回答した人については、「わたしは、差別意識をもっていない」54.5%が最も高く、次いで「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」29.1%、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」8.7%となっている。

図 6-2. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり一年齢別

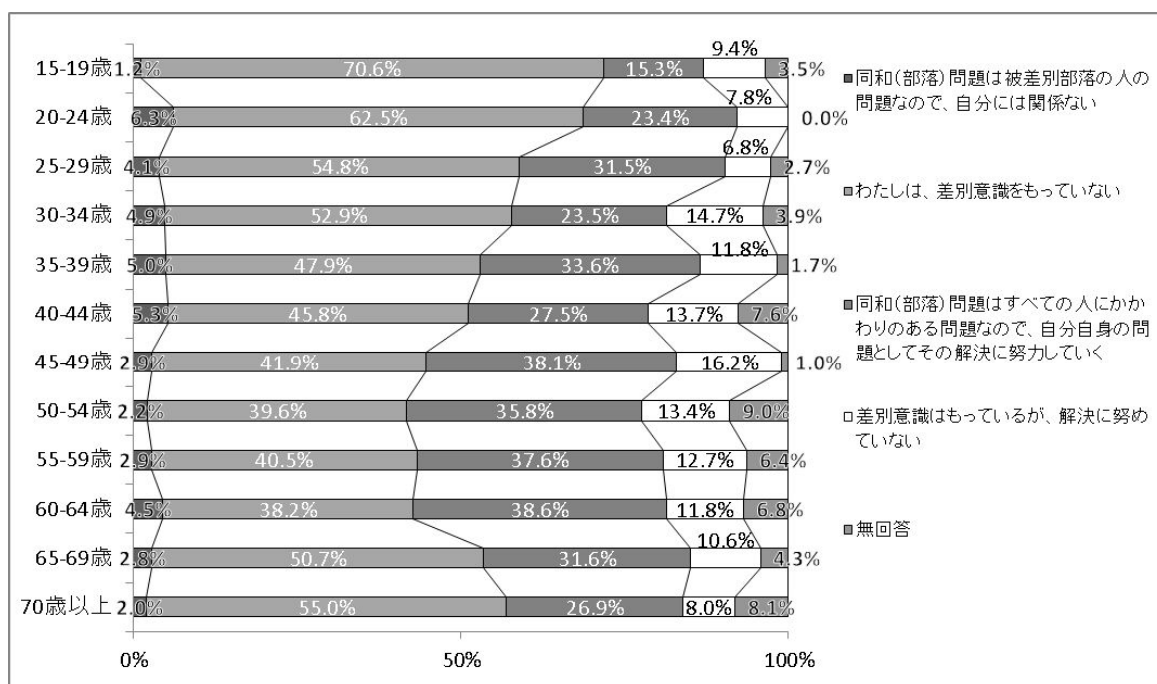


図 6-2 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりを年齢別にみたものである。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人では、「15～19 歳」70.6%が最も高く、次いで「20～24 歳」62.5%、「70 歳以上」55.0%となっている。

「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」と回答した人では、「60～64 歳」38.6%が最も高く、次いで「45～49 歳」38.1%、「55～59 歳」37.6%となっている。

「差別意識はもっているが、解決に努めていない」と回答した人では、「45～49 歳」16.2%が最も高く、次いで「30～34 歳」14.7%、「40～44 歳」13.7%となっている。

問 7-1 もし、あなたが結婚するときに、相手が被差別部落の人であることを理由に反対されたらどうしますか。(○は1つだけ)

性別	■ 本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する	■ 自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう	■ 家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す	□ わからない	■ その他	□ 無回答
全体	23.6%	35.7%	8.1%	26.6%	2.0%	4.0%
男性	29.5%	35.2%	6.0%	25.0%	1.9%	2.5%
女性	18.7%	37.5%	9.6%	27.9%	2.0%	4.4%

「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は全体で **35.7%**と最も高く、次いで、「わからない」 **26.6%**、「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」 **23.6%**となっている。

性別では、「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は、男性 35.2%、女性 37.5%となっている。また、「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」は、男性 29.5%、女性 18.7%となっている。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

- 1 本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する
- 2 自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう
- 3 家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す
- 4 その他（具体的に： ）
- 5 わからない

表 7-1. あなた自身の結婚について一前回調査との比較

被差別部落を理由に結婚を反対されたらどうするか 調査年度	本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する	自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう	家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す	わからない	その他	無回答	計
平成17年	25.7%	40.8%	10.9%	17.3%	2.5%	2.9%	100.0%(2402)
平成27年	23.6%	35.7%	8.1%	26.6%	2.0%	4.0%	100.0%(2138)

表 7-1 は、あなた自身の結婚について前回調査との比較をみたものである。設問・選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「わからない」と回答した人が、今回調査 26.6%で前回調査 17.3%と比較して 9.3 ポイント高くなっている。

図 7-2. あなた自身の結婚について一年齢別

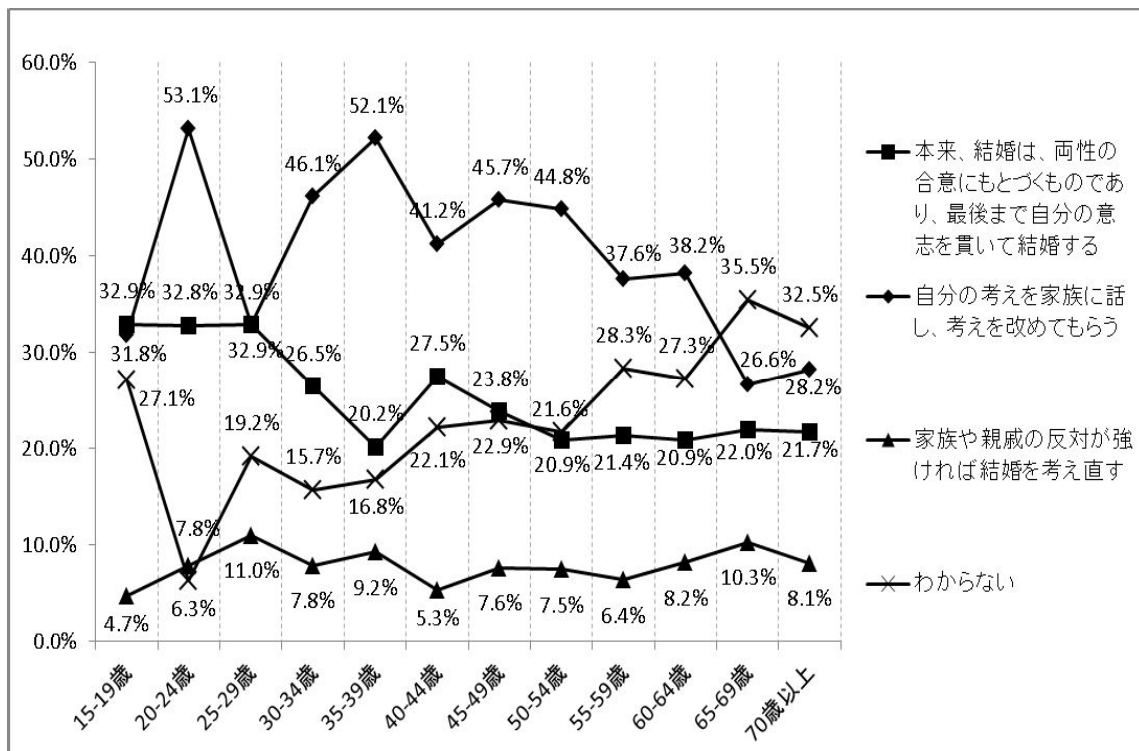


図 7-2 は、結婚するとき、相手が被差別部落の人であることを理由に反対されたらどうするかを年齢別にみたものである。

「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は、「20～24 歳」53.1%が最も高く、次いで「35～39 歳」52.1%となっている。

「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」と回答した人では、「15～19 歳」と「25～29 歳」が 32.9%で最も高く、次いで「20～24 歳」32.8%となっている。

問 7-2 あなたに未婚の子がいると仮定して、その子が結婚するとき相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

図 7-3. 子どもの結婚について—全体・性別

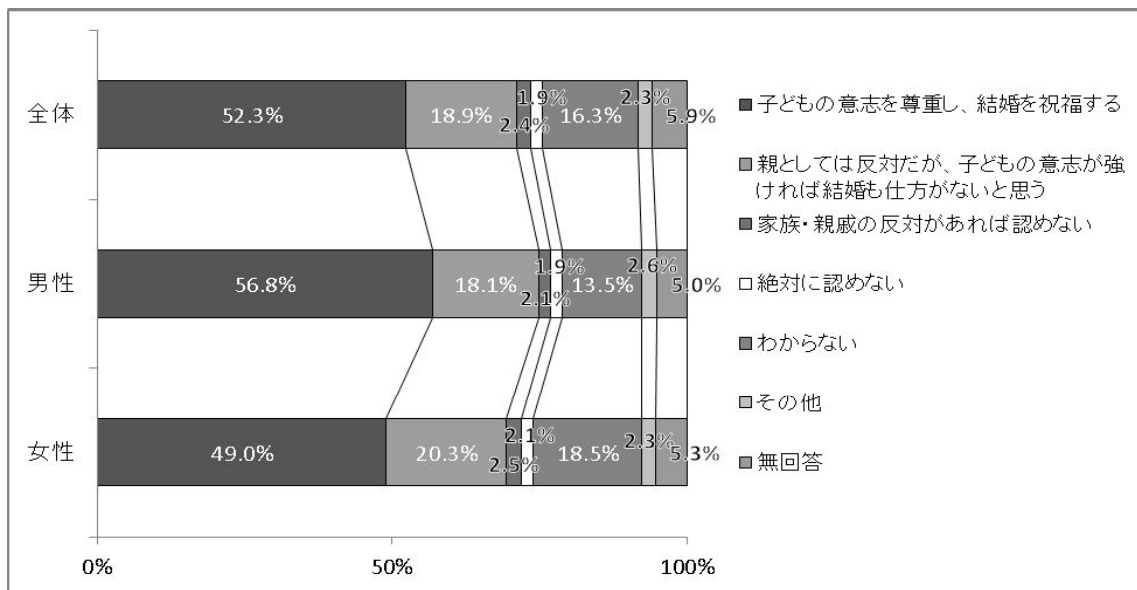


図 7-3 は、子どもが結婚しようとするときに相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにするかをみたものである。

「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人が全体では 52.3% と最も高く、次いで「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」18.9%、「わからない」16.3%となっている。

性別では、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人は、男性 56.8%、女性 49.0% で、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は、男性 18.1%、女性 20.3% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 1 2 もし、あなたの子どもが結婚しようとする相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

- 1 子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する
- 2 親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う
- 3 家族・親戚の反対があれば認めない
- 4 絶対に認めない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

表 7-2. 子どもの結婚について一前回調査との比較

調査年度	子どもが結婚しようとするときどうするか	子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する	親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う	家族・親戚の反対があれば認めない	絶対に認めない	わからない	その他	無回答	計
平成17年		50.9%	23.0%	4.0%	2.5%	13.4%	3.4%	2.9%	100.0% (2402)
平成27年		52.3%	18.9%	2.4%	1.9%	16.3%	2.3%	5.9%	100.0% (2138)

表 7-2 は、子どもの結婚について前回調査との比較をしたものである。設問・選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人が、今回調査 52.3%で前回調査 50.9%となっている。

図 7-4. 子どもの結婚について一年齢別

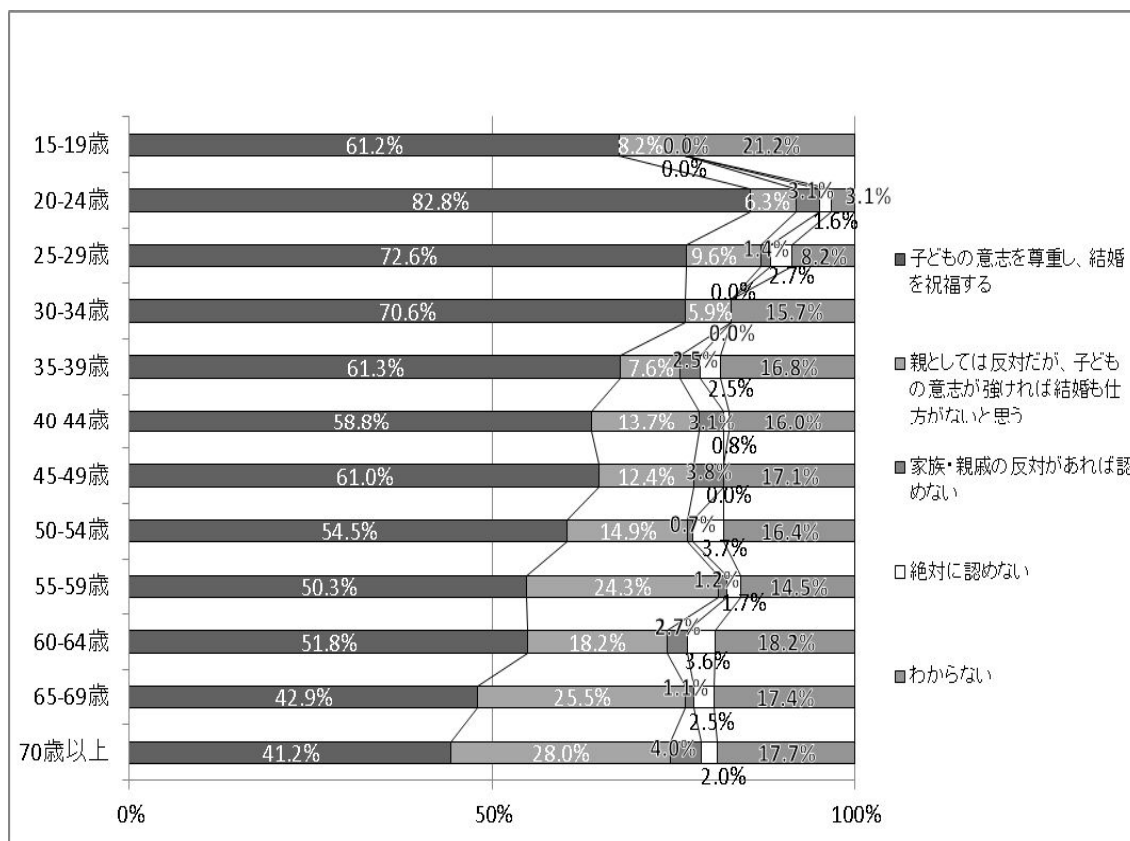


図 7-4 は、子どもが結婚しようとする時どうするかを年齢別にみたものである。

「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人は、「20～24 歳」82.8%が最も高く、次いで「25～29 歳」72.6%、「30～34 歳」70.6%となっている。

「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は、「70 歳以上」28.0%が最も高く、次いで「65～69 歳」25.5%となっている。

図 7-5. 「あなた自身の結婚について」と「子どもの結婚について」との関連性

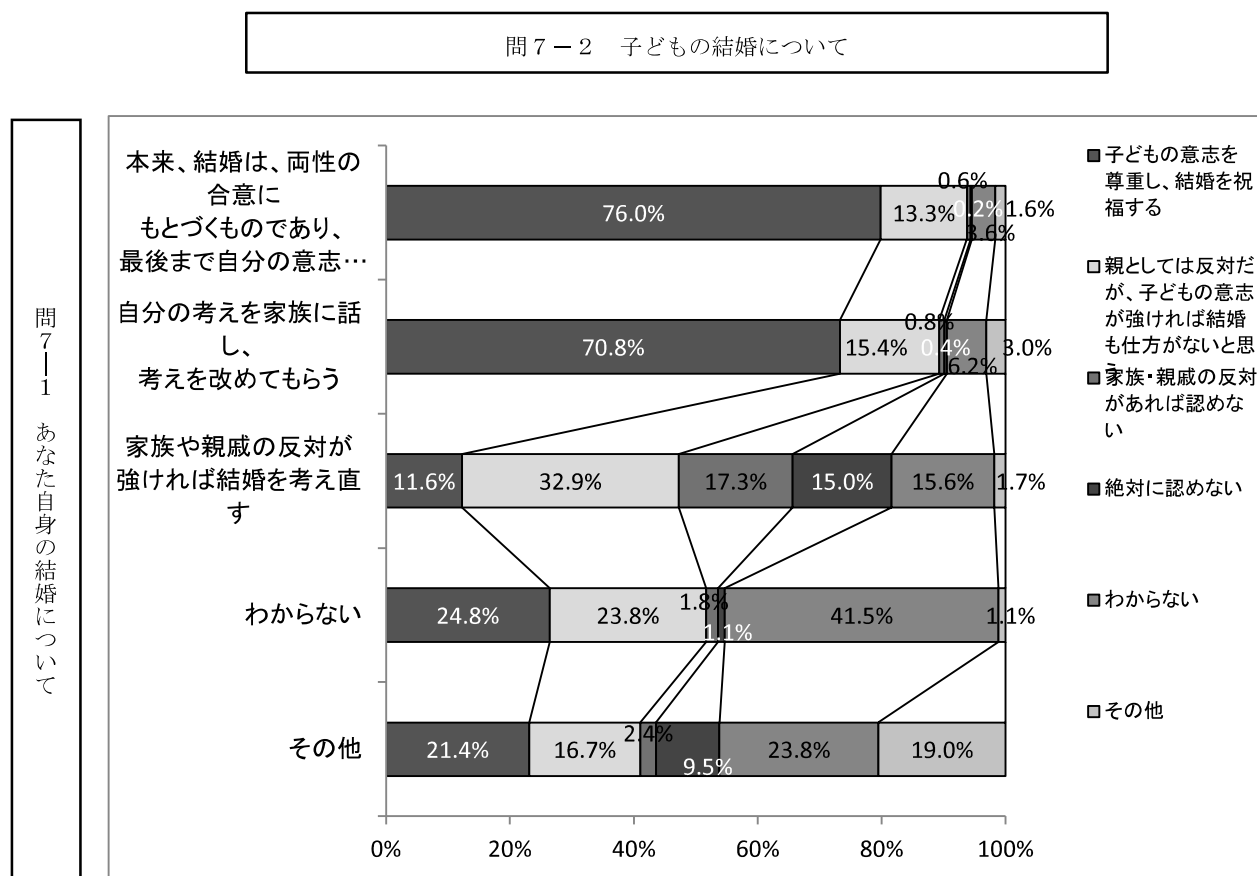


図 7-5 は、問 7-1 の「あなた自身の結婚について」と問 7-2 の「子どもの結婚について」の関係をみたものである。

自身の結婚について「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」と「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人の中で、子どもの結婚について「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人はそれぞれ、76.0%、70.8%となっている。

また、自身の結婚について「家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す」回答した人の中で、子どもの結婚については、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は 32.9%で最も高く、次いで「家族・親戚の反対があれば認めない」17.3%、「わからない」15.6%、「絶対に認めない」15.0%となっている。

問 7-3 あなたに未婚の子がいると仮定して、その子が結婚するときに、家柄、親の職業や社会的地位などについて、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思いますか。(○は1つだけ)

図 7-6. 子どもの結婚の身元調査について—全体・性別

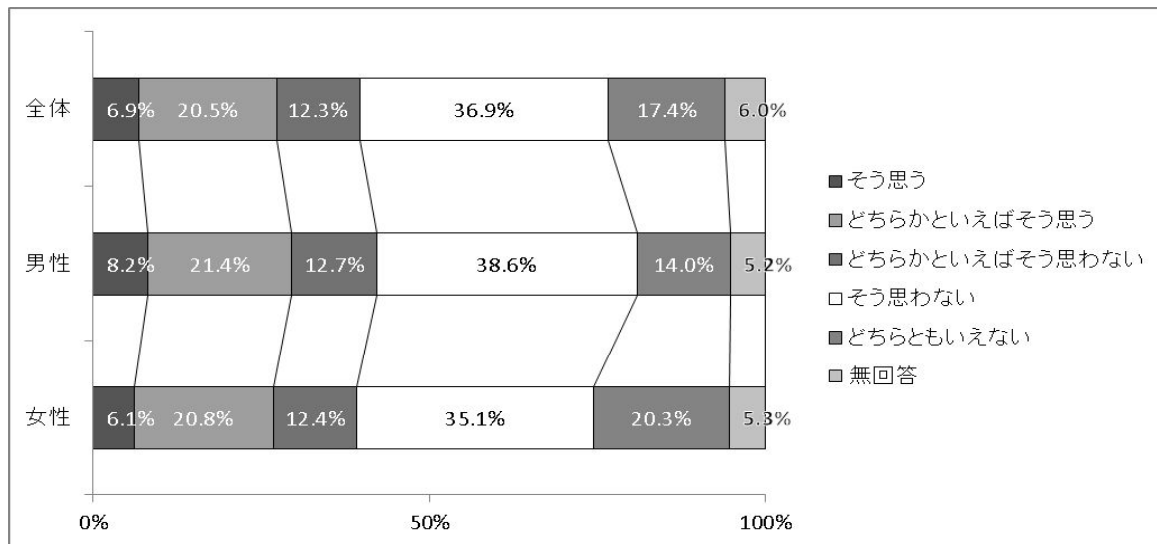


図 7-6 は、自分の子どもが結婚するとき、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思うかどうかについてみたものである。

「そう思わない」と回答した人は全体では 36.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」20.5%、「わからない」17.4%となっている。

身元調査を肯定する回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）は 27.4%で、否定する回答（「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」）は 49.2%で、「どちらともいえない」は 17.4%であった。

性別では、「そう思う」と回答した人は、男性 8.2%、女性 6.1%で、「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、男性 21.4%、女性 20.8%となっている。

また、「そう思わない」と回答した人は、男性 38.6%、女性 35.1%で、「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は、男性 12.7%、女性 12.4%となっている。

図 7-7. 子どもの結婚の身元調査について一年齢別

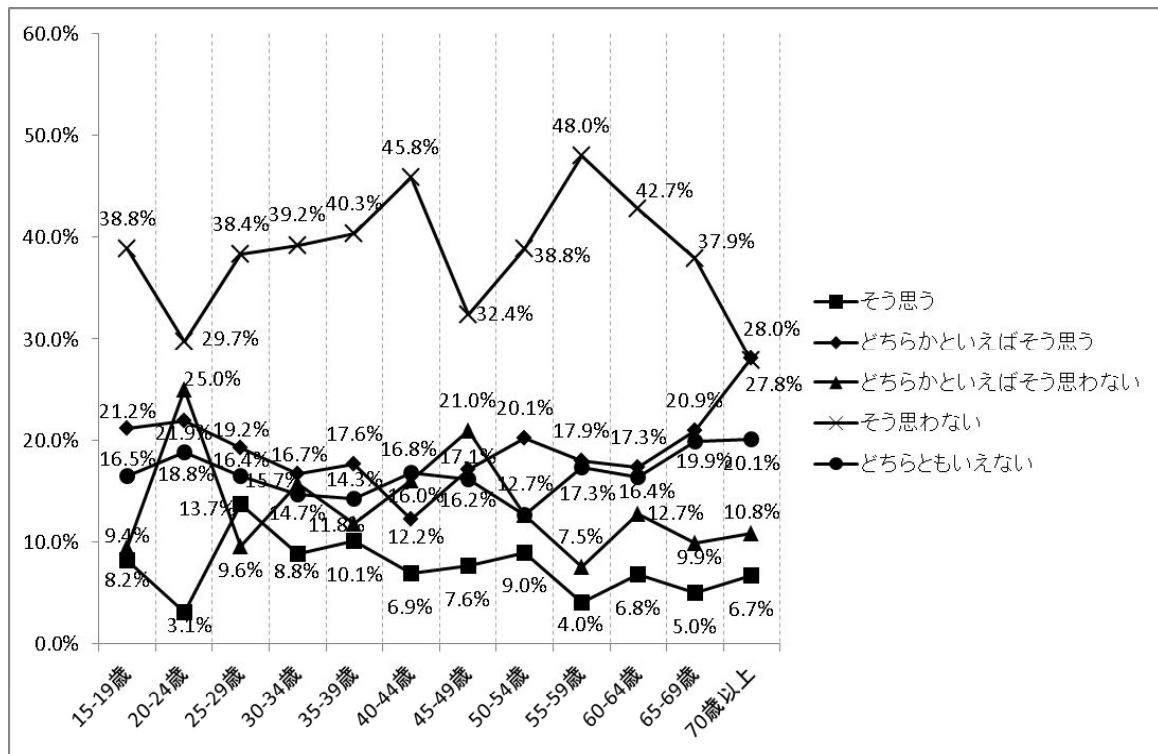


図 7-7 は、自分の子どもが結婚するとき、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思うかどうかについて、年齢別にみたものである。

「そう思わない」と回答した人は、「55～59 歳」48.0%が最も高く、次いで「40～44 歳」45.8%、「60～64 歳」42.7%となっている。

「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は、「20～24 歳」25.0%が最も高く、次いで「45～49 歳」21.0%となっている。

「どちらかといえばそう思う」と回答した人では、「70 歳以上」28.0%が最も高く、次いで「20～24 歳」21.9%となっている。

「そう思う」と回答した人では、「25～29 歳」13.7%が最も高く、次いで「35～39 歳」10.1%となっている。

身元調査を肯定する回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）では、「70 歳以上」34.7%が最も高く、次いで「25～29 歳」32.9%となっている。

図 7-8. 「子どもの結婚の身元調査について」と「現在の部落差別の実態認識」との関連性

問 7-3 身元調査について—子どもが結婚するとき

問
4
|
2

現
在
の
部
落
差
別
の
実
態
認
識

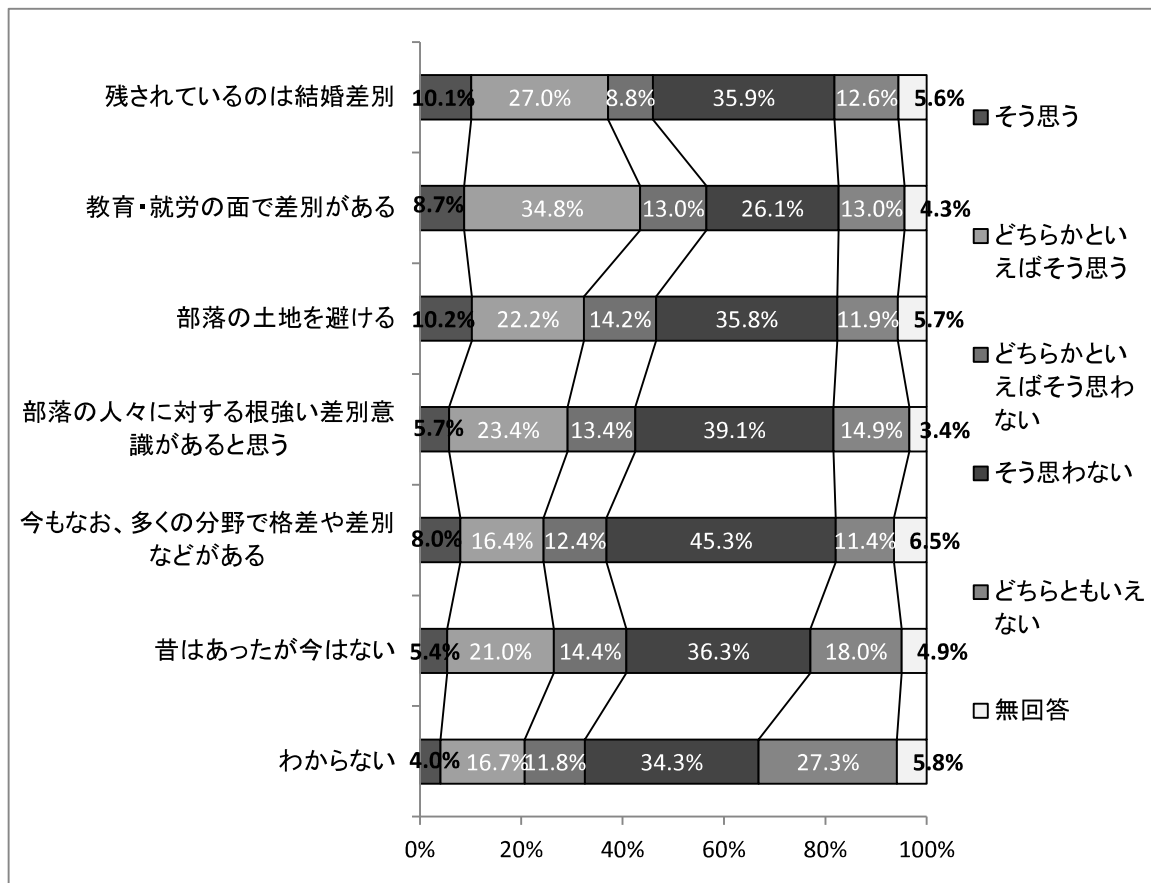


図 7-8 は、問 4-2 の「部落差別の実態認識」と問 7-3 の「身元調査について」の関係をみたものである。

身元調査を肯定する回答（「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」）は、「教育・就労の面で差別がある」43.5%と回答した人の中で最も高く、次いで「残されているのは結婚差別」37.1%、「部落の土地を避ける」32.4%となっている。

また、身元調査を否定する回答（「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」）は、「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」57.7%と回答した人の中で最も高く、次いで「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」52.5%、「昔はあったが今はない」50.7%となっている。

図 7-9. 「子どもの結婚の身元調査について」と「子どもの結婚について」との関連性

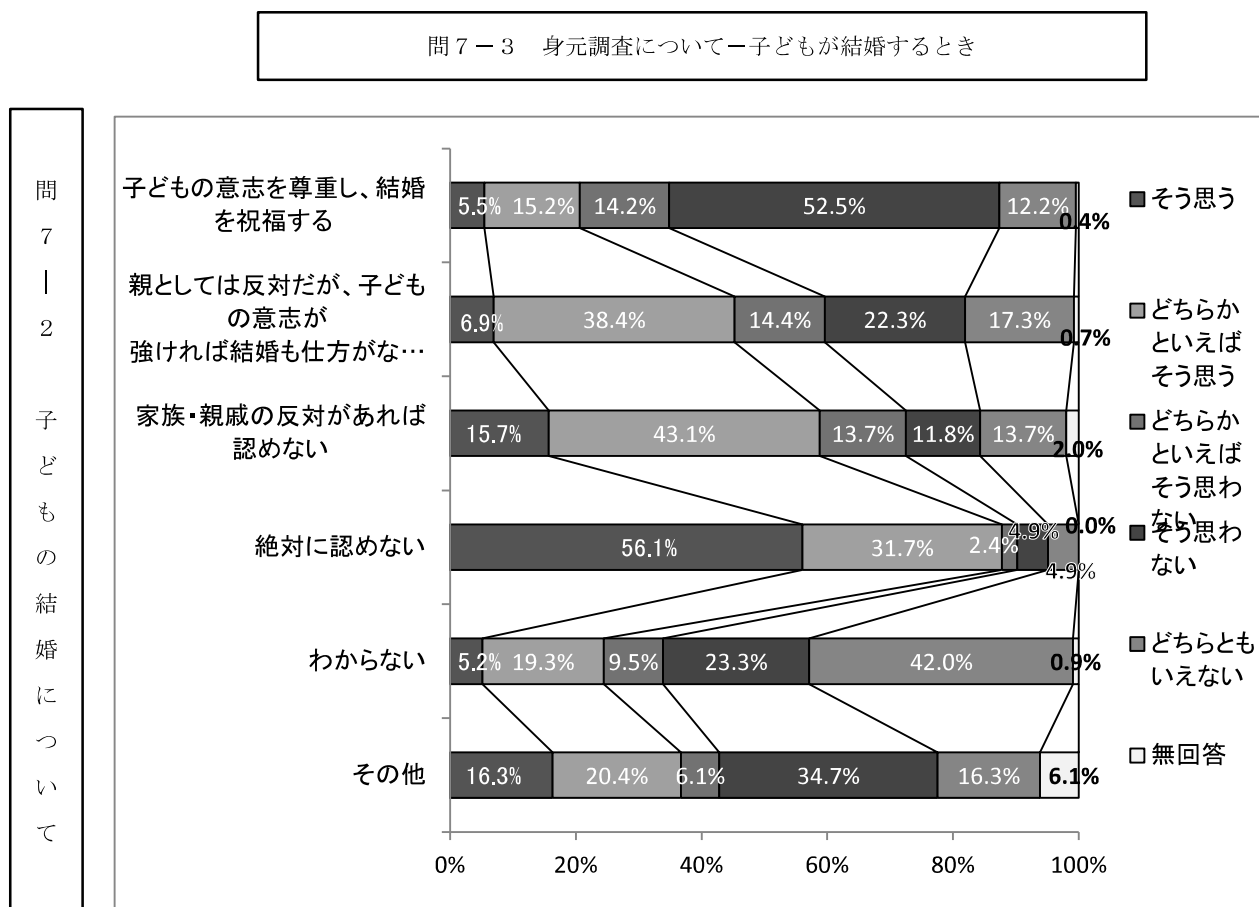


図 7-9 は、問 7-2 の「子どもの結婚について」と問 7-3 の「身元調査について」の関係をみたものである。

身元調査を肯定する回答（「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」）は、「絶対に認めない」87.8%と回答した人の中で最も高く、次いで「家族・親戚の反対があれば認めない」58.8%、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方ないと思う」45.3%となっている。

また、身元調査を否定する回答（「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」）は、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」66.7%と回答した人の中で最も高く、次いで「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方ないと思う」36.7%となっている。

問 7-4 問 7-3 で 1 または 2 と回答された方におたずねします。

その理由について、あなたの考えに近いものはどれですか。(○は 1 つだけ)

図 7-10. 身元調査をする理由—全体・性別

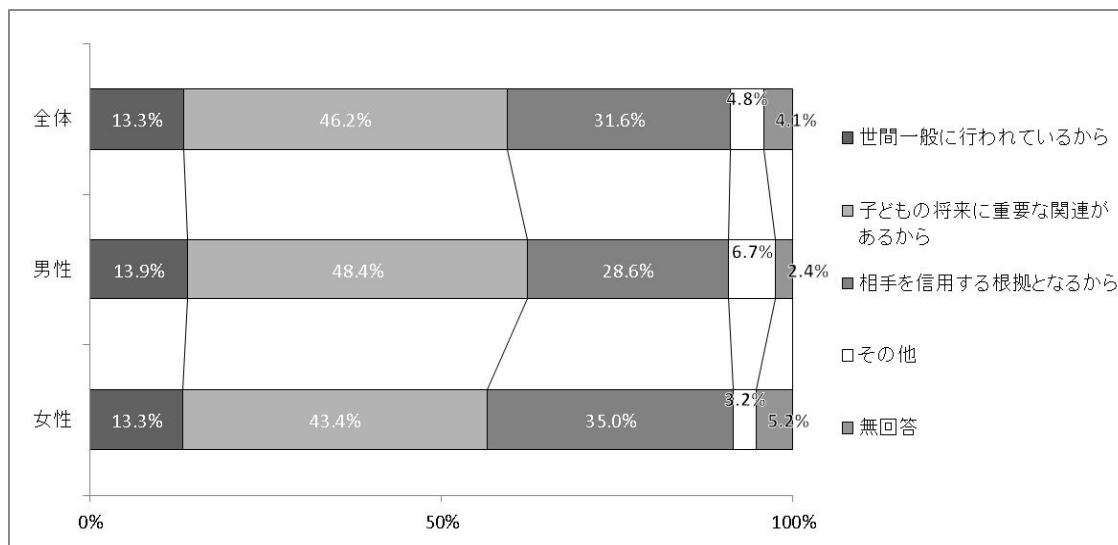


図 7-10 は、身元調査を行うことはやむを得ないと思うかについて「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した理由をみたものである。

「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人が全体では 46.2%と最も高く、次いで「相手を信用する根拠となるから」31.6%、「世間一般に行われているから」13.3%となっている。

性別では、「相手を信用する根拠となるから」と回答した人は、男性 28.6%、女性 35.0%で、「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人は、男性 48.4%、女性 43.4%となっている。

図 7-11. 身元調査をする理由—年齢別

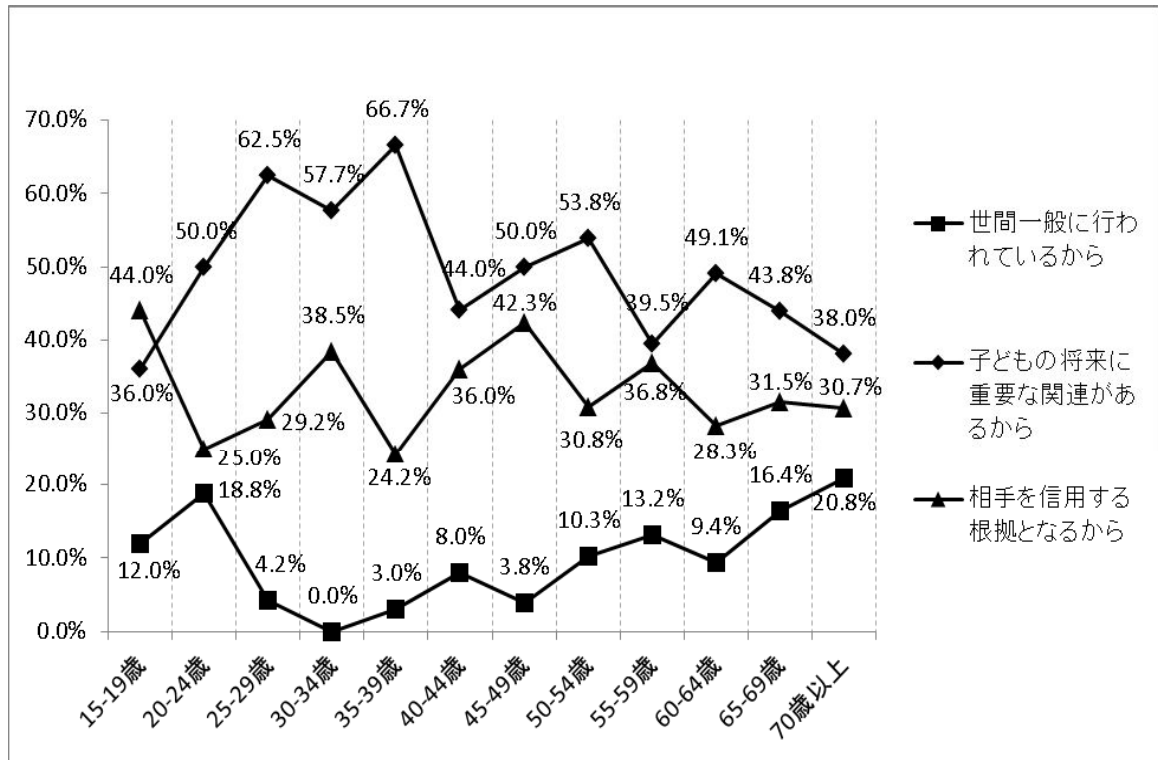


図 7-11 は、身元調査を行うことはやむを得ないと思うかについて「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した理由を年齢別にみたものである。

「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人は、「35～39 歳」66.7%が最も高く、次いで「25～29 歳」62.5%となっている。

「相手を信用する根拠となるから」と回答した人は、「15～19 歳」44.0%が最も高く、次いで「45～49 歳」42.3%、「30～34 歳」38.5%となっている。

「世間一般に行われているから」と回答した人では、「70 歳以上」20.8%が最も高く、次いで「20～24 歳」18.8%となっている。

問 8 部落差別の言動の見聞についておたずねします。

問 8-1 あなたは、最近被差別部落の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きされたことがありますか。(どちらかに○をしてください)

図 8-1. 部落差別の見聞き—全体・性別

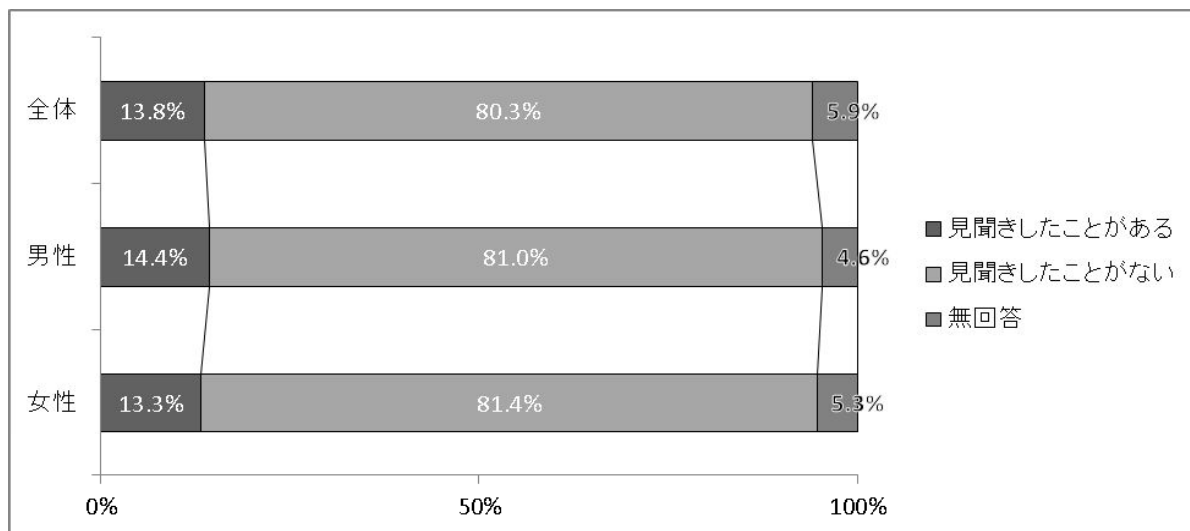


図 8-1 は、部落差別の見聞きについてみたものである。

最近、被差別部落の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きしたことがあるかの問いでは、「見聞きしたことがある」と回答した人は全体で 13.8%となっており、「見聞きしたことがない」と回答した人は 80.3%となっている。

性別では、男女別で大きな差があった選択肢はなかった。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 1 3-1 あなたは、最近同和地区の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きされたことがありますか。(どちらかに○をしてください)

- 1 見聞きしたことがある 2 見聞きしたことがない

表 8-1. 部落差別の見聞き—前回調査との比較

調査年度	見聞きしたことがある	見聞きしたことがない	無回答	計
平成17年	14.9%	82.1%	2.9%	100.0%(2402)
平成27年	13.8%	80.3%	5.9%	100.0%(2138)

表 8-1 は、部落差別の見聞きについて前回調査との比較をしたものである。設問が一部異なっているため単純な比較はできないが、「見聞きしたことがある」と回答した人は、今回調

査 13.8%、前回調査 14.9%となっている。「見聞きしたことがない」では、今回調査 80.3%、前回調査 82.1%となっている。

図 8-2. 部落差別の見聞き一年齢別

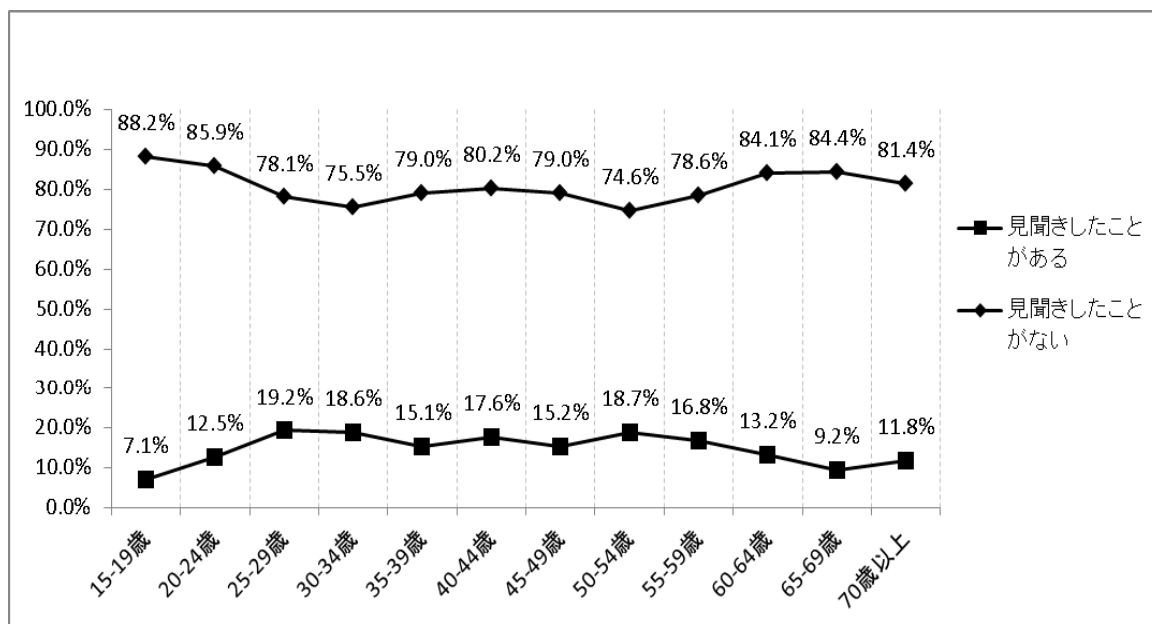


図 8-2 は、部落差別の見聞きについて年齢別にみたものである。

「見聞きしたことがある」と回答した人は、「25～29 歳」19.2%が最も高く、次いで「50～54 歳」18.7%、「30～34 歳」18.6%となっている。

「見聞きしたことがない」と回答した人は、「15～19 歳」88.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」85.9%、「65～69 歳」84.4%となっている。

問 8-2 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

最近、見聞きしたもので、被差別部落に対する差別的な言動をしたのは次のうち誰ですか。(〇は3つまで)

図 8-3. 差別的な言動をしたのは誰か—全体・性別

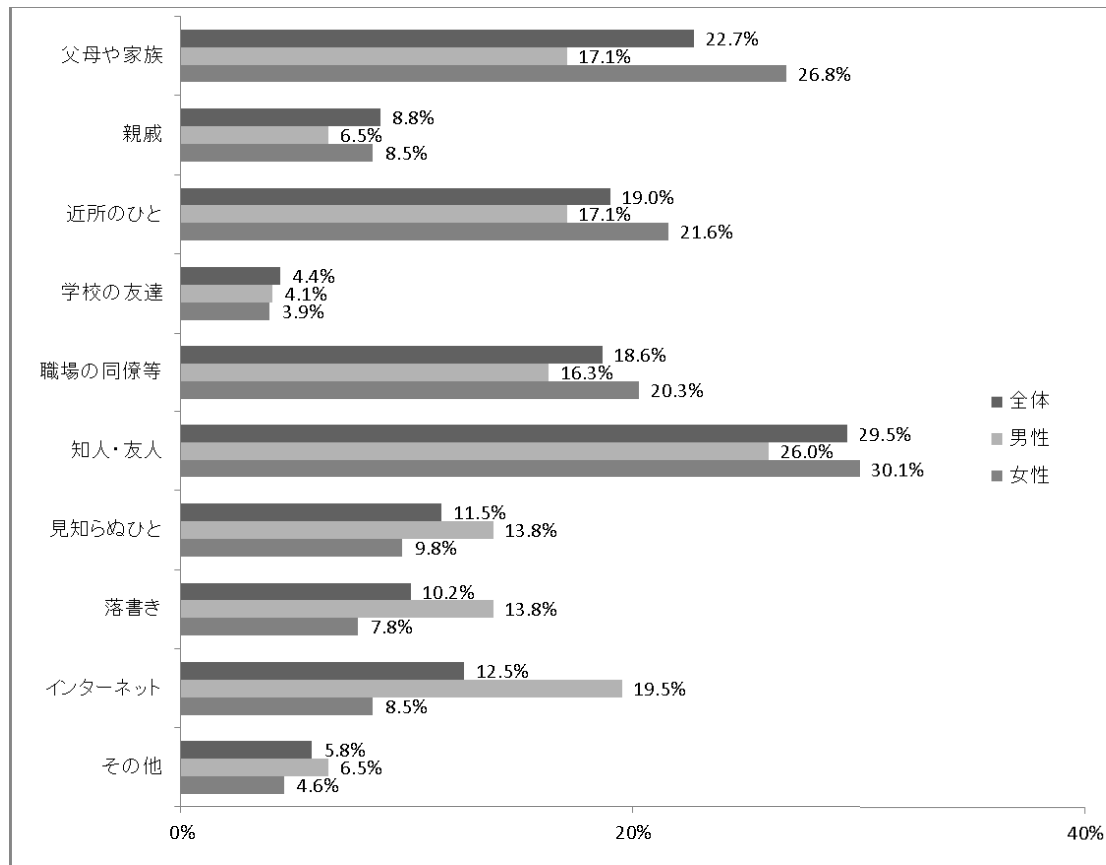


図 8-3 は、差別的な言動をしたのは誰かについてみたものである。

見聞きしたもので、被差別部落に対する差別的な言動をしたのは誰かの問いでは、「知人・友人」と回答した人が全体で 29.5% が最も高く、次いで「父母や家族」22.7%、「近所のひと」19.0% となっている。

性別では、「知人・友人」と回答した人は、男性 26.0% と女性 30.1% となっている。

また、「父母や家族」と回答した人は、男性 17.1% と女性 26.8% で、「近所のひと」と回答した人は、男性 17.1% と女性 21.6% となっている。

図 8-4. 差別的な言動をしたのは誰か―年齢別

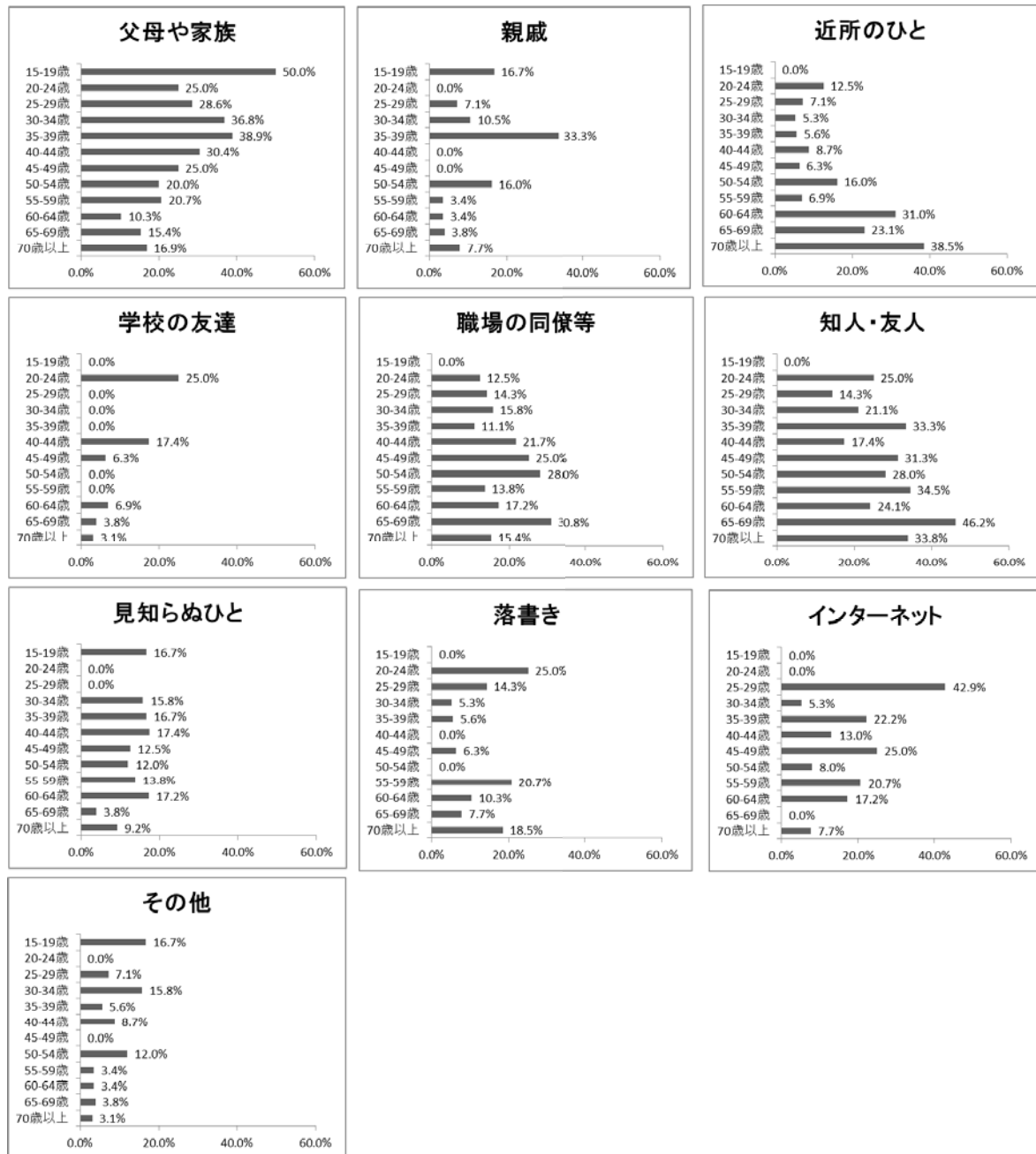


図 8-4 は、差別的な言動をしたのは誰かについて年齢別にみたものである。

「知人・友人」と回答した人は、「65～69 歳」46.2%が最も高く、次いで「55～59 歳」34.5%となっている。

「近所のひと」と回答した人は、「70 歳以上」38.5%が最も高く、次いで「60～64 歳」31.0%となっている。

問 8-3 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

その見聞きした差別的な言動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

図 8-5. 見聞きした差別的な言動は何か―全体・性別

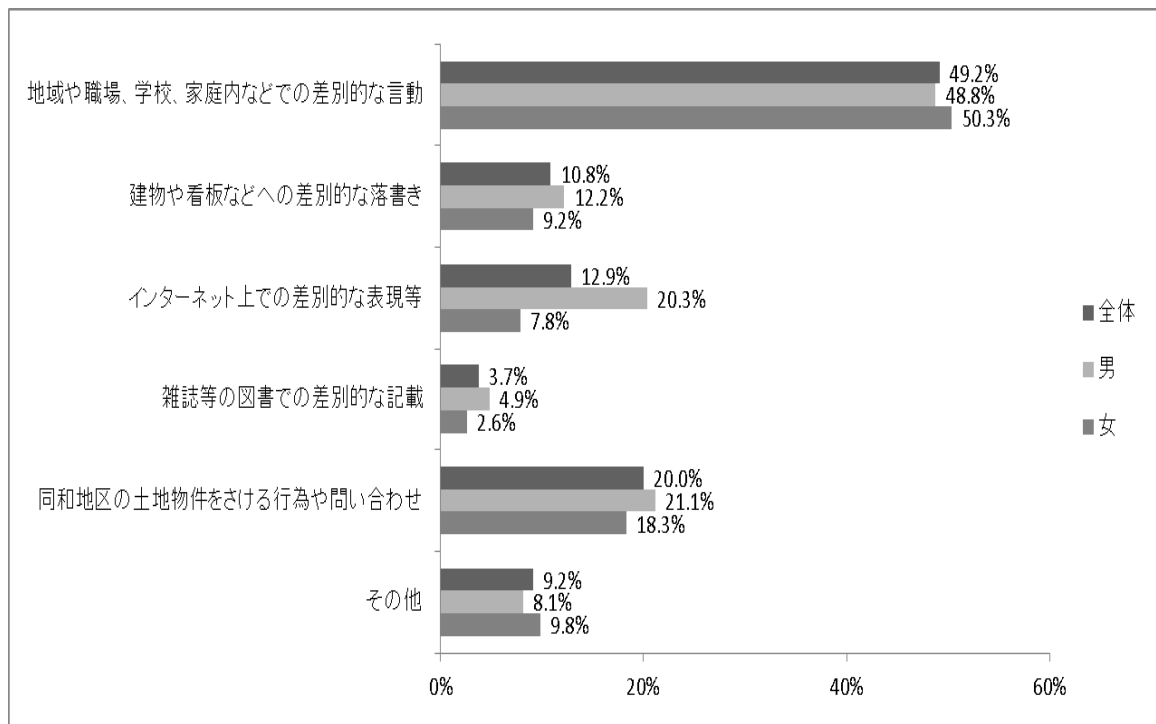


図 8-5 は、見聞きした差別的な言動は何かについてみたものである。

「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は全体で 49.2% が最も高く、次いで「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」20.0%、「インターネット上での差別的な表現等」12.9% となっている。

性別では、「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は、男性 48.8% と女性 50.3% となっている。

また、「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」と回答した人は、男性 21.1% と女性 18.3% で、「インターネット上での差別的な表現等」と回答した人は、男性 20.3% と女性 7.8% となっている。

図 8-6. 見聞きした差別的な言動は何か―年齢別

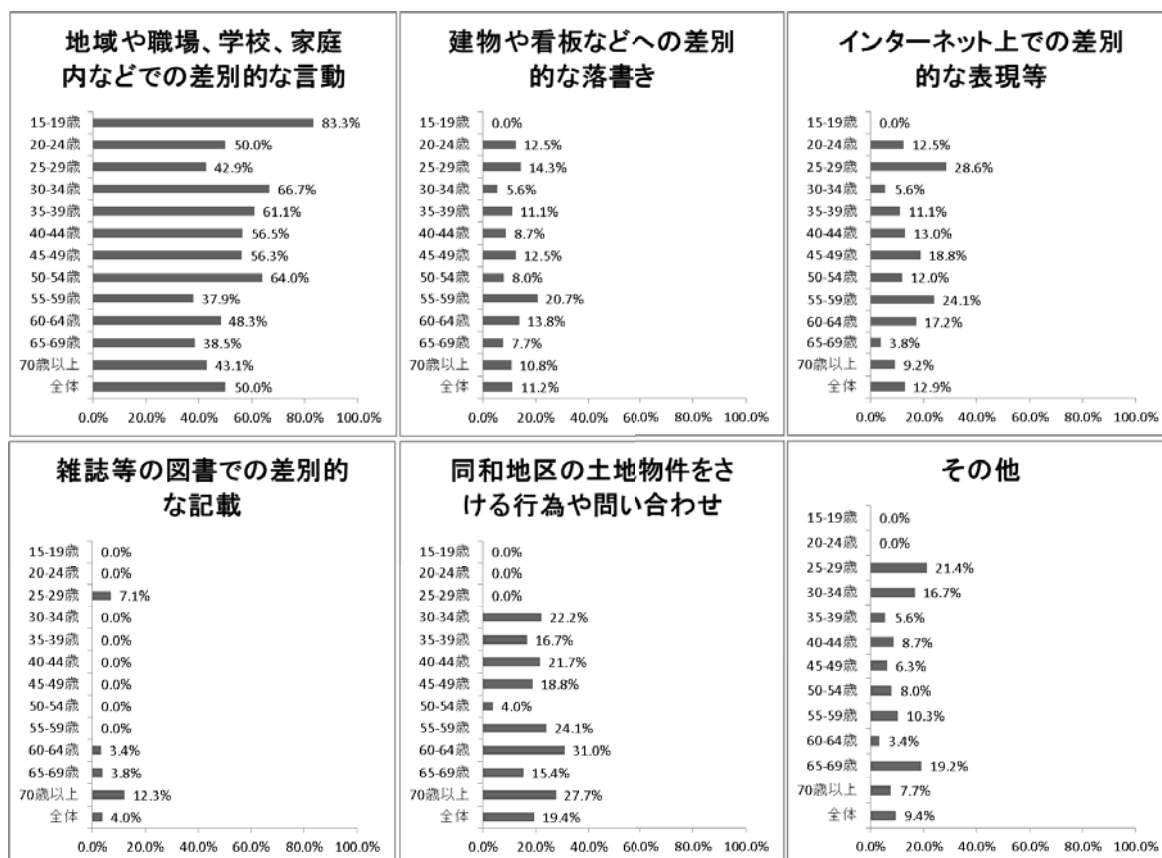


図 8-6 は、見聞きした差別的な言動は何かについて年齢別でみたものである。

「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は、「15～19 歳」83.3%が最も高く、次いで「30～34 歳」66.7%、「50～54 歳」64.0%となっている。

「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」と回答した人は、「60～64 歳」31.0%が最も高く、次いで「70 歳以上」27.7%となっている。

「インターネット上での差別的な表現等」と回答した人は、「25～29 歳」28.6%が最も高く、次いで「55～59 歳」24.1%となっている。

問 8-4 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

その時、あなたはどのようにされましたか。(○は 1 つだけ)

図 8-7. 差別的な言動を見聞きした時どうしたか—全体・性別

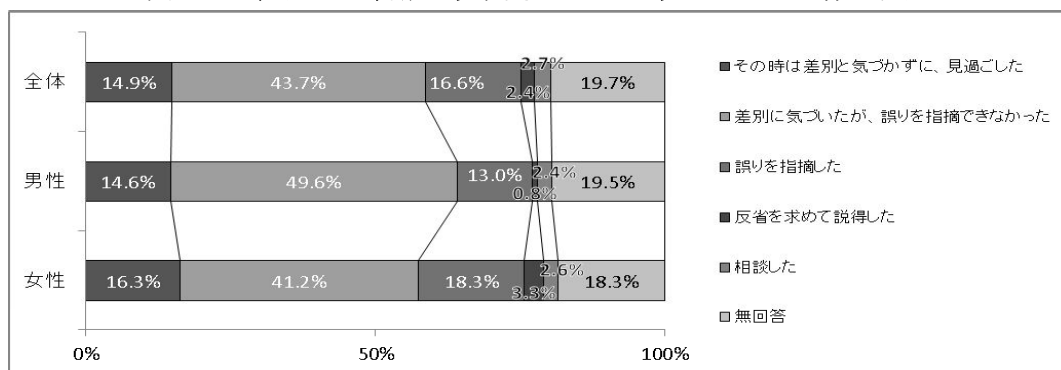


図 8-7 は、差別的な言動を見聞きした時どうしたかについてみたものである。

「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人が全体では、43.7%と最も高く、次いで「誤りを指摘した」16.6%、「その時は差別と気づかずに、見過ごした」14.9%となっている。

性別では、「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人は、男性 49.6%、女性 41.2%となっている。また、「誤りを指摘した」と回答した人は、男性 13.0%、女性 18.3%となっている。

図 8-8. 差別的な言動を見聞きした時どうしたか—年齢別

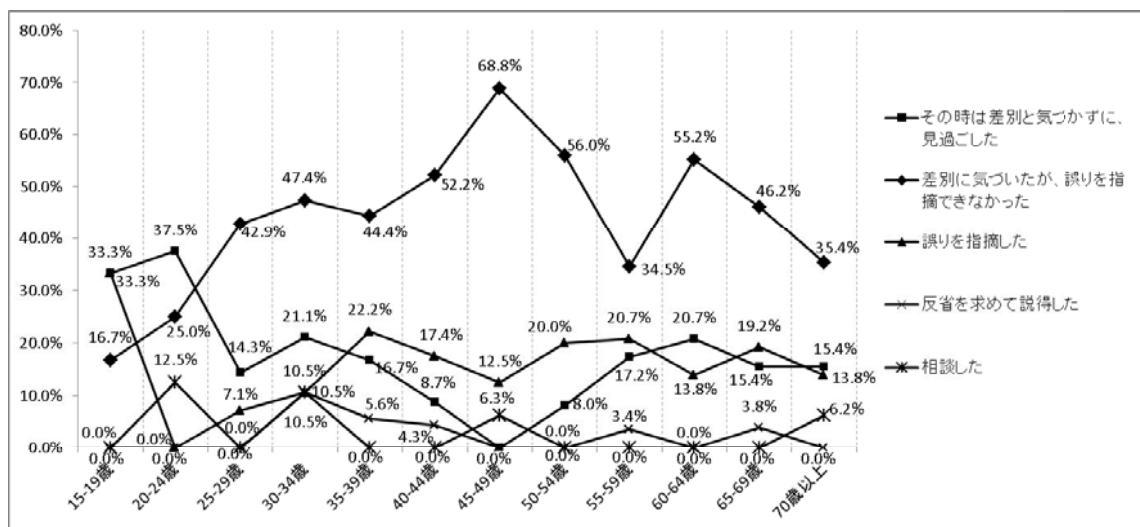


図 8-8 は、見聞きした差別的な言動に対する態度について年齢別にみたものである。

「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人は、「45～49 歳」68.8%が最も高く、次いで「50～54 歳」56.0%、「60～64 歳」55.2%となっている。

「誤りを指摘した」と回答した人は、「15～19 歳」33.3%が最も高く、次いで「35～39 歳」22.2%となっている。

「その時は差別と気づかずに、見過ごした」と回答した人は、「20～24 歳」37.5%が最も高く、次いで「15～19 歳」33.3%となっている。

問9 学校での同和教育・人権教育についておたずねします。

問 9-1 あなたは、これまで学校在学中に同和（部落）問題をはじめさまざまな人権問題についての学習をしたことがありますか。（○は1つだけ）

図 9-1. 同和教育・人権教育の学習経験—全体・性別

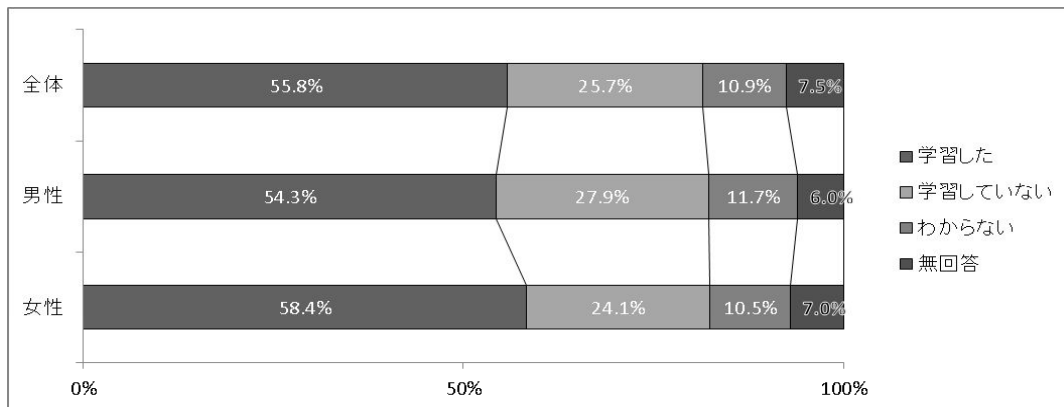


図 9-1 は、同和教育・人権教育の学習経験についてみたものである。

これまで学校在学中に同和（部落）問題をはじめさまざまな人権問題についての学習をしたことがあるかの問いでは、「学習した」と回答した人は全体で 55.8%が最も高く、次いで「学習していない」は 25.7%となっている。

性別では、「学習した」と回答した人は、男性 54.3%、女性 58.4%となっている。

図 9-2. 同和教育・人権教育の学習経験—年齢別

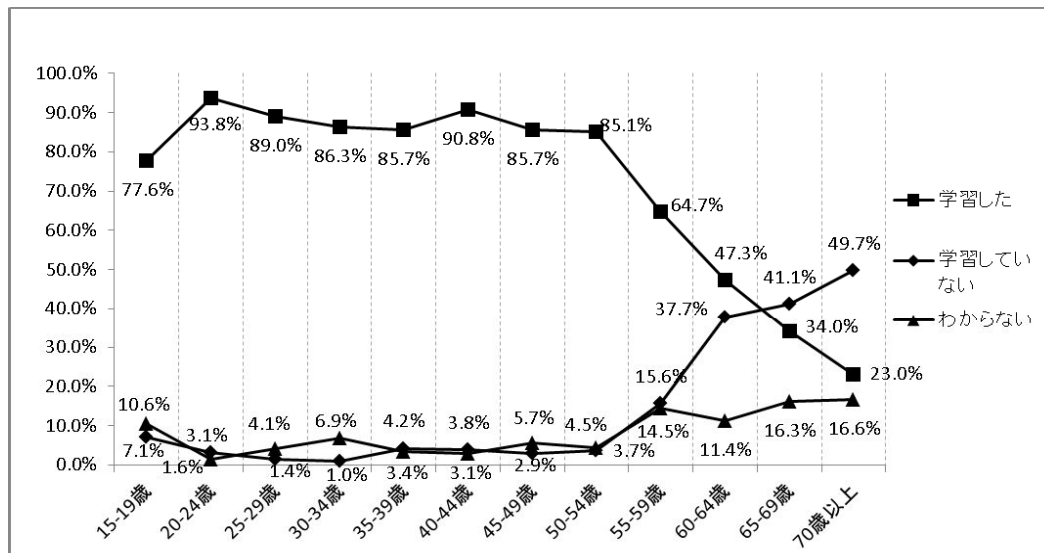


図 9-2 は、同和教育・人権教育の学習経験について年齢別にみたものである。

「学習した」と回答した人は、「20-24 歳」 93.8%が最も高く、次いで「40～44 歳」 90.8%、「25～29 歳」 89.0%となっている。

「学習していない」と回答した人は、「70 歳以上」 49.7%が最も高く、次いで「65～69 歳」 41.1%、「60～64 歳」 37.7%となっている。

問 9-2 問 9-1 で 1 と回答された方におたずねします。学校での学習にどんな印象をもちましたか。(○は 2 つ以内)

図 9-3. 同和教育・人権教育の印象—全体・性別

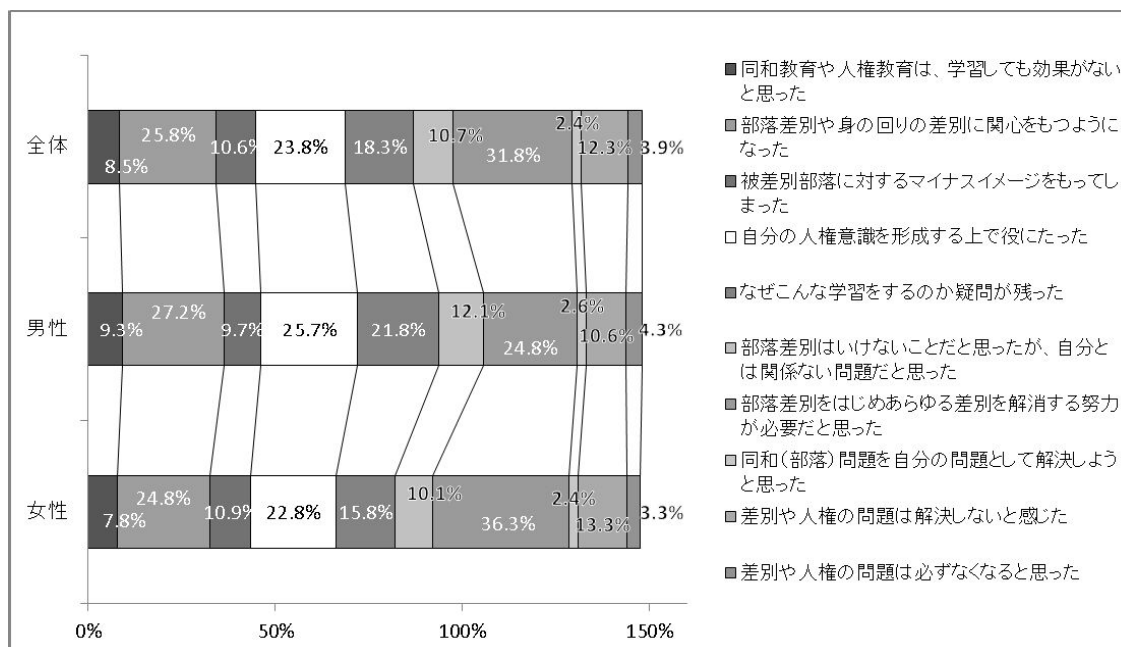


図 9-3 は、同和教育・人権教育の印象についてみたものである。

学校での学習にどんな印象をもったかの問いでは、「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人が全体は 31.8%と最も高く、次いで「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」25.8%、「自分の人権意識を形成する上で役にたった」23.8%となっている。

性別では、「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人は、男性 24.8%、女性 36.3%となっている。また、「なぜこんな学習をするのか疑問が残った」と回答した人は、男性 21.8%、女性 15.8%で、「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」と回答した人は、男性 27.2%、女性 24.8%となっている。

図 9-4. 同和教育・人権教育の印象—年齢別

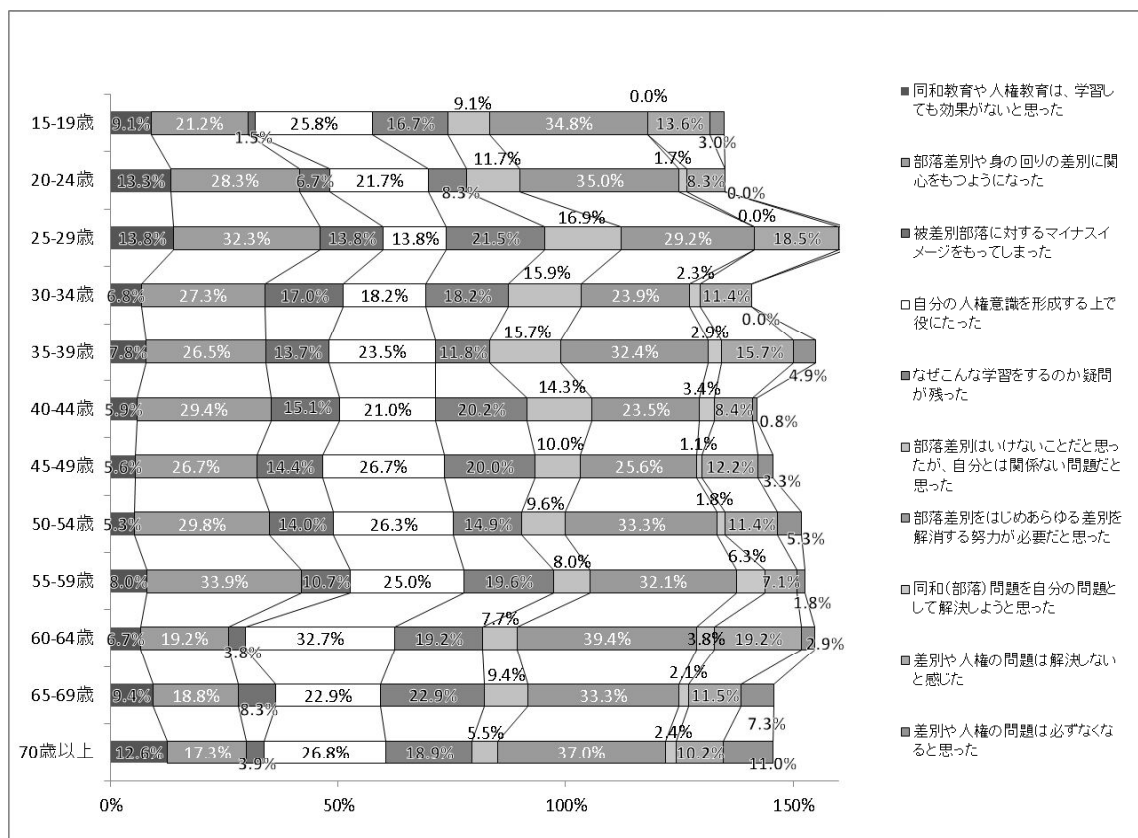


図 9-4 は、同和教育・人権教育の印象について年齢別にみたものである。

「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人は、「60～64 歳」39.4%が最も高く、次いで「70 歳以上」37.0%、「20～24 歳」35.0%となっている。

「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」と回答した人は、「55～59 歳」33.9%が最も高く、次いで「25～29 歳」32.3%となっている。

「なぜこんな学習をするのか疑問が残った」と回答した人は、「65～69 歳」22.9%が最も高く、次いで「25～29 歳」21.5%となっている。

「自分の人権意識を形成する上で役にたった」と回答した人は、「60～64 歳」32.7%が最も高く、次いで「70 歳以上」26.8%、「45～49 歳」26.7%となっている。

4 男女共同参画に関する人権問題について

問10 あなたは男女共同参画に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図10-1. 男女共同参画に関する人権問題について—全体・性別

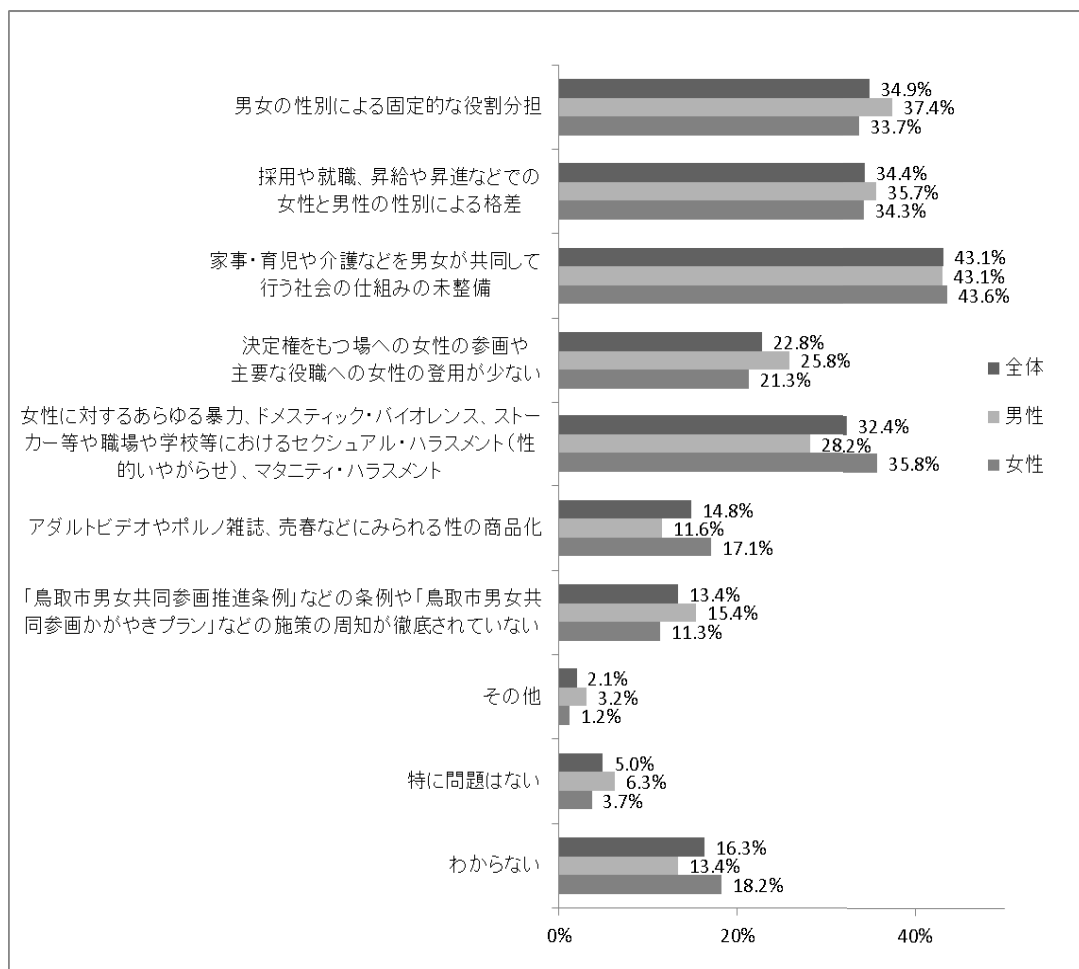


図10-1は、男女共同参画に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みの未整備」と回答した人は全体で43.1%と最も高く、次いで「男女の性別による固定的な役割分担」34.9%、「採用や就職、昇給や昇進などでの女性と男性の性別による格差」34.4%となっている。

性別では、「女性に対するあらゆる暴力、ドメスティック・バイオレンス、ストーカー等や職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、マタニティ・ハラスメント」と回答した人は、男性28.2%、女性35.8%となっている。

また、「アダルトビデオやポルノ雑誌、売春などにみられる性の商品化」と回答した人は、男性11.6%、女性17.1%となっている。

「決定権をもつ場への女性の参画や主要な役職への女性の登用が少ない」と回答した人は、男性25.8%、女性21.3%となっている。

図 10-2. 男女共同参画に関する人権問題について一年齢別

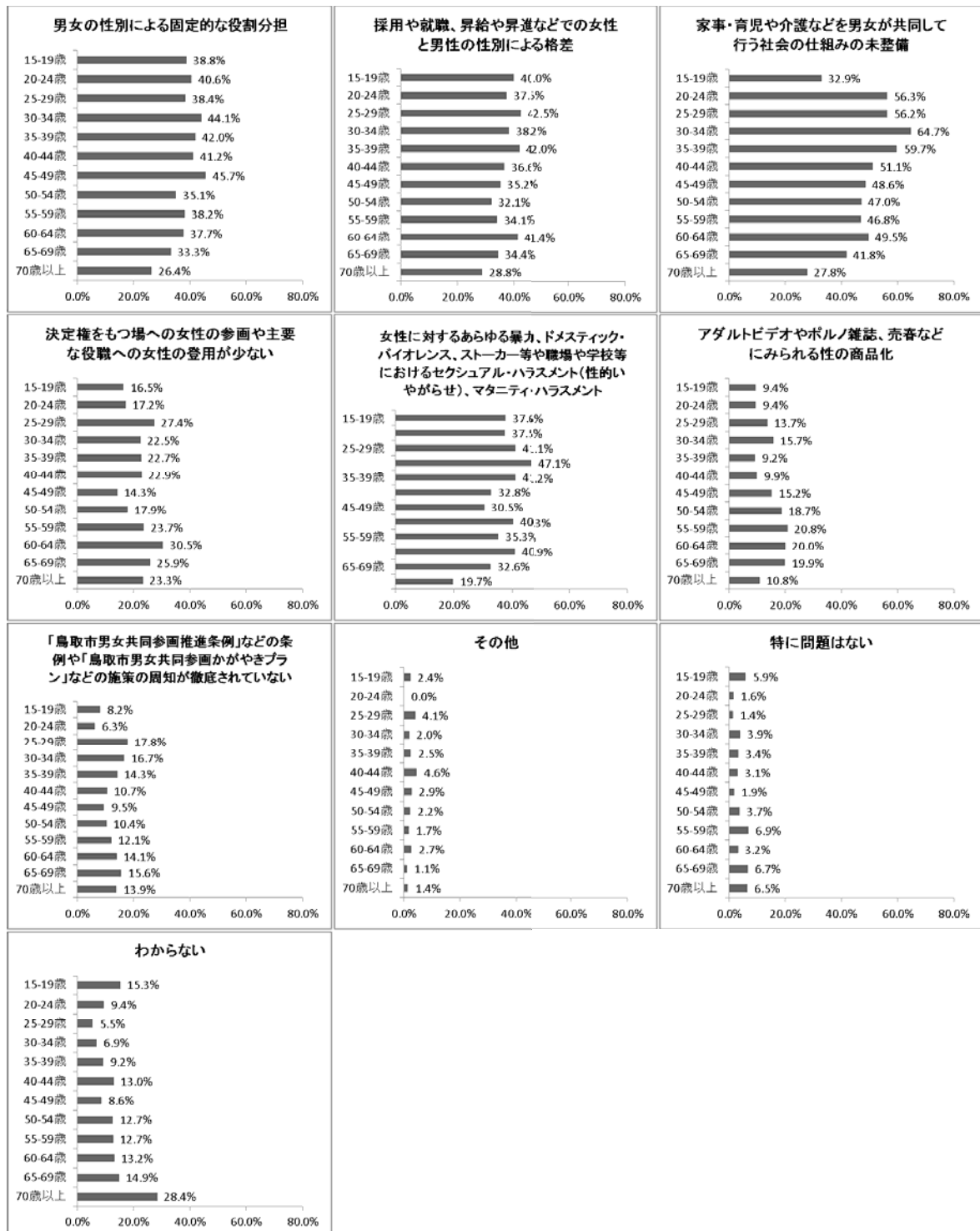


図 10-2 は、男女共同参画に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「家事・育児や介護などを男女が共同して行う社会の仕組みの未整備」と回答した人は、「20～44 歳」の年代で 50%を超えている。

「男女の性別による固定的な役割分担」と回答した人は、「45～49 歳」で 45.7%と最も高く、次いで「30～34 歳」44.1%、「35～39 歳」42.0%となっている。

5 障がいのある人の人権問題について

問 1 1 あなたは障がいのある人に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

図 11-1. 障がいのある人の人権問題について—全体・性別

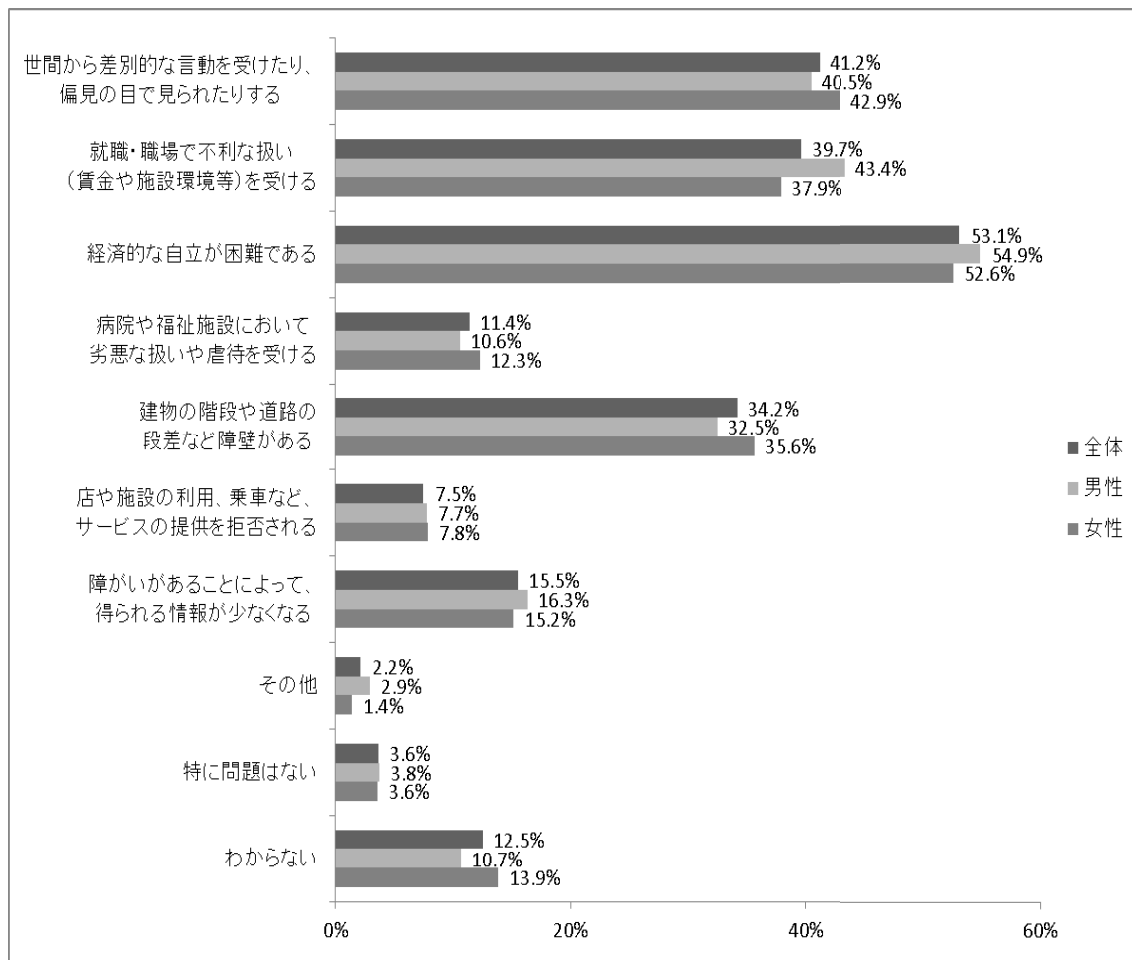


図 11-1 は、障がいのある人の人権上の問題についての意識をみたものである。

「経済的な自立が困難である」と回答した人が全体で 53.1%ともっとも高く、次いで「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」41.2%、「就職・職場で不利な扱い（賃金や施設環境等）を受ける」39.7%となっている。

性別では、「就職・職場で不利な扱い（賃金や施設環境等）を受ける」と回答した人は、男性 43.4%、女性 37.9%となっている。

また、「建物の階段や道路の段差など障壁がある」と回答した人は、男性 32.5%、女性 35.6%となっている。

図 11-2. 障がいのある人の人権問題について一年齢別

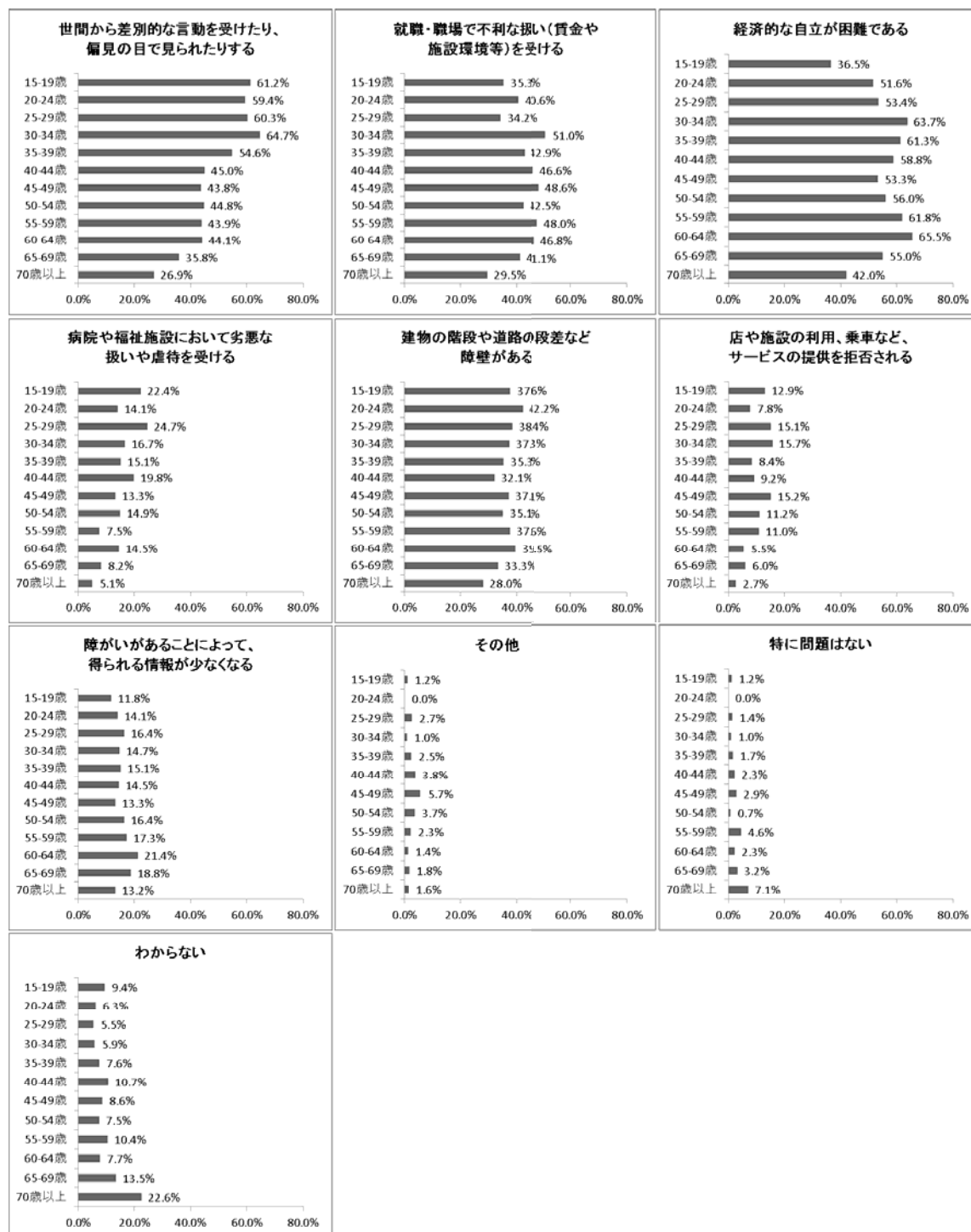


図 11-2 は、障がいのある人の人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「経済的な自立が困難である」と回答した人は、「20～69 歳」の年代では 50%を超えている。

また、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、「15～39 歳」の年代で 50%を超えている。

6 子どもの人権問題について

問12 あなたは子どもに関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 12-1. 子どもの人権について—全体・性別

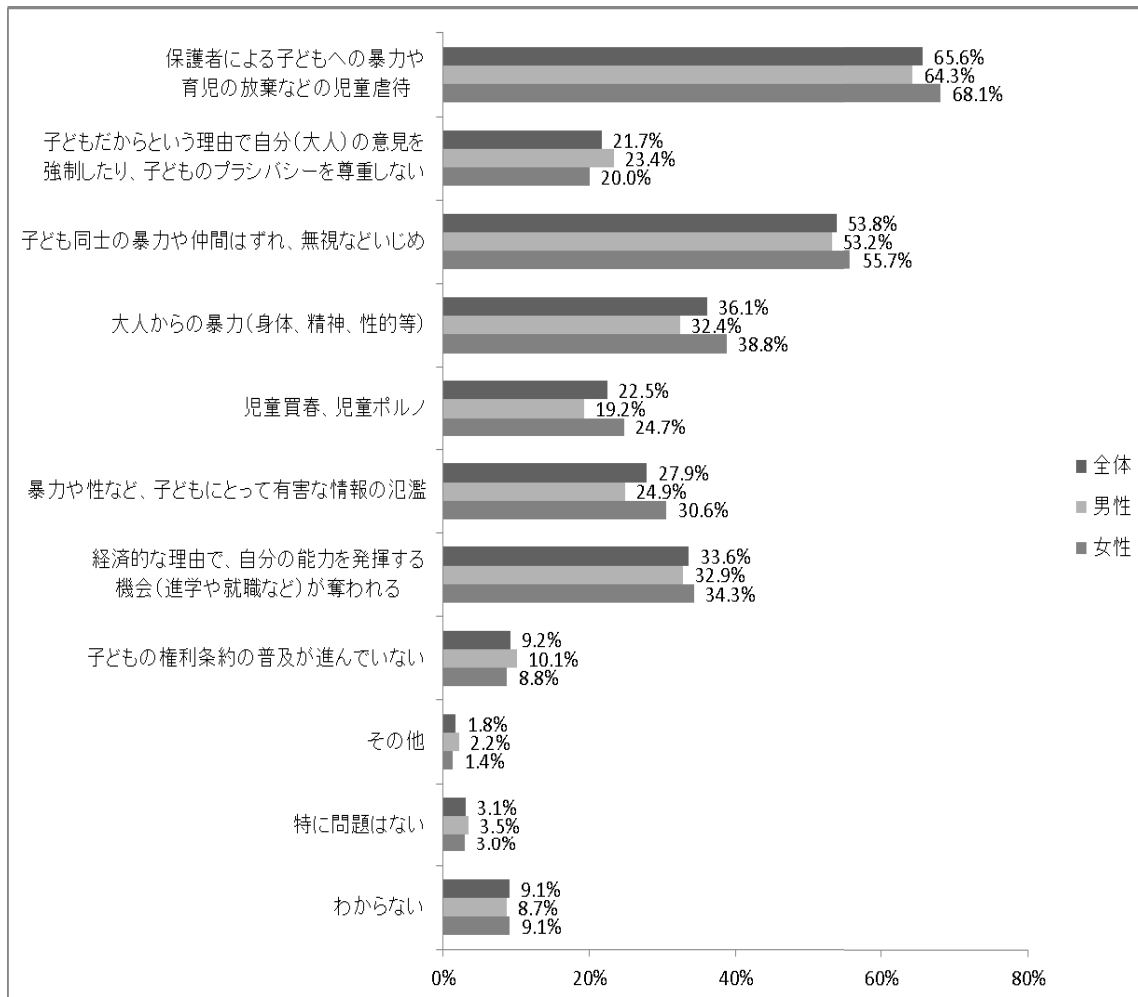


図 12-1 は、子どもに関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」と回答した人が全体で 65.6%と最も高く、次いで「子ども同士の暴力や仲間はずれ、無視などいじめ」53.8%、「大人からの暴力(身体、精神、性的等)」36.1%となっている。

性別では、「大人からの暴力(身体、精神、性的等)」と回答した人は、男性 32.4%、女性 38.8%となっている。

また、「児童買春、児童ポルノ」と回答した人は、男性 19.2%、女性 24.7%となっている。

「暴力や性など、子どもにとって有害な情報の氾濫」と回答した人は、男性 24.9%、女性 30.6%となっている。

図 12-2. 子どもの人権について一年齢別

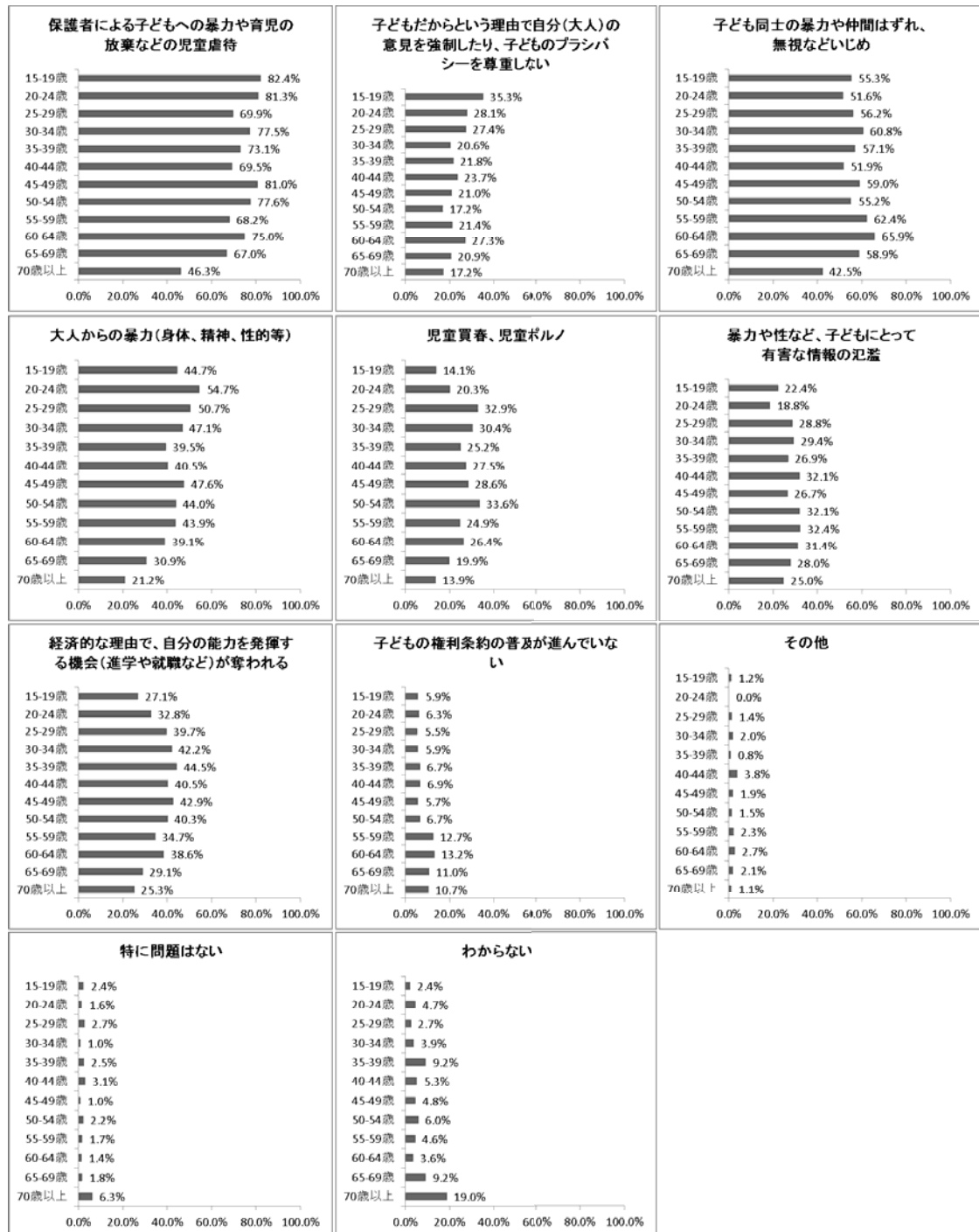


図 12-2 は、子どもに関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「保護者による子どもへの暴力や育児の放棄などの児童虐待」と回答した人は、「70 歳以上」を除く年代で 60%を超えている。

また、「子ども同士の暴力や仲間はずれ、無視などいじめ」と回答した人は、「70 歳以上」を除く年代で 50%を超えている。

「大人からの暴力（身体、精神、性的等）」と回答した人は、「20～24 歳」で 54.7%と最も高く、次いで「25～29 歳」50.7%、「45～49 歳」47.6%となっている。

7 高齢者の人権問題について

問 1 3 あなたは高齢者に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 13-1. 高齢者の人権問題について—全体・性別

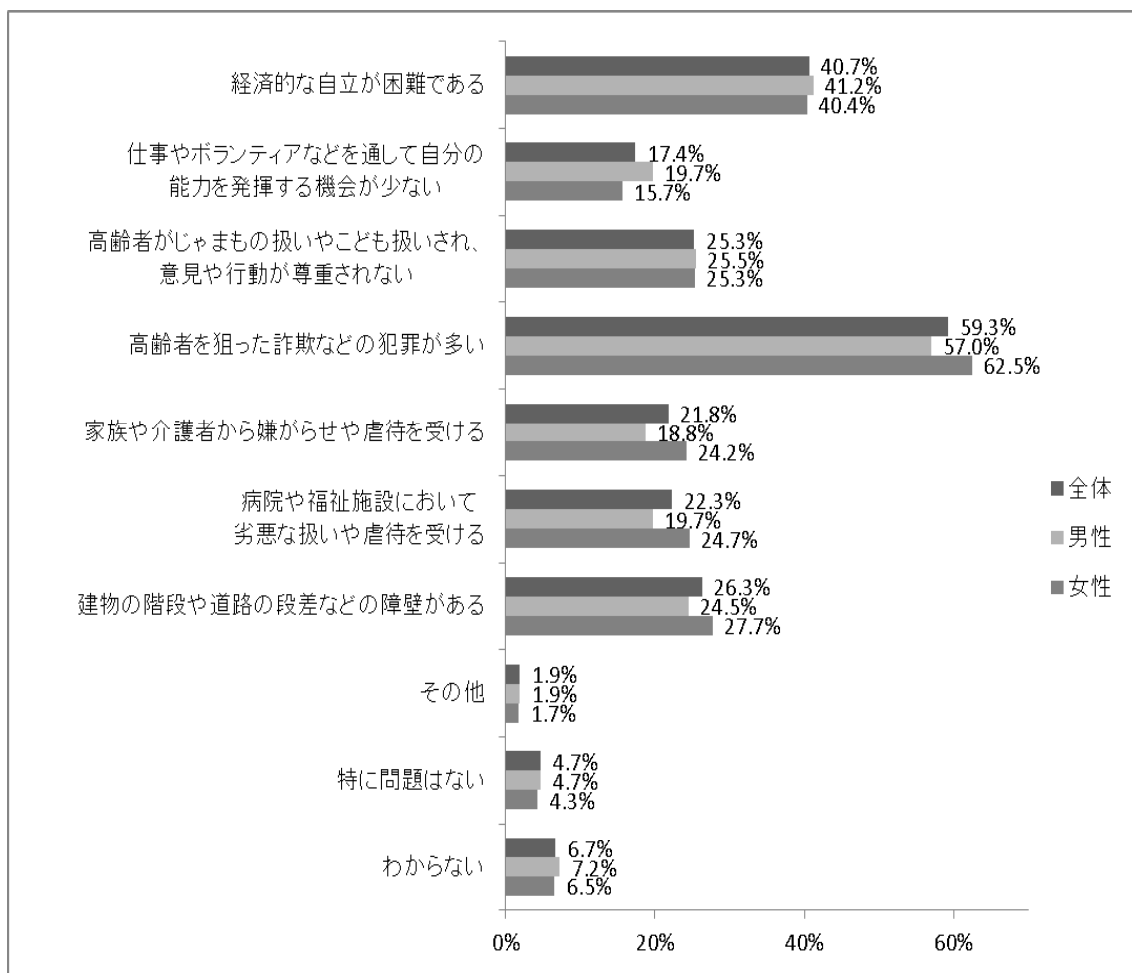


図 13-1 は、高齢者に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「高齢者を狙った詐欺などの犯罪が多い」と回答した人が全体で 59.3%と最も高く、次いで「経済的な自立が困難である」40.7%、「建物の階段や道路の段差などの障壁がある」26.3%となっている。

性別では、「高齢者を狙った詐欺などの犯罪が多い」と回答した人は、男性 57.0%、女性 62.5%となっている。

また、「病院や福祉施設において劣悪な扱いや虐待を受ける」と回答した人は、男性 19.7%、女性 24.7%となっている。

「仕事やボランティアなどを通して自分の能力を発揮する機会が少ない」と回答した人は、男性 19.7%、女性 15.7%となっている。

図 13-2. 高齢者の人権問題について一年齢別

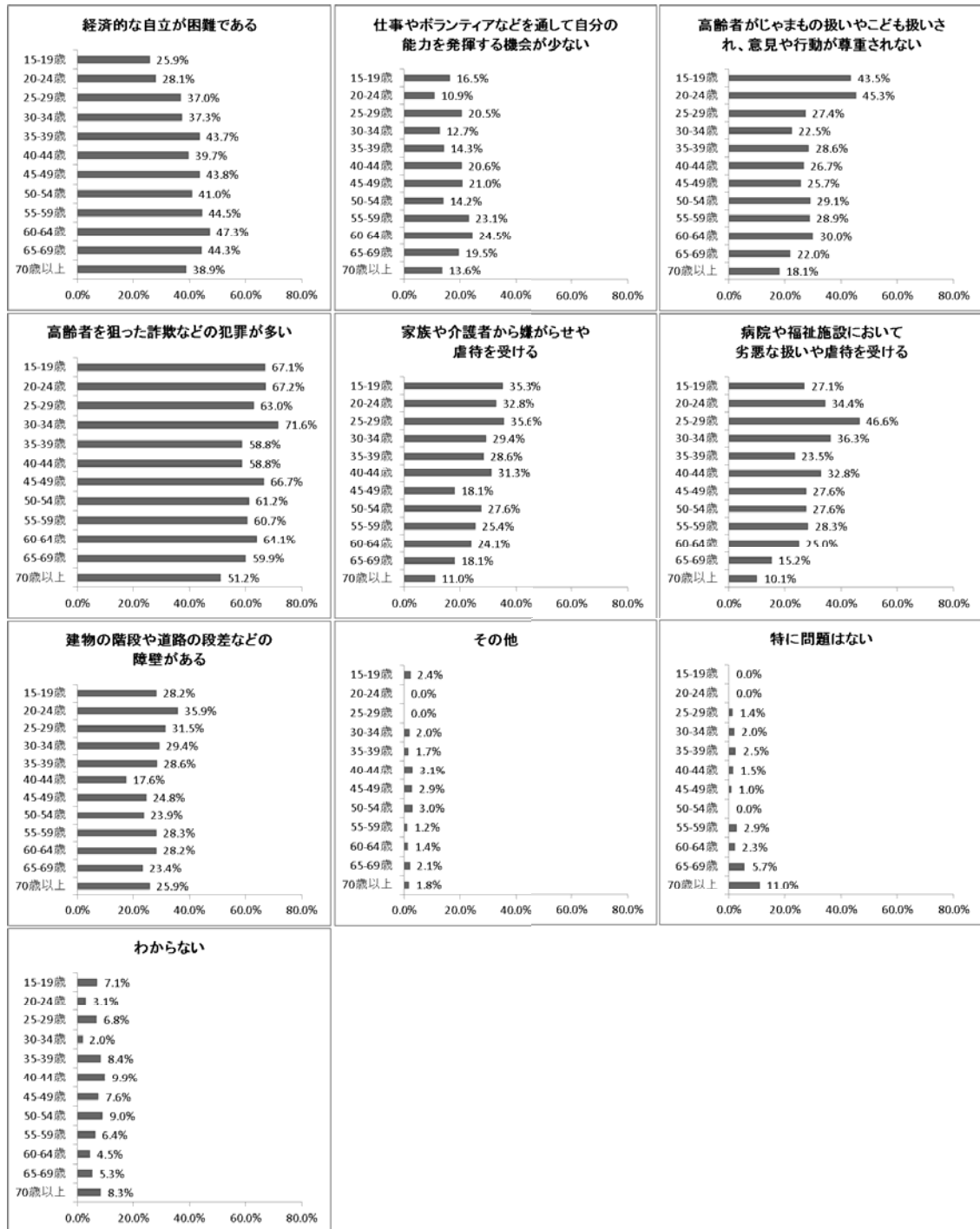


図 13-2 は、高齢者に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「高齢者を狙った詐欺などの犯罪が多い」と回答した人は、すべての年代で 50% を超えている。

また、「経済的な自立が困難である」と回答した人は、「60～64 歳」で 47.3% と最も高く、次いで「55～59 歳」44.5%、「65～69 歳」44.3% となっている。

「病院や福祉施設において劣悪な扱いや虐待を受ける」と回答した人は、「25～29 歳」で 46.6% と最も高く、次いで「30～34 歳」36.3%、「20～24 歳」34.4% となっている。

8 外国人の人権問題について

問 1 4 あなたは外国人に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 14-1. 外国人の人権問題について—全体・性別

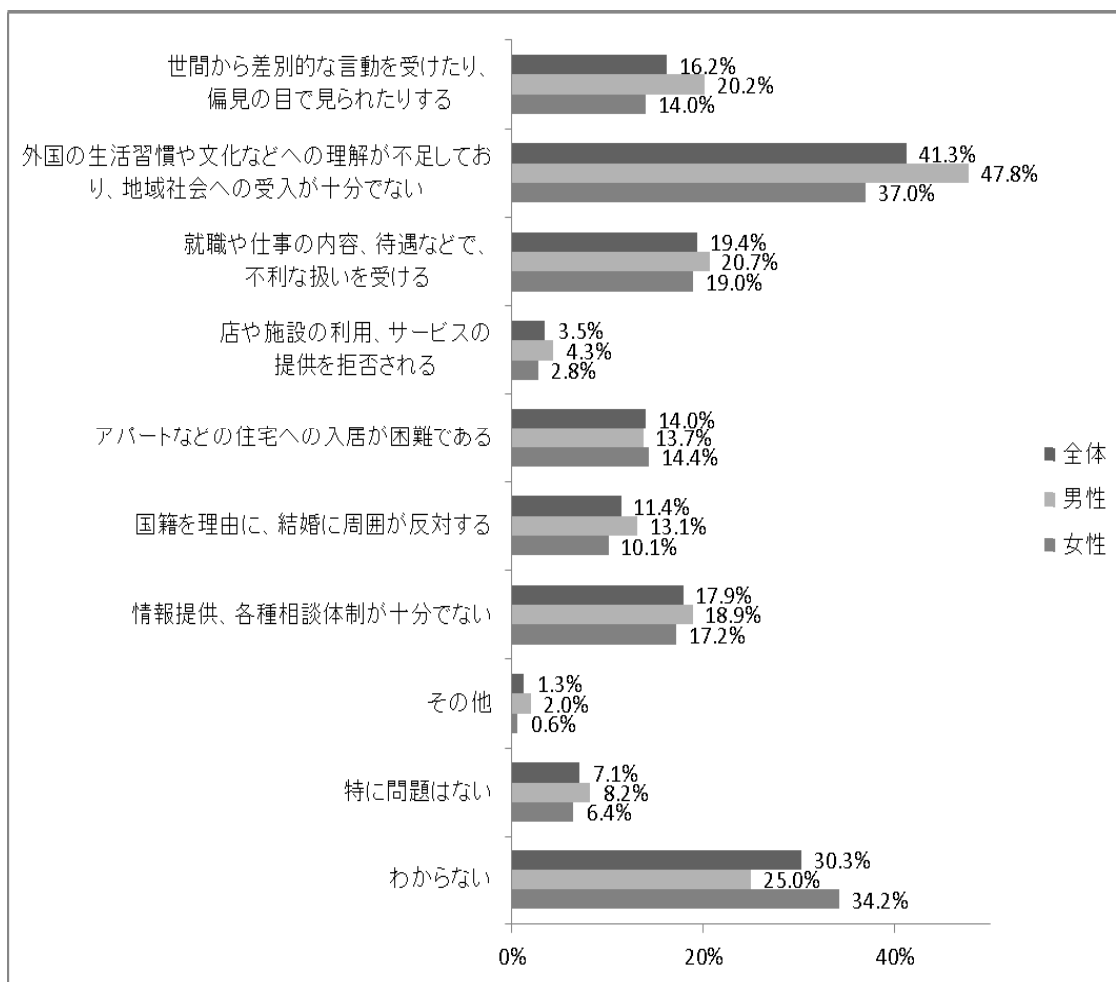


図 14-1 は、外国人に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会への受入が十分でない」と回答した人が全体で 41.3%と最も高く、次いで「わからない」30.3%、「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受ける」19.4%となっている。

性別では、「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会への受入が十分でない」と回答した人は、男性 47.8%、女性 37.0%となっている。

また、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、男性 20.2%、女性 14.0%となっている。

図 14-2. 外国人の人権問題について一年齢別

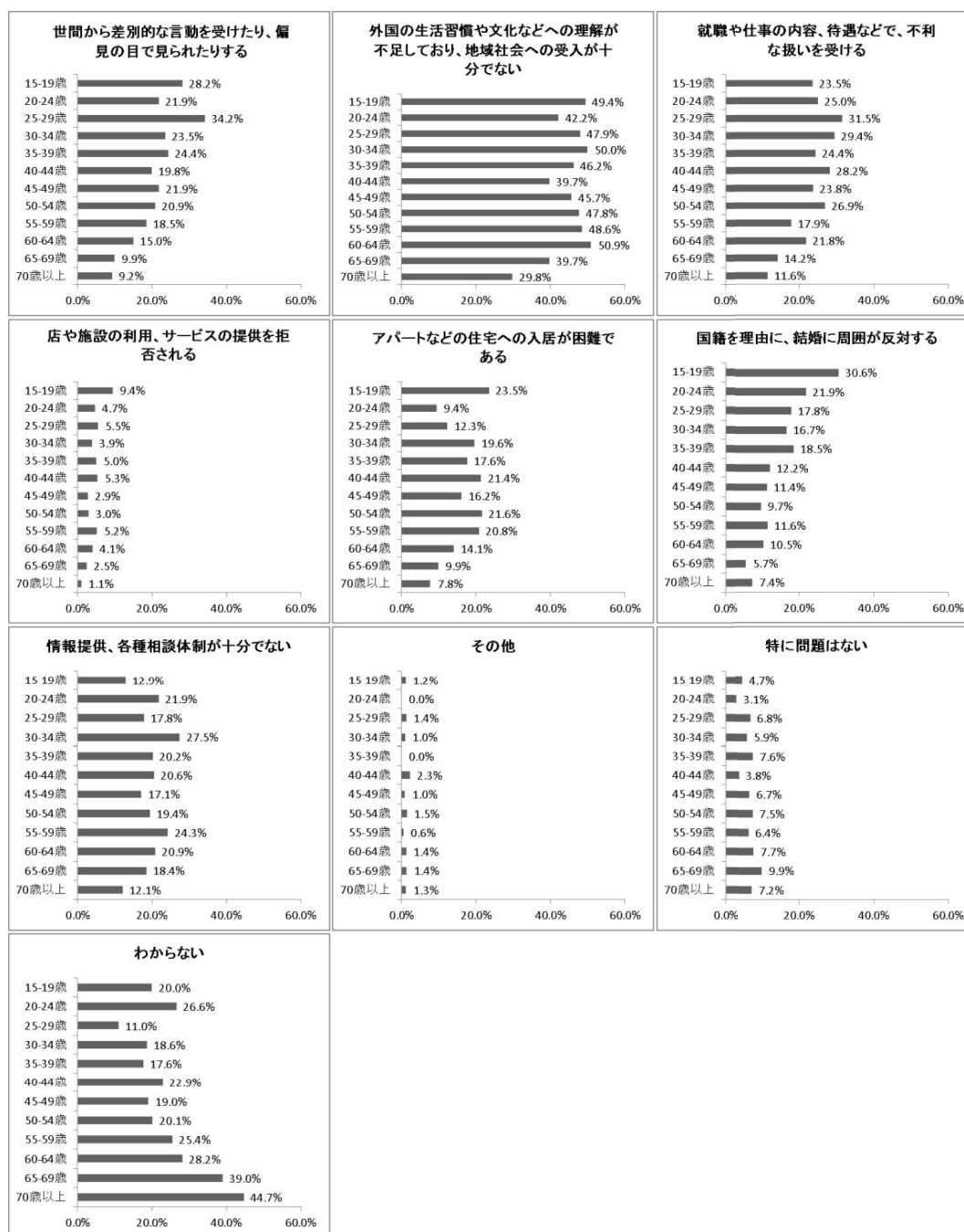


図 14-2 は、外国人に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「外国の生活習慣や文化などへの理解が不足しており、地域社会への受入が十分でない」と回答した人は、「30～34 歳」と「60～64 歳」の年代で 50%を超えている。

「就職や仕事の内容、待遇などで、不利な扱いを受ける」と回答した人は、「25～29 歳」で 31.5%と最も高く、次いで「30～34 歳」29.4%、「40～44 歳」28.2%となっている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」で 44.7%と最も高く、次いで「65～69 歳」39.0%、「60～64 歳」28.2%となっている。

9 個人のプライバシーの保護について

問 15 あなたは個人のプライバシーに関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 15-1. 個人のプライバシーの保護について—全体・性別

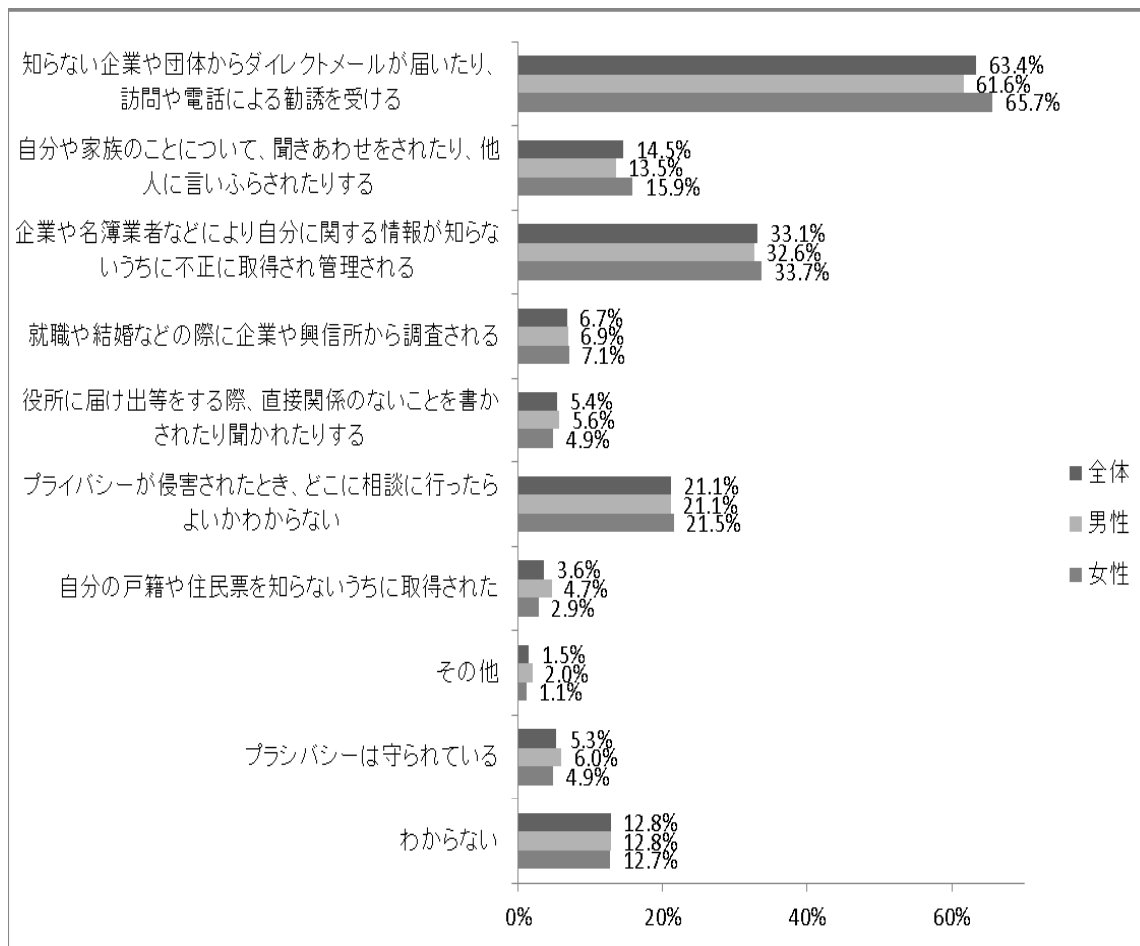


図 15-1 は、個人のプライバシーに関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受ける」と回答した人が全体で 63.4%と最も高く、次いで「企業や名簿業者などにより自分に関する情報が知らないうちに不正に取得され管理される」33.1%、「プライバシーが侵害されたとき、どこに相談に行ったらよいかわからない」21.1%となっている。

性別では、「知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受ける」と回答した人は、男性 61.6%、女性 65.7%となっている。

また、「企業や名簿業者などにより自分に関する情報が知らないうちに不正に取得され管理される」と回答した人は、男性 32.6%、女性 33.7%となっている。

図 15-2. 個人のプライバシーの保護について—年齢別

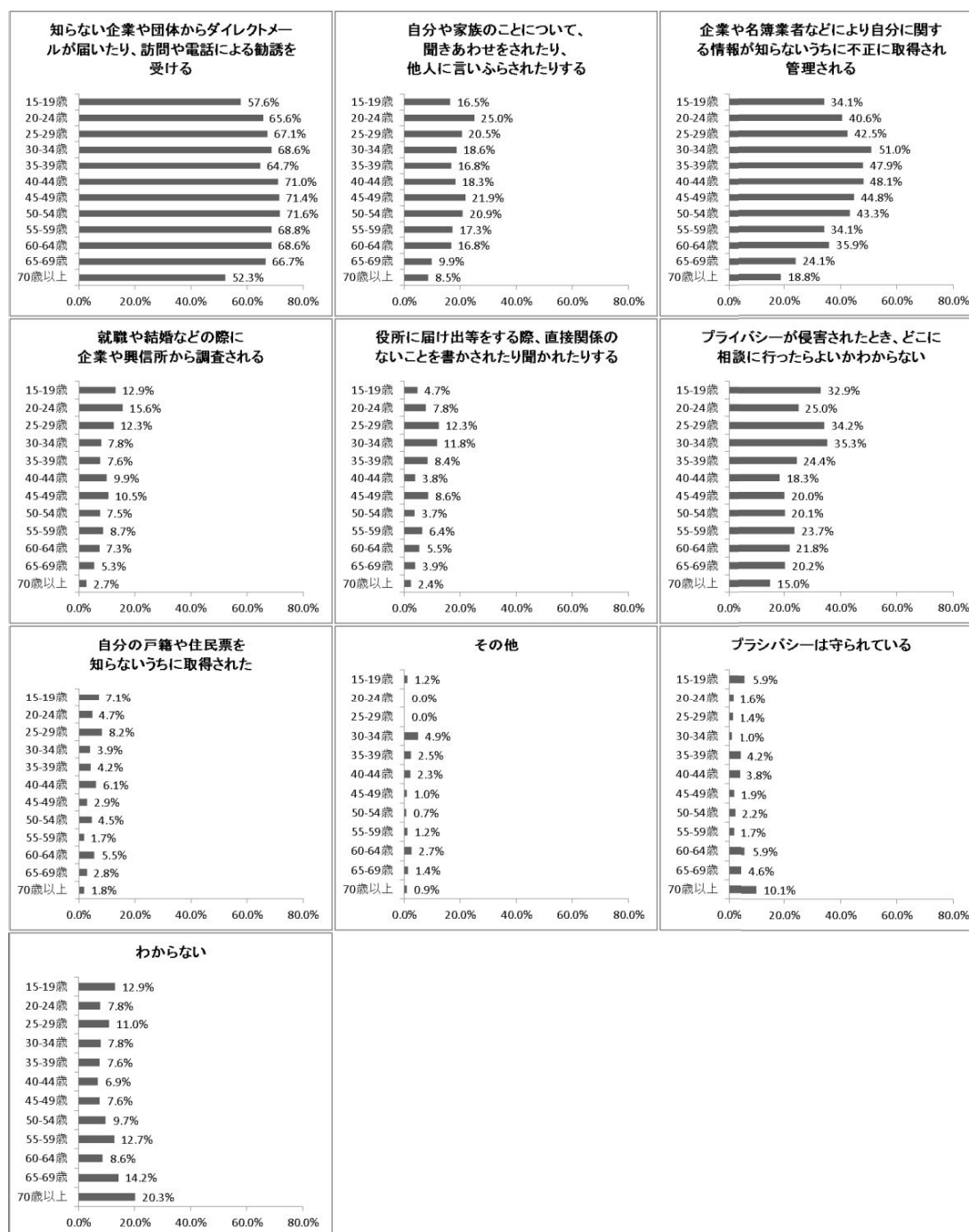


図 15-2 は、個人のプライバシーに関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「知らない企業や団体からダイレクトメールが届いたり、訪問や電話による勧誘を受ける」と回答した人は、すべての年代で 50% を超えている。

また、「企業や名簿業者などにより自分に関する情報が知らないうちに不正に取得され管理される」と回答した人は、「30～34 歳」で 51.0% と最も高く、次いで「40～44 歳」48.1%、「35～39 歳」47.9% となっている。

10 病気にかかわる人の人権問題について

問16 あなたは病気にかかわる人に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 16-1. 病気にかかわる人の人権問題について—全体・性別

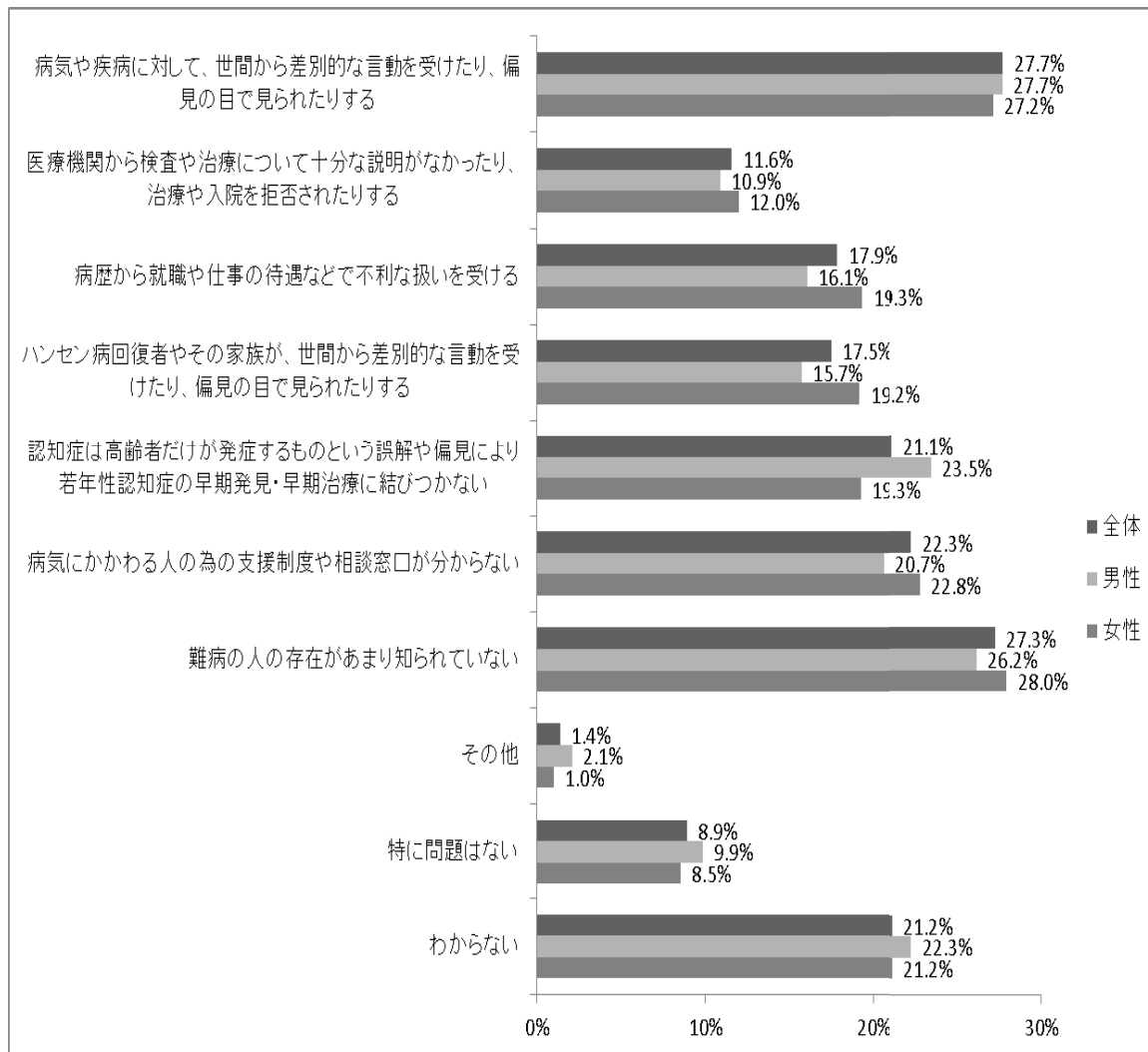


図 16-1 は、病気にかかわる人の人権上の問題についての意識をみたものである。

「病気や疾病に対して、世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人が全体で 27.7%と最も高く、次いで「難病の人の存在があまり知られていない」27.3%、「病気にかかわる人の為の支援制度や相談窓口が分からない」22.3%となっている。

性別では、「ハンセン病回復者やその家族が、世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、男性 15.7%、女性 19.2%となっている。

また、「認知症は高齢者だけが発症するものという誤解や偏見により若年性認知症の早期発見・早期治療に結びつかない」と回答した人は、男性 23.5%、女性 19.3%となっている。

図 16-2. 病気にかかわる人の人権問題について一年齢別

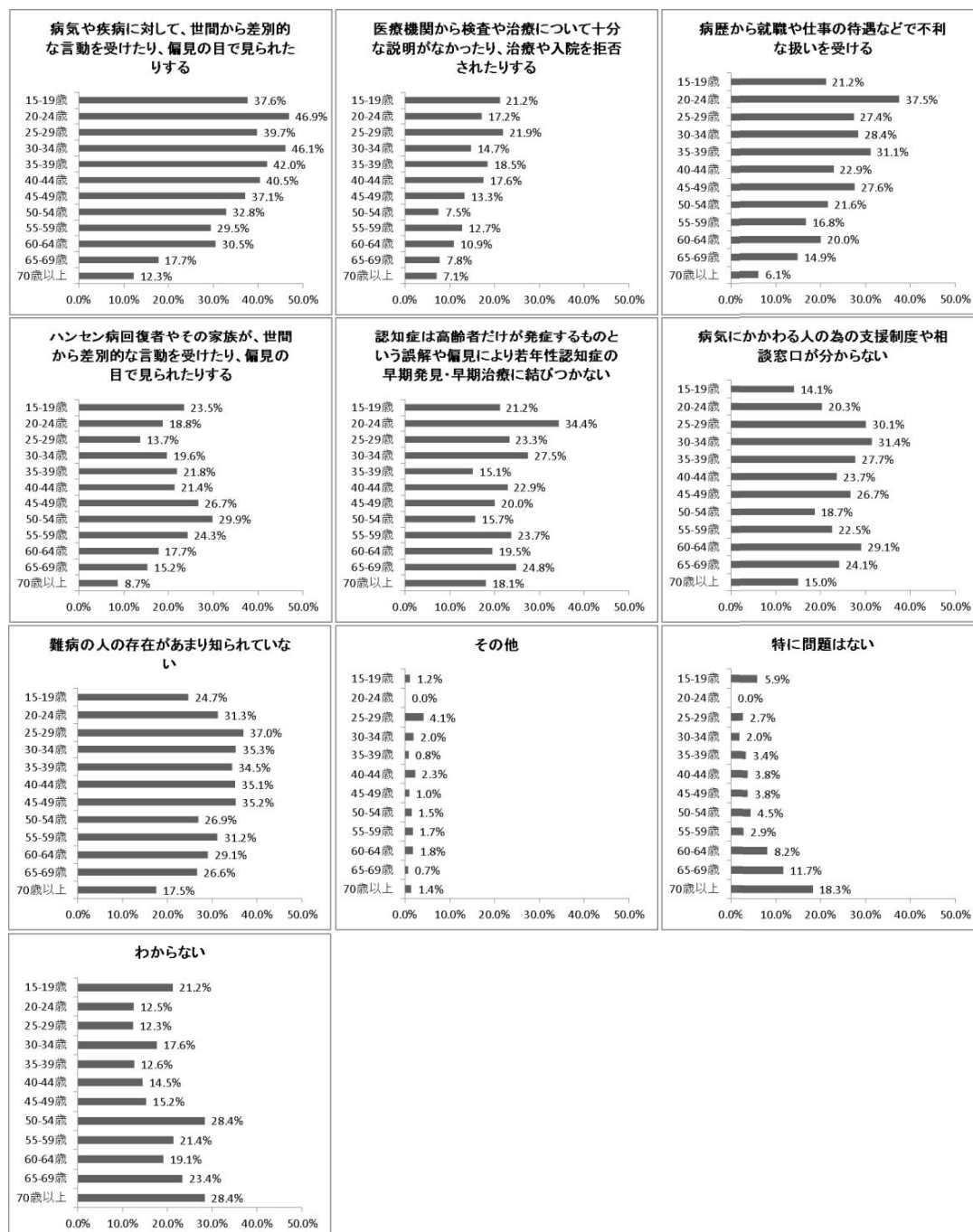


図 16-2 は、病気にかかわる人の人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「病気や疾病に対して、世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、「20～24 歳」で 46.9%と最も高く、次いで「30～34 歳」46.1%、「35～39 歳」42.0%となっている。

また、「難病の人の存在があまり知られていない」と回答した人は、「25～29 歳」で 37.0%と最も高く、次いで「30～34 歳」35.3%、「45～49 歳」35.2%となっている。

「病歴から就職や仕事の待遇などで不利な扱いを受ける」と回答した人は、「20～24 歳」で 37.5%と最も高く、次いで「35～39 歳」31.1%、「30～34 歳」28.4%となっている。

11 刑を終えて出所した人の人権問題について

問17 あなたは刑を終えて出所した人に関する人権上の問題について、特に問題になっているのは、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 17-1. 刑を終えて出所した人の人権問題について—全体・性別

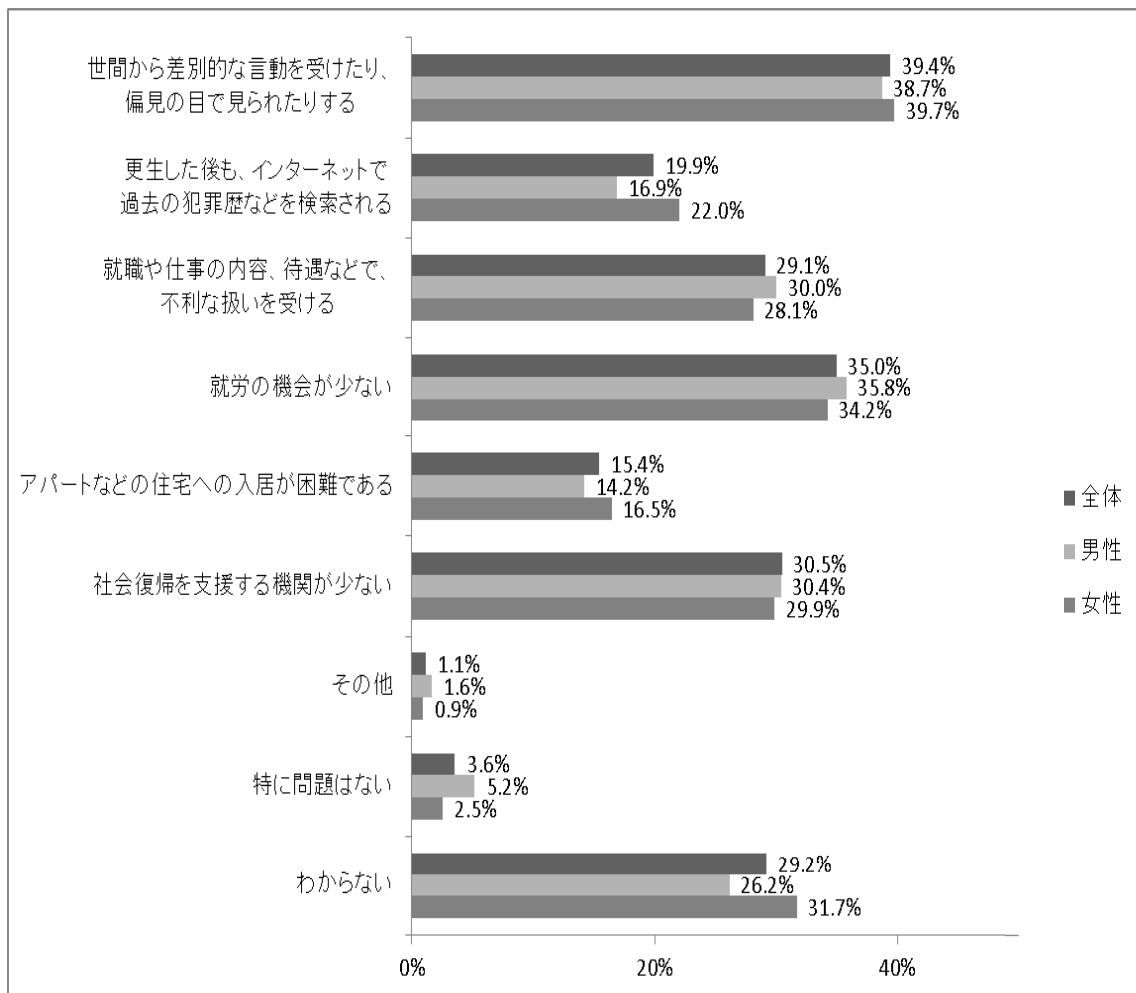


図 17-1 は、刑を終えて出所した人の人権上の問題についての意識をみたものである。

「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人が全体で 39.4%と最も高く、次いで「就労の機会が少ない」 35.0%、「社会復帰を支援する機関が少ない」 30.5%となっている。

性別では、「更生した後も、インターネットで過去の犯罪歴などを検索される」と回答した人は、男性 16.9%、女性 22.0%となっている。

また、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、男性 38.7%、女性 39.7%となっている。

「就労の機会が少ない」と回答した人は、男性 35.8%、女性 34.2%となっている。

図 17-2. 刑を終えて出所した人の人権問題について一年齢別

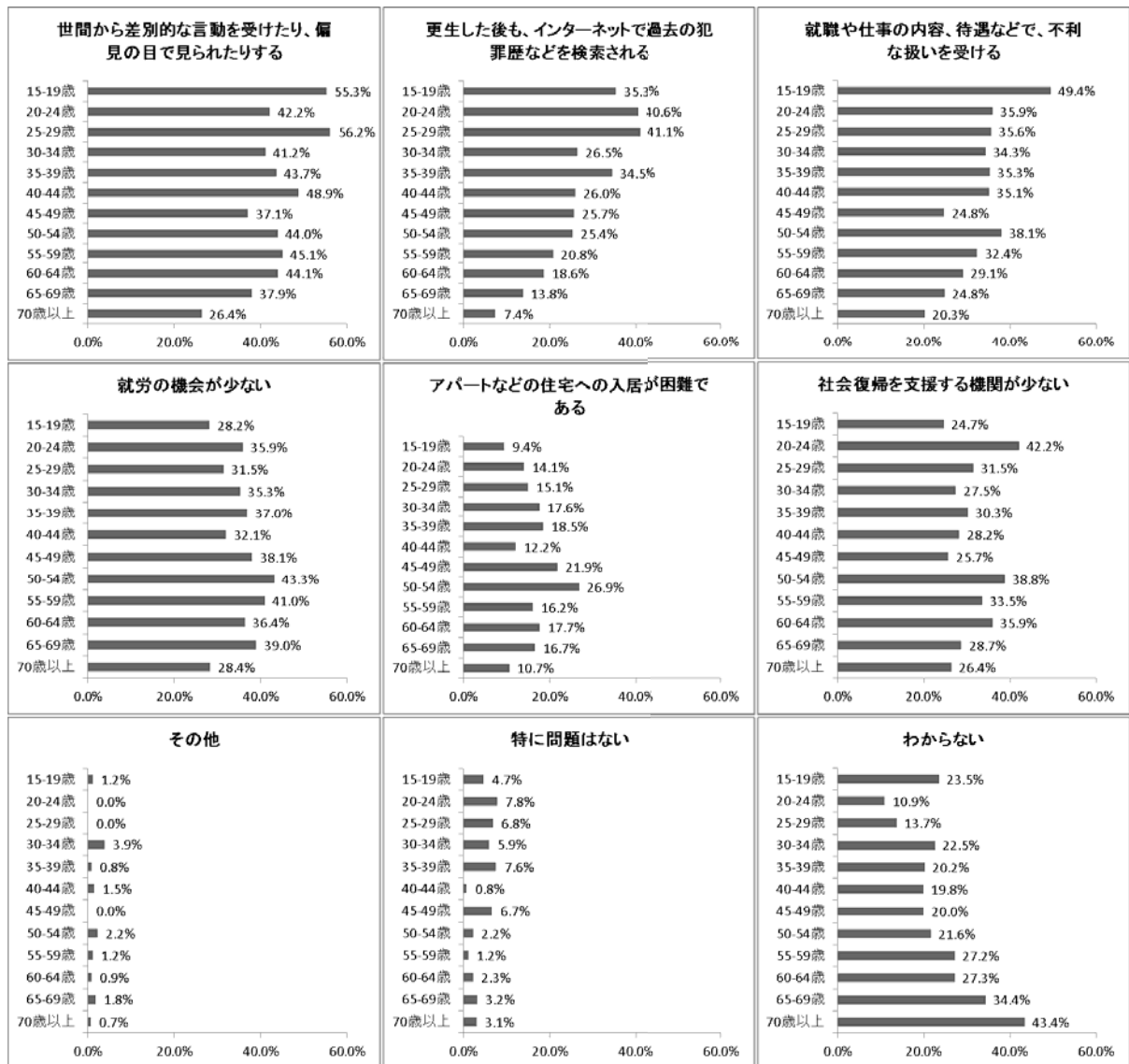


図 17-2 は、刑を終えて出所した人の人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、「25～29 歳」で 56.2%と最も高く、次いで「15～19 歳」55.3%、「40～44 歳」48.9%となっている。

また、「就労の機会が少ない」と回答した人は、「50～54 歳」で 43.3%と最も高く、次いで「55～59 歳」41.0%、「65～69 歳」39.0%となっている。

「社会復帰を支援する機関が少ない」と回答した人は、「20～24 歳」42.2%と最も高く、次いで「50～54 歳」38.8%、「60～64 歳」35.9%となっている。

12 アイヌの人々の人権問題について

問18 あなたはアイヌの人々に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 18-1. アイヌの人々の人権問題について—全体・性別

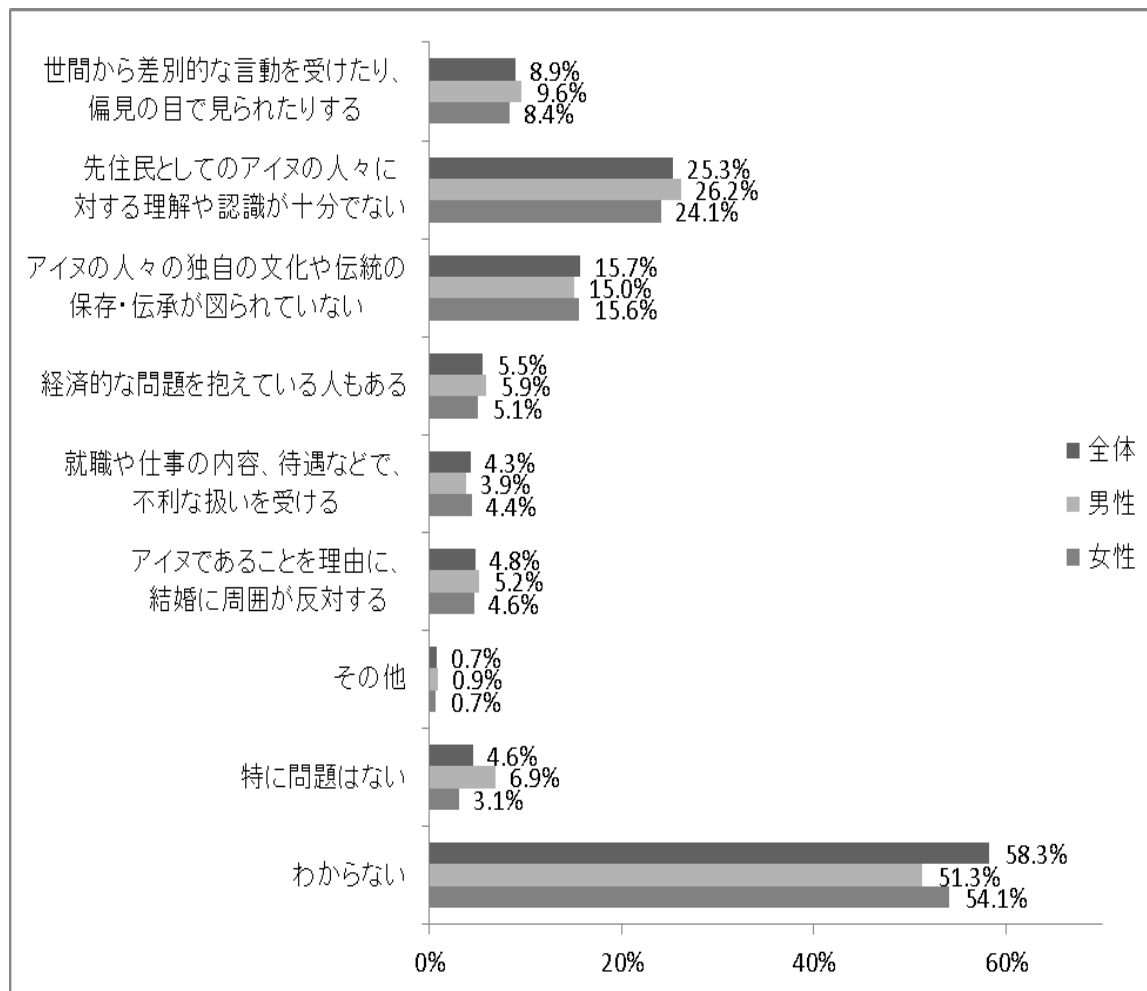


図 18-1 は、アイヌの人々に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「わからない」と回答した人が全体で 58.3% と最も高く、次いで、「先住民としてのアイヌの人々に対する理解や認識が十分でない」 25.3%、「アイヌの人々の独自の文化や伝統の保存・伝承が図られていない」 15.7% となっている。

性別では、「わからない」と回答した人は、男性 51.3%、女性 54.1% となっている。

また、「先住民としてのアイヌの人々に対する理解や認識が十分でない」と回答した人は、男性 26.2%、女性 24.1% となっている。

「アイヌの人々の独自の文化や伝統の保存・伝承が図られていない」と回答した人は、男性 15.0%、女性 15.6% となっている。

図 18-2. アイヌの人々の人権問題について—年齢別

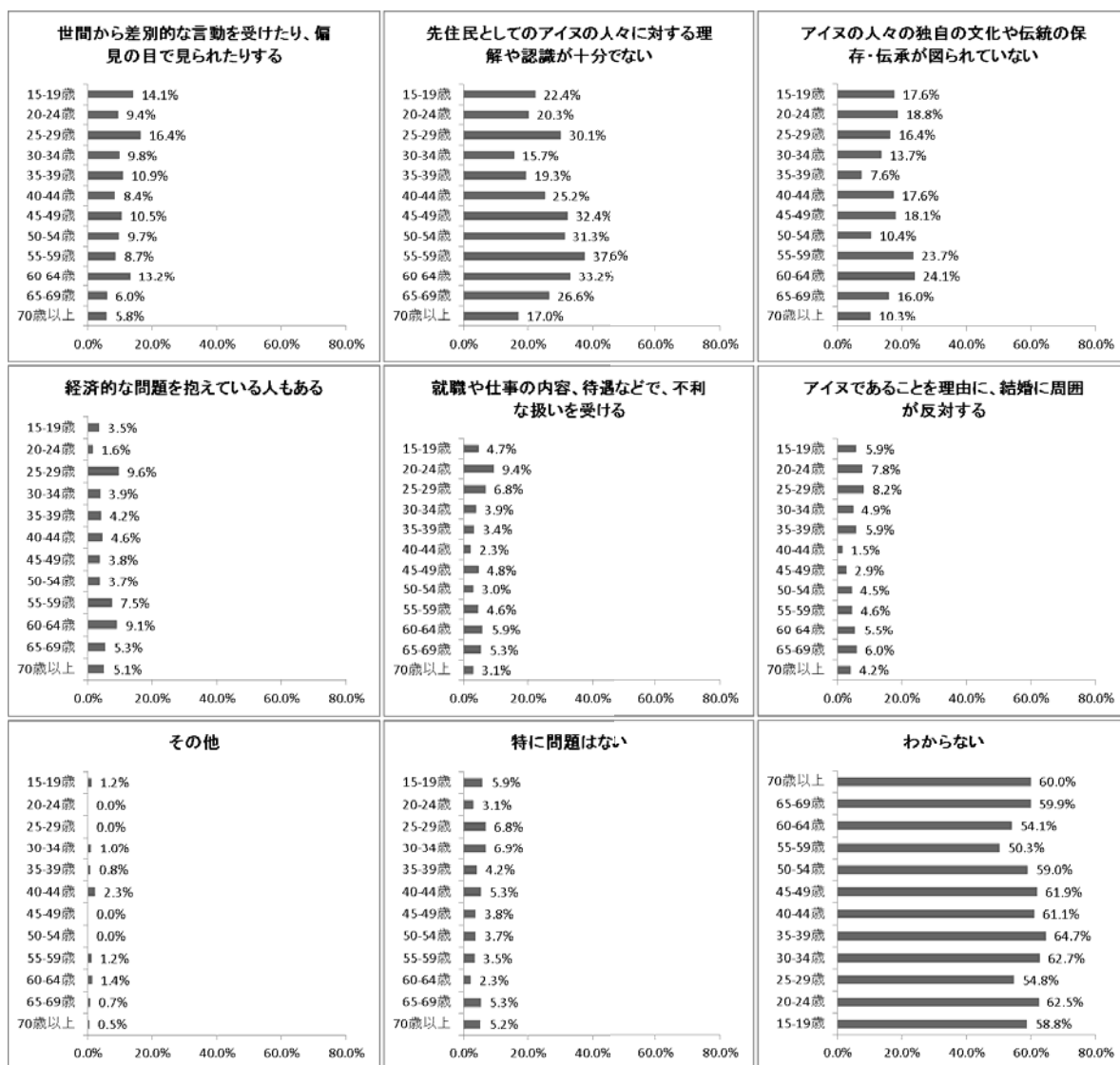


図 18-2 は、アイヌの人々に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「わからない」と回答した人は、すべての年代で 50%を超えている。

また、「先住民としてのアイヌの人々に対する理解や認識が十分でない」と回答している人は、「55～59 歳」37.6%と最も高く、次いで「60～64 歳」33.2%、「45～49 歳」32.4%となっている。

13 犯罪被害者やその家族の人権問題について

問19 あなたは犯罪被害者やその家族に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図19-1. 犯罪被害者やその家族の人権問題について—全体・性別

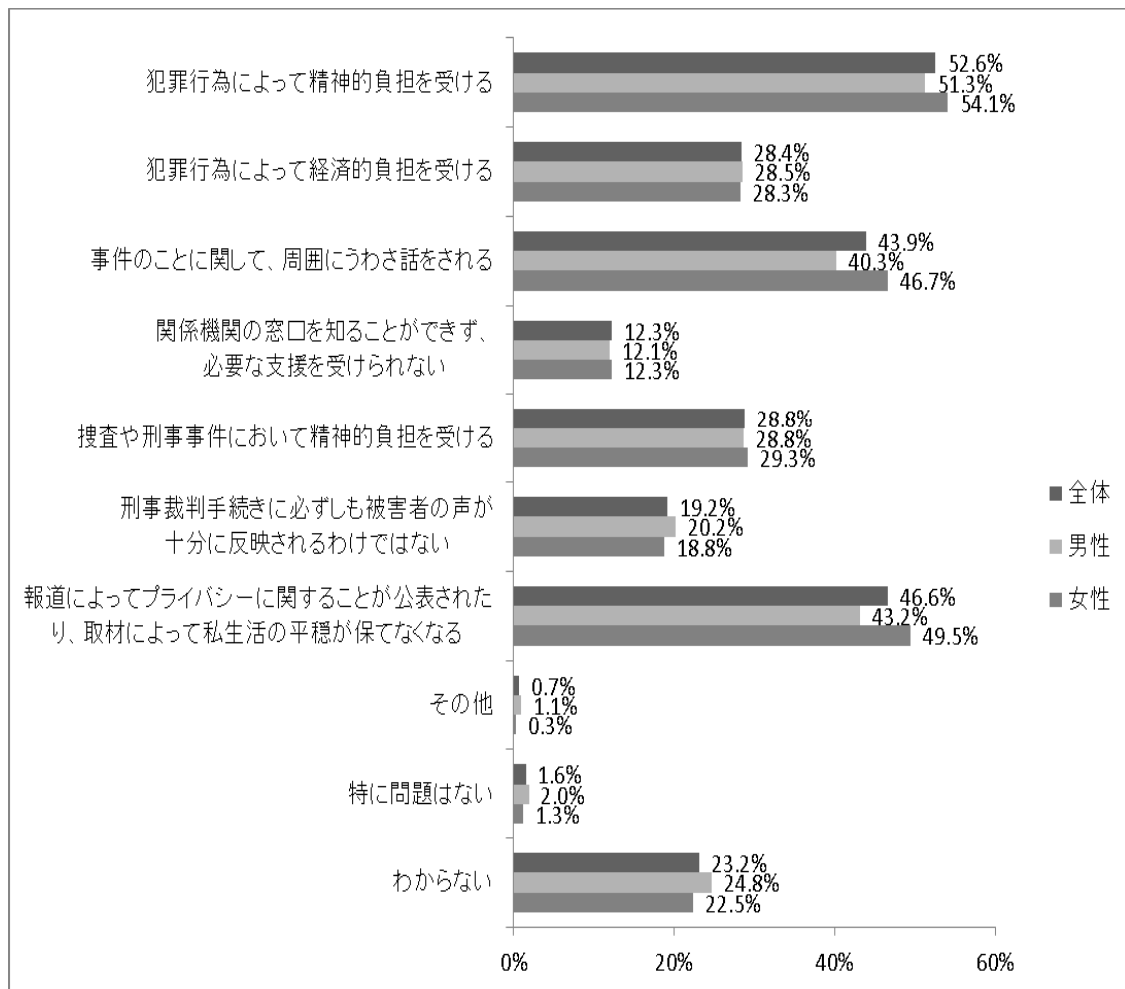


図19-1は、犯罪被害者やその家族に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「犯罪行為によって精神的負担を受ける」と回答した人が全体で52.6%と最も高く、次いで「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」46.6%、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされる」43.9%となっている。

性別では、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」と回答した人は、男性43.2%、女性49.5%となっている。

また、「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされる」と回答した人は、男性40.3%、女性46.7%となっている。

図 19-2. 犯罪被害者やその家族の人権問題について一年齢別

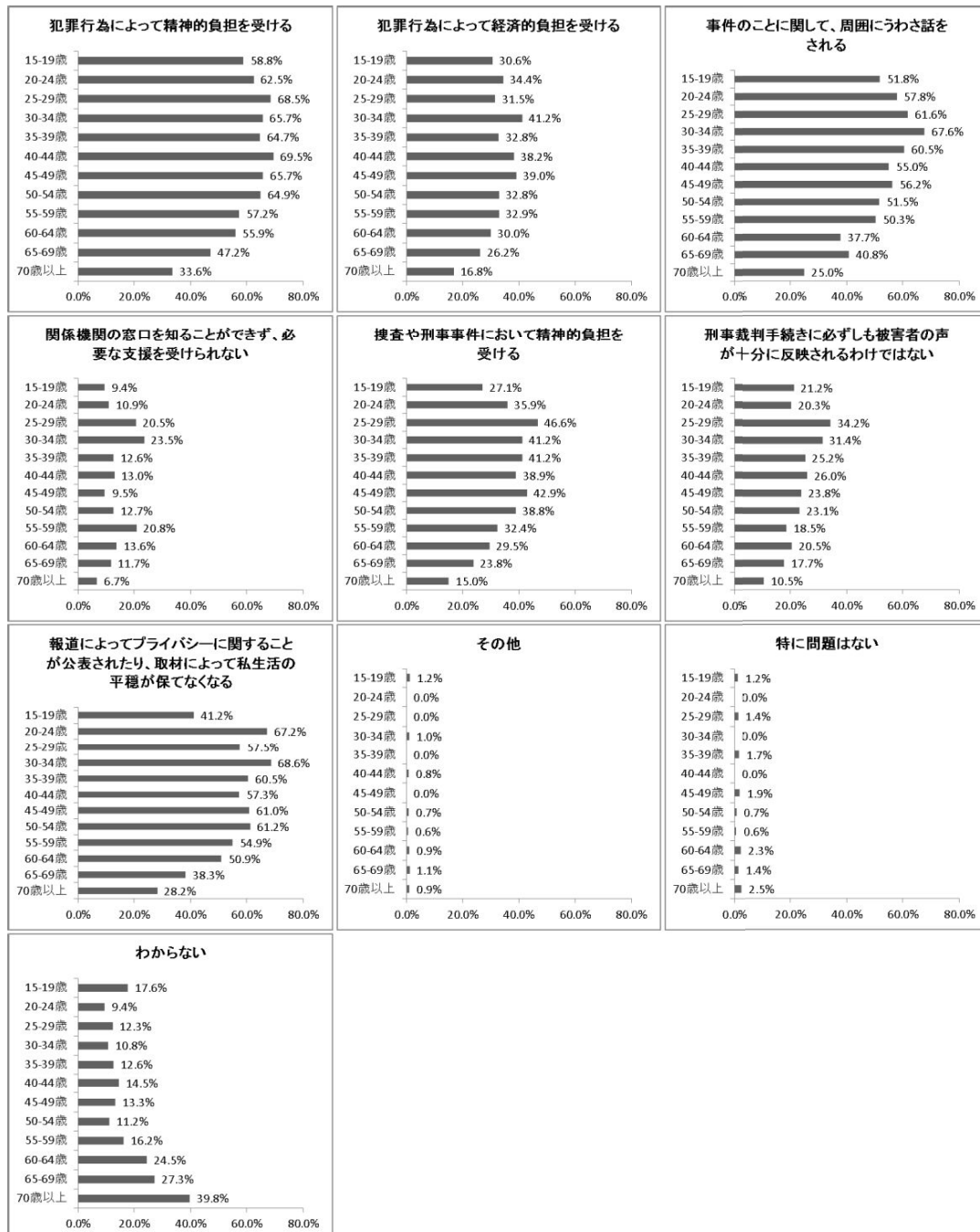


図 19-2 は、犯罪被害者やその家族に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「犯罪行為によって精神的負担を受ける」と回答した人は、「15～64 歳」の年代で 50%を超えている。

また、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなる」と回答した人は、「20～64 歳」の年代で 50%を超えている。

「事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされる」と回答した人は、「15～59 歳」の年代で 50%を超えている。

14 性的マイノリティの人権問題について

問20 あなたはLGBTなどの性的マイノリティに関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 20-1. 性的マイノリティの人権問題について—全体・性別

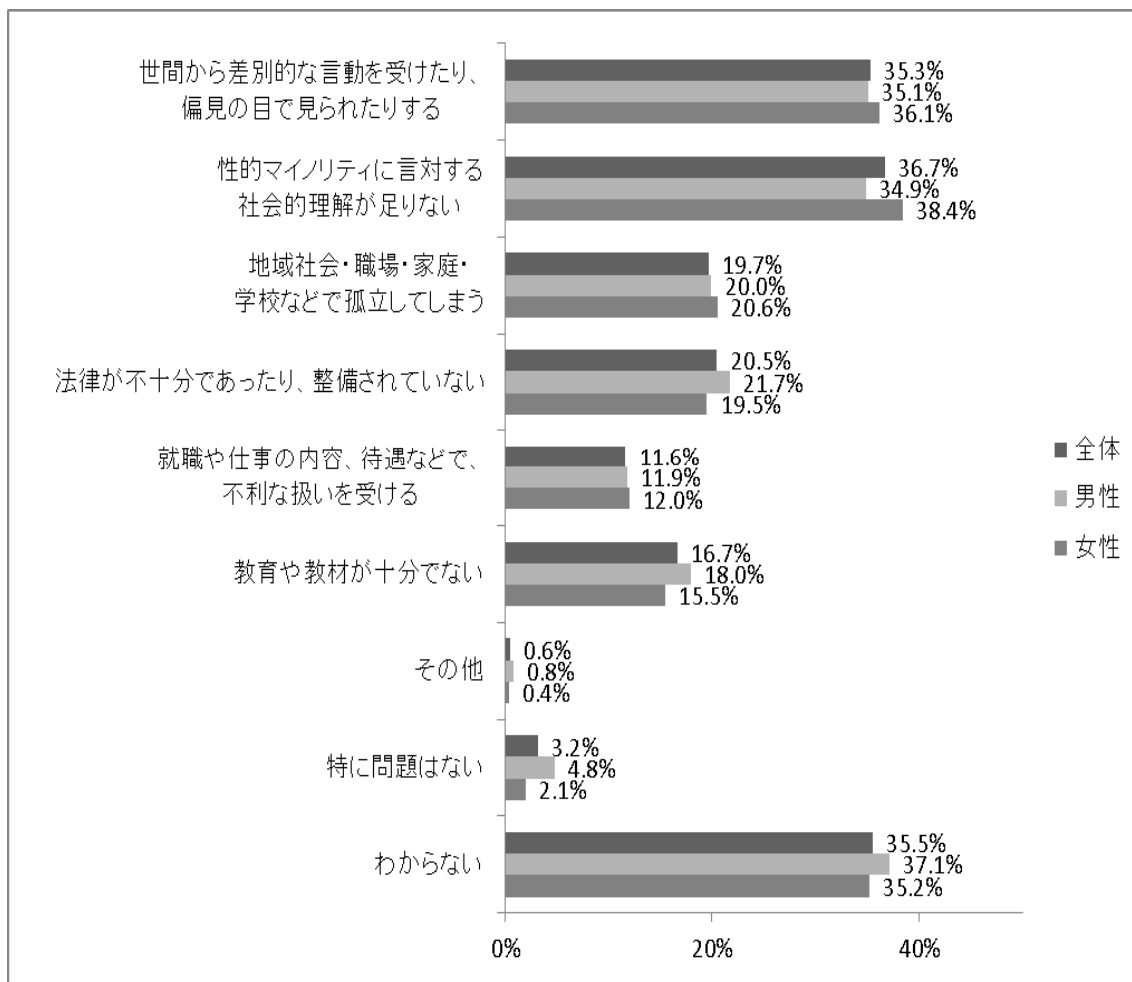


図 20-1 は、LGBTなどの性的マイノリティに関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「性的マイノリティに対する社会的理解が足りない」と回答した人が全体で 36.7%と最も高く、次いで「わからない」35.5%、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」35.3%となっている。

性別では、「性的マイノリティに対する社会的理解が足りない」と回答した人は、男性 34.9%、女性 38.4%となっている。

また、「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、男性 35.1%、女性 36.1%となっている。

「わからない」と回答した人は、男性 37.1%、女性 35.2%となっている。

図 20-2. 性的マイノリティの人権問題について一年齢別

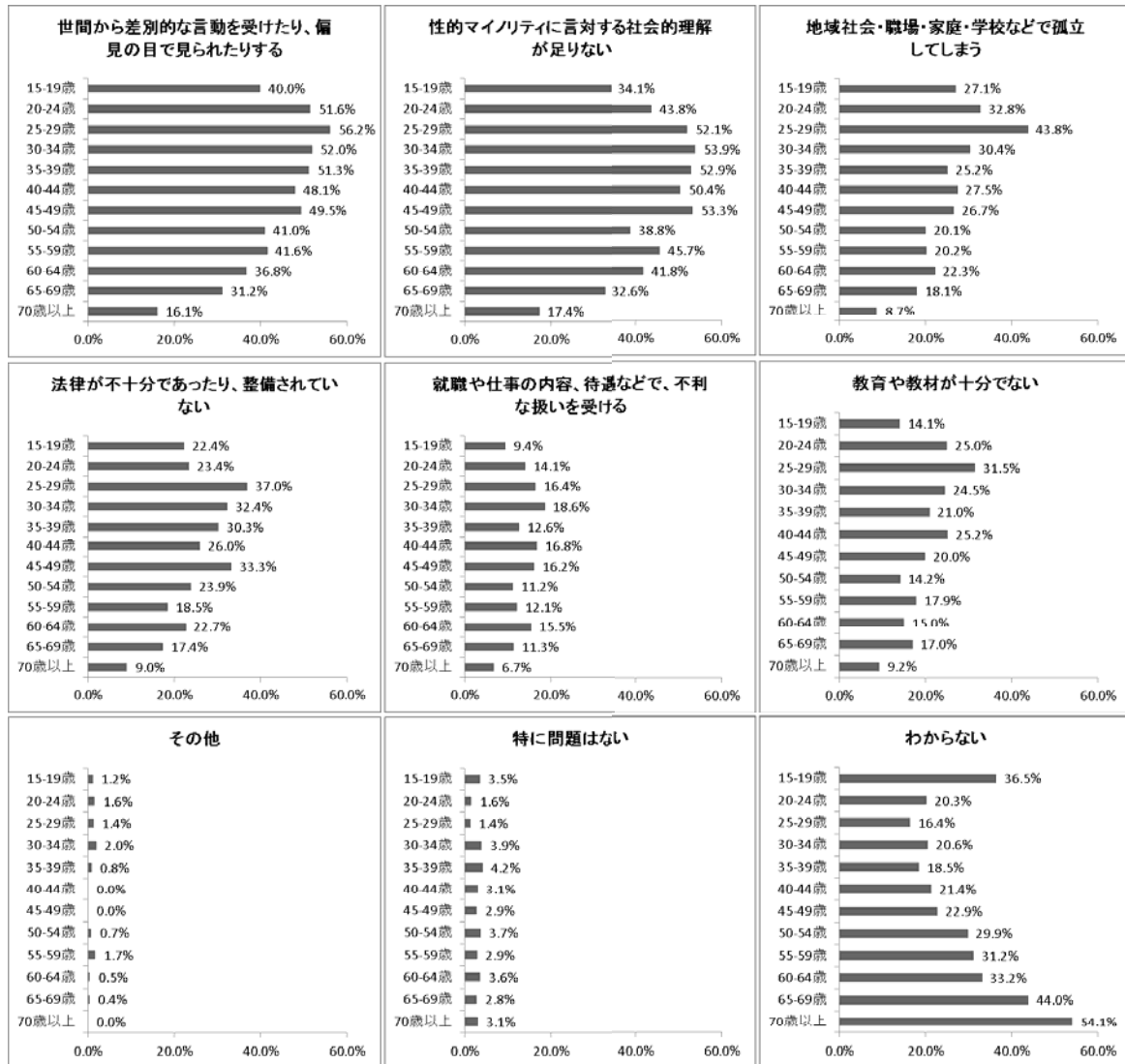


図 20-2 は、L G B Tなどの性的マイノリティに関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「世間から差別的な言動を受けたり、偏見の目で見られたりする」と回答した人は、「20～39 歳」の年代で 50%を超えている。

また、「性的マイノリティに対する社会的理解が足りない」と回答した人は、「25～49 歳」の年代で 50%を超えている。

「わからない」と回答した人は、「70 歳以上」54.1%と最も高く、次いで「65～69 歳」44.0%、「15～19 歳」36.5%となっている。

15 パワー・ハラスメントに関する人権問題について

問21 あなたは、次のうち、どのような行為や言動がパワー・ハラスメントだと思いますか。（〇はいくつでも）

図 21-1. パワー・ハラスメントについて—全体・性別

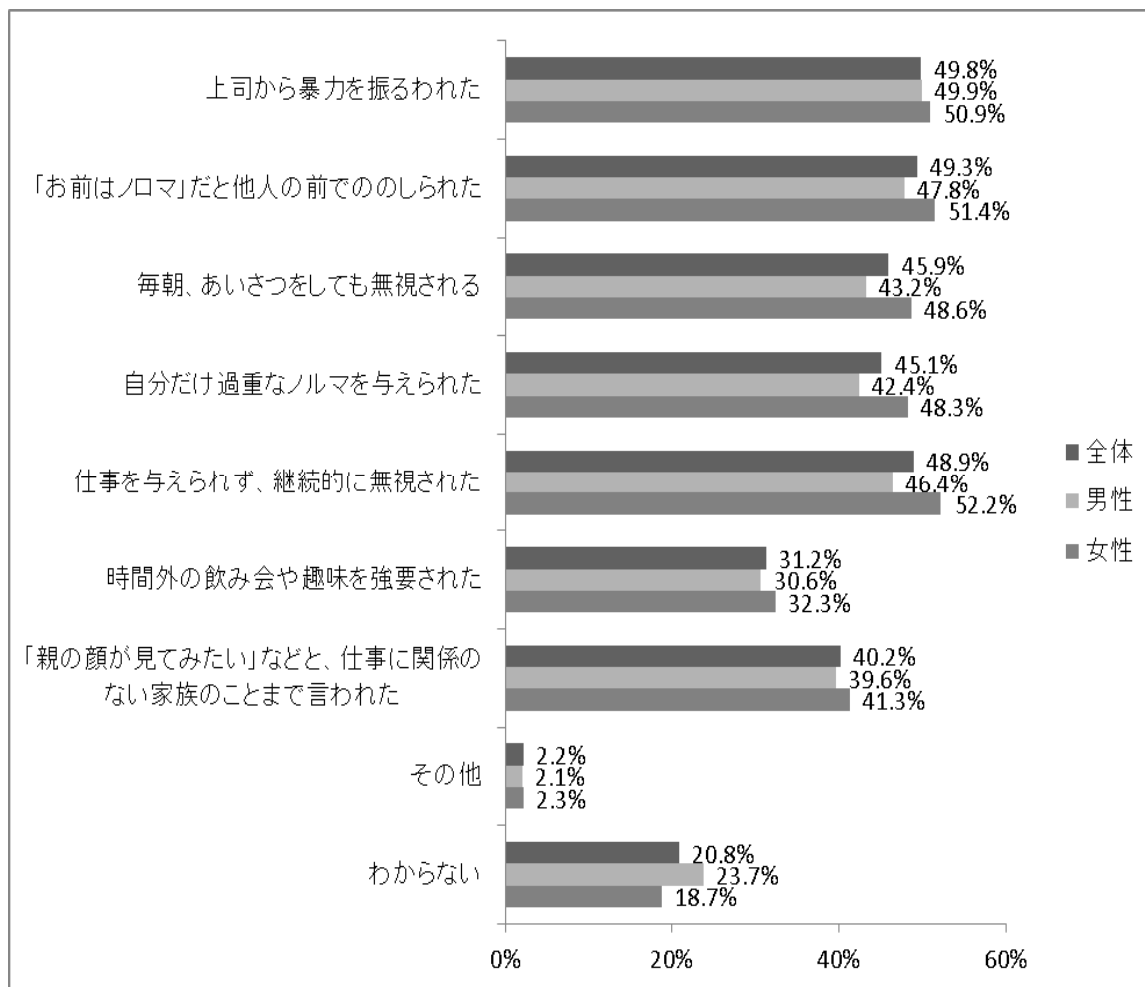


図 21-1 は、どのような行為がパワー・ハラスメントだと思うかについてみたものである。

「上司から暴力を振るわれた」と回答した人が全体で 49.8%と最も高く、次いで「「お前はノロマ」だと他人の前でののしられた」49.3%、「仕事を与えられず、継続的に無視された」48.9%となっている。

性別では、「自分だけ過重なノルマを与えられた」と回答した人は、男性 42.4%、女性 48.3%となっている。

また、「仕事を与えられず、継続的に無視された」と回答した人は、男性 46.4%、女性 52.2%となっている。

「「お前はノロマ」だと他人の前でののしられた」と回答した人は、男性 47.8%、女性 51.4%となっている。

図 21-2. パワー・ハラスメントについて一年齢別

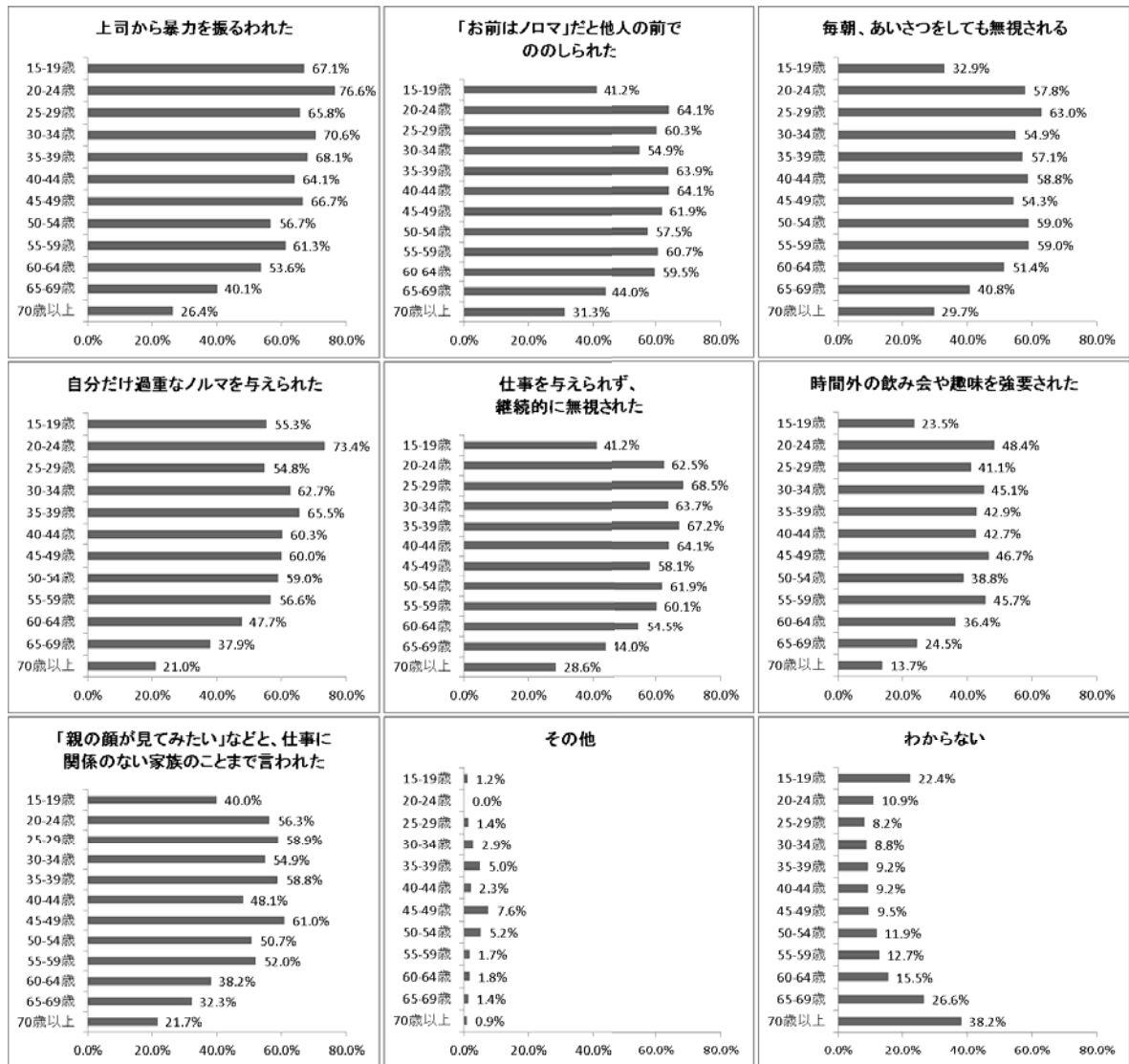


図 21-2 は、どのような行為がパワー・ハラスメントだと思うかについて年齢別にみたものである。

「上司から暴力を振るわれた」と回答した人は、「15～64 歳」の年代で 50%を超えている。

また、「自分だけ過重なノルマを与えられた」と回答した人は、「15～59 歳」の年代で 50%を超えている。

「仕事を与えられず、継続的に無視された」と回答した人は、「25～29 歳」68.5%と最も高く、次いで「35～39 歳」67.2%、「40～44 歳」64.1%となっている。

「「お前はノロマ」だと他人の前でののしられた」と回答した人は、「20～24 歳」と「40～44 歳」で 64.1%と最も高く、次いで「35～39 歳」63.9%となっている。

16 非正規雇用等による生活困難者の人権問題について

問22 あなたは非正規雇用等による生活困窮者（生活困難者）に関する人権上の問題について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。

（〇はいくつでも）

図 22-1. 非正規雇用等による生活困難者の人権問題について—全体・性別

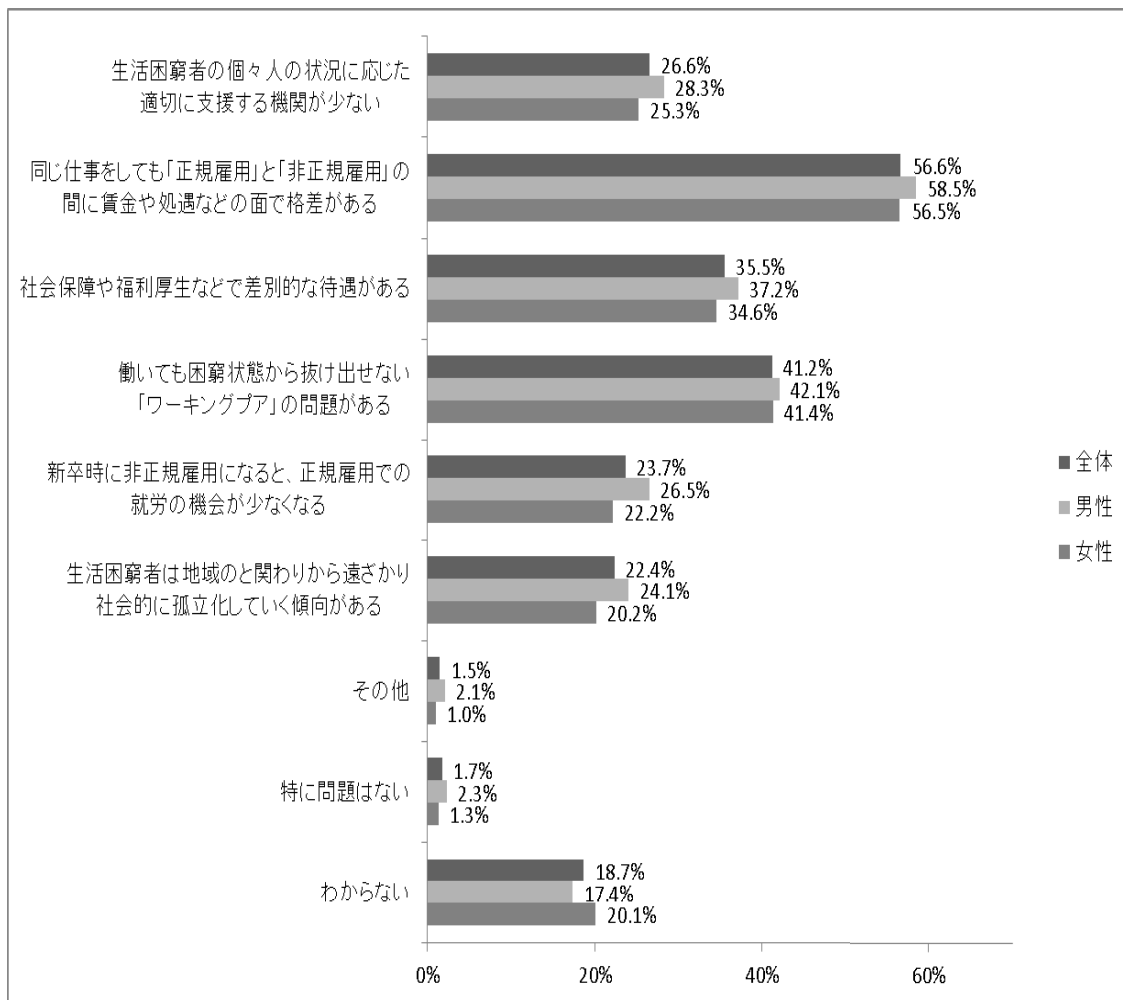


図 22-1 は、非正規雇用等による生活困窮者（生活困難者）に関する人権上の問題についての意識をみたものである。

「同じ仕事をしても「正規雇用」と「非正規雇用」の間に賃金や処遇などの面で格差がある」と回答した人が全体で 56.6%と最も高く、次いで「働いても困窮状態から抜け出せない「ワーキングプア」の問題がある」41.2%、「社会保障や福利厚生などで差別的な待遇がある」35.5%となっている。

性別では、「新卒時に非正規雇用になると、正規雇用での就労の機会が少なくなる」と回答した人は、男性 26.5%、女性 22.2%となっている。

また、「生活困窮者は地域との関わりから遠ざかり社会的に孤立化していく傾向がある」と回答した人は、男性 24.1%、女性 20.2%となっている。

図 22-2. 非正規雇用等による生活困窮者の人権問題について一年齢別

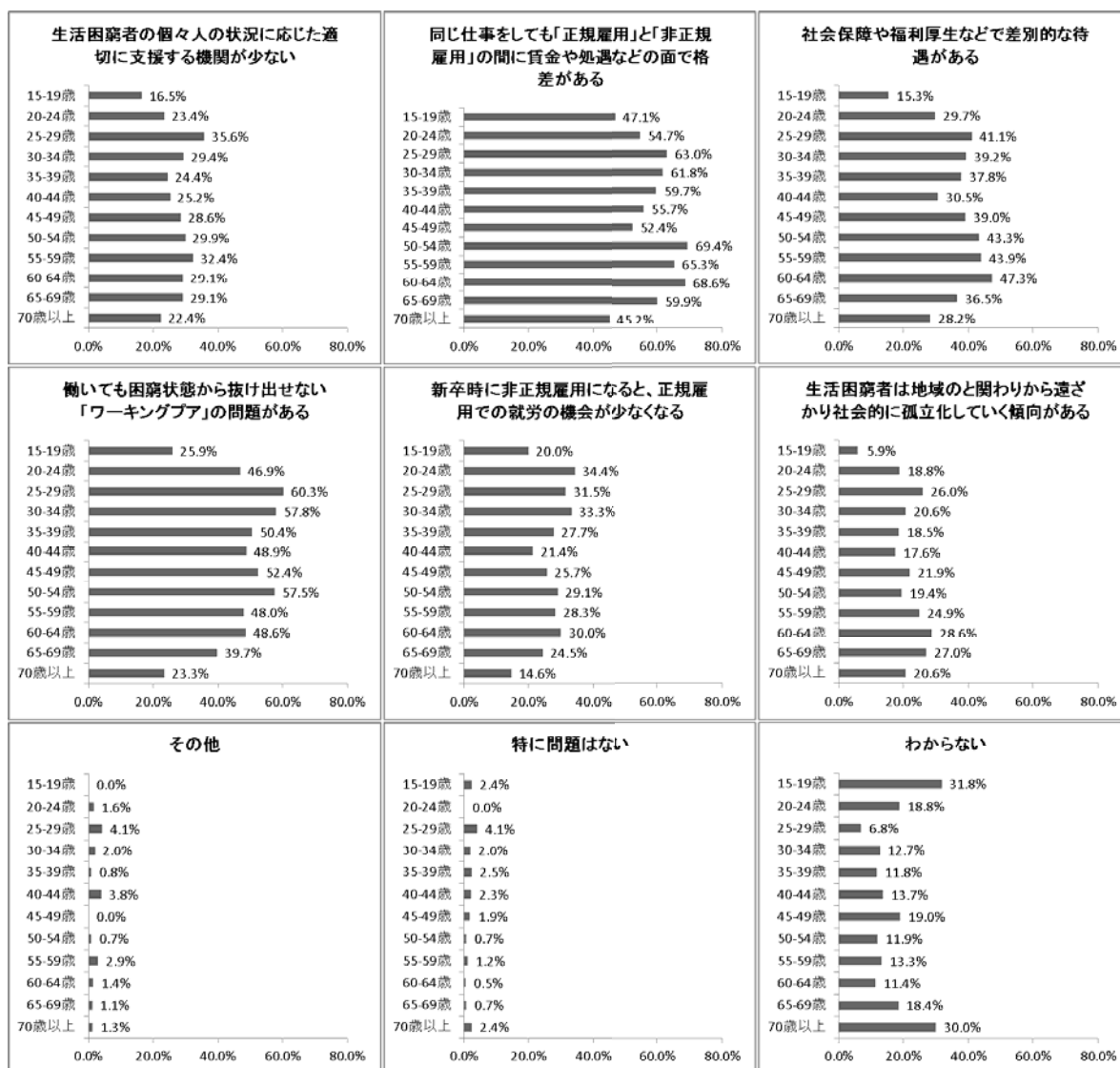


図 22-2 は、非正規雇用等による生活困窮者（生活困難者）に関する人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「同じ仕事をしていても「正規雇用」と「非正規雇用」の間に賃金や処遇などの面で格差がある」と回答した人は、「20～69 歳」の年代で 50%を超えている。

「働いても困窮状態から抜け出せない「ワーキングプア」の問題がある」と回答した人は、「25～29 歳」60.3%と最も高く、次いで「30～34 歳」57.8%、「50～54 歳」57.5%となっている。

17 インターネットにおける人権問題について

問23 インターネットを悪用した人権侵害について、特に問題となっているのはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

図 23-1. インターネットにおける人権問題について—全体・性別

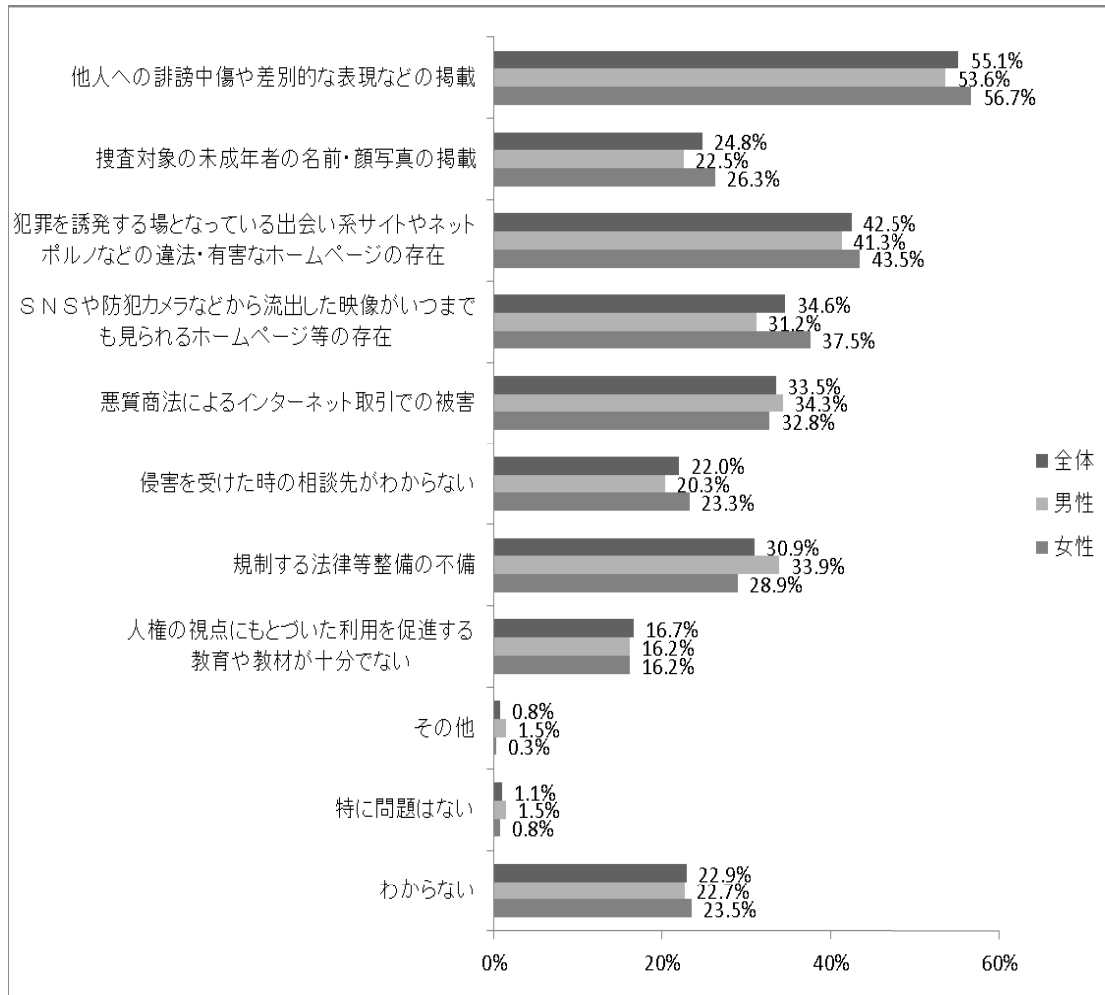


図 23-1 は、インターネットにおける人権上の問題についての意識をみたものである。

「他人への誹謗中傷や差別的な表現などの掲載」と回答した人が全体で 55.1%と最も高く、次いで「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトやネットポルノなどの違法・有害なホームページの存在」42.5%、「SNSや防犯カメラなどから流出した映像がいつまでも見られるホームページ等の存在」34.6%となっている。

性別では、「規制する法律等整備の不備」と回答した人は、男性 33.9%、女性 28.9%となっている。

また、「SNSや防犯カメラなどから流出した映像がいつまでも見られるホームページ等の存在」と回答した人は、男性 31.2%、女性 37.5%となっている。

図 23-2. インターネットにおける人権問題について一年齢別

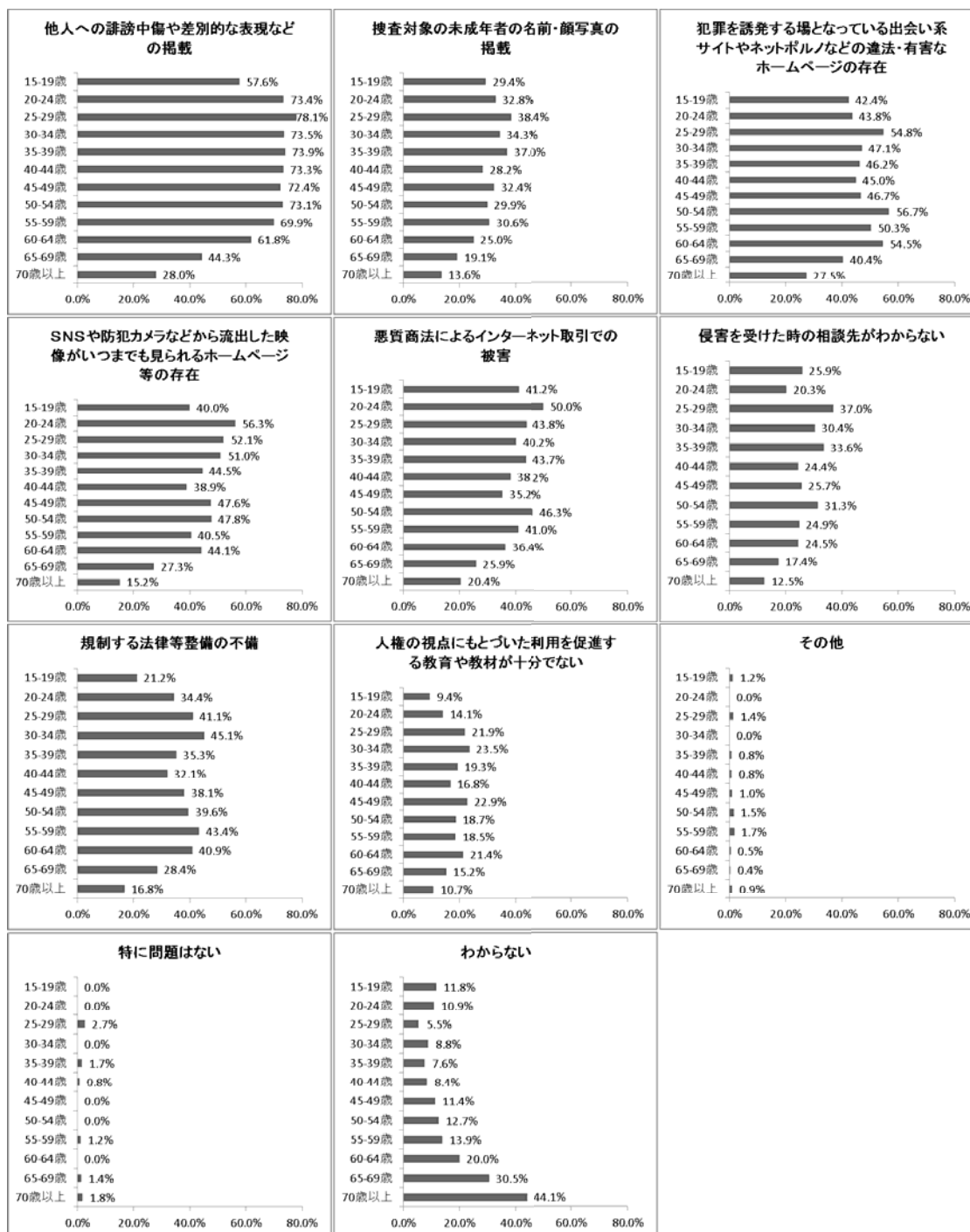


図 23-2 は、インターネットにおける人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「他人への誹謗中傷や差別的な表現などの掲載」と回答した人は、「15～64 歳」の年代で 50%を超えている。

また、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトやネットポルノなどの違法・有害なホームページの存在」と回答した人は、「50～54 歳」56.7%と最も高く、次いで「25～29 歳」54.8%、「60～64 歳」54.5%となっている。

18 災害時における人権問題について

問24 あなたは災害時における人権上の問題について、特に問題になっているのはどのようなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

図 24-1. 災害時における人権問題について—全体・性別

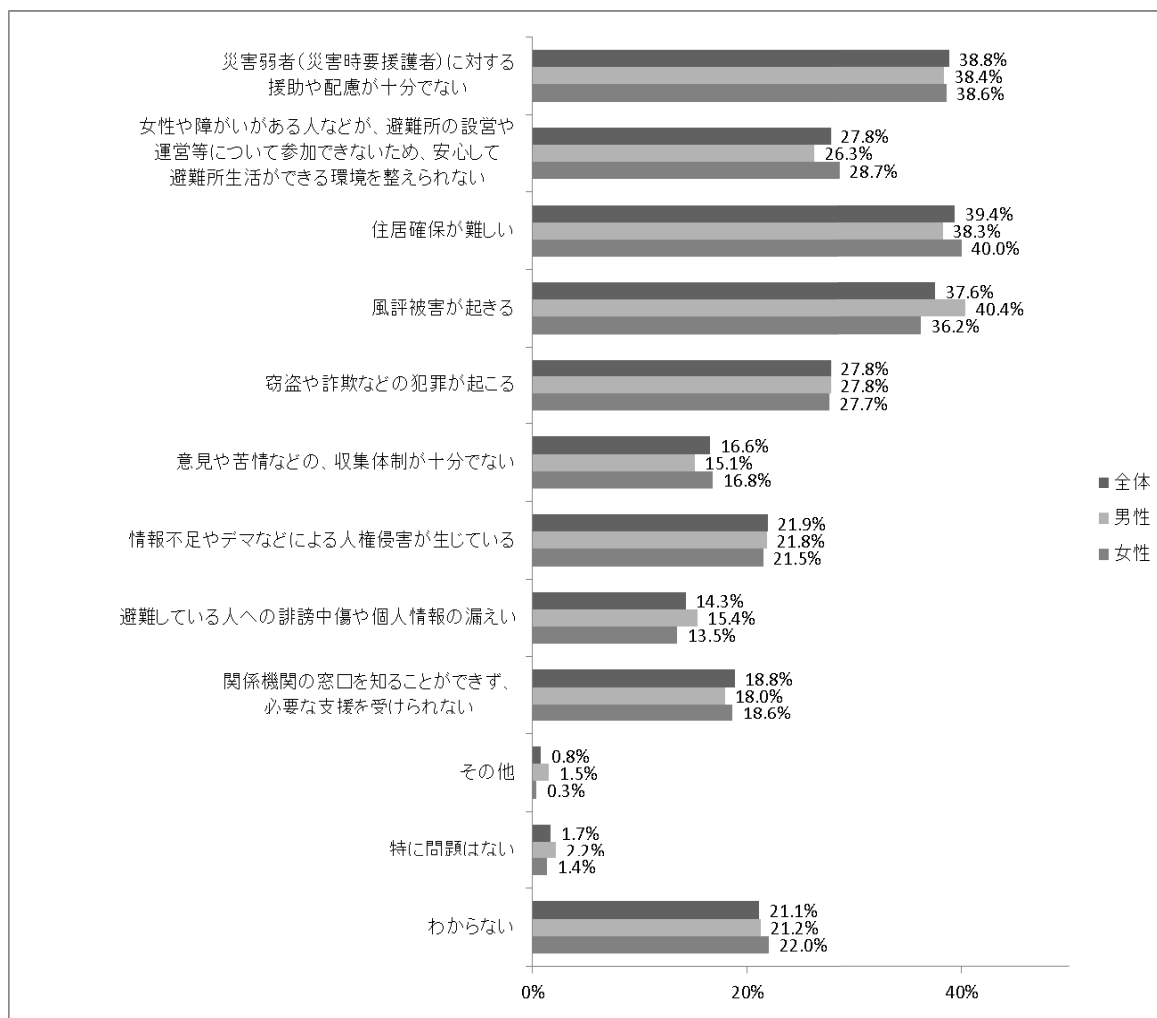


図 24-1 は、災害時における人権上の問題についての意識をみたものである。

「住居確保が難しい」と回答した人が全体で 39.4%と最も高く、次いで「災害弱者（災害時要援護者）に対する援助や配慮が十分でない」38.8%、「風評被害が起きる」37.6%となっている。

性別では、「風評被害が起きる」と回答した人は、男性 40.4%、女性 36.2%となっている。

また、「住居確保が難しい」と回答した人は、男性 38.3%、女性 40.0%となっている。

「災害弱者（災害時要援護者）に対する援助や配慮が十分でない」と回答した人は、男性 38.4%、女性 38.6%となっている。

図 24-2. 災害時における人権問題について一年齢別

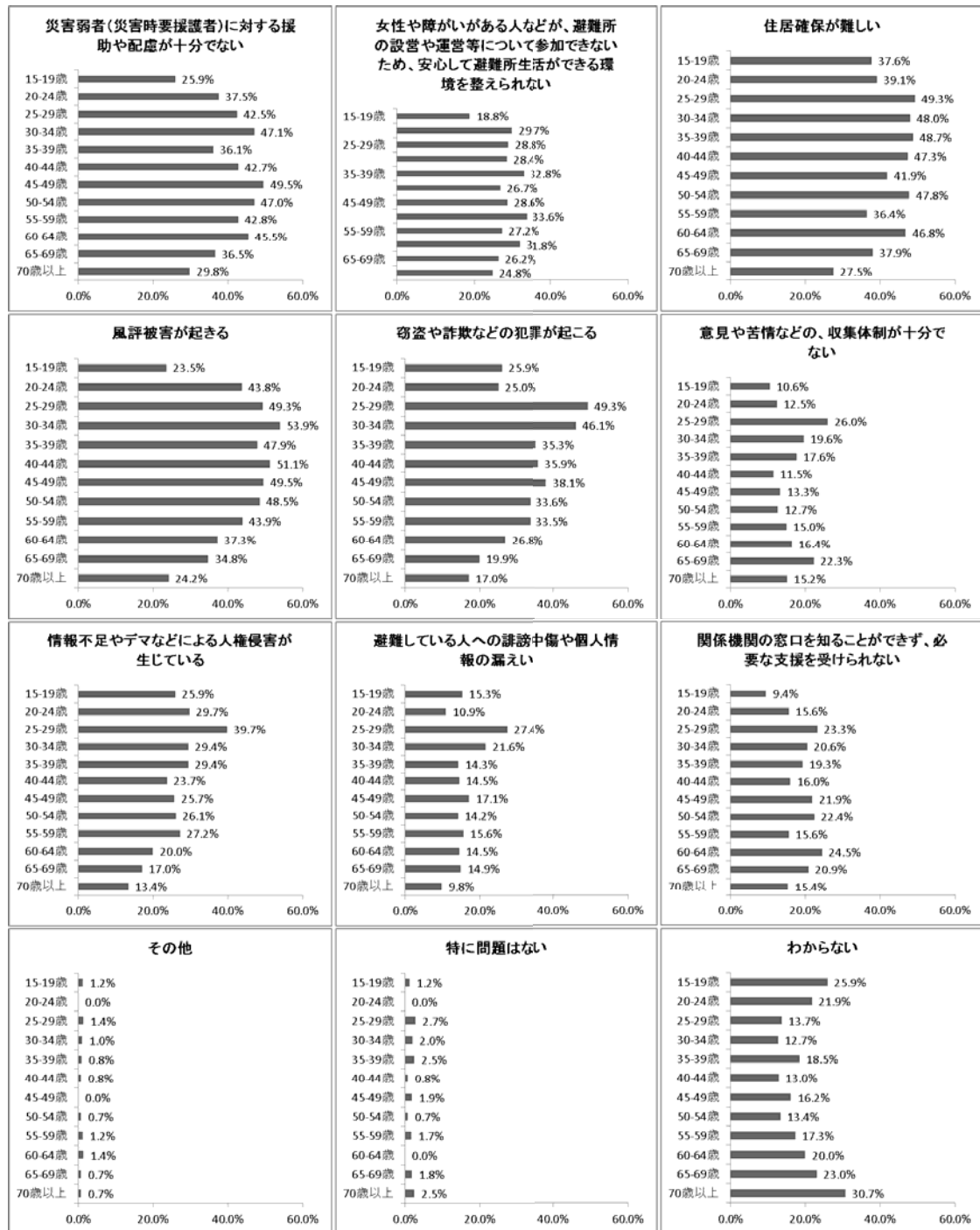


図 24-2 は、災害時における人権上の問題についての意識を年齢別にみたものである。

「風評被害が起きる」と回答した人は、「30～34 歳」53.9%と最も高く、次いで「40～44 歳」51.1%、「45～49 歳」49.5%となっている。

また、「住居確保が難しい」と回答した人は、「25～29 歳」49.3%と最も高く、次いで「35～39 歳」48.7%、「30～34 歳」48.0%となっている。

「災害弱者（災害時要援護者）に対する援助や配慮が十分でない」と回答した人は、「45～49 歳」49.5%と最も高く、次いで「30～34 歳」47.1%、「50～54 歳」47.0%となっている。

19 啓発活動について

問25 鳥取市が行っている啓発活動についておたずねします。

問25-1 鳥取市が発行している市報の中に「シリーズ@じんけん」の記事を載せていますが、あなたは読まれたことがありますか。(○は1つだけ)

図25-1. 「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるか—全体・性別

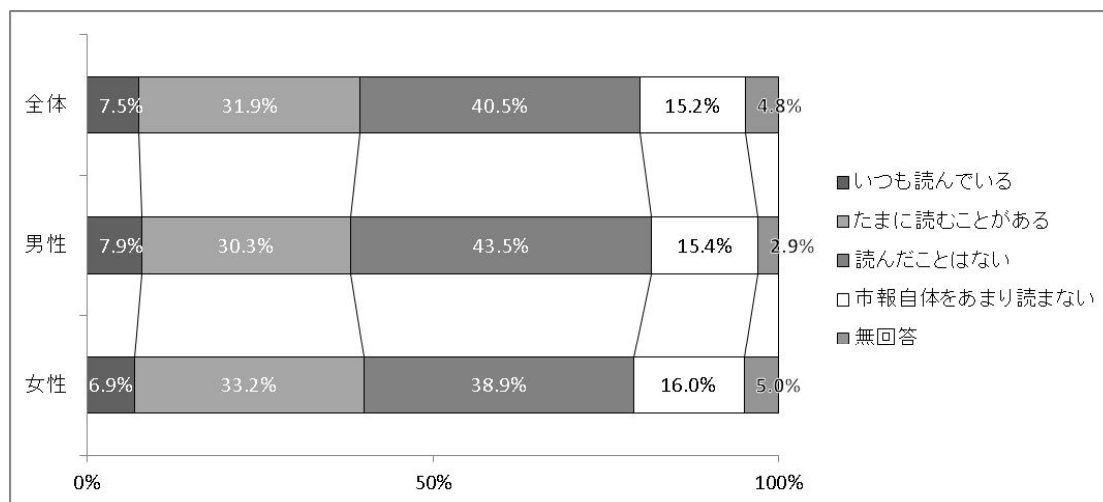


図25-1は、「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるかについてみたものである。

「読んだことはない」と回答した人が、全体で40.5%と最も高く、次いで「たまに読むことがある」31.9%、「市報自体をあまり読まない」15.2%となっている。

性別では、「読んだことはない」と回答した人は、男性43.5%、女性38.9%となっている。

また、「たまに読むことがある」と回答した人は、男性30.3%、女性33.2%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査 (H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査)

問15 鳥取市が行っている啓発活動についておうかがいします。

問15-1 鳥取市が発行している市報の中に「同和問題シリーズ」の記事を載せていますが、あなたは読まれたことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 いつも読んでいる 2 たまに読むことがある 3 読んだことはない
4 市報自体をあまり読まない

表25-1. 「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるか—前回調査との比較

調査年度	「シリーズ@じんけん」 を読んだことがあるか	いつも読んでいる	たまに読むことが ある	読んだことはない	市報自体をあまり 読まない	無回答	計
平成17年		11.7%	40.8%	30.5%	13.4%	3.6%	100.0%(2402)
平成27年		7.5%	31.9%	40.5%	15.2%	4.8%	100.0%(2138)

表25-1は、「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるかについて前回調査との比較をみたものである。

「シリーズ@じんけん」を「読んだことはない」と回答した人は、今回調査40.5%となっ

ており、前回調査 30.5%より 10.0 ポイント高くなっている。

また、「たまに読むことがある」と回答した人は、今回調査 31.9%となっており、前回調査 40.8%より 8.9 ポイント低くなっている。

図 25-2. 「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるか—年齢別

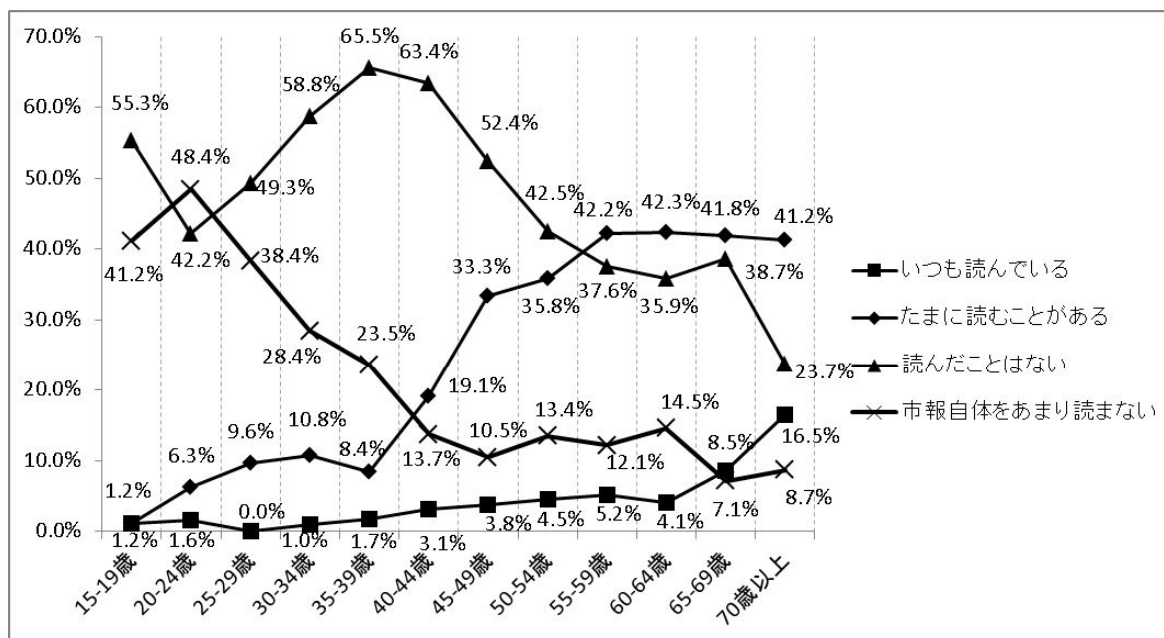


図 25-2 は、「シリーズ@じんけん」を読んだことがあるかについて年齢別にみたものである。

「たまに読むことがある」と回答した人は、「60～64 歳」42.3%と最も高く、次いで「55～59 歳」42.2%、「65～69 歳」41.8%となっている。

「読んだことはない」と回答した人は、「35～39 歳」65.5%と最も高く、次いで「40～44 歳」63.4%、「30～34 歳」58.8%となっている。

「市報自体をあまり読まない」と回答した人は、「20～24 歳」48.4%と最も高く、次いで「15～19 歳」41.2%、「25～29 歳」38.4%となっている。

問 25-2 問 25-1 で 1 又は 2 と選択された方におたずねします。読んでどんな感想をもちましたか。(○は 1 つだけ)

図 25-3. 「シリーズ@じんけん」の感想—全体・性別

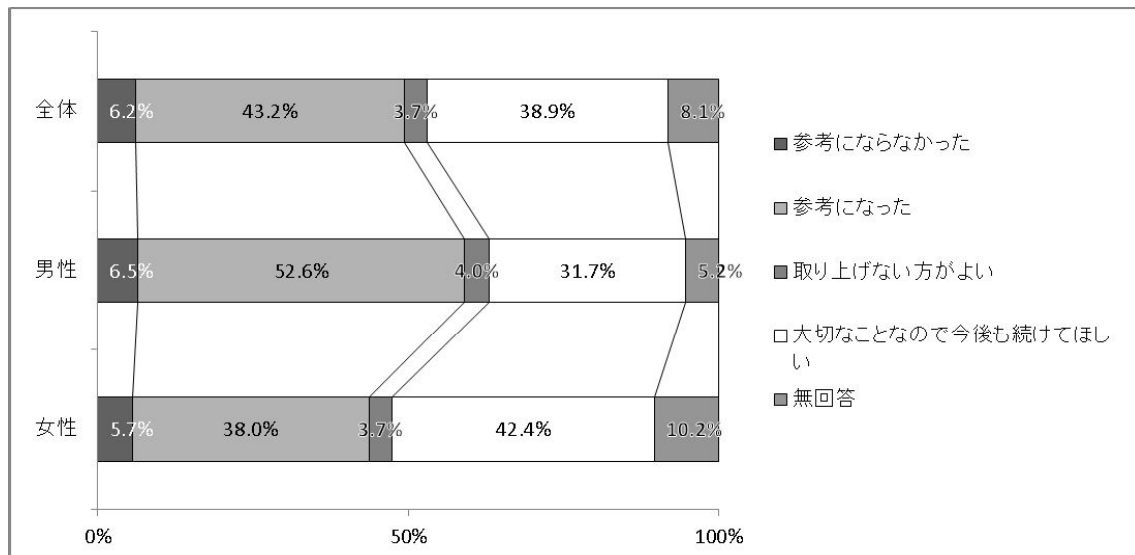


図 25-3 は、「シリーズ@じんけん」を読んだ感想についてみたものである。

「参考になった」と回答した人が全体で 43.2%と最も高く、次いで「大切なことなので今後も続けてほしい」38.9%であり、約 8 割が肯定的な意見となっている。

性別では、「参考になった」と回答した人は、男性 52.6%、女性 38.0%となっている。

また、「大切なことなので今後も続けてほしい」と回答した人は、男性 31.7%、女性 42.4%となっている。

図 25-4. 「シリーズ@じんけん」の感想一年齢別

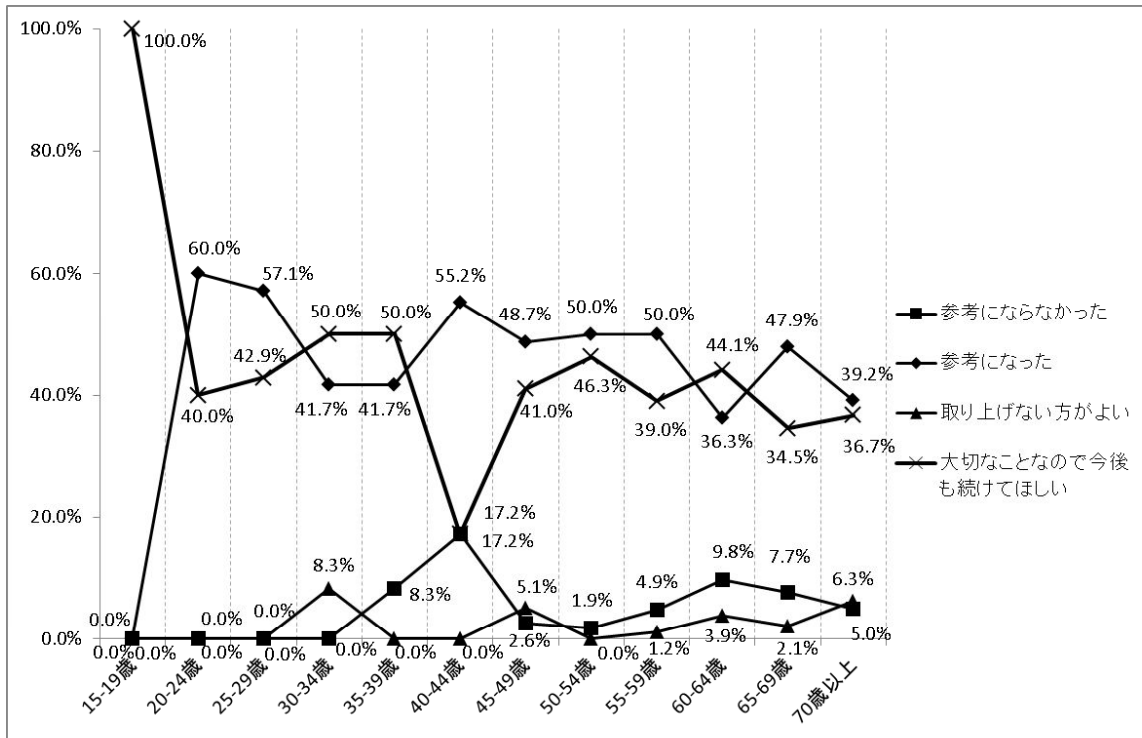


図 25-4 は、「シリーズ@じんけん」を読んだ感想について年齢別にみたものである。

(問 25-2 の 39 歳以下の各年代の回答者は、2～12 人である。)

「大切なことなので今後も続けてほしい」と回答した人は、「15～19 歳」100%と最も高く、次いで「30～34 歳」、「35～39 歳」50.0%となっている。

「参考になった」と回答した人は、「20～24 歳」60.0%と最も高く、次いで「25～29 歳」57.1%、「40～44 歳」55.2%となっている。

「参考にならなかった」と回答した人は、「40～44 歳」17.2%と最も高く、次いで「60～64 歳」9.8%となっている。

問 2 6 人権問題の学習経験等についておたずねします。

問 26-1 あなたは、最近 5 年間で人権問題の講演会や研修会に参加したことがありますか。
(どちらかに○をしてください)

図 26-1. 講演会・研修会の参加経験—全体・性別

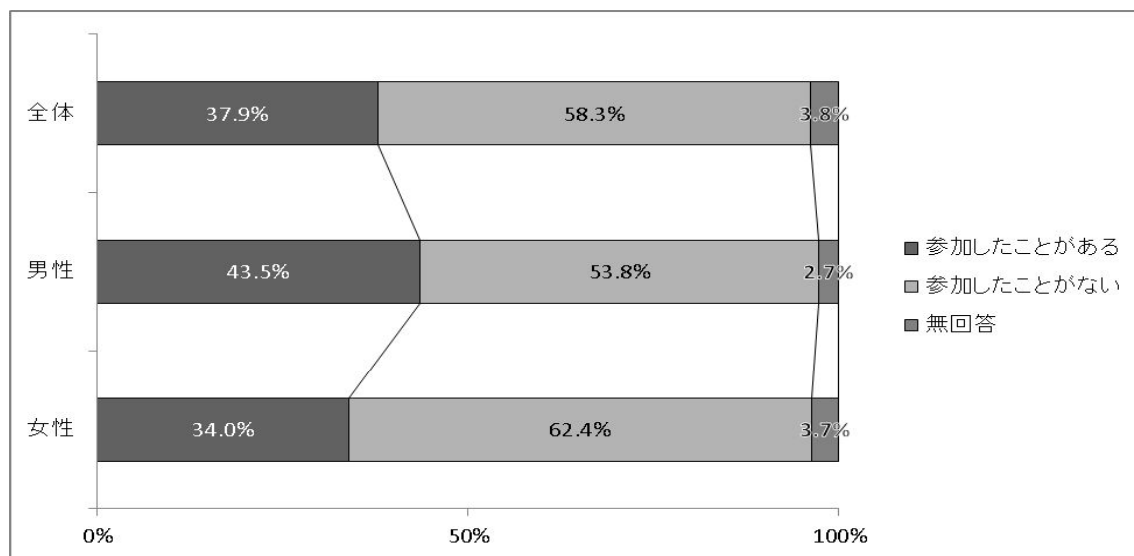


図 26-1 は、講演会・研修会の参加経験についてみたものである。

「参加したことがある」と回答した人は全体で 37.9%となっており、「参加したことがない」は 58.3%となっている。

性別では、「参加したことがある」と回答した人は、男性 43.5%、女性 34.0%となっている。

また、「参加したことがない」と回答した人は、男性 53.8%、女性 62.4%となっている。

図 26-2. 講演会・研修会の参加経験一年齢別

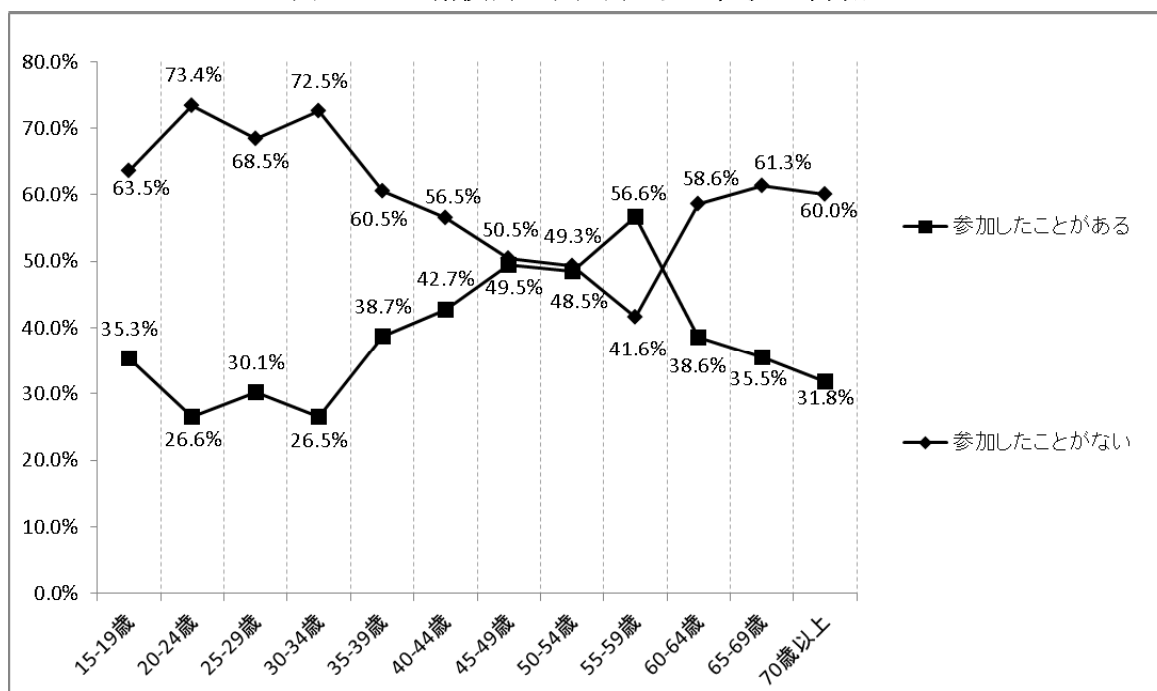


図 26-2 は、講演会・研修会の参加経験について年齢別にみたものである。

「参加したことがある」と回答した人は、「55～59 歳」56.6%と最も高く、次いで「45～49 歳」49.5%、「50～54 歳」48.5%となっている。

「参加したことがない」と回答した人は、「20～24 歳」73.4%と最も高く、次いで「30～34 歳」72.5%、「25～29 歳」68.5%となっている。

問 26-2 問 26-1 で 1 と回答された方におたずねします。

最近 5 年間の参加した回数をお答えください。(○は 1 つだけ)

図 26-3. 講演会・研修会の参加回数—全体・性別

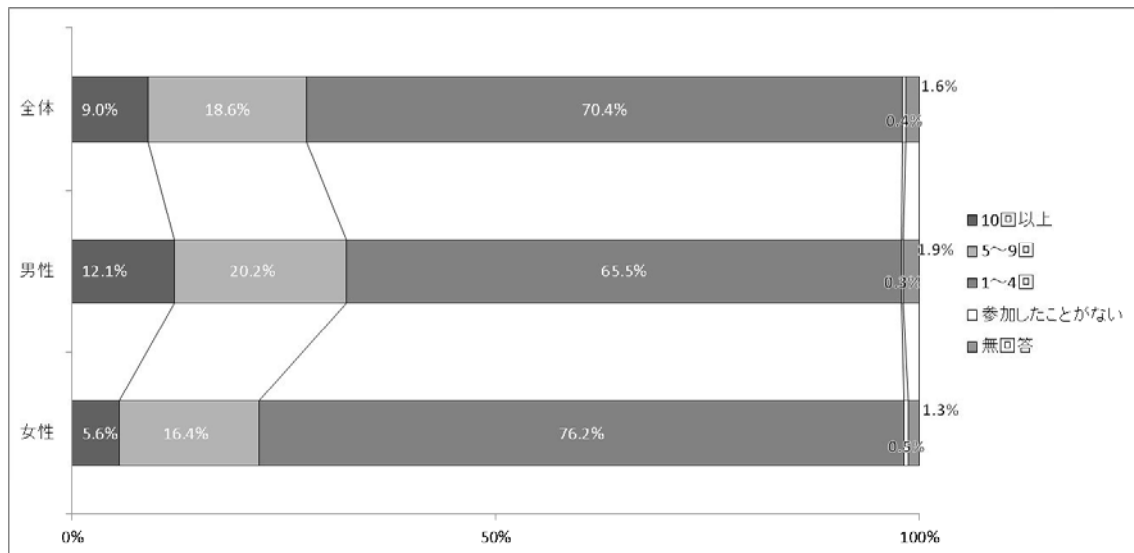


図 26-3 は、最近 5 年間の講演会・研修会の参加回数についてみたものである。

「1～4 回」と回答した人が全体で 70.4%と最も高く、次いで「5～9 回」18.6%、「10 回以上」9.0%となっている。

性別では、「1～4 回」と回答した人は、男性 65.5%、女性 76.2%となっている。

また、「5～9 回」と回答した人は、男性 20.2%、女性 16.4%となっている。

「10 回以上」と回答した人は、男性 12.1%、女性 5.6%となっている。

図 26-4. 講演会・研修会の参加回数一年齢別

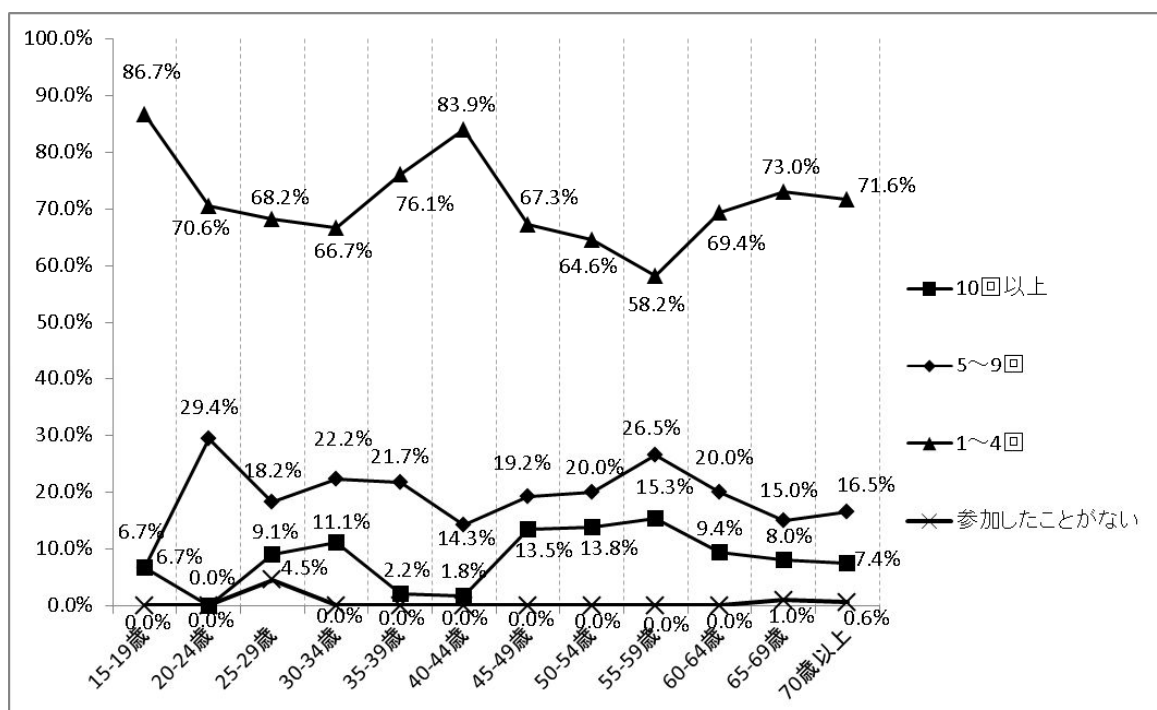


図 26-4 は、最近 5 年間の講演会・研修会の参加回数について年齢別にみたものである。

「1～4 回」と回答した人は、「15～19 歳」86.7%と最も高く、次いで「40～44 歳」83.9%、「35～39 歳」76.1%となっている。

「5～9 回」と回答した人は、「20～24 歳」29.4%と最も高く、次いで「55～59 歳」26.5%となっている。

「10 回以上」と回答した人は、「55～59 歳」15.3%と最も高く、次いで「50～54 歳」13.8%、「45～49 歳」13.5%となっている。

問 26-3 問 26-1 で 1 と回答された方におたずねします。

主催した団体はどこですか。(〇はいくつでも)

図 26-5. 講演会・研修会を主催した団体—全体・性別

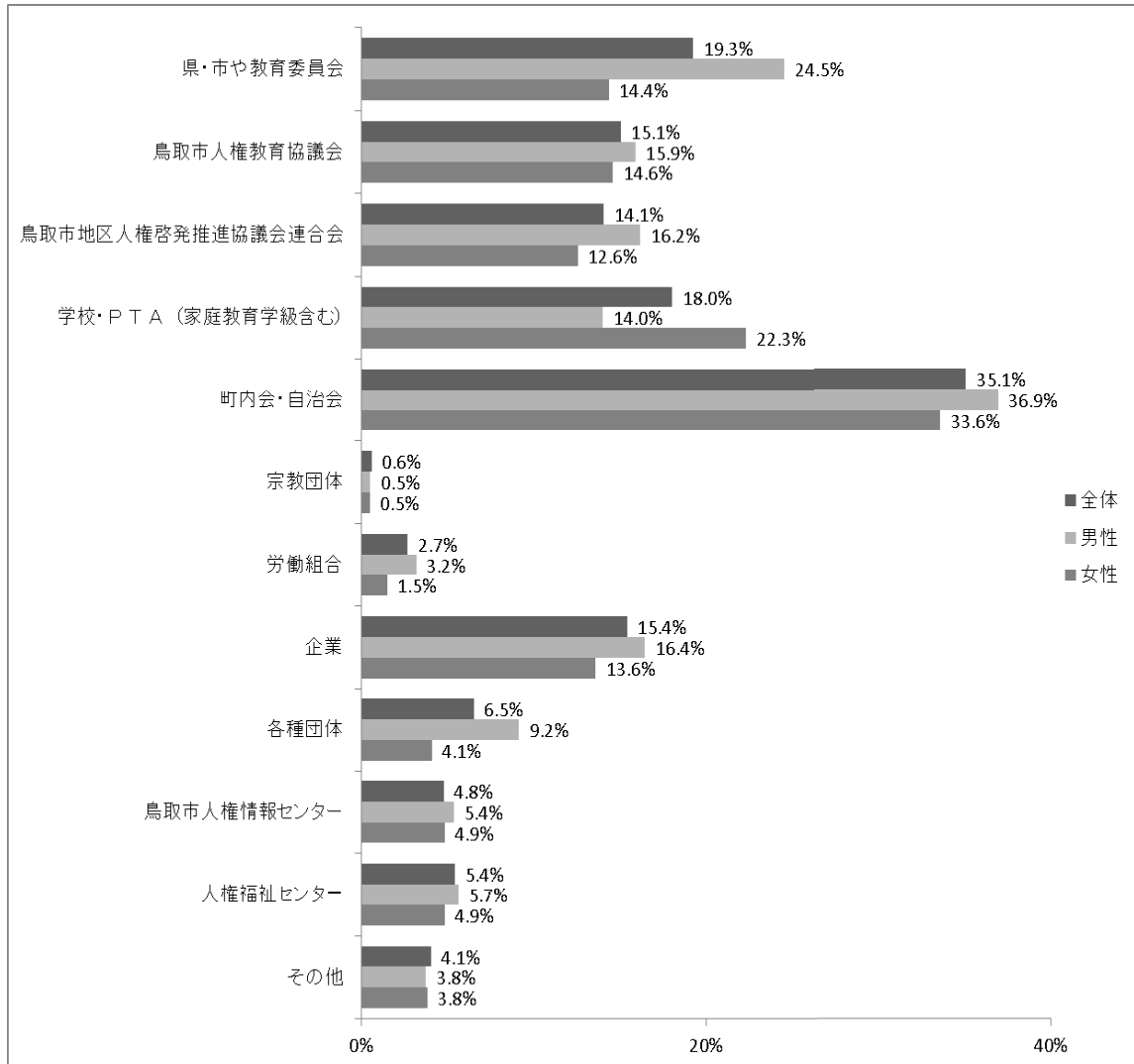


図 26-5 は、講演会・研修会を主催した団体についてみたものである。

「町内会・自治会」と回答した人が全体で 35.1%と最も高く、次いで「県・市や教育委員会」19.3%、「学校・PTA (家庭教育学級含む)」18.0%となっている。

「町内会・自治会」または「鳥取市地区人権啓発推進協議会連合会」と回答した人は 49.2% (35.1%+14.1%) であり、地域で開催される研修会等の参加が多くなっている。

性別では、「学校・PTA (家庭教育学級含む)」と回答した人は、男性 14.0%、女性 22.3%となっている。

また、「県・市や教育委員会」と回答した人は、男性 24.5%、女性 14.4%となっている。

図 26-6. 講演会・研修会を主催した団体一年齢別

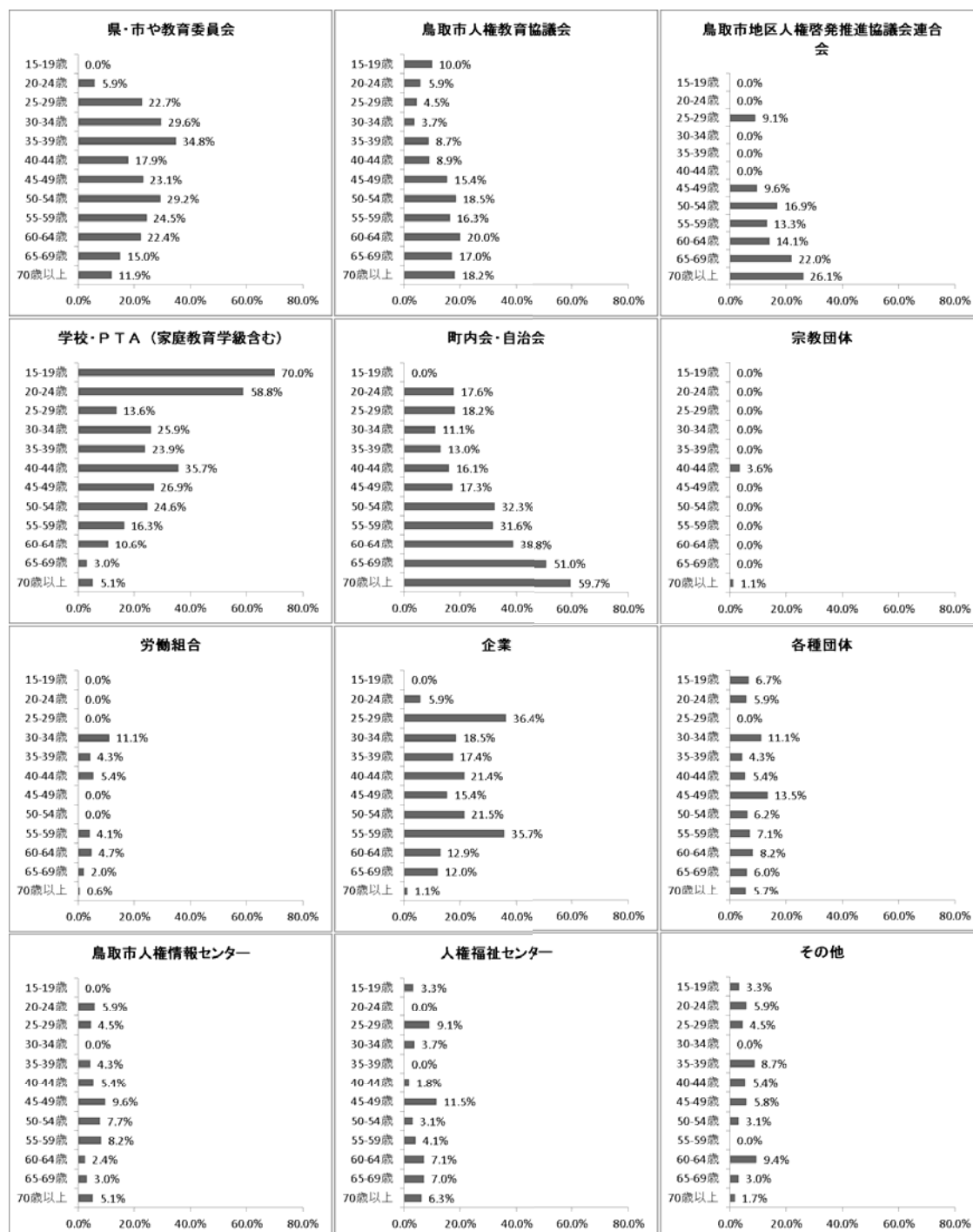


図 26-6 は、講演会・研修会を主催した団体について年齢別にみたものである。

「学校・PTA (家庭教育学級含む)」と回答した人は、「15～19 歳」70.0%と最も高く、次いで「20～24 歳」58.8%となっている。

「町内会・自治会」と回答した人は、「70 歳以上」59.7%と最も高く、次いで「65～69 歳」51.0%となっている。

「企業」と回答した人は、「25～29 歳」36.4%と最も高く、次いで「55～59 歳」35.7%となっている。

問 26-4 問 26-1 で 1 と回答された方におたずねします。

参加してどんな感想をもちましたか。(〇はいくつでも)

図 26-7. 講演会・研修会に参加した感想—全体・性別

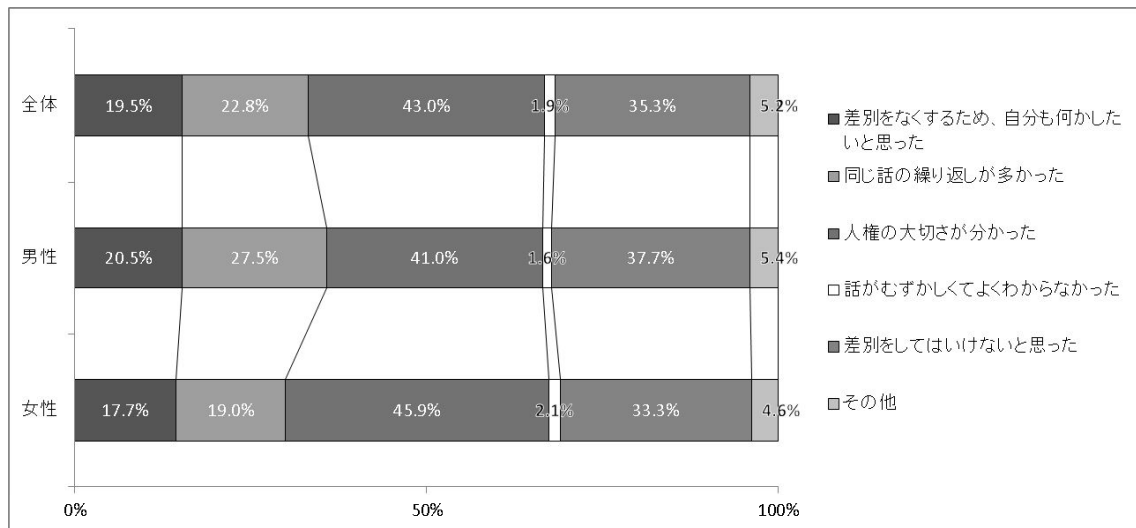


図 26-7 は、講演会・研修会に参加した感想についてみたものである。

「人権の大切さが分かった」と回答した人が全体で 43.0%と最も高く、次いで「差別をしてはいけないと思った」 35.3%、「同じ話の繰り返しが多かった」 22.8%となっている。

性別では、「人権の大切さが分かった」と回答した人は、男性 41.0%、女性 45.9%となっている。

また、「同じ話の繰り返しが多かった」と回答した人は、男性 27.5%、女性 19.0%となっている。

図 26-8. 講演会・研修会に参加した感想一年齢別

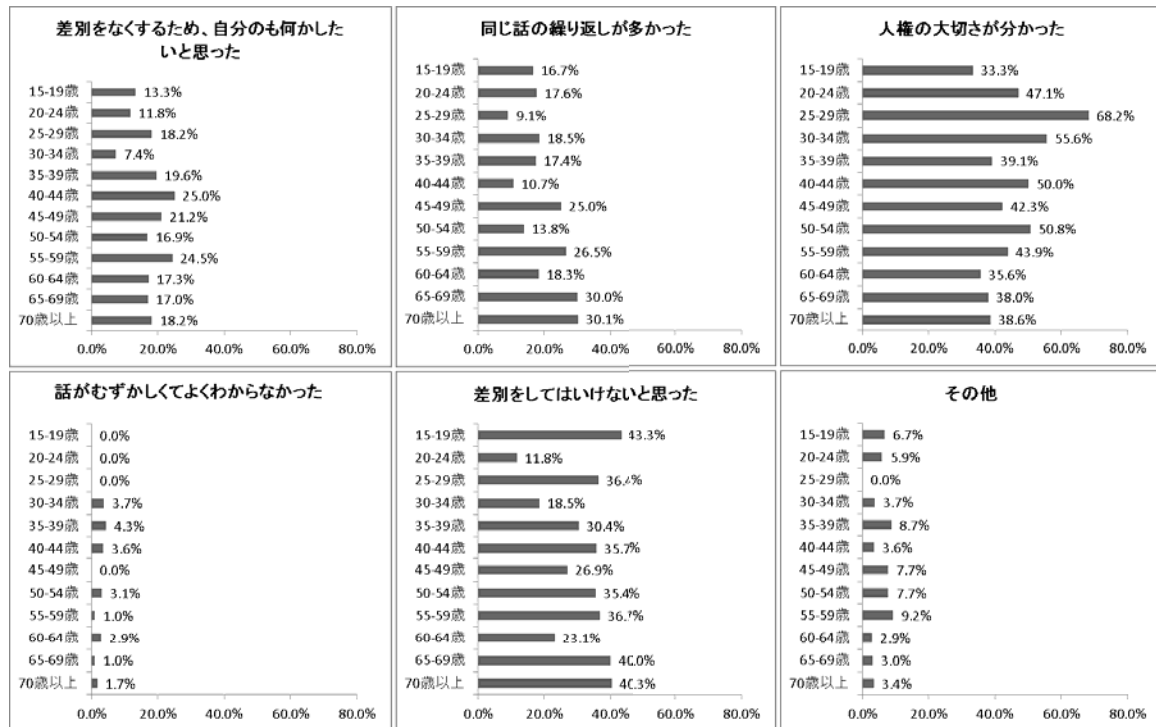


図 26-8 は、講演会・研修会に参加した感想について年齢別にみたものである。

「人権の大切さが分かった」と回答した人は、「25～29 歳」68.2%と最も高く、次いで「30～34 歳」55.6%、「50～54 歳」50.8%となっている。

「差別をしてはいけないと思った」と回答した人は、「15～19 歳」43.3%と最も高く、次いで「70 歳以上」40.3%、「65～69 歳」40.0%となっている。

問 26-5 問 26-1 で 2 と回答された方におたずねします。

なぜ参加しなかったのですか。

図 26-9. 講演会・研修会に参加しなかった理由—全体・性別

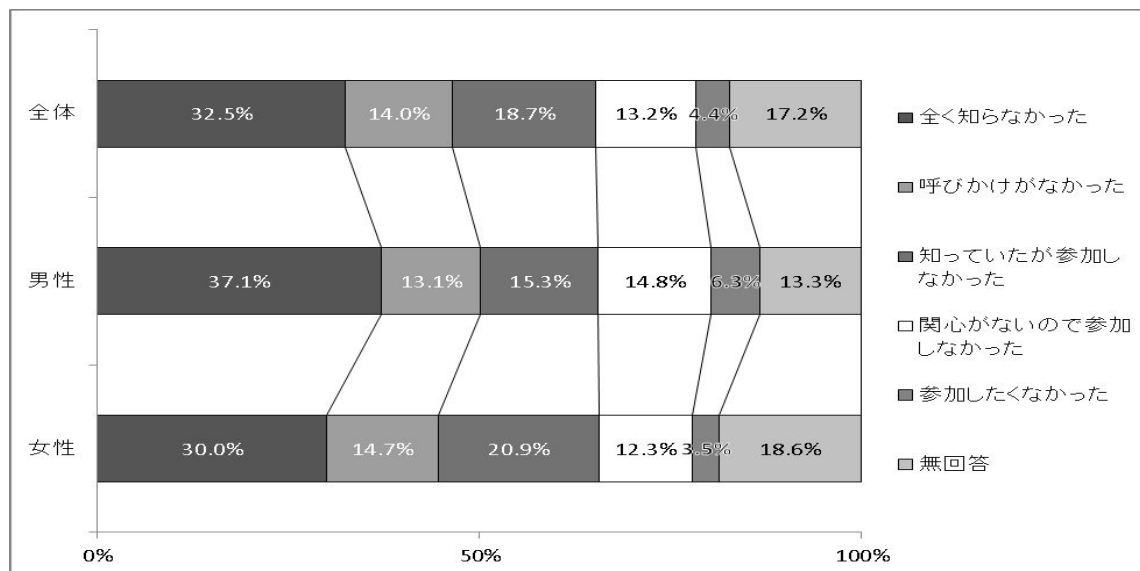


図 26-9 は、講演会・研修会に参加しなかった理由についてみたものである。

「全く知らなかった」と回答した人が全体で 32.5%と最も高く、次いで「知っていたが参加しなかった」18.7%、「呼びかけがなかった」14.0%となっている。

性別では、「全く知らなかった」と回答した人は、男性 37.1%、女性 30.0%となっている。

また、「知っていたが参加しなかった」と回答した人は、男性 15.3%、女性 20.9%となっている。

図 26-10. 講演会・研修会に参加しなかった理由一年齢別

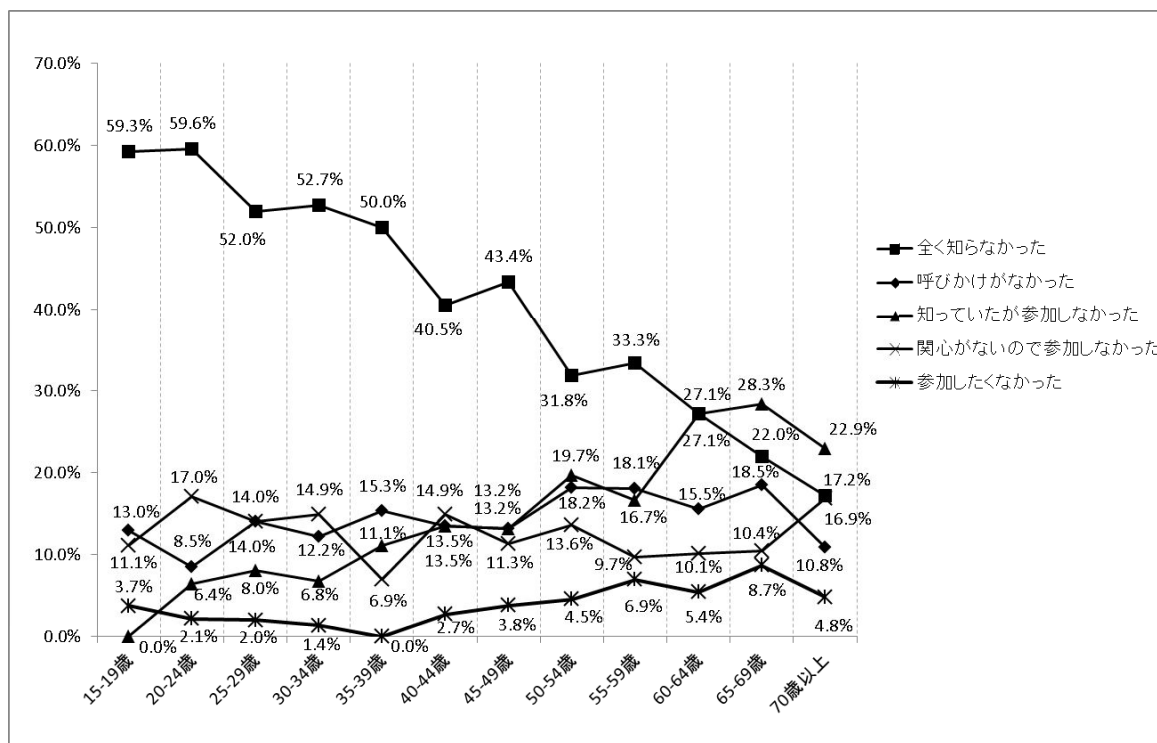


図 26-10 は、講演会・研修会に参加しなかった理由について年齢別にみたものである。

「全く知らなかった」と回答した人は、「20～24 歳」59.6%と最も高く、次いで「15～19 歳」59.3%、「30～34 歳」52.7%となっている。

「知っていたが参加しなかった」と回答した人は、「65～69 歳」28.3%と最も高く、次いで「60～64 歳」27.1%、「70 歳以上」22.9%となっている。

20 人権問題に対する気もちや考え —自由記載—

問27 あなたは人権問題に対してどのような気もちや考えをおもちですか。

(自由に書いてください)

調査票の最後に、人権問題に対しての気持ちや考えを自由に記入する設問を設けた。

この設問に対する回答者は761人であり、回答率は35.6%(761/2,138)である。

その主なものは次のとおりである。

- ・人々の心から差別意識がなくなる限り人権問題は続くと思うので、継続的に正しい人権意識の教育が必要だと思います。
- ・一人一人が差別に対して意識を高めていく(他人事ではない)し教えていくことが大切ではないでしょうか。
- ・自分自身は人権侵害をしないつもりでいるが、無意識でしていることもあるのかもしれない。そうならないためにも何が人権侵害になるのか学ばなくてはならないと思う。これからも人権研修に参加していきたいと思う。
- ・このアンケートを通して、自分の身近にある人権問題もあるが、聞いたことはあるが内容が把握出来てないこともあり、自分の知らない所で苦しんでいる方々が沢山居るのだろうと再認識した。動物と違い人間は、このアンケートでも分かるように「差別・偏見」が氾濫していて、言葉に出すか出さないかの問題もあるのかもしれないが、結局お金がものを言ったり、出身地で不利があったり、身体的なことで人と同じ事が出来なかったり、格差があったり…。つくづく人間は平等じゃないと感じる。人権問題は人類の永遠のテーマであるが、どんな手を使っても撲滅は出来ないものだと思う。ただ、自分を特別扱いしないこと、人が人を侵害してはいけないこと、同じ人間であることを、いつも原点に立ち戻れる自分でいたいと思う。
- ・このアンケートに答えながら、あらためて人権問題について考えたし、普段の何気ない思いや行動も人権侵害しているのだと思った。人それぞれ考えはちがうけど私は、これからは思いや行動、気をつけたいと思った。
- ・いろいろな人権問題は、変化もして行く。継続して、学習、研修し現状把握とともに正しい知識と対応を身に付けなければならないと考える。被害者とならないための研修も大切で、同時に行うことが良いと考える。本調査により考えることもあり、いい機会を与えていただき、感謝します。
- ・研修などに参加する度、自分の中の差別意識に気づかされます。そんな自分と向き合いながら、本当に少しずつであっても意識をかえていけたら、人に対する言動をかえていけたら…と思って日々生活しています。自分の考えを(情けないような差別意識も含め)、夫や他の家族とも話題にしています。研修を受けたり、人と話し合ったりする機会を持ちつづけることに意味があるのではないかと考えています。
- ・子どもの頃から学校で差別の事等学習してきたし、時代が進み新たにインターネットやワーキングプア、セクハラ・マタハラ・パワハラ等いろいろな問題が出てきています。今まで「こういうものだから仕方ない」と我慢してしまう日本人の考え方が、変わってきて、声を上げる人が増え、自分が自分らしくある為の権利を主張するのは良い事だと思います。これ

からもし自分や家族の人権がおびやかされる事があったら…。特に子どもが正しく理解し、対処する為に、家族間でも話し合ったり、いつでも相談し合える関係を作りたいと思います。

・同和問題を初めとする各人権について、その立場（差別される人など）に立った考え方や痛みなどを理解しないと、解決にはならないと思います。学習（学校での）も重要だと思いますが、企業や地域でも積極的に行うこと、参加される人が少ないなど問題がありますが、継続していくことも大切だと思います。すぐ解決できない問題なので少しずつ進めばいいと思う。

・現代社会は昔に比べて人権が様々に多様化していて知らず知らずのうちに私も他人の人権を侵害しているのではないかと改めてこのアンケートで思った。年を重ねる程、自分の考えが硬直化して柔軟性がなくなっている。若い人達に偏見を持たない教育をして欲しいです。

・「個々の違いがあつて、あたり前だということ」を各人が理解して、“寛容の精神”で他と接するようにするべきだと思います。そして、その価値感を、教育等を通じて、子どもに教えていくシステムを作るべきだと思います。すべては、差別する側の視野の狭さが問題なのであり、差別される側に問題があるわけではありません。そして、人権とは、人の立場の違いにより、“見方・考え方”が変化するものなので、まずは、その人それぞれの立場を、各人が、客観的に理解して、お互いの立場に立って、物事を見て考えて、自己の“良心・道徳感・信念”にそって、自らが何を言い、何を行うべきなのかを、責任を持って判断し、人に接して行くべきだと思います。

・部落問題とかそれに関する人権問題はそっとしておけば今孫のいる世代の人はあまり知っていないので自然消滅すると思います。

・同和問題について。日常、意識はしていても何事もないかぎり当たらず触らず。まわりでは、昔ほど聞かなくなったけど、地域の同和問題を取り上げられるようになってから、寝た子を起こす様な気がします。そっとしておいた方が自然で代替わりして行く事で意識しなくなるように思います。

・同和問題では黙ってる方が自然になくと思うので教育しない方がいい。ほかのことは、特に問題を感じていない。

・次第に好転していくと思う。現に話題にふれたことがない。寝た子を起こさないほうが良い。

・人それぞれ、育ってきた環境も何もかも異なるし、100人いたら100通りの物事の見方、考え方があるので、「人権」に対する考えも決して多数決で捉えられるものではないと思う。悲観的かもしれないが、こういった問題を0にすることは無理だと思う。何故なら、自分が他人の決定をコントロールすることはできないから。ただ、「自分が他人より下の立場にいる」と自覚できていれば、他人に対して攻撃的になることもないし、不愉快な思いをさせることもないかもしれない。しかし、子どもの頃から「他人に勝つこと」を刷り込まれて育っていく人が大多数のため、やはりこういう問題はなくなることはないと思う。

・最近、あらゆる人権問題を特に意識した事もないし、又、今後自然となくなるものと思います。

・人権問題（学習）と聞くと、重い（心が）し、憂鬱になる！

・身近に差別的な事が無いものですから、人権問題がピンとこないのが実情です。

- ・現在のままで良好で特別生活に関係ありません。
- ・人権問題の研修会等で差別等の話は聞きますが、身近で聞く事は無く、つい無関心になってしまいます。
- ・部落問題については学校の授業で習ったので知っているものの、実際身の回りで差別を感じた事がないので、なぜ部落差別ができたのかを知る事は大切だと思うがその事にとらわれすぎるのもよくないと思う。都会ではもう“部落”という呼び方すらしていないと思う。鳥取でも差別的な意味で“部落”と使っている人は少なくなっていると思うので、古くからの差別を学習する事も大切だが障がいのある方やLGBTの方、インターネットでのいじめなど時代とともに増加している差別についても力を入れてほしいと思う。小学校、中学校と差別について学校で授業がありましたが、鳥取は同和問題の割合が多かったように思う。他県に出て進学・就職する方も多いので、そこで役立つような問題にも知識をつけたかった。
- ・部落の差別について若者はどの地域が同和地区を知らないと思うので、差別しているのであれば年配の人がしていると思う。
- ・特に部落問題や男女共同参画問題についてですが、極端というか気にしすぎのように感じます。例えば部落差別なんて、しつこく学校で教わらなければ知りもしませんでしたし、男女共同参画に関する事も、社会や家庭の中で男女の役割が違うのは当然だと思います。知識も興味もたいしてない先生や講師の授業や講演ではただただ寝た子を起こすことになりかねないのではないのでしょうか。
- ・参加してもくり返し同じ事なので参加したくないようになった。
- ・インターネットでの個人のプライバシー侵害が多いので、法律をきびしくして欲しい。今以上にきびくしないと、悪くなりそうに思う。
- ・インターネットが普及し、正しい事も誤った事も全て当たり前のように流れているので、軽々しくネットに情報をのせたら、どのように罰せられるかなど、学校教育やPTAなどにも教育すべきであるとおもいます。今は小学生でもインターネットをする時代です。子どもも人権も毎日ニュースで悲しい事件などを見て胸が痛くなります。欲しくても出来ない方もいるのに、せっかく生まれてきた子どもを簡単に殺してしまうなど考えられません。高校卒業前に、子どもに関する支援（助成、施設、相談窓口）を学ぶ機会があればいいなと思います。今はあるかもしれませんが、私が学生の頃はありませんでしたので…。
- ・人には変わらないのに、部落差別などがあり、おかしいと思った。私の彼氏は部落の人だったが、祖母に部落の人はダメと言われ、とても傷ついた。結婚するにしてもやはり親（家庭）には温かく見守ってもらいたいので、差別はやめてほしいと思う。差別をしてはいけないと言っても、祖母は聞き入れてくれず、ダメでした。どうしたらよいのか分からなかった。
- ・人権については、学生の頃とても熱心な先生がいらしかったので、強く印象に残っています。差別はいけないことだ！！と今でも思っています。しかし、大人になるにつれて、人が人に対して差をつけて区別してしまうことは、少なからずある事で、どうしても差別はなくならないものだと思うようになりました。自分も含めて、偏見や先入観というものは必ず発生してしまうものだと思います。しかし、それをダメなこと、恥ずかしいこと、道徳に反していることだと教育を受けて育つことは大事で、将来の大きな差別的な事件を抑えることにつながると思うので、これからも、「差別はいけない」と教え続けていくことは教育現場では

必要だと思います。なんの意味もない差別が無くなるような広い心を持った見方ができる人間が多くなればいいなと思います。

・以前は人権問題といえば同和問題のことが多かったように思います。しかし最近、多岐にわたったことも多く議論されてきました。どれも大切なことだと思います。親自身が理解することが子どもにきちんと情報を伝えられると感じています。親教育が大事だと思います。頭の中で考えたりすることは、大変ですが、自分には関係ない、自然となくなる、私の身のまわりには起こってないと考えてはいけないと思います。今は大変な時代、何が起こるかわからない時代、いつでも当事者になりうることはあると感じています。

・「氏」や「育ち」が違って同じ人間であり、誰もが世間に関わって生活しているのです。「偏見」や「差別」は、一朝一夕には無くならないかも知れません。しかし、無くする努力は、自治体が主体的に継続することにより市民に徐々に浸透するでしょう。

・社会全体が狭量になっていると感じる。自分自身のイライラ、不満を他の人への攻撃でまぎらしている人がいるような気がする。(具体的に誰とはいえないが)人と自分の多少の違いを認め合って互いに大切にしようとする大人の人が増えたらいいと思う。一人一人が大らかで心の自立した大人になったら、そんな大人に育てられた子どもも心の安定した人になるのではないと思う。そして願う。

・いわれなき差別は悪いとは思いますが、人間というものは好き、嫌いという感情を持つ生き物なので、差別が完全になることは無理だとも個人的には思います。ただ集団で個人を攻撃したりすることは絶対に許せない事だと思います。あとはやはり自分が相手の立場だったらどうなのか、思いやりを持って人に接する事、相手を理解しようと思う気持ちが大切なのではないのでしょうか。区別と差別の違いというものも理解すべきだと思います。年令的な差別については、私はいつも“怒るな来た道、笑うな行く道”という言葉を中心に言いかせています。

・性別、男・女だけはおかしい。

・人権問題として、夫婦同姓の強制問題を取り上げてほしい。性の変更で、アイデンティティの喪失感を抱いたり、社会的信用や評価の維持が難しくなる。そしてそれは、圧倒的に女性が多い。選択的夫婦別姓を導入しないのは、人権問題(基本的人権の侵害)だと思う。

・人権問題といっても沢山ありすぎて、その時その時初心にもどり考えていく事が必要だと思う。

・私は派遣社員として仕事をしておりますが、わかった事は、今の会社制度、派遣・外注…他の犠牲の上に成り立つ幸福。利益追求。もし社員にしてやると言われても、その片棒を担ぎたくない。現代の人権問題だと思います。私も含め、皆の精神の向上を願います。

・人権問題は人対人の関係なので難しいと思いました。いじめから始まり子ども・大人・老人すべて毎日何かの事件が起きているように、複雑な世の中になって来ました。自分では人を大切にしていると思っていても、相手の心の中まで読みきれず悩むことが多々あります。子どもの頃から人の権利として教えていかなければ、大人になって自分の子ども・妻などを認めていけない人間になって来ます。テレビなどをみていると胸が痛むことが多い日々です。大人がよくないように思います。

・知的障がい者をかかえている家族です。これまで政治が様々な障がい児者の改正をされて

きました。その中で、社会、地域への自立支援法について、どこにその場所があるの？行けるところはある？『自立支援』と言葉だけが作られ、その内容はどこにも見つかりません。教育、就労について区分けされている現実がある中、この子らが自立できる場はあるのでしょうか。障がい者を持つ家族の将来の不安、お金では解決できないものであります。支える心、守る心、家族の心、そこを理解していただけないと、自立できる場は作れないと思います。

- ・突然、病気で倒れ、障害等級 1 級の認定を受けました。その後の職場等の対応他、気持ちはよく分かります。明日は「あなただよ」と思うと大事にしないといけないと感じています。

- ・いじめ問題でもそうであるが見て見ぬふりをするのも被差別の人にとっては差別者であることをもっと啓発してほしい。

- ・近年、貧困問題による孤独死、子どもへの虐待、老々介護など心痛む課題が多くみられます。確かに人権問題は大事ですが、他にも市民レベルで議論を重ねるべき課題も多くあることを忘れてはいけないと思います。

- ・子どもが中学入学時に制服購入案内のDMが届き、どこから住所を取得したのかと不安な気持ちになった。今時、まだ名簿の取引があるのでしょうか。

- ・人が人を育てていかないと、良い方向へ呼び戻す、お互いそうし合わないと、気付いてない人には気付かせるし、私のように知らなくて答えられない人もいるので、子ども時代からの定期的な学習は必要だし、正しい知識、人の道を教え導いてほしい。私自身そうしてほしかった。間違っても、この用紙に書いてきた様な、人の持つ邪悪な部分を私に見せないでほしかったです。今から、今も、良くするため、一人残らず幸せになって頂くためには、不断の努力（努力し続ける）が必要だなと。自分自身の見聞を広げないと…学習は、大人になってからでも出来るけれど…心を養うことはとっても必要。教え合える世の中に。心の勉強。心力をつける。ずっと続けていくこと。心のいやし、守ってくれるもの。安全な場の提供。居場所を考える。自分も相手も認めること。共存。

- ・私もマタニティハラスメントを受けたことがあります。雇う側と雇われる側では違うかもしれませんが、お互い気持ち良く働きたいです。差別のない社会になりますように。